

(2) 2018年度第4クォーター 掲載目次

専任教員

【所属】

人文学部	キリスト教学科	189
人文学部	人類文化学科	196
人文学部	心理人間学科	204
人文学部	日本文化学科	210
外国語学部	英米学科	215
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	221
外国語学部	フランス学科	225
外国語学部	ドイツ学科	229
外国語学部	アジア学科	233
経済学部	経済学科	237
経営学部	経営学科	246
法学部	法律学科	256
総合政策学部	総合政策学科	264
理工学部	システム数理学科	275
理工学部	ソフトウェア工学科	277
理工学部	機械電子制御工学科	281
国際教養学部	国際教養学科	285
短期大学部	英語科	293
法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	294
教職センター		296
情報センター		298
外国語教育センター		299
体育教育センター		310
国際センター		311

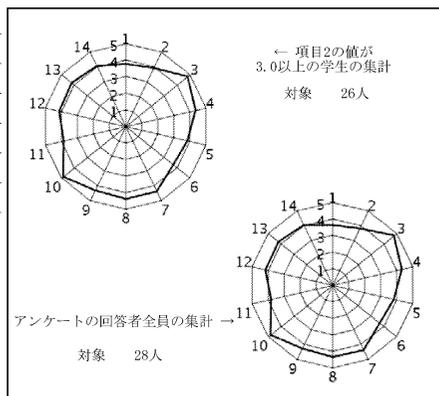
非常勤教員

【所属】

人文学部	人類文化学科	312
人文学部	心理人間学科	314
人文学部	日本文化学科	316
外国語学部	英米学科	316
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	319
外国語学部	フランス学科	323
外国語学部	ドイツ学科	324
外国語学部	アジア学科	325
経済学部	経済学科	326
経営学部	経営学科	330
法学部	法律学科	331
総合政策学部	総合政策学科	332
共通教育	仏語	334
共通教育	西語	336
共通教育	中国語	336
共通教育	日本語	338
共通教育	共通	340
共通教育	体育	348
教職センター		349
外国語教育センター		351

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[J]1  
授業コード 10A01-011  
教員名 SUSAI, Raj  
教員コード 101347  
登録人数 36  
回答数 28  
回答率 77.8%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

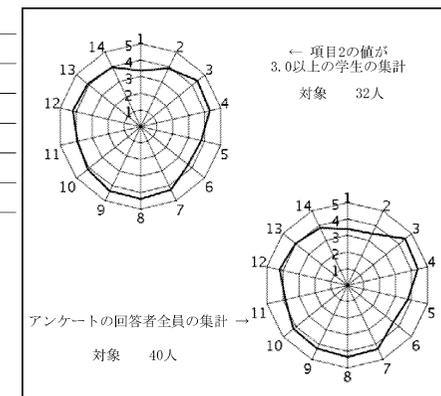


授業評価結果を踏まえた点検・評価

2018年度の宗教論科目の到達目標は達成されたと思われる。シラバスにそって授業が取り組まれた。宗教を広く、浅くしかし学問的にわかりやすく伝えることが大きな課題だったので、振り返ってみるとその課題が完成されたとも言える。多くの宗教を伝えるという重大な課題であったが、出来るだけ忠実に内容を伝えることは確実に実践されたと思われる。宿題がなかったが、学生の積極的な参加は乏しかった。学生がもっと授業に積極的に参加するため色々工夫することが今後の課題でもある。学生の評価にもありましたが振り返りを毎回やっていたことが良かったが、その反面時間を取りすぎる傾向があったので、バランスのある対応が必要と思われる。プリントのミスなど今後チェックしていく必要がある。更に評価にもあったように時々難しい質問をしわかりにくかった点を取り上げられているが今後それを改善していくことが一つの課題でもある。更に学生の数は少ない割にはグループワークなどが取り入れられなかったことは反省する点でもある。今後これらの反省点をも取り入れながら授業の改善を行う。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[J]2  
授業コード 10A01-012  
教員名 KISALA, Robert  
教員コード 018275  
登録人数 73  
回答数 40  
回答率 54.8%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

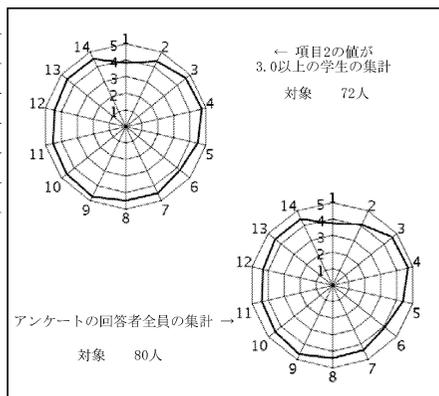


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標として「宗教についてのより深く理解できるようになる」と「現代社会における宗教の位置・役割を考察することができるようになる」という二つを講義当初に設定した。学生評価の結果から、学生らは到達目標を十分理解して授業に取り組んでいたとは言い難い。その理由として、学生が授業の内容と到達目標を意識的に繋げて理解するような取り組みが十分ではなかったと考えられる。また、授業への参加態度については、学生の自立的・自発的な授業態度を尊重しようと心がけたが、その意図を誤解する学生も中にはいた。学期途中で方針を変更するのは困難と判断し進めていったが、学生の授業態度の改善があまり見られなかった。また、学生の自主的学習を促すために毎回授業の最後に参考文献を紹介したが、授業評価からはその効果はあまり見られなかった。パワーポイントとウェブクラスの使用については学生の評価は高く、有効に機能していたと捉えることができる。本講義の改善点として、学生の授業参加態度を改善のための取り組みがあげられる。具体的には、学生の本講義への関心と参加をさらに引き出すために、パワーポイントとウェブクラスをさらに活用していきたい。また、学生が到達目標を授業の内容と繋げられるような説明も取り入れながら、学生の意欲を引き出していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[G]  
授業コード 10A01-017  
教員名 佐藤 啓介  
教員コード 102874  
登録人数 161  
回答数 80  
回答率 49.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

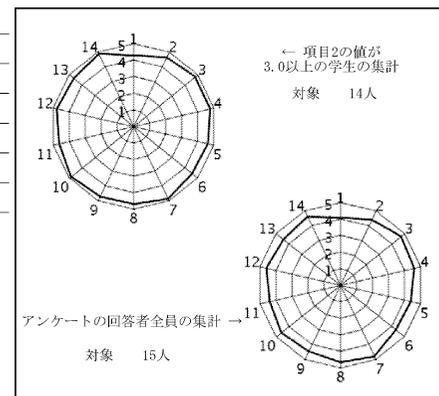
本科目の到達目標は「1. 宗教を構成する基本的な要素や、その社会における役割を理解している」「2. 宗教的なものに対する人間の関心や関わりを考えることで、人間そのものへの理解が深まっている」「3. 現代世界において多様な信仰をもつ人々に対する寛容や理解の姿勢を身につけている」「4. 無宗教から宗教を考える視点や、宗教のもつある種の危うさへのまなざしなど、宗教を多角的に考えられるようになる」というものであり、項目5（到達目標達成度）4.40から、おおむねその目標は達成されたと思われる。また、自由記述欄でも、項目2や4に相当する評価の記述が多くみられた。

項目8（教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか）について、授業内でマイクの使用を求める意見があり、途中からマイクを使用したが、これについては、マイクを使わないでほしいという記述も数件見られ、最適な環境作りについて工夫が必要かもしれないと思われた。

講義内容については、学生から肯定的な評価が多くみられるため、今後もこうした内容を継続していきたい。また、講義内で数回小さな課題を課しそれを採点・返却しているが、そのことに対しても肯定的な評価が見られ、今後も継続していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ギリシヤ語II講読<全>  
授業コード 11K04-001  
教員名 KUCICKI, Janusz  
教員コード 101877  
登録人数 20  
回答数 15  
回答率 75.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 1 回

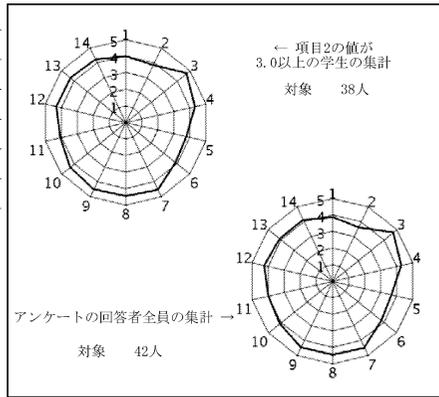


授業評価結果を踏まえた点検・評価

第4Qの授業は古典ギリシヤ語があったが、学生による授業評価を受けて、授業内容は、学生に受け入れられたようで、評価も全体的に良好だった。平均は4.5だったことから、授業の内容と、教え方が学生にとって適切であったと考えられる。特に今回の学生たちは、授業内容に深い興味を持っていたので、教えることもそれほど難しくはなかった。これからのために、今回の教え方を用いながら、少しずつ改善をしていきたいと思う。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教史(現代教会史)
授業コード	21C05-001
教員名	三好 千春
教員コード	101173
登録人数	60
回答数	42
回答率	70.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①講義には、キリスト教の歴史の上にヨーロッパ中心の近現代史が加わりませんが、その辺りの知識が圧倒的に不足している学生が多かったため、彼らに対応しようと一つひとつ丁寧に説明すると、予定の内容をすべてこなすことはできませんでした。そのため、全体的な流れをもっと理解してもらいたかったのが、うまくいかなかったと思っています。

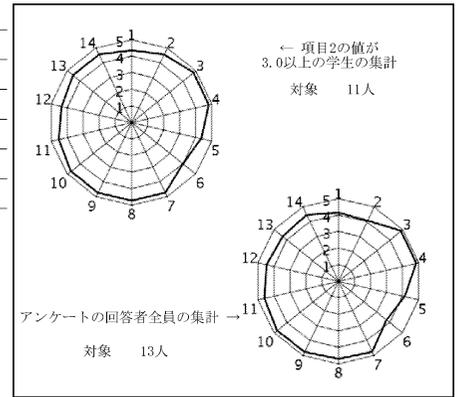
②予定していた内容すべてを講義できなかつたこともあってか、到達目標の理解や到達の度合いに関する項目の数値があまり高くないのが少々気にかかります。もう少し、何を理解してもらおうかを明確にする必要があると思うと同時に、初回にその点をよりはっきりと伝えておく必要があると思ひ、改善したいと思ひます。

③今回は、課題図書を読むことが講義の予習となるという狙いをこめて、4度の課題図書を読んで要約する課題を学生たちに課しました。読むものが学術論文中心だったため、一年生の多いこのクラスでどうだろうかと思ひましたが、学生たちは、講義の内容の予習になり、理解が進み、よかつたと思ひ概ね好評の評価を書いてくれたので安心しました。

やや難しい論文でも、ちゃんと読み込んでまとめていた学生たちの実力にも感心しましたし、このように講義をやつてよいのだという確認になりました。今後も、この方向を継続する予定です。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	自然神学
授業コード	21C12-001
教員名	松根 伸治
教員コード	101833
登録人数	33
回答数	13
回答率	39.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

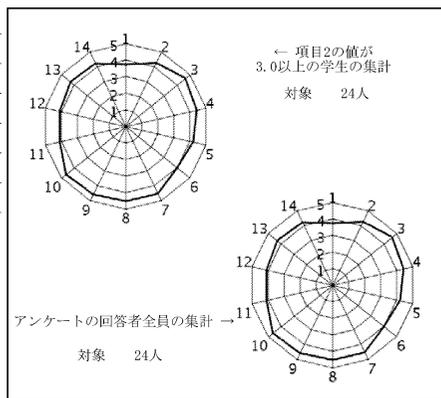


授業評価結果を踏まえた点検・評価

外形的なことに関する評価(設問3, 4, 8, 9, 10)は比較的高かつた。30人くらいの小さな講義なので、毎回の授業の進め方について細かい点に気を配ることができたおかげだと思ひます。あまりよくなかつた項目は、設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思ひますか」である(平均値3.77)。シラバスの目標は、(1)自然神学に関わる重要な概念を説明できる、(2)神の存在証明のいくつかのタイプの特徴を理解している、という二つを立ててあつた。この目標にそつて行なつた筆記試験のときばえは決して悪くなかつたので、受講者が遠慮がちに回答したということかもしれない。たしかに「すごく力がついた」と自信をもつて答えにくい到達目標だと思ひますが、授業の内容から言つて仕方ない面もある。この点に関して次回以降は、講義の大きなテーマである「信と知の關係」を、思想史的な話題として強調するだけでなく、私たちが日常的にものを考えたり人となつてつきあつたりする場面に関連づけて説明する工夫をもつたしたい。なお、今学期は、他学部・他学科からの履修者が10数名あつたが、みなさん熱心に取り組んでいる印象だつた。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中世哲学史II  
授業コード 21C14-001  
教員名 井上 淳  
教員コード 100301  
登録人数 97  
回答数 24  
回答率 24.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

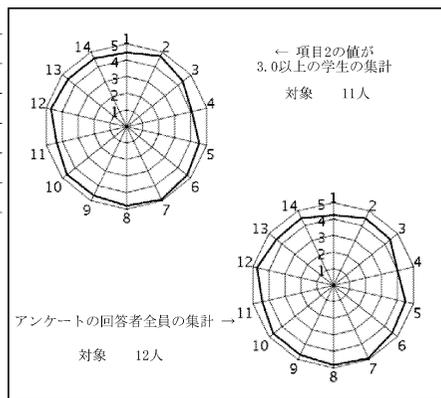


授業評価結果を踏まえた点検・評価

中世哲学史IIでは、8～15世紀の西洋哲学思想を取り扱う。具体的にはカロリング・ルネサンスから話を始め、ほぼ時代ごとに様々な思想家を一人一人取り上げて解説する。最後の思想家はニコラウス・クザーヌスである。1回の授業で1人あるいは2人の思想家を紹介するため、それぞれの思想家の詳しい思想内容を見ることはできず、主な論点に焦点をあてることになる。できるだけ、比較対象しやすい主張点を挙げるよう努めている。例えばアンセルムスとアベラルでは実在論と唯名論について、アベラルとベルナルでは神学における論理の使用に対する考え方の違いについて、アヴェロエスとトマス・アクィナスでは人間知性の単一性をめぐる問題について、トマス・アクィナスとドゥンス・スコトゥスでは存在の類比と一義性について、ドゥンス・スコトゥスとオッカムでは離在する共通本性の有無についてなどである。授業で設定していた目標には到達できたと思う。評価値では、項目3から14の平均が4.36であり、特に良い評価を得たのは項目7、8、9、10であった。今後の改善点としては、小道具をもっと活用して、より具体的で興味がわくような例えを考案して行きたいと考えている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 旧約聖書学(歴史書)  
授業コード 21C22-001  
教員名 加藤 久美子  
教員コード 103475  
登録人数 25  
回答数 12  
回答率 48.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

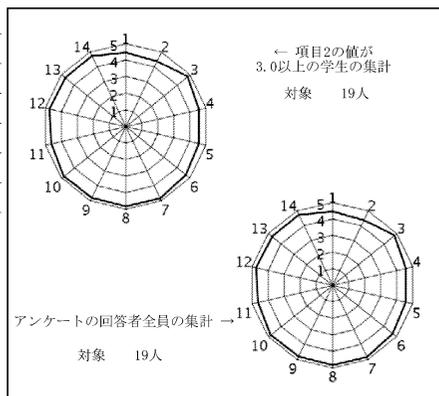


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は学科の専門科目であり、一定の専門的知識と方法論の習得を目標としている。今期の授業では、伝統的には歴史書と呼ばれる旧約聖書の著作を、史実の報告としてではなく、思想と文学の書として読む方法を習得した上で、個別のナラティブに見られる人間理解と神理解を考察することが課題であった。リアクション・ペーパーでは、指定した聖書の箇所を読むという予習をしている学生は、この課題に主体的に取り組み、みずからテキスト解釈を行い、それを記述する姿勢がみられ、また期末レポートにおいても目標がかなりよく達成されたことをみることができた。旧約のナラティブのような簡潔ながら密度の濃い著作を読み慣れない学生のためには、図や関連美術作品などを授業に盛り込み、想像力の活性化を目指した。授業評価の各設問には全般によい評価を得られたので、それらの工夫はある程度評価されたと考えられる。今後の改善点として留意したいのが、設問4の評価が平均値を下回った点である。この設問からは回答者の意図が読み取りにくいのが、自由記述欄に細部に関する解説を減らすという改善点の指摘があったので、その方向への希望であると思われる。自由記述欄には説明が丁寧である点やよいとしたコメントもあるので、次のクォーターは両方に配慮し、バランスを保つよう改善したい。また、自由記述欄にあったリアクション・ペーパーのために10分取るという改善案については、最善の努力をしたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	新約聖書学(福音書・使徒言行録B)
授業コード	21C25-001
教員名	HERA, Marianus Pale
教員コード	102689
登録人数	28
回答数	19
回答率	67.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず、毎回の授業の状況を振り返り、また学生の授業評価と照らし合わせてみると、この授業で設定した目標は達成できたと思っています。これまでの授業評価でも気づいたことですが、授業目標は1回目の授業の時にシラバスを紹介するだけではなく、毎回の授業の時にも学生に意識させる必要があると感じます。

アクティブラーニングを意識して、授業中に課題を出して、グループで話し合いの時間を設けたりしたことは効果的である。これは学生の評価（自由記述）にも表れています。そのために明確な指示と時間管理およびグループワークの時のクラス全体の統括により細心の注意を払わなければならないことを改めて実感しました。

学生にとってパワーポイントがわかりやすいことや説明もわかりやすいという良い点が評価に挙げられていますが、これからも資料の充実と学生の興味を引き出せる授業運営のために更に動力していきたいと思っています。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	初期キリスト教思想B
授業コード	21C31-001
教員名	岡崎 隆哲
教員コード	103614
登録人数	17
回答数	3
回答率	17.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

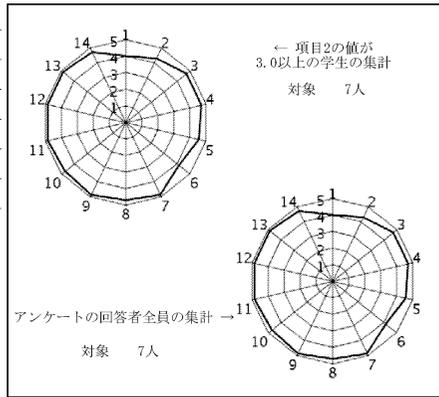
ヘレニズム（古代ギリシア・ローマの伝統文化）とヘブライズム（ユダヤ・キリスト教の精神）の二つが、ヨーロッパの精神、文化、文明の基礎を築いたということについては、前者の哲学および文学の特徴、および後者が新しく宗教思想的な面でもたらすことになった要素にかんして、基本的な内容を伝えられたかと思われる。初期キリスト教思想の形成を担うことになった古代教父の紹介にかんしては、受講者の関心を引き出しにくいと感じたこともあり、薄い内容のことしか講義できずに終わったように思う。初期キリスト教史上最も影響力を及ぼすことになるアウグスティヌスの生涯と思想にかんして、のちの中世哲学の基本内容にかかわる部分、ならびに人類の精神史上にもたらした画期的な内容について講義した。

担当科目としての基礎知識、および講義者の観点よりだいたいにしてもらいたい内容を伝えることを試みたが、受講者の予備知識のばらつきもあり、少数の受講者のみ特に関心をもって聞いてくれていたように感じる。より広範囲に受講者が関心を持てるような内容、および講義方法をもっと探求、検討し、試みて行くことが求められるかと思う。

そのためにも、次クォーターに向けては、まずは講義の該当内容についてあらためてより広い観点から点検、考察し、講義内容やデリバリーの方法を工夫して行くようにしたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教思想B
授業コード	21C33-001
教員名	TRUFAS, Ileana
教員コード	102945
登録人数	10
回答数	7
回答率	70.0%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

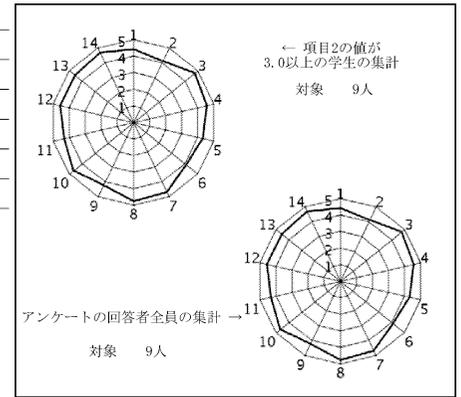
学生たちによる授業評価は割合良好——項目1から14の平均4.63、項目3から14の平均4.71——で、また寄せられた良いコメントから判断するならば、「キリスト教思想B」を主題とした本授業の指導内容、指導方法について、その目標とするところは概ね達成されていると自己評価できる。ただし、キリスト教学科のみの10名の受講者の内、回答した学生たちは7名、つまり7割だったという点については残念だったと言わざるを得ない。

以上に述べた今回のアンケートの回答平均値および回答率と、これ以前のアンケート結果を比べてみると次のように分析できるだろう。つまり、受講者の所属学科が様々な場合、また受講者数が多数になればなるほど、アンケートの結果は悪くなる傾向が強いということである。理由は、このような傾向、状況での授業となると受講者の授業への関心がますます低くなることにあるのだろうと思われる。従ってこのような場合には特別なカリスマをもたない（私のような場合の）教員にとってはアンケートの結果をより良いものにすることは大変であろう。

でも、だからと言って授業内容と指導法を改善する努力をしないという訳ではない。それどころか、アンケートの結果いかに関わらず、授業改善への努力は教員が常に意識していかなければならない重要な問題である。しかし、こうした改善を進めるためには学生たちによる授業評価——その結果が良いか悪いかを問わぬ評価——は、間違いなく貴重な助けとなる。また、以前の点検・評価の際にも記したことであるが、アンケートの重要性を保つためには、教員にとっても、学生たちにとっても、その回数が減ることが望ましいことであろうと思える。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	組織神学(終末論)
授業コード	21C41-001
教員名	VARGHESE, Rejimon
教員コード	100555
登録人数	17
回答数	9
回答率	52.9%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

クォーター4にキリスト教学科科目の組織神学（終末論）を担当しました。キリスト教にとって終末は神学の重要な領域です。そのため、他の文献を紹介しながら、主に聖書とカトリック教会のカテキズムによる終末についての教えの内容を中心とする15回にわたる講義でした。

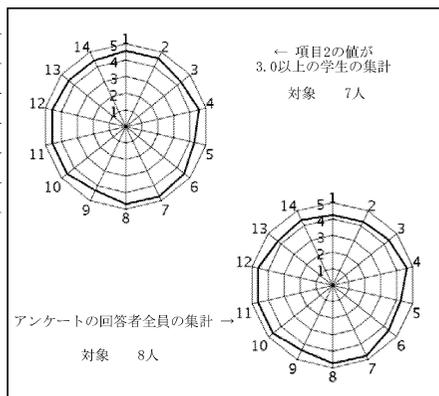
①伝統的に終末論は最後の四つの事柄についてです。つまり、死、審判、天国、地獄。ですが、最近これらに他の事柄も加えられたので、この授業の中で最後の七つの事柄を取り上げ、講義しました。つまり、死、審判（私的審判と公的審判）、天国、煉獄、地獄、死者の復活、新しい創造（新しい天と新しい地）。この事柄を正確に理解することが終末論の到達及び目標でした。

②授業評価の1から14の項目の平均評価は4.48になっているので、嬉しいです。キリスト教による天国、煉獄、地獄の概念をよく解ったという学生さんのコメントが、設定していた目標と到達が満たされたことでしょう。

③授業中に学生さんが受身的に講義を聞いているだけという印象を受けました。質問してもあまり返事してくれないので、これから授業中に学生さんとのやり取りの方法を考えなければならないと思います。できれば学生さんに感想文や疑問点を書いてもらうのもいいかもしれません。このようにしてこの授業を改善したいと思います。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教倫理学(基礎論B)  
授業コード 21C51-001  
教員名 RAJCANI, Jakub  
教員コード 103281  
登録人数 12  
回答数 8  
回答率 66.7%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

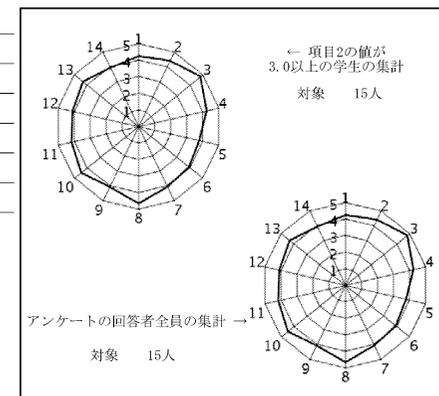


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) 全体の目標にだいたい達成できたと思います。もう少し時間があれば、もっと詳しく取り上げることができたのかもしれませんが、一通り計画していた内容を説明することができました。
- 2) スライドはウェブクラスに上げていますので、配布するプリントとしては敢えてアウトラインや資料しか配らないことにしました。学生にきちんとノートを取らせることが大事な目的だったので。残念ながら、いつものことながら欠席者や遅刻者が多く、その場合の混乱や不安は分からないでもありませんが、一応こちらの責任ではありません。甘えもほどほどにしましょう。
- 3) 将来的に、やはりレジュメをこのまま減らしていきたいと思います。聞いて理解し、理解したことを自分らしく書き留めるという訓練を学生諸君にさせてあげたいと強く思っています。また、今回は時々しか出来なかったのですが、これからはなるべく余裕を持って授業の終わりより少し前に話をやめて、感想を書いてもらうようにしたいと思います。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教史I  
授業コード 21C57-001  
教員名 奥山 倫明  
教員コード 019133  
登録人数 28  
回答数 15  
回答率 53.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

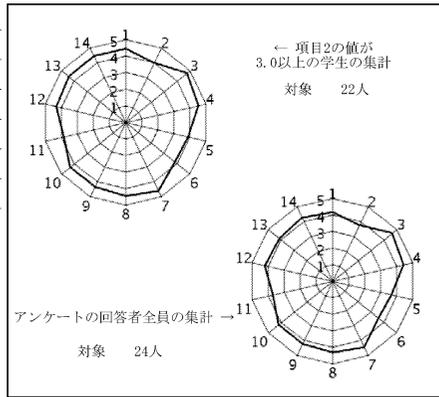


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①この講義は「到達目標」として、(1)世界文明史のなかにおける宗教の役割について理解する、(2)歴史における宗教の移動について理解する、(3)英語文献を読解し、内容を把握する、の3点を掲げて行なった。古代地中海世界、キリスト教、イスラーム、仏教について、(1)(2)をほぼ達成した。(3)については、最終的に英文40頁ほどを講読してきたので、受講者は予習がたいへんだったかもしれないが、よく勉強したことと思う。
- ②数値データからは、設問5、6の「この授業の到達目標を理解することができましたか」「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」の数値が若干低い。テキストの主題が「諸宗教の移動と文化接触」に関するものであり、それ自体わかりにくいものであることから、いたしかたないかもしれない。また自由記述において、そもそもなぜ英語教材を用いる必要があるのか、また英語の授業のようだった、という疑問も提起されているが、同様の内容の日本語テキストが見当たらないことと、大学受験までで培った英語力を維持するために、このような授業があってもよいのではないかと考えてのことである。
- ③前項の自由記述のような疑問も受け取っているが、次年度以降は別の授業においても英語文献の利用を行ない、さらに受講生の学習意欲を刺激したいと思う。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	哲学B1
授業コード	12A02-001
教員名	谷口 佳津宏
教員コード	Q16550
登録人数	39
回答数	24
回答率	61.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

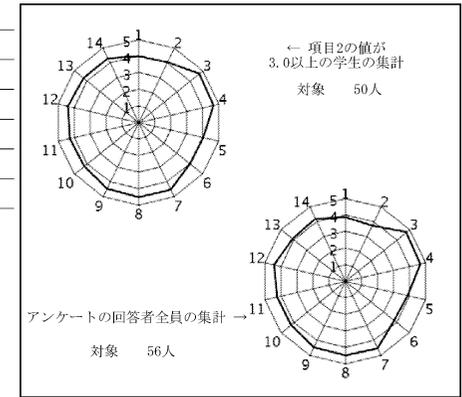


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した授業の到達目標は「1. カント哲学の基本内容を知っている。2. 哲学書をおある程度読みこなすことができる。3. 哲学的思考の基本を理解している。4. 論理的に物事を考えることができる。」であった。設問のうち、全体平均を下回ったものは、設問2, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14であった。なお、設問の評価をすべて1とした者が1名いた。試験の結果をみるかぎりでは、到達目標はおおむね達成できたと考えられる。自由記述欄では「良かった点」として「話が面白かった点」「話がわかりやすい。」「質問に丁寧に答えてくださった点は、非常にためになりました。」「ホワイトボードに書いてある説明が授業内容を理解するのにとても役立った。」「プリントでの書籍の引用文が、適当な箇所と量だったので基本を理解し合うするには学習しやすかった」「理解をしやすくするために例が多く用いられたこと。質疑応答の時間があったこと。」「質問にしっかり対応している」といったコメントが寄せられた一方、「改善すべき点」としては「早口なので聞き取りづらかった。」「喋るのが早すぎる」「授業内容の量が多いこともあり、90分に収めるために早口になってしまうのは理解できるが、聞き取れないこともあった。」「結局カントが最も言いたかったことは一体何だったのかがよく分からなかった。」といったコメントが寄せられた。次年度は内容を精査して、もう少し減らし、ゆったり話のできるものにするを考えている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文化人類学B
授業コード	12B14-001
教員名	坂井 信三
教員コード	Q34264
登録人数	165
回答数	56
回答率	33.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

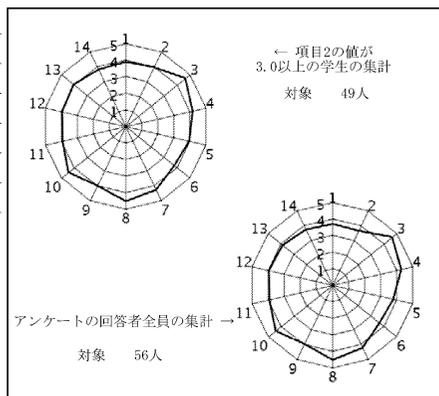


授業評価結果を踏まえた点検・評価

文化人類学Bは全学向けの共通科目で、さまざまな学部の学生が受講している。その学生たちの関心を引きだし、それを維持しつつ授業を進めるためには、かなりの工夫と準備を必要とする。とくに、ネットを利用してYouTubeの動画を見せたり、リアクションペーパーを使って質問を集めたりしたが、一定の効果があつたと思われる。数値データでみると、設問1, 12の評点が高いことにそれがうかがわれる。一方、設問5, 6の評点が3.8程度と低かったのは、学生たちの反応からは、そのような印象を受けていなかったもので、意外だった。。自由記述の回答を見ると、文化人類学の講義で目指した人間の本性の理解について、ある程度満足できる効果があつたと思われる。設問5, 6の評点の低さは、もしかすると授業評価の時点で授業の到達目標を学生たちが知らないで回答しているためであるかもしれない。例年のとおり、出席はとらなかつたが、毎回授業に出席しているのは登録者の半数程度だった。授業内容を工夫し、講義の面白さだけによって出席率を向上させようとする、この程度が限界なのかもしれない。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 イスラムとの出会い2  
授業コード 13B03-002  
教員名 石原 美奈子  
教員コード 100080  
登録人数 181  
回答数 56  
回答率 30.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

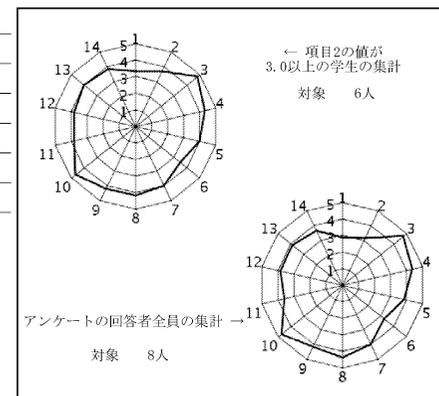


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、イスラムに関する基本的な知識を15回の講義を通して伝授する内容となっている。イスラムは「危険な宗教・思想」であるという、メディアが創り上げるイメージを相対化するために、イスラムがいかに歴史的に構築されてきたのかという点を中東中心に講義している。数年前から、パワーポイントで講義を構成することにしたが、文字が小さい、内容が細かすぎる、webclassへのアップのタイミングが遅い、などそのコメントをもらっているので、今後修正していきたい。講義自体は、イスラム勃興～現代の中東情勢まで完了できたので、当初設定していた目標を達成している。すべての授業に出席し、5回かけて実施した小テストをすべて受けていれば、最後の筆記試験では少なくともAはとれたはずである。パワーポイントに空欄を設け、小テストを5回行うなどして、授業への出席を促したが、この点は効果があったようである。だが、結局、授業評価を行った学生は、180人のうちわずか56人しかおらず、授業評価の実施方法について検討が必要であると感じた。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生命観と環境観の変遷2  
授業コード 13D05-002  
教員名 横山 輝雄  
教員コード 015149  
登録人数 18  
回答数 8  
回答率 44.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

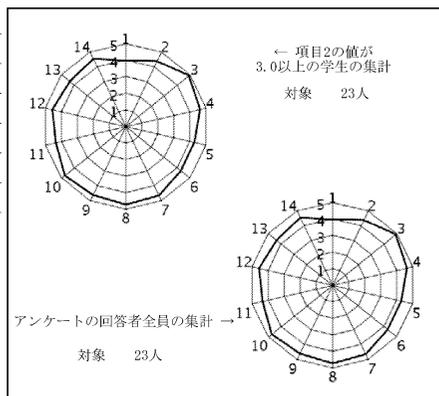


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
「到達目標の理解」（項目5）が、3.88であり、「到達目標に向けて力がついてきていると思うか」（項目6）が、3.25であった。目標の理解に比して、その到達意識が若干低い。
2. 数値データおよび自由記述を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価  
項目1から14の平均が3.89であり、項目3から14の平均が4.04であり、全体とそと必ずしも悪くないかもしれないが、設問1が最低点で2.88であった。他はすべて3点以上であるのに対し、この項目だけが2点台である。授業の内容に必ずしも興味をもっていない学生が履修していると考えられる。自由記述では「解説が非常に丁寧であった」というものと、「話がやや冗長」というものの両方があり、興味のある学生にはそう思われるのかもしれない。
3. 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
上記2の問題を改善するために、第1回授業において、この科目の内容・性格などを説明し、興味のない学生は登録変更ができることを説明するようにした。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報サービス演習112  
授業コード 15P13-002  
教員名 浅石 卓真  
教員コード 103263  
登録人数 29  
回答数 23  
回答率 79.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

「図書館の参考図書を検索し、それらを用いてレファレンス質問に回答できる」「特定のテーマに関するパスファインダーを作成できる」「図書館イベントや読書イベントの具体例を紹介したり、展示企画を立てられる」という目標を立てた。  
提出された成果物や発表を見る限り、いずれも出席した学生に関しては十分に到達できたと考えている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※

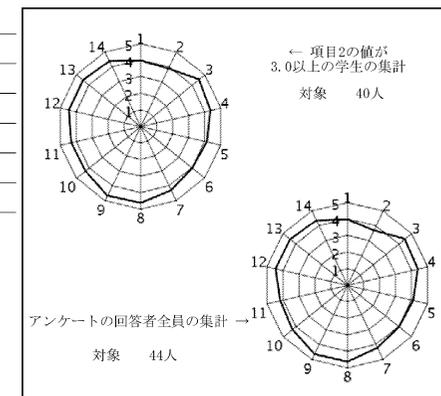
数値データについては、項目1-14の平均が4.50、項目3-14の平均が4.56といずれも全体平均、科目平均を上回っているため問題ない。  
自由記述を見ると、演習の時間を多くとったのが高く評価されている。「教室の変更をもっと早く教えてほしい」という意見があったが、授業内容自体に関する低い評価は見られなかった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

基本的には今年度の計画をベースにして、演習時間を引き続き多めに取るようにしたい。教室については授業計画の中に各回の予定教室を書き入れるようにしたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 科学文化論B  
授業コード 22C23-001  
教員名 中尾 央  
教員コード 102505  
登録人数 99  
回答数 44  
回答率 44.4%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

当初以下二点をあげた。

- ・現代文化進化学の基礎を理解できている。
- ・現代文化進化学の方法を各種の個別事例に応用できるようになる。

この2点については概ね達成できたと考えている。人類学や考古学、歴史学の事例について、文化進化学の諸理論を応用できるよう、授業内でも各種事例を扱った。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

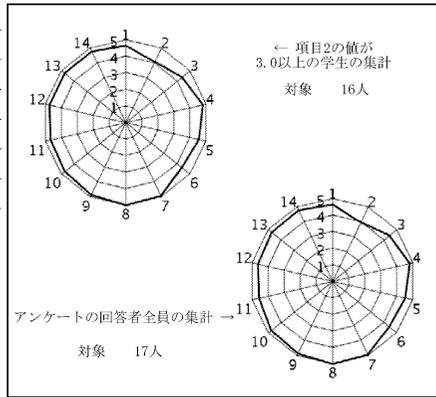
数値データは概ね悪くない。が、自由記述で「授業がだらだらしていた」という評価があった。授業の雰囲気を厳しくして授業の中身を純粋に楽しめなくなるのは避けたいと考え、あまり厳しい雰囲気にはしなかった。大半の学生はそれを楽しんでくれているようなのだが。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

選択科目なので雰囲気が合わない学生には正直履修をやめて欲しいというのが正直なところだが、そのような学生にも評価してもらえるような授業を目指すべきなのだろう。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化理論  
 授業コード 22C36-001  
 教員名 吉田 竹也  
 教員コード 019158  
 登録人数 26  
 回答数 17  
 回答率 65.4%  
 休講回数 2 回  
 補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、文化人類学を中心とした「文化」概念とそれに関する理論の主要なものを紹介することを主題とし、授業回数の半分を講義形式で、半分を演習形式でおこなうことで、文化理論の流れを押さえつつ近年の論点の一端を提示することを狙っている。演習形式の回では、あらかじめテキストを受講者が読んでくる作業を課している。通常よりも予習の負担がおおきい授業であり、したがって受講者は例年あまりおおくはない。

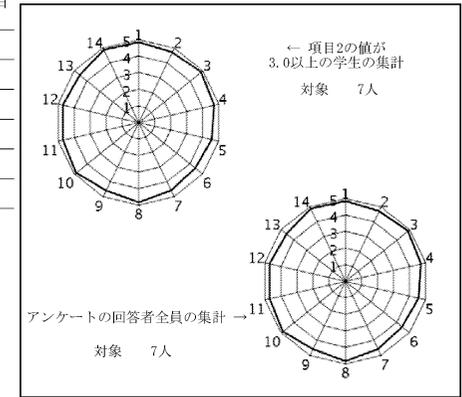
今年度は、授業中に学生から質問がほとんど出ず、こちらから質問等を投げかけて理解度を確認することもしばしばあり、受講生の反応の薄さにやや危惧を抱いていた。しかし、おおくの受講生はきちんと予習をして授業に臨んでいたようで、予習や主体的参加について問う質問項目2もまずまずのポイントであった。この点、ほっとしている。

自由記述では、改善意見はなく、「内容が興味深かった」「生徒の関心に合わせて柔軟に教材や進行を考えてくれたので、より自発的に授業に臨めた」「資料が理解しやすいものだった」「学生が発表する場面でも、教員がその都度解説を加えたので、発表の内容が理解しやすかった」「ただ聴くだけの受け身の授業ではなく、聴く側、発表する側ともに学びを深めることが出来たと思う」といった好意的なコメントが得られた。

今後も、演習回のテキストの選定に配慮しつつ、こうした形式で授業を運営していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化コミュニケーション<国際科目  
群>2  
 授業コード 22C53-902  
 教員名 ANTONY SUSAIRAJ  
 教員コード 103820  
 登録人数 9  
 回答数 7  
 回答率 77.8%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The Goals Set for the Course

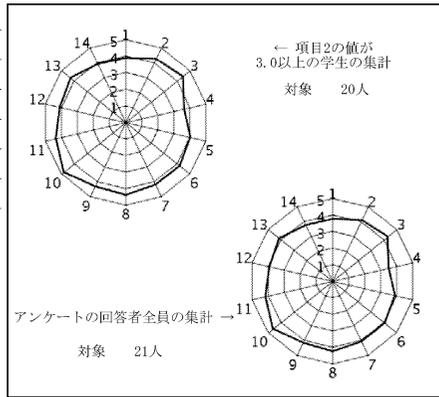
The aim of this course is to understand the different elements of culture, and its challenges and prospects during intercultural communication. It helps to overcome the prejudices on other cultures and enables to appreciate the cultural diversities. It focuses on the skills of intercultural competence to identify the challenges and recognizing the advantages of living in a multicultural world. The students were given a lot of opportunities to share their experiences in the class. There were a lot of discussions on different themes concerned with Inter-cultural communication.

2. Over all Self-assessment: 8/10

3. Plan to invite people who lived abroad and have inter-cultural experience.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文献資料講読(日本)A
授業コード	22C56-001
教員名	青山 幹哉
教員コード	019323
登録人数	60
回答数	21
回答率	35.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 設定した到達目標は、「1. 日本中世史料解読に関する基本的知識を習得できる。2. 古記録の読解を通じ、日本中世公家社会の歴史的特性について理解できるようになる」であった。設問6で評価値5または4とした学生は回答数の85%以上あったので、学生側からの意識としては十分目標に達したものと考えているようだが、成績評価の結果からみると、やや不十分なレベル(B以上が半数強に留まった)となった。
- ② 担当科目についての点検・評価  
今回、授業に不満を持つ学生が全項目に「1」を付けたため、前回までのものと単純に数値比較を行うことはできない。ただ、やはり言えることは、設問1からもわかるように、興味の無いまま、たまたま時間が空いたからというだけの理由で、予習復習を必須とする演習的な授業を取るべきではない、ということであろう。また、あれだけ質問の時間を設けたにもかかわらず、設問12の平均値が低かったのも疑問である。  
今回からWeb Classで復習しやすいよう、テキストの「書き下し文」をアップしたところ、自由記述欄の記述からは「よかった」云々の好評価があった。それはそれでいいのだが、そのような学生はおそらく真面目な学生であり、別の複数の学生はWeb Classにも、まったくといってよいほど、アクセスした形跡がなく、無駄であった。
- ③ 今回は、中世を通して見るよう、時代の異なる3つの史料を用いたが、学生からすれば慣れた頃、早くも次の史料に移るよう感じられたようなので、次回からは史料の配分にも注意したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文献資料講読(中国)2
授業コード	22C58-002
教員名	藤川 美代子
教員コード	103115
登録人数	16
回答数	2
回答率	12.5%
休講回数	2 回
補講回数	0 回

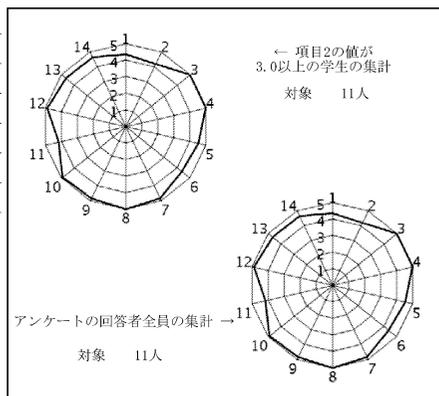
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

通常の授業時の履修者の反応と小課題・期末課題の結果を鑑みるに、開講当初設定していた目標(=中国語の辞書の利用について習熟する、現代中国語文の意味を読み取る力を身につける、中国語によるインターネット利用に習熟する)については、すべての学生が到達できたと考える。とりわけ、講義内では、これまでに中国語を学習したことのなかった学生(履修者の半数以上)でも、辞書で単語の意味さえ調べられれば文章全体の意味を読み取ることができるような文法理解のコツの教授を心がけており、これが履修者の読解力を大幅に向上させることにつながったと考える。履修者の中国語既習歴によって適切な教材・授業の進度・内容が異なるため、その点を十分に考慮できていたか不安であったが、アンケートの結果では、履修者の評価もおおむね高かったので、総じて適切な内容で進行できたものと判断している。特に、中国に関する時事ネタや講師の中国での経験に触れることで、中国をフィールドとした人類学・考古学に関心をもつ履修者の要求にもこたえることができたのではないかと自負している。次年度は私はこの講義の担当から外れる予定だが、今年度の当該科目の履修が、中国研究に足を踏み入れる第一歩となれば幸いと考えている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文献資料講読(西洋)A  
授業コード 22C59-001  
教員名 和泉 悠  
教員コード 103645  
登録人数 15  
回答数 11  
回答率 73.3%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

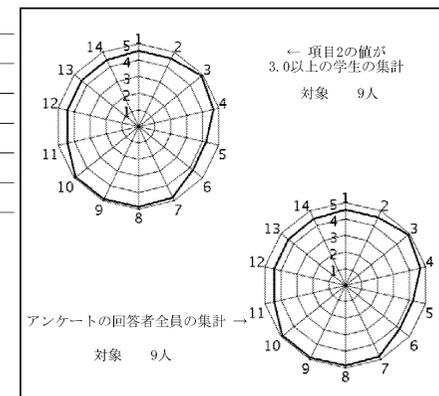
①この演習の到達目標は「英語で書かれた人文学の文献資料を利用できるようになる」であり、日常の課題（ワークシート）提出、および日本語への翻訳課題とハンドアウト作成を通じて、おおむね目標に到達できたと言える。

②以下に述べる点を除いて、数値データを踏まえると、得点が高いため一定の評価が与えられると考える。

③項目11番「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか」が他の項目と比べると比較的低い。この解釈は難しい。たとえば12番「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか」が高いことを踏まえると、その乖離はどうとらえればよいだろうか。一つの可能性は、課題等そのものやそれに対する指導・フィードバックは十分であったが、自発的学び・動機づけを与えられたわけではない、ということである。自発的学び・動機づけをなんらかの形で引き出すのは永遠の課題であると思われるが、いくつか工夫が考えられる。今学期ワークシートは記述式のものを使用した。記述式で採点を行い、次の週わからないところを質問させる、という形だけではなく、もっと細切れで間が一切ないフィードバックを与えることが（ビデオゲームなどの中毒性の高い形式を参考にして）有効かもしれない。true-false questionsをwebclass上で与え自動採点を行い、直ちにフィードバックを与えることなどが考えられる。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文献資料講読(西洋)B  
授業コード 22C60-001  
教員名 坂下 浩司  
教員コード 100471  
登録人数 18  
回答数 9  
回答率 50.0%  
休講回数 2 回  
補講回数 2 回

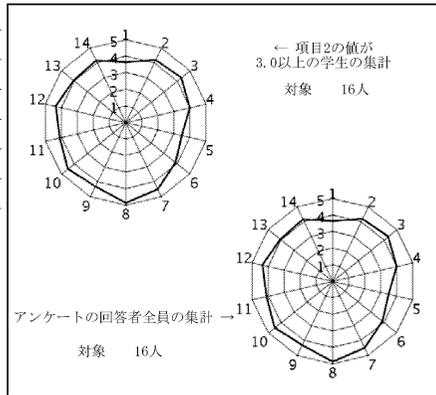


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、（1）人文科学の書物を原典（この授業の場合は古典ギリシア語やラテン語になるのでその英訳）で読む能力が身についている、（2）外国語を自然な日本語に翻訳する能力が身につけている、（3）文献資料から生じる問題を理解し、それについて自ら考察する能力が身につけている、（4）読書ノートの作り方が身につけている、（5）古代ギリシアローマの天文星座神話の正確な知識が身につけている、であった。到達の程度は、初回に予習の仕方についてかなり詳しく解説したこともあって、実際の授業においても、レポートにおいても、十分に達成されていた（ただし、初めの2回を連続して出席していなかった学生については、この解説を聞いていなかったこともあって、到達度は残念ながら高くはなかった）。数値データについては、どの項目も、「4」以上になっていた。自由記述は、設問15については、「内容が面白かった」、「ビデオが多かったので文の読み取りと映像の両方から理解できました」とあり、こちらの意図がうまくつたわっていた。設問16については、「家でも見られるようなYouTubeの動画などの紹介があってもいいと思います」とあり、私はYouTubeはぜんぜん見ていないので、今後の課題としたい。全体として好評であったので、来年度もこの線で授業をおこないたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(対照言語学)  
授業コード 22C64-001  
教員名 林 晋太郎  
教員コード 103741  
登録人数 22  
回答数 16  
回答率 72.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本科目の開講当初に設定した目標は、2回実施した小テストや学期末に与えた課題の出来に鑑みると、概ね到達できたと言える。しかしながら、受講生の間で理解度の差が決して小さくなかったことは事実である。

②本科目のアンケート集計結果は、設問1~14の平均値が4.17、設問3~14の平均値が4.21であった。第4クォーターに開講された科目全体で見ると、設問1~14の平均値は4.33、設問3~14の平均値は4.37であるので、本科目の数値は平均を下回っている。また、本科目の開講主体である人類文化学科の全体の平均は4.27(設問1~14の平均値)と4.32(設問3~14の平均値)であり、ここでも本科目の数値は平均を下回っている。本科目はとりわけ、設問1、5、6において全体の平均との差が大きく、それぞれ3.53、3.50、3.88であった。これらの数値から、授業時間内で練習問題に取り組む時間をより多く確保する必要があったと考えられる。

③毎回の授業で課題を与え、次回の授業で提出させる取り組みに対して肯定的な意見が自由記述に見られた。次クォーター以降も積極的に取り入れることで、事前学習を促したい。また自由記述には、複数回実施した小テストに関しても肯定的な意見があった。この取り組みも、次クォーター以降、他の科目にも取り入れることで、受講者が理解度を確認できる機会を増やしたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(新大陸の考古学)  
授業コード 22C69-001  
教員名 渡部 森哉  
教員コード 101237  
登録人数 22  
回答数 4  
回答率 18.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

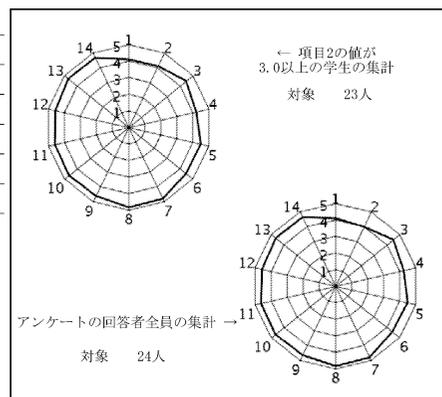
授業評価アンケートに回答したのが登録者22名(うち期末レポート提出者は17名)中4名のみであった。授業中に複数回アナウンスしたが、残念であった。学生にアンケートに回答するようにリマインドのメールを送るため、weblclassを活用するなどの方法も考えたい。

回答した4名の受講者のデータを見ると概ね満足しているようである。3名はいずれの項目もほとんど5と評価しているが、1名はいくつかの項目を3と評価している。その理由はこの授業が、考古学の入門的な授業をすでに受けている学生に、より理解を深めるために高度な内容を盛り込んでいるためであると考えられる。つまり授業のレベルに満足できている学生が一方で、授業の内容を全て理解できない学生もいるということであろうと思われる。

シラバス通りに授業を行った。基本的に講義形式で授業を行ったが、4回分を受講者による発表を盛り込んだ形で授業を行った。このやり方に関して特に記述はなかったが、今後学生の意欲をさらに引き出す方法を考えていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(縄紋文化論)  
授業コード 22C71-001  
教員名 大塚 達朗  
教員コード 019372  
登録人数 39  
回答数 24  
回答率 61.5%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

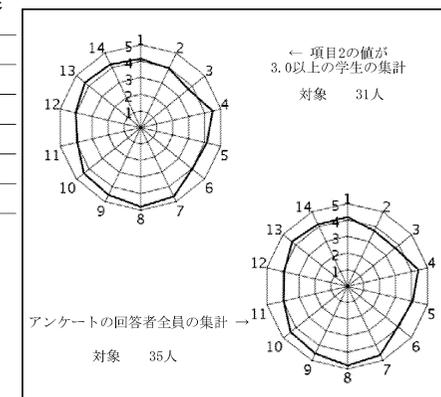


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ・目標達成度：おおむね達成できたと考える。
- ・授業目標：ドングリ利用（採集）、イネ利用（農耕）、ムギ利用（農耕）において、世界に先駆けて始まったのがドングリ利用で、それが縄紋文化の意義であることを修得させる。
- ・授業評価：集計表によれば、キャンパス全体では、項目1から14の平均が4.33、項目3から14の平均が4.37で、本授業は、それぞれ、4.51、4.59である。また、全体的な評価を問う設問（13・14）をみると、キャンパス全体ではそれぞれ4.34、4.29で、本授業はそれぞれ4.63、4.63である故に、高く評価されたといえよう。自由記述をみると、「博物館で授業を行うのが新鮮で楽しかった。授業内容も非常に興味深く、重要なことをくり返して教えてくださるので頭に残る」「小中高で習うのとは大きく異なる縄紋文化について深く考えるきっかけになる、有意義な講義ではないかと思います」など、人類学博物館で直接縄紋土器を手にとっての講義を歓迎する記述が種々あった。
- ・改善点：次年度は、博物館おける縄紋土器のスケッチの意義をより丁寧に説明する。
- ・今後の抱負：縄紋文化のドングリ利用文化としての世界史的な意義について、土器・石器資料に基づいてより正確な知識を修得させたい。
- ・方針：人類学博物館所蔵縄紋土器をできるだけ観察させながら、知識が抽象的にならないように、かつ、考古学の分析方針の特色を理解させるように心がける。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(中国的世界の形成)  
授業コード 22C72-001  
教員名 西江 清高  
教員コード 019356  
登録人数 94  
回答数 35  
回答率 37.2%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

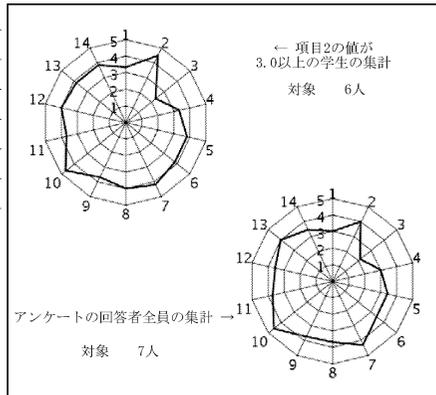


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、講義の内容自体は予定通りに完了できたと考えている。しかしながら、講義内容が十分に受講生に伝わっていたのかと言えば、反省すべき点は少なくない。
- ②全体の評価点が4.14というのは決して芳しい評価とは言えない。その原因として、質問項目11の「学習意欲を引き出す」、あるいは質問項目12の「質問や相談の機会」において評価点4.0を下回っていることに注意しなければいけないと考える。これらは受講生との対話の上に成り立つものであり、それが十分ではなかったのだとおもわれる。講義すべき項目を増やしすぎた結果、やや一方通行的な講義になってしまった可能性がある。また、質問項目3の「授業時間は守られていたか」についてもよくない評価であった。実は何度か授業開始時点で研究室に忘れ物をしたことに気づき、取りに帰るといふ申し訳ないことがあった。
- ③上記の①②に関連しては、なによりも受講生との対話を重視した授業運営が必要であると考えている。受講生にたいしては質疑応答のなかから問題の所在を理解させ、そのうえで問題解決の方向について講義するという授業の流れを工夫するように心がけたい。また授業時間の問題については、単純なことではあるが、余裕をもって授業の開始時間を迎えられるようにしたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育・文化における人間の尊厳2  
授業コード 10D07-002  
教員名 アッセマ 庸代  
教員コード 055491  
登録人数 21  
回答数 7  
回答率 33.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

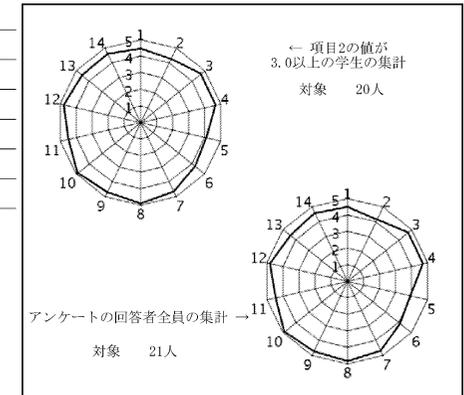


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業のねらいは、「自己、生命への気づき」「死生観の意識化と言語化」「グループワークに依る人生の关系的4段階：生まれる・産む・看とる・死ぬ、の社会的合意個人や家族のコンセンサスの場面を行動心理学療ロールプレイ法により、自身への気づきや悟りの体験をする」ことにある。各人・各グループの参加度から、おおむね目標は達成された。この科目の重鎮なテーマ設定や、本年最終講義を迎える担当者の思いから、Q4の時期にすることで、学生も選択の意識が高く、おたがいに影響し合っていたので、手応えのある人が各グループに居て助かった。グループ研究は、当世の情報収集から、スマホや海外の医療情報や葬儀の在り方等簡単に情報をシェアして、討議は興味深い、研究の充実が時は熟さない感がある。Q制は、二事件連行ということで、話し合いや充実度を増すよう工夫した。ニコマ連続による、体験学習型授業は、時間管理が流動的な分、講義形式に慣れている一般学生には、戸惑いがあったかもしれない。「自由」「主体的に応える」ことに慣れていないこと自体を、医療や人生の選択現場での「自分を問われる場」としてのこの授業で鍛錬されていることを自覚し合いたい。受講・相互協力・各人の取組みと自由記述ありがとうございました。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理学A2  
授業コード 12E03-002  
教員名 浦上 昌則  
教員コード 018788  
登録人数 48  
回答数 21  
回答率 43.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

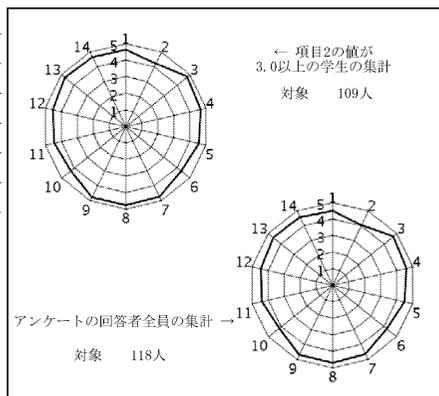


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、認知心理学、学習心理学および発達心理学をあつかう概論科目である。そのため各領域内の多様な基礎的事項を広く紹介した。各領域の概要を理解し、基礎的事項を説明でき、また生活の諸側面における具体的事象と心理学的知識を関連づけることができるようになることを目的としている。授業評価の回答は、平均値が概ね4点台であり、好意的な評価を得られたと考える。授業の特徴としては、途中に小休止をはさむこと、授業終わりに書いてもらう学生からの質問に回答する時間を次の回にとることである。これらに関しては、「小休憩を設けてもらったおかげで他の授業よりも集中できた」「感想用紙に書いた質問に毎回丁寧に答えていて良かった」などのコメントがあった。以上のようにある程度の評価を受けた授業であるが、特にこれまでと何かを変えたわけではない。しかしながら、評価項目の値は従来よりもやや高くなっている。担当者の主観的判断としても、例年よりも肯定的にすぎるとも思われる。評価が肯定的なことはよいのであろうが、これが何によるものなのか、今後留意を続けたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 こころとは2  
授業コード 13E01-002  
教員名 解良 優基  
教員コード 103910  
登録人数 382  
回答数 118  
回答率 30.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

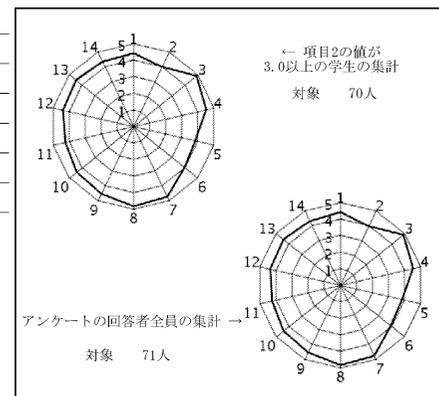


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
シラバスに記載した本授業の目標は、以下の2点である。  
1. 習得した心理学の基礎知識について説明することができる。  
2. 学習した知識や心理学的視点から、日常的な問題について考えることができる。  
特に1. について、定期試験の結果は平均点がやや低かった。試験問題自体は当然のことながら全て授業で扱った内容から出題されており、十分復習されていけば解ける問題である。したがって、上記の結果は授業の目標と照らし合わせると学生・教員双方にとっての課題を示唆するものであったと考えている。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
本授業は、登録人数が380人を超える大人数授業であった。その中で、動画の視聴やWebclassの掲示板システムを使った意見共有、質問紙調査を通じた構成概念の測定と結果の解釈など、授業者なりにいくつかの工夫は行っていた。アンケートによって得られた量的データや自由記述の結果から、少なくともアンケートに回答してくれた学生にはそれらの工夫は一定程度伝わっていたものと考えられる。一方で、一部の学生が行っていた私語等の迷惑行為に対する注意の不足は不満として書かれていた。この授業に限らず大人数授業共通の課題であると考えられるが、注意の徹底はもちろん座席位置の指定などの工夫できる余地を探りたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 知識の探求4  
授業コード 13E03-004  
教員名 川浦 佐知子  
教員コード 055855  
登録人数 107  
回答数 71  
回答率 66.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ビックバン宇宙論にもとづき、宇宙・惑星系・生命の歴史を「進化」をテーマとしたひとつながりの物語として講義した。人文、社会科学系の学生にも理解がしやすいよう、毎回授業で映像資料を用いて具体的にイメージできるよう努めた。授業では冒頭、前の回で収集した学生からのコメントや疑問に応え、その後新しい事柄を紹介するようにした。【設問9】教材、視聴覚資料を効果的に使って適切に授業を進めていたか（平均値4.52）、【設問11】積極的な授業参加や自主的な学習を促すための適切な指導や情報提供はあったか（平均値4.27）、【設問13】授業を通して新しい知識を得たり理解が深まったと感じるか（平均値4.44）という回答結果であった。当初の授業目標はほぼ達成できたと思われる。
- 自由記述欄には「自分の好奇心と、授業の内容・速度がマッチしていてよく理解ができた。全ての回において要点が明らかにされ、毎回新たな発見があった。」、「映像を使って実際の宇宙や星の様子を見ることができたので、楽しかったし理解もしやすかった。授業の最初、前回のコメントの紹介や復習の時間が設けられており、他人の意見を聞けると共に、忘れていた部分を見直すことができた。ビデオや参考文献の紹介もあったので、自分で自習する際にもスムーズで知識をより深めることが出来た。」というコメントが寄せられた。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理学実験II  
授業コード 23C06-001  
教員名 藤田 知加子  
教員コード 100382  
登録人数 5  
回答数 3  
回答率 60.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

授業内の様子や、成果物の結果から、当初設定していた目標には、おおむね到達できたと考える。

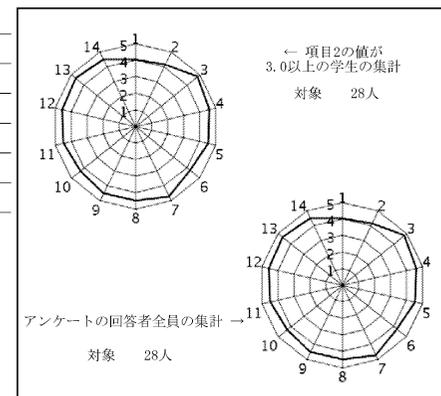
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

履修者の少ない科目であったため、全体として評価は高めになりやすい。しかしながら、このことを鑑みても学生の満足度は高く、この科目に関するさらに関心を持って様子であることは評価すべき点だと思われる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
そもそもクォーター制で行うことに不向きな科目（もっとじっくり考える時間を授業内外で持たせる必要がある）ではあるが、今後も開講形態が適切かどうかを慎重に検討しながら展開していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 臨床教育学  
授業コード 23C12-001  
教員名 高橋 亜希子  
教員コード 103582  
登録人数 65  
回答数 28  
回答率 43.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

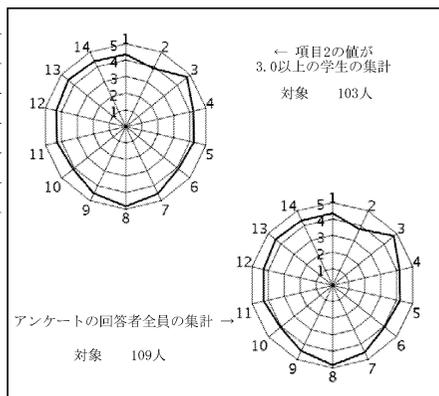


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業評価アンケートへの協力ありがとうございます。今年は、初めて行った昨年度よりも落ち着いてよい授業になったのではないかと考えています。初めて縦置きにしたので、みなさんの疲労が心配だったら、教員になる学生は少ないので、授業のビデオを見ることに興味を持ってもらえるのが不安でした。授業のビデオを見て書くことは良かったという人と、2時間ずっと作業なのが大変だったという人がいて、来年度はもう少しみなさんが話し合う時間が取れればと思っています。最後に行った絵本で問いを立てて授業をすることについては、おおむね好評でよかったです。授業を作り話し合うというほかに、絵本の面白さや、問いに対するさまざまな答えがあることへの気づきなど、多くの学びがあったようでした。ただ、発表が早く終わり、時間があまったグループもあったため来年度は、絵本の回には、持ち時間が40分あることをより明確に伝えて、時間が余るグループがないようにしたいと思っています。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 発達心理学  
授業コード 23C21-001  
教員名 西脇 良  
教員コード 100623  
登録人数 180  
回答数 109  
回答率 60.6%  
休講回数 2 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

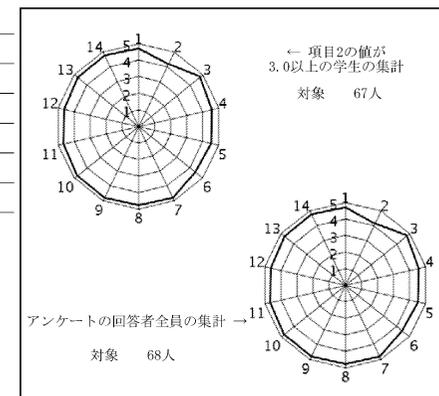
この講義では、①出生前期から老年期までの主要な発達課題、定型／非定型発達に関する基礎的知識の習得、②学習内容と自分の成育経験との照合をおこなうなかで、自らの成育史への理解、を到達目標としました。進度が間に合わず、非定型発達については扱えずじまいでした。

学生の皆さんからの評価ですが、全体としては「まあまあ」との判断であったように思います（全設問の平均値＝4.33）。評価対象科目全体の平均値（4.33）と同じでしたが、心理人間学科全体の平均値（4.45）を下回ってしまいました。

アンケート用紙の裏に記入されたコメントについてですが、まず肯定的な意見として、「先生の話し方が上手く、だんだん興味を惹かれた。」「優しくて面白い。話を聞きたくなる。」「各時期の発達の様子をビデオを見ながら学べたこと。」「資料のまとめが分かりやすかった。資料としてビデオを見せてくれたのですが、それが紹介された理論の理解を深めるのにとっても助かりました。」等の評価を多数頂戴いたしました。これからも、分かり易く、かつ皆さんを知的に刺激するような授業を追求して参りたいと思います。他方、改善すべき点として、「プリントを配布して欲しかった。」「書いてあることを読むだけでなくもっと内容を掘り下げて教えてもらいたかったです。」「初めから、忙しさを言い訳にして授業の準備をできなかったという話から入り、完成度の低い授業をするなら休講にして、有意義な時間にしたいという思いがつよすぎるあまり、3回目から参加したくないきもちが多いにありました。」等の厳しいご意見も頂戴いたしました。毎回、自転車操業のような授業になってしまい、申し訳ございませんでした。次回があれば、もう少しこなれた資料づくり、授業づくりをしたいと思います。プリント配付については、ペーパーレス化を進めているところでありますが、必要性を再検討して参ります。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会心理学  
授業コード 23C24-001  
教員名 土屋 耕治  
教員コード 102287  
登録人数 207  
回答数 68  
回答率 32.9%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、2年次以上を対象とした講義科目である。主に、心理人間学科の学生を中心に約200名が受講した。

(1) 目標と到達

本授業では、心理学の視点からの人間理解、ならびに、科学的に現象を考察することを目標としていた。到達目標を振り返る項目（項目6）は、4.41と比較的高いと言え、一定の目標を達成していたとすることができよう。また、全体に関する満足度に関する項目（項目14）も4.75と高いことから全体としても、評価を得ていたと考えられる。

(2) 総合的な自己点検・評価

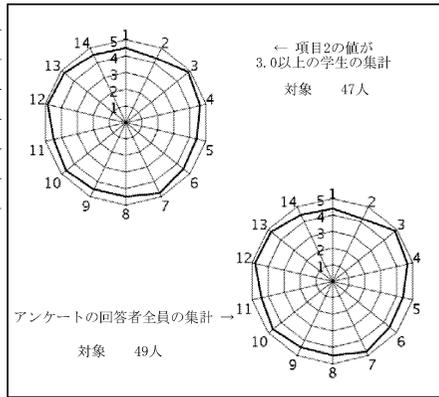
今年度は、WebClassを授業中に活用し、相互に意見や考えを見る機会を設けたこと、VTRを多く活用したこと、実際に実験のデモを行ったことが取り組みとして挙げられる。これは、質問や相談の機会をふりかえる項目（項目12）が、4.66と高得点なことや、自由記述でこれら仕組みがよかったことが触れられるなど、効果が高かったと言える。

(3) 改善点

本講義は、広い領域を扱っていることから、ある内容については、もう少しゆっくり話してほしいなどの進捗に関する意見があった、また、学生からのコメントへの教員のフィードバックを求める声もあった。これらは、内容をさらに厳選し、内容について相互に話し合う機会を増やすなどの工夫を加え、改善していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	臨床心理学
授業コード	23C36-001
教員名	坂中 正義
教員コード	102720
登録人数	57
回答数	49
回答率	86.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は以下の通りであった。

- ・臨床心理学の理論と実践についての基礎的事項を理解している。
  - ・臨床心理学を学ぶ上で重要な姿勢(自分にひきつけて考え、自身と対話する)を身につける。
- ・自己理解を深める。
  - ・自分なりの心理援助を模索する手がかりをつかむ。

この目標実現するため、以下の取り組みを中心に授業を展開した。

- ・内容を身近に感じることが出来るような説明を心がけた。
- ・実施のカウンセリング事例を提示した。
- ・単元ごとのグループによるふりかえりと質問タイムを設定した。
- ・毎回、振り返りシートを用いて自己理解を促した。

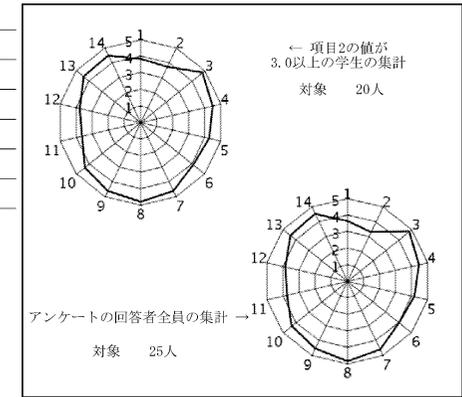
授業時の感想や定期試験としてのレポート、授業剽評価アンケートによる到達目標達成度4.45等を勘案すると到達目標について各学生なりの形で一定の手応えを感じていることが伺えた。

授業剽評価アンケートの全項目が4.00以上を示した。全体との比較においても平均を上回る項目が大半であった。

よって、今後もこの水準で授業が維持できるよう努力するとともに、到達目標に貢献するような新たな試みも試行錯誤していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	現代教育論
授業コード	23C40-001
教員名	加藤 隆雄
教員コード	019349
登録人数	41
回答数	25
回答率	61.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



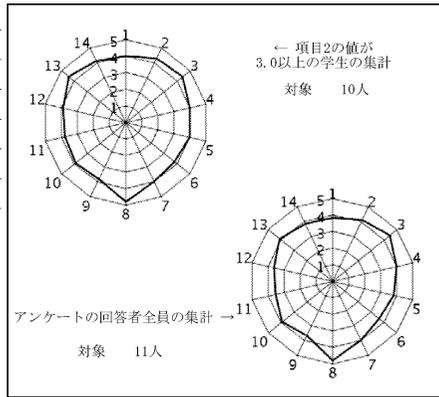
授業評価結果を踏まえた点検・評価

これまでの授業評価対象科目とは異なり履修登録者が40名程度と少数で、特に3年生が高い問題関心をもって受講してくれたと思われ、全体的に目標としていたよりも点が高かった。また、他の担当科目が基礎的な理論を中心に講義する授業であるのに対し、この授業は名称通り現代的で時事的な問題を扱い、事件や現象を、マスメディア流のありきたりな解釈ではなく、独自の観点で論じることができたように思うが、そのこともいくつかの項目の高評価につながっているのではないだろうか。ただし、本科目は心理人間学科の新カリキュラムでは廃止の科目であり、授業評価の結果を生かすことはあと1回しかできない(2020年度に開講して後閉講)。

今回の結果の特徴として、回答者全体の数値と項目2が3.0以上の学生の数値とでほとんど違いがない。これは主体的に参加しない学生にもわかりやすい授業だったということであろうか。自由記述にも「先生の話が面白かった。内容も興味深いものばかりで良かったと思う。」「具体的な名前を出すなど事例が沢山ありとても理解しやすかった。」「内容が興味深く様々な事例を紹介していたため分かりやすかった。世代的に知っている事件が多く家でも盛り上がった。」という回答があった。また「パワーポイントを効率的に使っていて見やすかった。」という回答も2件あった。他方、項目11(学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。)項目12(質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。)が3点台という点もこれまでにない今回の特徴だった。他の授業では配布している自習用のプリントがこの授業ではなかったことが影響しているのではないか。また、テーマに関心が高かった分だけ、参考資料等が示されなかったことに対する不満が高かった、というように解したい気もする。時事的なテーマに対する学生の関心が予想以上に高いことが、今回のデータでよくわかった。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	近代教育と子ども
授業コード	23C41-001
教員名	林 雅代
教員コード	018796
登録人数	13
回答数	11
回答率	84.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

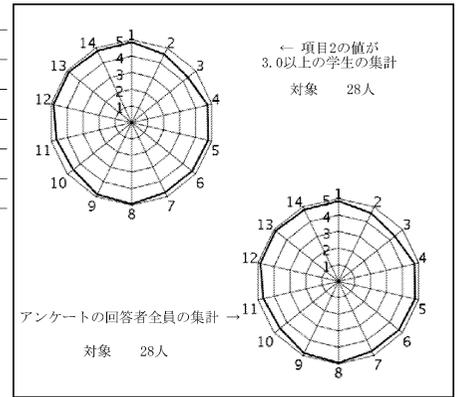


授業評価結果を踏まえた点検・評価

3・4年次対象の科目であるが、例年と比べて受講生がかなり少なかったので、受講者の出席状況が安定せず、授業がやりにくかった。次に開講する際には時間割等を検討したいと思う。受講生は授業内容に関して一定の関心や疑問は持っていたものの、授業内容の中心である高等教育およびアメリカの歴史に関する知識がほとんどなく、どのような内容により興味を感じるのか、どのように話したら理解してもらえるのか、手探りで授業を進めていった。授業期間には今ひとつ手応えを感じることができなかったが、授業評価の結果を見ると、項目13の「新しい知識の獲得・理解の深まり」について4.0となっており、受講生はそれなりに新しい知見を得たと感じているようであったと思われる。インターネットを使用して、世界の大学ランキングやアメリカの大学のHP、遠隔教育の状況などを参照して、今の高等教育の潮流の中での日本の大学の位置や、アメリカの大学・学生の状況などを実際に目にする機会を設けたことについて、自由記述でも評価する意見があった。なるべく学生の知識や現在のことと関わらせて理解を深めるため、ペンシルベニア大学ウォートン校出身のアメリカ現大統領に言及したことがあったが、その際の私の発言を不快に感じた受講生がいたようであったので（項目16の自由記述）、気をつけたいと思う。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	カウンセリング実践トレーニング
授業コード	23C63-001
教員名	楠本 和彦
教員コード	055780
登録人数	37
回答数	28
回答率	75.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は、以下のものであった。

1. マイクロカウンセリングの考え方の概要を理解している。
2. マイクロカウンセリングの基本的傾聴技法の考え方を理解するとともに、それを実践することができる。
3. マイクロカウンセリングの積極技法について、理解している。

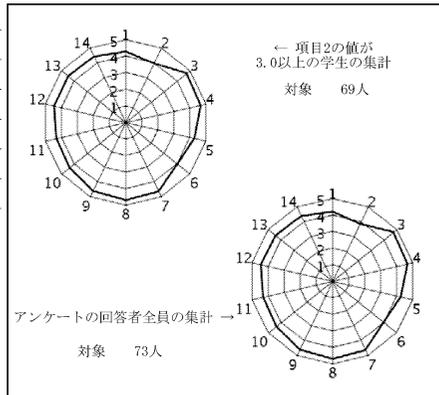
本授業の評価結果と大学全体の評価平均を比較した場合、学生の授業時間に関する項目3において、本授業の結果が下回った。本授業は実習を伴うため、授業運営上、授業の終了時刻が定時にならない場合があったためと考えられる。学生グループによる各技法についての発表時間が流動的であることと、カウンセリング実習は、1クール約30分かかるため、授業運営が難しい面がある。今後、改善を検討したい。

それ以外の項目は全学の平均を上回っており、設問1~2、4~6、8~9、11~14の項目は0.3ポイント以上、上回っている。これらの項目は、授業への関心、主体的参加、授業運営、到達目標の達成、全体的な評価に関することであり、現在のそれらが、学生から一定の評価を得ていることを示している。設問5、6、13、14の評価を見ると、到達目標は達成されたと考えられる。

今後とも、授業内容や運営に関して改善・工夫し、学生が関心を高め、学生の今後の研究、学習に繋がっていく授業展開を模索したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民族問題と人間の尊厳6  
授業コード 10D08-006  
教員名 宮脇 千絵  
教員コード 152580  
登録人数 115  
回答数 73  
回答率 63.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) 当初設定していた目標と到達の理解については、おおむね達成できたと考える。しかし、学生の評価では設問5と6の回答結果が少々低く、もう少し学生に主体性を持って授業に取り組んでもらえるよう、さらなる工夫が必要だと感じた。

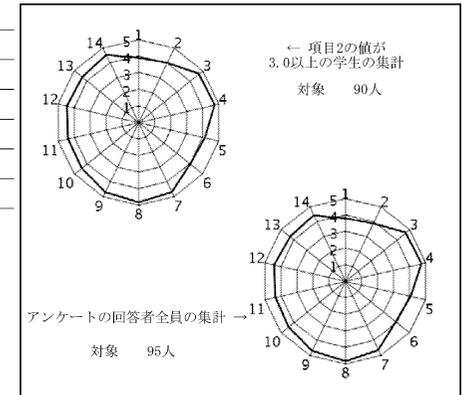
(2) 授業の進め方に関する設問に対しては、おおむね高評価を得ることができた(設問3、4、7、8、9)。一方で、大教室ならではの、学生個々人への目配りが行き届かない点もあったと感じる(設問10、11)。

授業は、前回のリアクションペーパーの内容紹介と基本的に1回完結の講義から構成した。自由記述では、毎回リアクションペーパーを紹介することについて、「丁寧に対応してくれた」、「返答してくれることが嬉しかった」、「意欲向上につながる」、「他の学生の意見を知ることで刺激になる」等の評価を得た。また授業はパワーポイントを基本に、映像資料も多く使用しながら進めたが、「スライドがみやすい」、「写真、映像資料が多く理解が深まる」などの評価を得た。授業全体については、「説明が具体的でわかりやすかった」、「授業のスピードが丁度良い」との意見もあったが、一方で「一方的に説明を聞くだけだった」、「単調だった」との意見もあり、より参加意識を持てるような授業内容を考えていきたいと思う。

(3) 大人数、大教室の授業であるため、どうしても全体に目配りできない点や、画一的な授業方法になってしまう点を反省する。学生の学習意欲をより引き出せるよう、今後も最新のトピックを含めるなど工夫をしていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人文地理学1  
授業コード 12B09-001  
教員名 濱田 琢司  
教員コード 101870  
登録人数 148  
回答数 95  
回答率 64.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

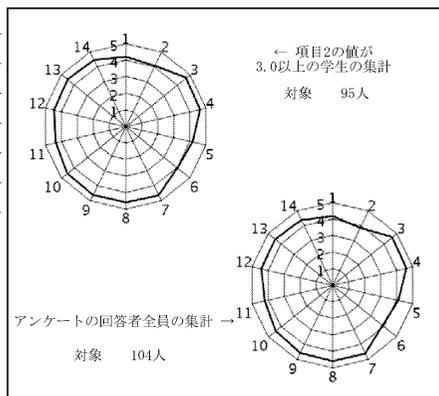


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、共通教育科目(基盤科目)の一つである。いわゆる一般教養的な科目であるため、「人文地理学」の概説的な内容も含めて、近代期から1980年代ころまでの学問の潮流をおいつつ、いくつかの事例研究を交えて講義を行った。ただし、内容に概説的・総花的になりすぎる側面があったかもしれない、それゆえに、設問5)や6)が低い評価となっている。担当者の所属の関係から、人文学部日本文化学科の学生が多く履修していたが、「日本文化」を学ぶ学生の志向と、「人文地理学」という学問の内容に、ややズレがあることも、このことの要因かもしれない。全体的な理解度・満足度にかかる設問13)および14)についても、担当者が想定するよりも低い評価であった。自由記述の記述では、授業の進め方、内容の両面について、それなりに好意的な意見が多かったことを考えると、積極的に受講する学生には一定程度の評価を受けていたのではないと思われる。とはいえ、「(日本)文化」を学ぶ学生にとっても、より魅力的な内容にする余地も残されていたと思うので、その点は、多に反省するところである。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本との出会い3  
授業コード 13B01-003  
教員名 辻本 裕成  
教員コード 019042  
登録人数 170  
回答数 104  
回答率 61.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

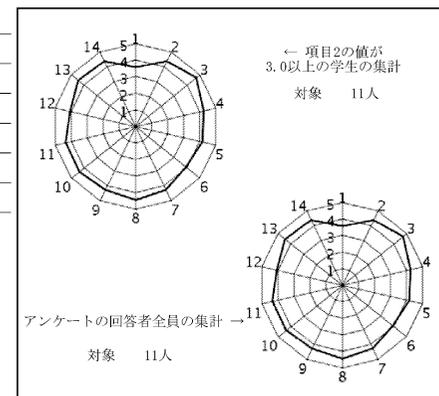


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 本授業に関して、シラバスに掲げた到達目標は以下の通りであった。
- 1 前近代の日本の社会や文化のあり方を考える糸口をつかんでいる。
  - 2 日本人の外来文化の受け入れ方について考える能力をつけている。
  - 3 異文化の受容について考えるきっかけをつかんでいる。
- 到達目標に関わるアンケート結果「この授業の到達目標を理解することができましたか」については 4.12、「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」については 3.90と必ずしもよい数値が出ているとはいえないが、この科目のような所謂教養科目については目標が非常に抽象的なものとならざるをえないので、ある程度はやむをえない。とはいえ、今後改善をめざして努力したい。
- ② その他の項目については概ね悪くはない数値であり、特に「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」について4.45であったことは、ある程度学生の知的好奇心を満たすことができたと自負できる。
- 項目3～14の平均も4.41で、自由記述にも好意的なものが多かったので、この授業に関しては一定の成功を納めたと考えられる。
- ③ 大人数の講義なので困難ではあるが、リアクションペーパーの活用などで双方向性を持たせるよう、今後ともに工夫を重ねたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ことばとは4  
授業コード 13E02-004  
教員名 榎山 洋介  
教員コード 041806  
登録人数 22  
回答数 11  
回答率 50.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

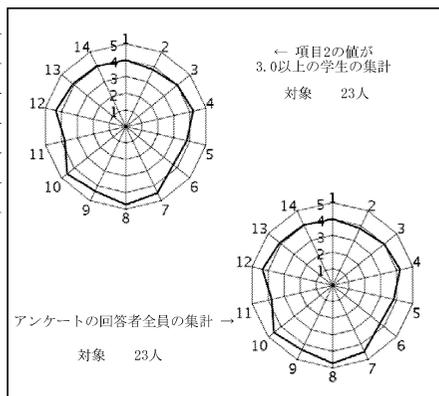


授業評価結果を踏まえた点検・評価

まず、試験（1回）、レポート（1回）、毎時間提出を求めた質問・感想シート、学生による授業評価から総合的に判断して、当初設定した目標が達成できた受講者が約80%、目標をある程度達成できた受講者（授業を通して何かを身に付けた人）が約20%であった。また、「普段使っていることばについて深く学べた」という意見があった。今後も、受講者が日常的に使っている現代日本語を素材として、言語学の基本的な考え方を、興味を持って学べるようにしたい。さらに、敬語についてもっと詳しく学びたかったという受講者もいた。敬語について、取り上げる項目・範囲を再検討し、このような学生の要望にも応えられるようにしたい。なお、「授業中に指名されるのが少し嫌だった」という意見もあった。学生の理解度を確かめることと授業が一方向的にならないことを目的として、毎時間、受講者に発言を求めたが、今後、「質問の投げかけ方」などをさらに工夫していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本文化史概説  
授業コード 24C02-001  
教員名 坂井 博美  
教員コード 102981  
登録人数 74  
回答数 23  
回答率 31.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



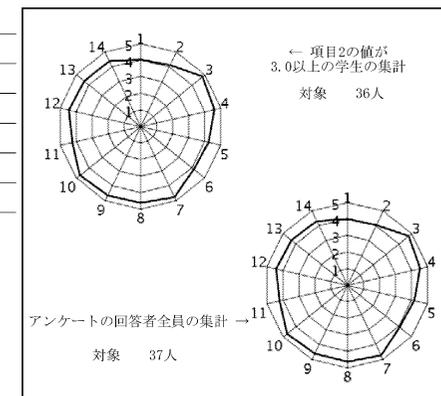
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に掲げていた到達目標はおおむね達成できたと考える。今年度のこの授業は受講者が約75名と例年よりも比較的少なめで、授業はしやすかった。ただし、それを満足な形で活かすことができなかつたことが反省として残った。アンケート結果にもでているように、学生の学修の意欲を引き出すことが十分にできたとは必ずしもいえない。事前に想定した講義内容をこなすことに時間を費やしすぎた部分があると考えるので、講義に盛り込む量も含めて再考し、受講生への問いかけや対話の方法を再編したい。

自由記述では、毎回リアクションペーパーで出た質問に答えていたのがよかった、レジュメがわかりやすかったという感想があり、この点については今後も継続したい。また、レジュメの枚数がすくなくレジュメが時々もらえなかつたとの意見があった。レジュメがいきわたっていない席の人は前に取りに来てもらうようにしていたが、この点、もう少し丁寧に呼びかけをして授業開始前にレジュメがいきわたるように心がける。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 近現代日本とアジア  
授業コード 24C14-001  
教員名 松田 京子  
教員コード 100789  
登録人数 83  
回答数 37  
回答率 44.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

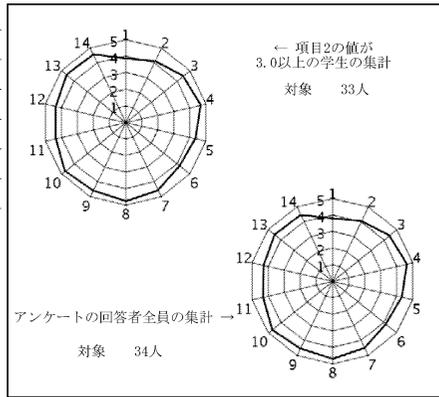


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①この授業では、植民地期台湾の具体的状況から、近現代日本とアジアの歴史的関係性について考察するという全体テーマのもと、教員が作成した配布プリントを主な教材とし、それへの解説と補足の板書を中心にテーマを掘り下げていった。そしてほぼ毎回、授業の最後10分程度を小レポートの時間にあて、授業内容の感想や質問を受講生全員に書いてもらい、次の授業の冒頭で、教員がそのいくつか紹介し、また多く寄せられた質問に答えることで双方向の授業展開を目指した。このような方法で授業を進めた結果、到達目標の達成に向けて立案した授業計画は、ほぼシラバスに示した予定通り進行することができた。
- ②上記のような授業の構成や進度、授業に取り組む姿勢や方法などについては、「学生による授業評価」の授業評価集計の設問3の平均値4.78、設問4の4.54、設問7の4.73、設問8の4.62、設問9の4.59、設問10の4.68という比較的高い数値から、おおむね好評であったと思われる。反面、自由記述欄で小レポートの用紙を配るタイミングが遅く、あまり充分には書けなかつたという指摘が複数あった。この点は、反省点として残る。
- ③以上のような反省から、小レポートの用紙を配るタイミングも含めて小レポートにあてる時間やその内容を再考し、小レポートの実施が学生の学習意欲の向上や授業内容に対する疑問点の解消、理解の促進により効果的につながるよう工夫していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中世文学研究  
授業コード 24C33-001  
教員名 森田 貴之  
教員コード 102286  
登録人数 145  
回答数 34  
回答率 23.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

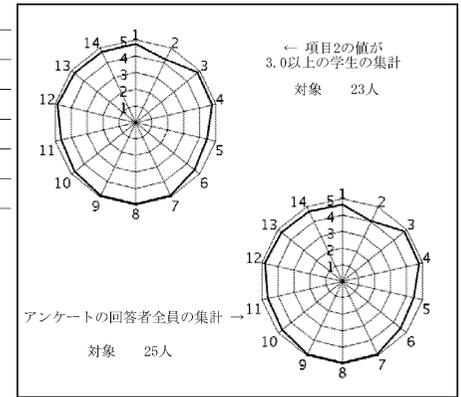


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問1～18の総平均が4.38、4～18の平均が4.46であった。いずれの数値も全体の平均値を上回っていた。また設問14の満足度も4.65であり、当初の講義目標はおおむね達成されたと考えている。調査対象科目は、日本文化学科の学科科目の一つであり、中世文学の主要作品である軍記物語についてのかなり踏み込んだ内容を扱う講義科目であった。歴史と物語の差異や、史実との差異など、同一作品でも異なる本があるなど、複雑な事象をまとめて扱うような内容であった。一方で、他学科生や二年次生など、日本文学や古典文学を扱う経験の乏しい学生にも配慮し、できるかぎり平易に具体的に講義するように努めた。その意図はある程度は伝わっていたと感じる。リアクションペーパーの回収方法をwebclassを使用する形に改めたが、特に意見はなかった。次学期、次年度も継続実施したい。全体の平均値から比べて大きく下回る事項はなかったと思うが、今後も学生の状況に気を配り、授業内での課題の在り方、フィードバックの仕方など、学生への動機付けを含めた授業運営を工夫したい。また本アンケートの回収率が34名と非常に低かった。十分に時間を設けて注意喚起したが残念な結果となった。回収率の向上にも気をつけたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 近現代小説研究  
授業コード 24C37-001  
教員名 岸川 俊太郎  
教員コード 103907  
登録人数 76  
回答数 25  
回答率 32.9%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2018年度Q4の開講科目「近現代小説研究」について自己点検・評価報告を以下に行う。

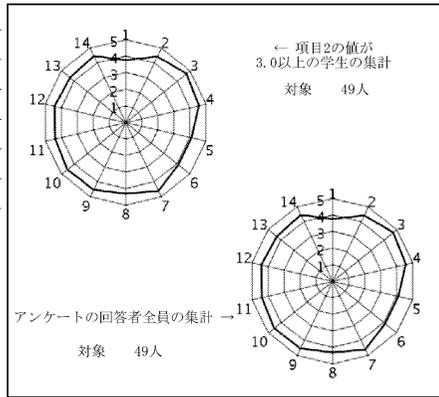
まず、①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと考える。この点については、「学生による授業評価」の設問4、設問5でそれぞれ、4.80、4.48という高い評価を得たことから確かめられる。

次に、②数値データを踏まえての総合的な自己点検・評価についてであるが、「学生による授業評価」では、設問項目2を除く全ての項目で日本文化学科の箇所別平均値を上回った。また、全体的な評価となる設問13、14では、それぞれ4.69、4.75という高い評価を得た。以上の数値データから、当該授業の目標並びに学生に求める理解は概ね達成することができたと判断する。

最後に、③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針についてであるが、「学生による授業評価」の設問項目2（「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」）については、わずかながら日本文化学科の箇所別平均値（4.08）を下回ったため（4.04）、来年度の授業では適切な課題を課し、予復習を含めた学生の主体的な学びの充実を図りたい。また、理解が難しい概念的な事項についてはレジュメに詳しい説明を加え、学生の更なる理解に努めたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 漢文学研究II  
授業コード 24C46-001  
教員名 西岡 淳  
教員コード 019315  
登録人数 87  
回答数 49  
回答率 56.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

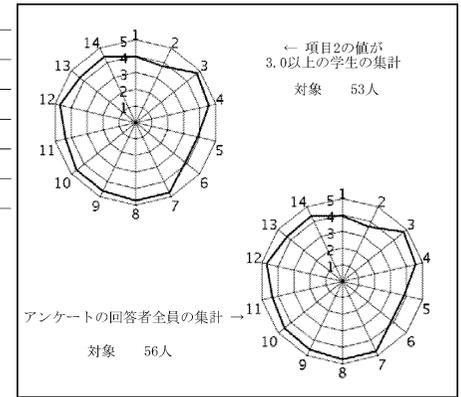


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、和刻本のテキストを用いて中国古典詩（宋代の詩）を読み進める内容である。主な到達目標は、漢和辞典を用いて適切な解釈ができること、韻文に特有の語法や語彙を理解し、その上で作品の文化的背景や思考方法について考察し、日本文化研究に援用できること、などである。受講生には毎時間の下調べを課し、授業で担当者と応答しながら押韻や解釈を明らかにしていく。結果は回収して点検のうえ次回に返却し、最後に試験を行った。毎回の提出物と試験の結果から、受講者は問題なく到達目標に達したと思われる。注釈のない漢詩を読むというのは、受講生にとって非常にレベルの高い作業であるが、それを基本的にこなせるようになったというのは大きな成果と言える。授業評価の全項目の平均値は4.37で、比較的高い評価が得られた（「履修前にこの科目に興味を持っていた」が最低で3.76だが、これは仕方がないか）。自由記述では、「予習をしてきてから講義が進んだので積極的に講義に参加できた」「一回分の課題が適切だった」「高校漢文以上の知識がついたこと」などの点が評価された。改善すべき点では「声・板書が分かりづらい時があった」との指摘があり、来学期より改善したい。こうした参加型の授業については、受講生の達成感が強い傾向があるようで、今後の授業運営の参考にしたいと思う。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語学と日本文化  
授業コード 24C65-001  
教員名 丸山 徹  
教員コード 015917  
登録人数 90  
回答数 56  
回答率 62.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

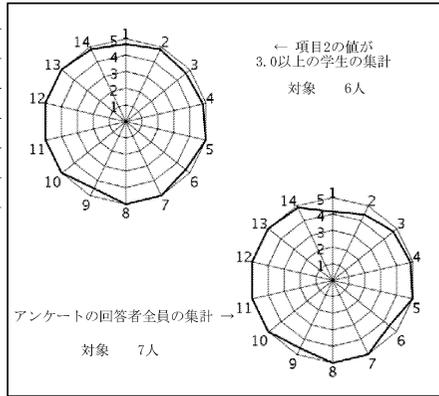


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は「日本語表記体系の形成を中心にそこに反映する日本人のものの見方を考える」もので、授業概要は「日本語を通して日本人のものの見方について考える、日本語表記体系の形成、モノとコト、主題と主語など、関連する様々なテーマについて共に考える」とした。到達目標「日本語表記体系の形成について理解を深める、日本人のものの見方と関わる日本語の特徴について理解を深める」はほぼ達成したと考える。自由記述欄の「よかった点」は「先生がとても真摯に質問に答えてくれた、先生がとところどころに自虐的な漫談を話されたのが面白かった、色々な話が聞けて面白かったし日本語について改めて考えることが増えた、視野も少し広がった気がする、配布資料が豊富で色々考える材料を得たように思う、感謝です」など。「改善すべき点」は「先生がこのプリントだよと見せていてもわからないときがある、先生がどのプリントのどの部分を読み上げているのかわからないときがある」でこれは毎回配る多数のプリントに通し番号を入れていなかったためと思われる。あと二か月で退職のため（「次クォーター以降に向けて今後の抱負」を述べることはできず）ひたすら反省・謝罪するのみである。申し訳ありませんでした。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語教育文法(中級)
授業コード	24C66-001
教員名	岩崎 典子
教員コード	103983
登録人数	17
回答数	7
回答率	41.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

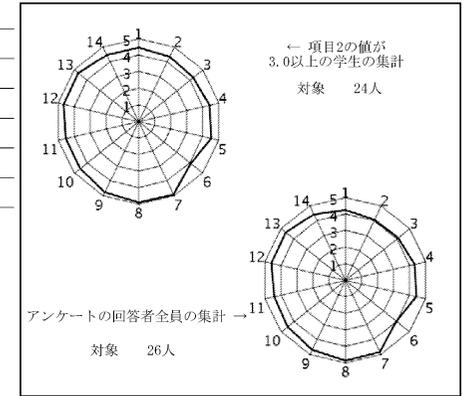


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回初めて教えた科目であるが、前に同じ科目が南山で教えられた時とは大きく異なる視点で新しい教材・シラバスで教えた。  
開講当初に設定していた目標に近づけたと思うが、大部分の学生が十分に到達したとは言えず、改善すべき点は多々あると考える。特に、指定図書として様々な参考書を提供し、国立国語研究所のコーパスなどもリソースとして紹介したが、具体的にどのように利用すればいいかを例示する時間をほとんど取れなかったためか、レポート作成に期待通り資料やリソースを活用した学生は少なかった。  
授業評価をした学生は最後まで出席した学生10名のうち7名で、授業の評価はかなり高かったのだが、当初登録して1度は出席したにも関わらず来なくなった学生が7名もいたのには問題を感じている。遠方から通う学生が多いのに一限目の時間であることがその理由の一つと聞いたが、他にも従来の日本語教育文法の考え方に多かった文型先行とは異なる機能先行のアプローチであったため、期待とは違うと考えた学生もいたのかもしれない。次回教えるときにはシラバスにこの点を明記したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Academic English A IV4
授業コード	31A04-004
教員名	TOLAND, Sean
教員コード	103616
登録人数	30
回答数	26
回答率	86.7%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

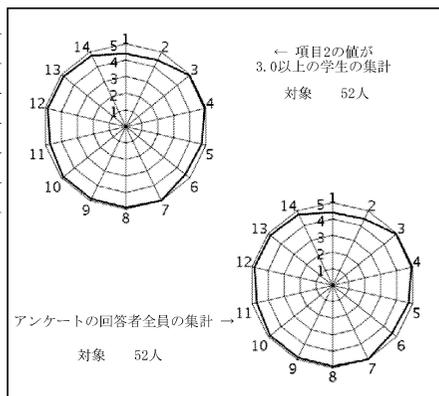


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of the Academic English A course were achieved this quarter. The majority of the class worked hard and appeared to enjoy the discussion activities and group projects. One of the items that emerged from the online evaluations is several of the learners felt that they had to do too much homework before each lesson. This valid concern was brought to the attention of the course coordinator and it is something that the team will address during the next reflective and revision cycle. Having said that, I believe that the 'flipped classroom' strategy (i.e., accessing digital content outside the lesson) fostered the students' autonomous learning, critical thinking, and information literacy skills. The suggestions about improving the content in the Q4 textbook will be carefully analyzed and the next edition will definitely integrate the students' critical feedback as well as the instructors' critical reflective thoughts. This past quarter, the students evaluated their peers formally and informally. The self- and peer-reflective checklists worked well and kept students accountable for the amount of work they did on collaborative assignments. Before the start of the next academic year, I will enhance quality of the self- and peer-feedback forms and integrate them into the writing assignments and communicative group projects.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: International Studies B2  
授業コード 31B05-002  
教員名 SAKAMOTO, Fern  
教員コード 103615  
登録人数 70  
回答数 52  
回答率 74.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

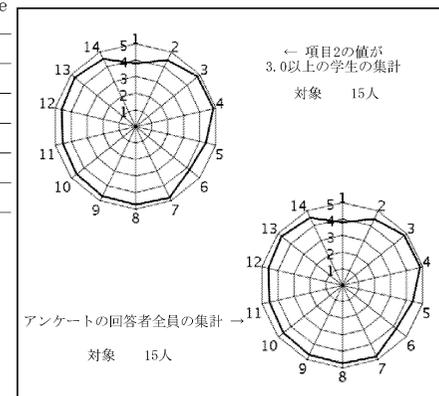


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The aim of this course was to develop students' intercultural competence. Overall, I am very happy with how the course progressed in quarter 4. I feel that most students were able to achieve the goals of the course, and the students appear to agree. All students expressed a high degree of satisfaction with the instruction and teaching materials. Comments suggest that students found the content and class style informative and interesting. The lowest average score was allocated to question 1, indicating that some students were not interested in the course prior to taking it. As this course is compulsory for individuals who do not complete a fieldwork component, this result is unsurprising. I also feel that it is not particularly problematic, as students indicated that they ultimately enjoyed and benefited from participating in the class. Two students expressed uncertainty regarding attendance management. This was actually double-checked using in-class attendance checking and reflection papers submitted via WebClass, but there is a need for me to make this clearer to students in the future to alleviate student uncertainty.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Culture B<国際科目群>  
授業コード 31C07-901  
教員名 PURCELL, William  
教員コード 016501  
登録人数 24  
回答数 15  
回答率 62.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



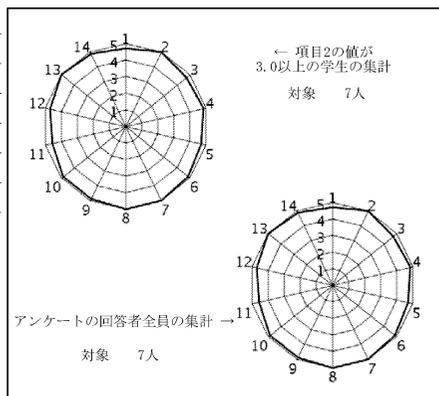
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Fifteen out of the twenty-three students who completed the course (i.e. 65%) took the time to submit an evaluation. That is a bit disappointing. For those who did offer an evaluation, the numbers (4.55 and 4.62) seem to indicate a general satisfaction with the course. Only a few students offered comments. Two found the instructor's explanations of plot elements and historic background both interesting and helpful. One found the pre-reading question guides extremely useful in understanding story plots. On the critical side, another in particular expressed a desire to know more specifically the teacher's expectations for the weekly journal. I thought this was sufficiently explained, but will take this into further consideration for the future.

Insofar as the goals of the course are concerned, I think we succeeded in raising awareness in the students about Africa, its peoples and their cultures. I also think the students learned to read more perceptively. For the future I want to find even more ways to help the students become interactive and participatory in class.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Language C<国際科目群>  
授業コード 31C13-901  
教員名 SHILLAW, John  
教員コード 100560  
登録人数 24  
回答数 7  
回答率 29.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



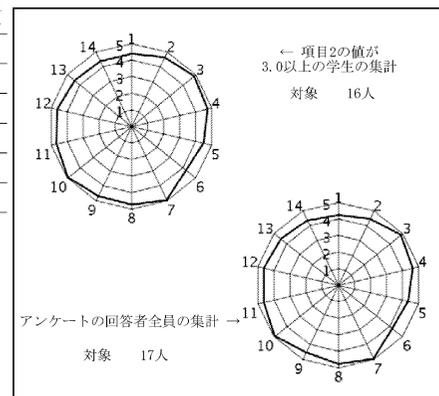
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The topic of this course is the History of the English Language. It is a challenging topic because it encompasses not only the linguistic changes to the English language, but also important historical and cultural changes that took place in Britain over a 2,000 year period. Despite the challenges, the students performed extremely well. The 2,000 years was divided into 5 sub-periods; each covered about 2 classes. Every period was introduced by a short video summarising the key changes to the language, accompanied by a test that included much of the same information in written form. Longer videos that gave more historical and cultural information were added where necessary. The students' responses to the questionnaire seem to indicate that they felt that the format worked well, and data from my own informal survey supports this.

The biggest problem I have faced teaching the course in the past has been a lack of time to assess how much of the information students had absorbed and understood. This time, I introduced two quizzes that forced students to review what they had learned by revising from the texts. I was pleased to see that students responded very well to the revision tasks.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Interdisciplinary Studies B<国際科目群>  
授業コード 31C17-902  
教員名 DORMAN, Benjamin  
教員コード 100695  
登録人数 25  
回答数 17  
回答率 68.0%  
休講回数 2 回  
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course focused on aspects of Australian identity from a variety of different perspectives. It is a historical survey course that includes language, literature, Australians' experiences in wartime, relations between Australia and Great Britain, and indigenous Australians.

The course included three films — "Gallipoli," "Rabbit-Proof Fence," and "The Dish." These were well received by the students based on comments, although "The Dish" is less effective as educational material than the other films.

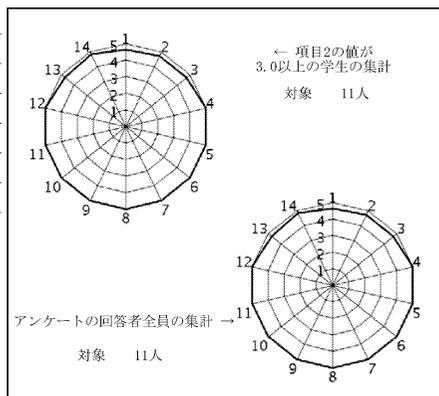
In every class, students had the opportunity to write their ideas on the topic discussed. We also held discussions in most classes.

Overall, the course went smoothly. Most students were highly motivated to learn, they took the discussions and writing seriously, and the attendance rate was high.

In future, I may consider the following adjustments: (1) Perhaps less audio-visual material with no subtitles; and (2) more time devoted to group discussion. Some students found the writing a little challenging but I feel this is an important way to discover what students are thinking. I can adjust the content according to this.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Contemporary Japan B2  
授業コード 31C22-002  
教員名 手塚 沙織  
教員コード 103911  
登録人数 14  
回答数 11  
回答率 78.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

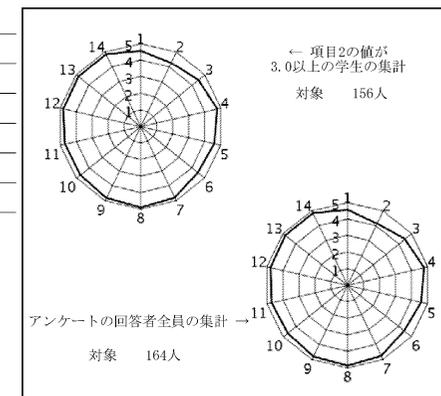


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標として「幅広いトピックを通じた日本の経済・社会・政治への十分な理解」と「それらのトピックを客観的に捉え、分析し、議論および討論できる能力の向上」を設定した。学生たちは、自分たちが居住する国である日本を十分に理解しているような錯覚に陥るが、講義ではいかに日本を分析対象として客観的に捉え、考察し、論理的にそれらを他者に伝えるかを学べるように、アクティブラーニングを取り入れた講義にした。具体的には、日本の文化、社会、経済、政治を客観的に捉えられ、世論で物議を醸したトピックを設定し、チーム議論の時間で他の学生と議論しながら、分析対象を客観的に考察できる時間と、チーム対チームの討論の時間にてそれらの分析を論理的に相手に伝える時間を確保した。時には、ドキュメンタリーや映画を見せ、他者が捉える日本（社会、経済・政治を含め）がどのように表現されているのかを見せ、議論の材料にさせた。また、学生にインターネット上での情報の取捨選択の仕方、それらを議論や討論に活かしていくかを考えさせた。自己評価としては、学生の満足度と学生の試験の出来具合、講義への参加度から、良だと考える。今後も、学生が知的刺激が受けられ、活発的に議論・討論でき、日本を客観的に考察できる最新のトピックと学習方法を選び、提供していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 言語研究の基礎  
授業コード 31D01-001  
教員名 芝垣 亮介  
教員コード 102481  
登録人数 213  
回答数 164  
回答率 77.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

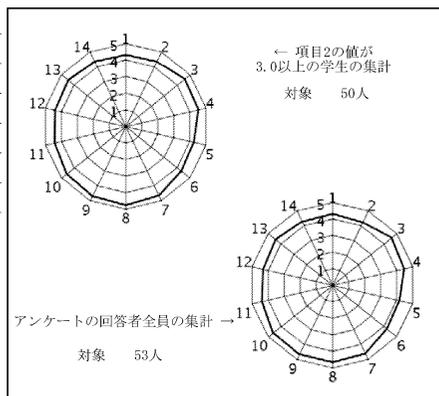


授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標として、言葉をマクロな視点から観察し、言葉が社会の中でどう機能しているか理解するということを挙げた。この目標は、本講義が外国語学部共通基礎科目でもあり、英語などの一部の言語に主眼をおいたものでなく、世界のさまざまな言語に光をあてた講義であるべきという点から設定した目標である。結果として、自由記述回答にみられるが、世界のさまざまな言語や文化に触れられることができよかったというコメントが多数あった。よって高い次元でこの目標を到達できたものと考えている。② 平均値は4点台後半であり、概ね良好と捉えている。設問3が4.47点と低い目であったので、この点についてさらに改善を行いたいと考えている。また環境に対するところで、暖房がきつすぎるとの回答が多い一方、寒いとの回答も多かった。S23教室だったが、教室上部は常に暑く、教室下部は常に寒いという状況で大変にやりにくい教室であった。③ 次学期においては、自由記述でよかったと寄せられた部分をさらに伸ばして、よりよい講義を行いたいと考えている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文学研究の基礎<国際科目群>  
授業コード 31D02-901  
教員名 TEE, Ve-Yin  
教員コード 101626  
登録人数 150  
回答数 53  
回答率 35.3%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

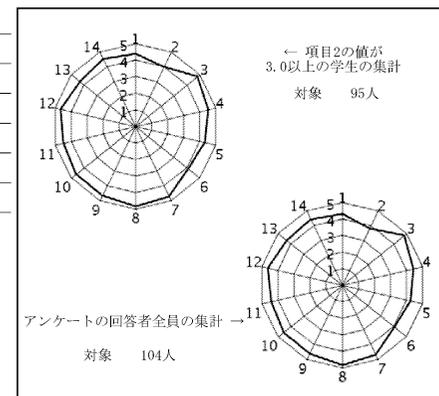


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The aims of this course, which were to get students to read children's stories and to get them to connect what they have read to social issues, were basically achieved. One student took issue over my absence from the first lesson and a few of the lessons not finishing on time. Certainly, my missing the first lesson caused a great inconvenience, and with respect to improvement this is something that I apologize for and won't be repeating in the future! With respect to the timing, it was an issue for the first two lessons, as I did not anticipate quite so many students registering for the course and as a result had not prepared sufficient copies of the handout. The other students evaluating the course overlooked the hiccups at the beginning and found it interesting and rewarding, which is good news -- I think -- for the study of literature! With respect to the structure of the lesson itself, I was relieved to find that they really liked the part-seminar (pair work, exchange of opinions, etc) and part-lecture (listening and note-taking) style of the course. I will take the advice of one student who suggested I increase the number of power point slides, but on my delivery I don't think I should slow down any further (as a few students were suggesting) as I was speaking only at half the speed of a normal lecture in Britain. Besides, I also took care to leave 4-5 minutes at the end of every lecture for students to improve their lecture notes with each other's help.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 メディアとコミュニケーション  
授業コード 31E12-001  
教員名 花木 亨  
教員コード 101269  
登録人数 193  
回答数 104  
回答率 53.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、各種メディアの特徴を理解すること、アメリカ合衆国や日本のような民主主義社会におけるメディアの役割を理解すること、メディア・リテラシーを高めることを目標とした。目標はある程度達成されたように思うが、さらなる改善の余地もある。

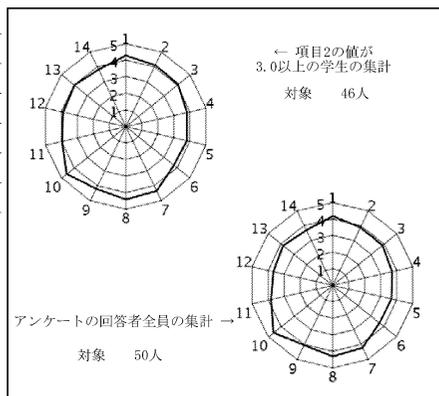
項目3から14の平均値は4.50だった。これは科目登録者数が同程度（121～240名）の科目の平均値4.35を上回っている。一定の評価は得られたようだが、さらに高い数値を得られるよう努力したい。

自由記述欄について、「内容を考える上で視聴覚資料が大変役立った」、「リアクションペーパーをとおしてインタラクティブな授業がなされていた」、「学生の意見を可能な限り、すくい上げようとする」、「学生のリアクションの収集、またそれに対する対応が充実しており、様々な意見に触れることができた」などの肯定的な意見が寄せられた。その一方で、「リアクションペーパーへのフィードバックの時間が長い」などの改善を求める意見もあった。互いに矛盾する意見もあったが、さらに多くの受講者たちの満足度をできるだけ高められるように努めたい。

受講者数が多い授業ではあるが、リアクションペーパーにフィードバックするなどして、できるだけ対話的な授業を心がけた。引き続き、学生の主体的な学びを促すような授業運営を目指していく。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際関係論  
授業コード 31E20-001  
教員名 上村 直樹  
教員コード 102463  
登録人数 151  
回答数 50  
回答率 33.1%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

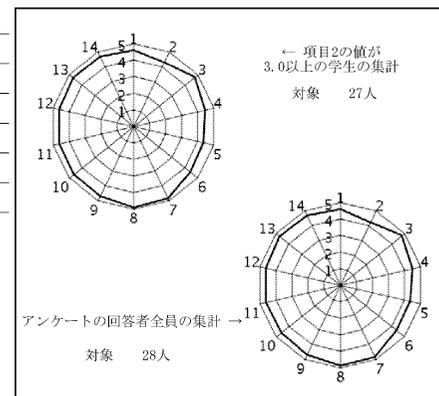


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は、① 国際関係の歴史と基本的な理論について理解している、② 現代の国際関係の仕組みや重要な 이슈について理解している、③ 実際に起こっている国際関係の現象について学修の成果を適用してその意味を自ら考えることができる、の3点であった。授業評価結果は、数値的には全体としては3.95と比較的低かったものの、最終試験の結果を見ると、上記①と②の達成度を測る設問に対して、例年以上にしっかりと解答している答案が多かった。A更にはA+の答案数の割合もこれまでになく多く、優秀な学生に関しては、比較的高い到達度を示していると考えられる。但し、到達目標の達成度に関しては、2点ほど考慮すべき点がある。一つは、上記③に関する問いについては選択した履修生が極めて少なく、達成度を測るのが難しい点、もう一つは、恐らくは理解度の低い学生には授業での情報量が多過ぎた点があったと思われる。今回は、自由記述の記入者がこれまでになく多く、パワーポを中心情報量が多過ぎて理解できなかった等々の記述が多く見られた。次回に向けて各回の授業での提供情報を更に精選して理解度に大きなばらつきがある学生たちそれぞれの理解が進むような授業運営に努めたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英米歴史特殊研究A<国際科目群>  
授業コード 31E24-901  
教員名 川島 正樹  
教員コード 048116  
登録人数 43  
回答数 28  
回答率 65.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

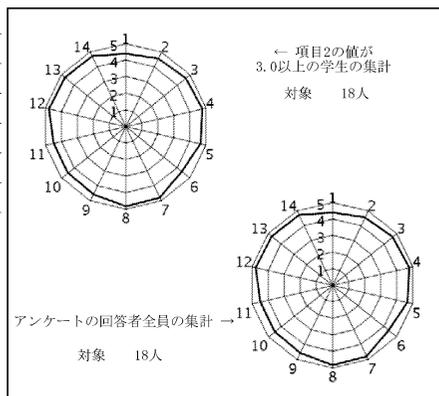


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①について： 授業担当者としてはシラバスに明記された到達目標は達成できたとつもりでいたが、アンケート項目5の受講生が感じた到達目標理解度は「4.36」であり、必ずしも満足してよい数値ではなかった。ただし同項目の細目を見れば、最高点の「5」を付けた者が50%であり、「4」を付けた者と合わせれば「89.9%」に達する。何といても担当教員自身が英語で執筆した本を教科書に使っていることが本授業の強みであると確信した次第である。  
②について： 項目14の全体的満足度は「4.68」であり、最高点の「5」を付けた者が実に「75.0%」に達した。本学における今までの私の授業評価対象科目のうちで最高点である。この高評価を励みに、さらなる努力を重ねて、項目5の平均点の向上に努めたいと思う次第である。またアンケート項目15の自由記述欄には13名の受講生から異口同音に教員冥利に尽きるような本音の満足の言葉がもたらされた。とりわけ、5ないし6名の班別の討論が好評であったことが複数の記述から確認できた。  
③について： 好評を博した受講生同士の討論を主体としたアクティブラーニングの手法にさらに細部に工夫を凝らしたい。また日本語でも理解が難しい学術的概念の英語による説明において、スライドショーや動画資料等をより多く用いながら、受講生の理解度の改善に努めたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English IV8  
授業コード 48A08-008  
教員名 伊藤 聡子  
教員コード 102445  
登録人数 18  
回答数 18  
回答率 100.0%  
休講回数 1回  
補講回数 1回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 目標と到達の程度

ディスカッションを中心にテキストから得た知識を応用して身近な事象を分析・考察する力、その結果を意見として英語で述べる力の養成を目標とし、ディベートを取り入れた。授業評価結果の(5)到達目標の理解および(6)力がついてきた実感の数値からは目標はほぼ達成できたと思われる。

② 自己点検・評価

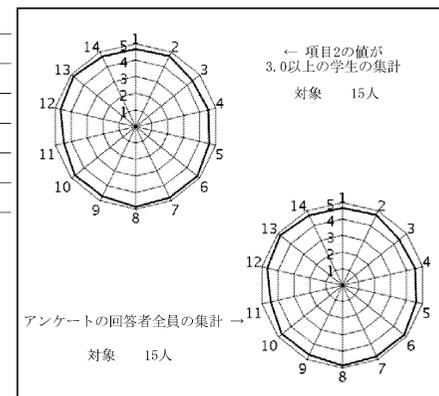
今回は全体的に高い評価を得られたが、全学平均と比較して今回特に評価が高かったものに(2)主体的学習があるが、これは(5)の目標理解が高かったこととも連動していると思われる。また授業運営上から意識している(12)質問の機会の多さは(4)授業構成・速度の適切さに対する評価にもつながったと思われる、結果的に全体的な評価としての(13)理解が深まった実感および(14)満足度が高くなった。

③ 改善点と今後の方針

以上の結果からは今学期の授業運営は上手く行えたといえるが、ディベートの模範例のビデオなどが見れるとよかったというコメントもあるため、視聴覚教材も適宜とり入れることを検討したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語VIII[FS]1  
授業コード 11D08-001  
教員名 泉水 浩隆  
教員コード 102114  
登録人数 42  
回答数 15  
回答率 35.7%  
休講回数 2回  
補講回数 2回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価においては、設問4~18の平均値が4.67、全設問の平均も4.67となりました。Q3で対象となったのと同じクラスでしたが、その際の評価よりも平均が下がりました。レーダーグラフはおおよそ外周に近い形にはなっていますが、扱った項目の難易度が上がっていることも平均値の下がった一つの原因と考えられるかもしれません。全体としては受講生の皆さんには好意的に受け止められたものと考えます。授業進度についても、当初予定したところまで終了できました。

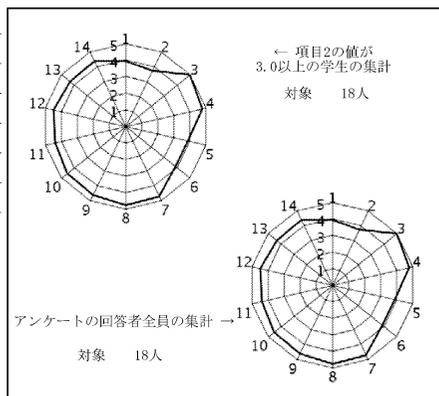
自由記述欄では、よかった点として「わかりやすいこと」(1件)が挙げられていた一方、「もう少し学習のスピードを遅くしてほしいです」という要望もありました。1年生もそろそろ終わりという時期で、前述の通り、だいぶ難しい事項が出てきていることから、授業が早く進んでいるような印象があったのかもしれませんし、また、個々のこれまでの積み上げ具合の差があることも考えられます。いずれにしても、質問等には丁寧に対応しているつもりですので、不明なことがある場合は、遠慮なく尋ねてほしいと思います。

前回に続き残念だったのは、アンケート回答者数が15名と少なかったことです。前回の回答者数が12名でしたので、アンケートには是非回答するようにと呼びかけ、多少の効果は見られましたが、今後も呼びかけを続けたいと考えています。

全体として特筆すべき問題はなかったと思われるので、今後も現在の方針を踏襲していく所存です。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン史B
授業コード	32C04-001
教員名	永田 智成
教員コード	103900
登録人数	40
回答数	18
回答率	45.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

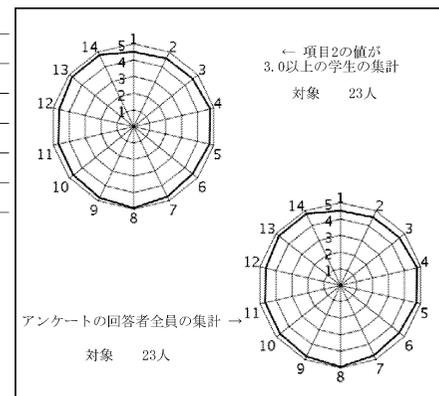
この授業は、1874年の王政復古から現代までのスペインの歴史について扱った。通史の授業である「スペイン史A」に比べて、現代史に焦点を当てていることから、ひとつひとつの事象について深く扱うことができた。受講者も目標であった激動のスペイン現代史を理解することができたと思う。

アンケートの数値やコメントを見ると、受講者は概ね満足していたと考えられる。授業を欠席するとレジュメの内容がほとんど理解できないので改善すべきという提案を頂いたが、それについては故意にそうになっているので、今後も改善しない。もちろん質問は個別に対応するので、わからないところがあれば積極的に聞いて欲しい。

今後も講義科目においては、なるべく受講者との意思疎通を図れるようにするため、授業時間内にシンキングタイムを設けて、その日の授業を復習してもらい、わからないことについてはペーパーに書いてもらい、次の授業でそれに応答する形で、フィードバックを図っていきたいと考えている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン文学特殊研究B
授業コード	32C15-001
教員名	小阪 知弘
教員コード	103689
登録人数	34
回答数	23
回答率	67.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

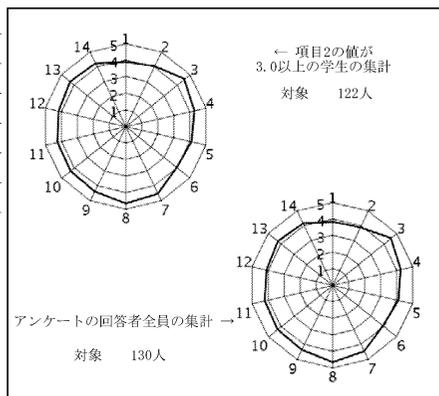


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度についてであるが、ある程度は達成できたと自負している。とくにスペイン語のネイティブの作家による作品を読むことに関して、一作品を完全に読み終えることができたのはとてもよかったと感じている。また、このクラスで読んだ劇作品を実際に、12月19日水曜日に南山大学のロゴスセンターで上演したのだが、同上演にもこのクラスの受講者が多く観劇に来てくれ、観劇に関するレポートを提出してくれたこともとてもよかったと思う。
- ②数字データに関してであるが、14の設問全て4.0以上の評価を得ることができたことにある種の喜びを感じている。さらに、設問(1)が4.48であったこと以外は、全て4.5以上であったこともこれまでの努力が報われたと判断している。設問8に関しては、4.9の数字を得ることができたのも講義を高く評価してもらえたことの証であると捉えている。自由記述に関しても、肯定的・建設的なコメントが多く寄せられよかったと思う。ただ、スペイン語運用能力の低い他学部の学生が3名いたため、講義のレベルを少し下げたことが数回あり、そのことに対して、批判的記述が見受けられた。この点に関しては、来年度からはスペイン語の接続法までを習得していない学生には講義についてくるのが難しいことをあらかじめ、シラバスに明記しておく必要があることに気づかされた。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針に関してであるが、スペイン語を媒介とする講義であるため、スペイン語読解の内容をさらに充実させ、深い講義内容を展開させていきたいと考えている。また、来年度もスペイン語劇と連動させて、実りある講義を展開させ、さらに研鑽を積んでいくことにしたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテンアメリカの文化と社会C  
授業コード 32C25-001  
教員名 遠藤 健太  
教員コード 103936  
登録人数 285  
回答数 130  
回答率 45.6%  
休講回数 2 回  
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 授業を通して新しい知識を得たとか理解が深まったといった漠然とした満足感はある程度あるようだが（項目13：4.25）、それに比べ、シラバスに掲げた具体的な到達目標を達成したという実感は、やや低めになっていることがわかる（項目6：3.92）。これを反省して、今後は授業中にも折にふれ改めて到達目標を明示するよう心がけ、学生たちにより具体的な達成感を得てもらえるよう工夫したい。
- 「授業参加度」の評価材料とするため毎回アクションペーパーを書いてもらっていたが、それを書くために確保する時間が少ないという意見が、自由記述欄に少なからずみられた。一方で、これに多くの時間を割き過ぎるのももったいないと考える。だから今後は、授業後にWebClass上で入力してもらうなど、方法を変更することを検討したい。
- 授業中に私語をしている学生がいるとの声も少なからずあった。気づいた時には注意をしていたつもりだが、大教室（履修者285名、B31教室）だったため教員が全く気づいていない場合もあったと思われる。今後はいっそう厳格に注意するよう心がける。
- レポート作成に関する作法を知らない学生が多いように見受けられたため、授業時間を少し割いてその種の指導を試みたところ、なかなか好評だった。今後も期末レポートを課す科目では、科目の趣旨から外れない範囲で、この種の指導をおこなう時間を導入していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 時事スペイン語B  
授業コード 32D02-001  
教員名 ESCANDON, Arturo  
教員コード 102090  
登録人数 10  
回答数 1  
回答率 10.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal set for this course was to introduce students to current affairs in Spanish language, especially of those happening in Spanish speaking countries. The course also aimed at having students understanding the difference among news, fake news and propaganda. Overall, the course goal and aims were met. Students brought a news story picked from different media every session. They had to explain it and answer questions to peers. Most topics were put in context with teacher and students participation alike. As a suggestion for next year, I believe it is better to narrow down the number of outlets where students can pick up news from so as to encourage them to read more complex analysis and a larger variety of sources.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語論文作成法II
授業コード	32D17-001
教員名	CARDENAS, Abel
教員コード	017525
登録人数	6
回答数	4
回答率	66.7%
休講回数	0回
補講回数	0回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

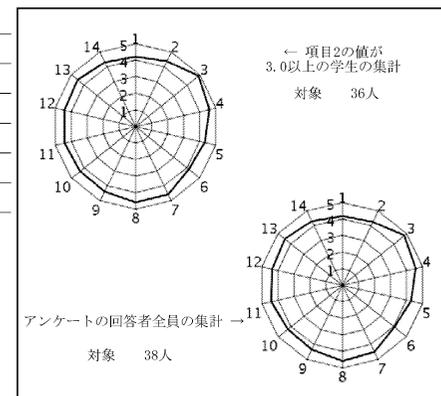
The main objective of this course was the development of knowledge and skills in the writing of academic papers in Spanish. This was achieved by an analysis and discussion of the characteristics and stages of the academic writing process, followed by several tasks, which allowed students to practice the different skills in writing their own academic paper. Students were also encouraged to review and improve their writing by following the feedback provided by their peers and teacher.

Although the results are not presented in a radar chart because of the number of students who answered the survey, by reviewing the responses of those who did answer, we can see that students were completely satisfied with the course. Most of the aspects included in the three major categories of the class evaluation received a score of 5, which would indicate that the goals of the course were achieved and that students' expectations were met.

Note: Since this time there were only 4 students who answered the survey, next term I will instruct students to answer the survey during class time so that they do not forget to do it.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域と文明C(アメリカ)
授業コード	46B03-001
教員名	浅香 幸枝
教員コード	000165
登録人数	116
回答数	38
回答率	32.8%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

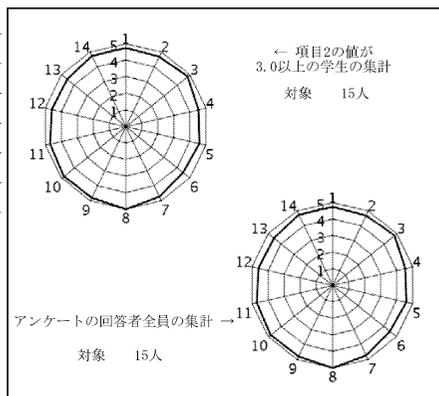
授業目標はおおむね達成できたと思う。項目1~14の平均値は4.39であり、項目3~14の平均値は4.42であった。項目6「この授業の到達目標について力がついてきていると思うか」の評価は4.05という最低値であった。学生は事前に教科書を読んできて準備をし、疑問を持って授業に臨む約束である。双方向の授業で、毎回、先回の授業の復習として、学生が書いたポートフォリオ型のリアクションペーパーの中から良くできたものを選び、皆の前で発表してもらった。これを聞いて、うまく自分の意見を書くコツを理解するとともに、コメントをするときの軸足の置き方を学ぶことが出来た。また、他学部の学生や留学生の異なる視点に出会うことによって多様な見方があることを理解した。また、学生の分からなかった点を補足説明したので、分かりやすい説明が良かったと学生は高く評価していた。

しかし、遅れて入ってくる学生に対しては、注意してほしいと要望がでた。冬季の1時限目の授業であるため、寒くなるに従いこの現象がひどくなった。たとえ遅れて来ても、その範囲でしっかり勉強して欲しいと考えてきたので、特に注意をせず、勉強に集中させることに力点を置いていた。授業開始後30分経ったら、リアクションペーパーは出さないなどの改善策が考えられるだろう。2019年度は3時限目開講なのでこの問題は解決すると考えられる。

また、事前にテストの課題を教えて欲しいという意見もあった。これは文献を沢山読んで準備してもらおうためにも、改善したいと考えている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランスの国際関係<国際科目群>  
 授業コード 33A10-901  
 教員名 COURRON, David  
 教員コード 019026  
 登録人数 35  
 回答数 15  
 回答率 42.9%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Initial course objectives

The aim of this course was to provide a survey of EU member-states latest constitutional issues and developments, with an emphasis on matters such as drafting process of constitutions, emergency regimes, human rights protection, freedom of religion and judicial review. It also aimed at examining some key themes and challenges for constitutionalism.

2. Degree of achievement of initial course objectives

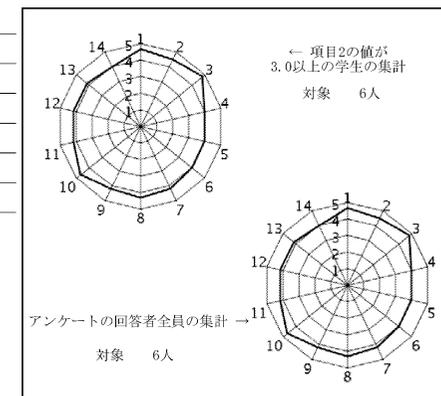
This quarter, even if assignment may have seemed somehow heavy, students committed to meet these challenges through oral group presentations. They were trained to apply key concepts in comparative constitutional law to specific countries, became acquainted with historical aspects and recent political evolutions in the EU and were given the opportunity to think critically about international event involving EU countries.

3. Areas requiring improvement and general remarks

According to many students' comments, I think I managed to create a stimulating atmosphere for studying. I will therefore do my best to preserve it in the future bringing in strategies to create better debate conditions and extra materials on my homepage.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語I11B3  
 授業コード 33A16-003  
 教員名 REBOLLAR, Patrick  
 教員コード 100084  
 登録人数 20  
 回答数 6  
 回答率 30.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

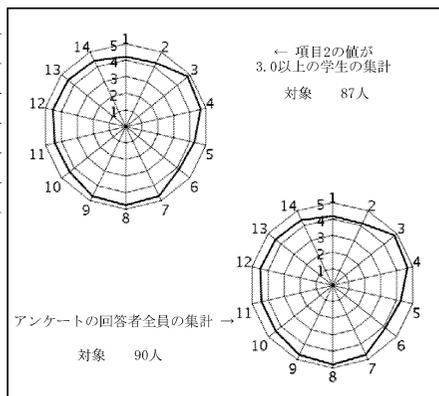
The goals of this course was to achieve the basic knowledge of French, including grammar, vocabulary, pronunciation, communication and DIY methodology to retrieve and understand informations in french, with or without a practice of translation. The students should reach the point when they understand the nuances of language to make the right choice of words and expressions. About 80% of the group achieved this goal, the entrance point of the 3rd year.

The group was working with exercises from the book (text, audio and video), and a selection of Internet homepages or Google researches, sometimes with teacher-student questions and answers, sometimes with teamworks and oral reports.

In our time, the students are using the Internet with their smartphone but they have to be guided for a better and safer use in order to increase their self-commitment to learn a foreign language. Considering the efficiency of teamwork with Internet connexion, I certainly will propose newer exercises for communication within the group, using the grammar book for final checking in oral or written reports.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語学  
授業コード 33A23-001  
教員名 茂木 良治  
教員コード 102698  
登録人数 190  
回答数 90  
回答率 47.4%  
休講回数 1回  
補講回数 1回

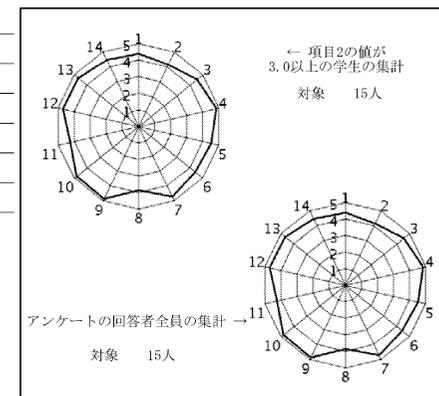


授業評価結果を踏まえた点検・評価

音声学、音韻論、形態論、文法論、意味論、語用論、社会言語学、応用言語学など言語学の諸分野を扱う概論的な授業である。主にフランス語を外国語として既習している学生を履修者として想定した授業だが、学部共通科目として設定されているため、フランス語に限らず履修者が学習したことがある言語を対象とし、基礎的な言語分析を行うことを目標としている。設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」が4.13点と比較的高い得点であったことから、概ね目標は達成できていたかと思う。担当教員の姿勢や、教材提示に関する設問7, 8, 9が高得点であったため、授業の進行に関して概ね問題がなかったことがうかがえる。また、設問3~14の平均点が4.52と高得点であることから、授業全体として満足度が高いといえる。担当教員として授業を振りかえると、今年度は履修者が190名程度と昨年度よりも3倍増し、フランス語未習者も多数おり、授業運営が非常に難しかったと感じている。そのため、自由記述式設問で「講義中に関係のない話をしている学生が結構いた。話し合う時間が終わっても喋り続けていたので対応してほしかった。」「あまりに学生の私語がうるさく授業に集中できなかった。フランス語学に関する深い掘り下げがあまりなかった。」というような否定的な意見もあるため、次年度以降は私語の対応なども含めて授業の進め方を再検討していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス現代史  
授業コード 33A25-001  
教員名 平田 周  
教員コード 103583  
登録人数 51  
回答数 15  
回答率 29.4%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①絶対王政期における近代国家とヨーロッパの主権国家体制の成立およびフランス革命における近代民主主義の誕生から出発して、そこから生まれた労働、宗教、人種、ナショナリズムの問題とその解決を経て、今日における欧州統合の進展から生まれたポピュリズムまでを概観するという、講義の目標を到達することができたように思われる。実際、学生には毎回、講義に関連するテキストや新聞記事を読んでもらい、その内容の要約を課したが、多くの学生が優れた分析・理解力を示し、専門的語彙を用いて文章を表現する力を発揮した。
- ②数値データや意見を見ると、教室の大きさに比べて、マイクがないため、若干声が届かなかったという声が散見される。またスクリーンの置かれている関係上、学生をどこに配置させるかは難しいが、前の席に座らせるようにする。
- ③毎回の講義の準備に追われて、体調管理が十分とは言えなかったが、講義でより良いパフォーマンスを発揮するためにも、体調の管理をしっかり心がけたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス文学講読  
授業コード 33C09-001  
教員名 吉澤 英樹  
教員コード 103584  
登録人数 10  
回答数 2  
回答率 20.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

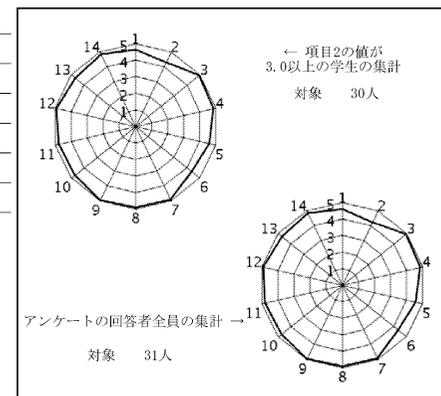
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①到達の程度について。昨年度はアンケート対象にはならなかったが、学生になじみのない主題（アフリカの植民地兵の子孫の物語）のテキストを選んだため、受講者の高い関心を引くことがなかったように見受けられた。そのため開講当初に設定していた目標は変えることはなかったが、授業テキストをより学生の関心を引くようなものに変え、授業内でテキストで描かれた時代の歴史的ならびに文化的背景についてプレゼンテーションをしてもらうことにより、フランス人のメンタリティーを理解するという一定の目標は達成できたように思う。また冬季休暇中の課題と期末試験の脚気から、物語文に特有なフランス語の文章の読解方法についてはほとんどの学生がポイントを押さえ習得できたように思われる。それゆえ、目標は達成されたと考えられる。②履修者が少なく、アンケート結果も十分なデータとして出なかったため自己点検のための資料としては不十分であるが、授業内で指示したにもかかわらず、アンケートが集まらなかったこと自体改善すべき点であると考えられる。③前年度に引き続き、他の講読科目と比較し、履修者が少なかった。昨今、文学という科目自体に学生の関心が集まらないという現実があるが、次年度は同じくQ4で開講されている「フランス文学史」の授業内で文学テキストを読むことの意義を学生と共有し、履修者増を目指し、ある程度の人数でのグループワークを通して学生の充実度の向上を図りたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 時事フランス語  
授業コード 33C15-001  
教員名 松川 雄哉  
教員コード 103644  
登録人数 50  
回答数 31  
回答率 62.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

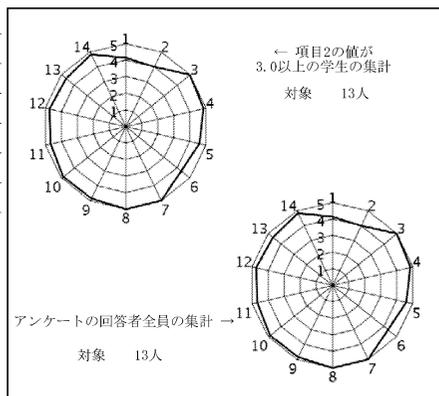


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目的は、様々なメディアでフランス語圏のニュースを読んだり聞いたりしながら、フランス語とフランス語圏の時事的テーマに詳しくなることを目標としていた。授業では、ある時事的なテーマに関して、まずフランス語で書かれた新聞記事リーディングをいくつか読みながら、テーマにフランス語で慣れ親しんだ。それから、同じテーマのニュースを聞いて理解できるかどうかを練習問題を通して確認した。だが、数値データを見てみると、項目6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」のポイントが他の数値より低かった。また、項目2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」についても数値が低かったことは特筆すべきである。今後は、まず項目2に関して、あるテーマに関する語彙の予習を課すことによって、授業で扱うテキストの理解を容易にすることによって学生達の主体性を改善したい。そうすることによって、項目6も改善できると考えられる。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス社会特殊講義A  
授業コード 33C16-001  
教員名 中山 俊  
教員コード 103891  
登録人数 35  
回答数 13  
回答率 37.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



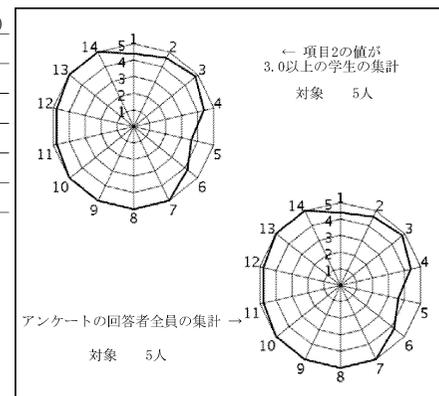
授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初設定していた本授業の到達目標は、「近現代フランス社会における移民政策や移民の処遇について適切に説明できるようになる」、「ある大きなテーマが与えられた場合のアプローチの仕方、テーマの絞り込み方、問いの立て方を習得する」、「フランスの「他者」に対する考えや見方を学ぶことで、我々がどのように「他者」と接すべきかという問題について、理解や判断の手がかりを得る」などであった。これらを常に念頭に置いて授業を展開したためか、目標の理解を問う設問5は、4.62という高い評価を得た。ただし、目標に向けて力がついてきているかどうかについての評価（設問6）は、4.31と比較的低く悔やまれる。

当初の授業計画を完全に遂行できなかったのも想定外であったが、それは、授業を実施している中で学生の理解度に不安を覚え、進度を遅らせたためである。以後同じ授業を担当することがあれば計画の変更はあってしかるべきだが、授業構成・進行の適切さを聞く設問4に対して4.85という評価を、また学生の満足度を問う設問14からも同ポイントを得たことを考慮すると、計画通りの授業展開は必ずしも学生の印象に悪影響を及ぼさないのかもしれない（おそらくは単に学生が授業計画を把握していないというだけの話であろうが）。むしろ、満足度は同様の評価を得た授業運営（設問8～12では4.69～5.00の解答）に関連していると予想されるが、結局はいずれも学生の印象に過ぎない。もちろん、悪いよりも良い方が好ましいとはいえ、実際に教育的効果があったのかどうかはなかなか判断が難しい。ただし、満足度が高かったことに加え、履修前の授業内容への関心の如何を尋ねる設問1に対して4.15、知識の習得、理解の度合いに関する設問13に対して4.62と、やや開きのある回答を得たので、最初は関心があまりなかったが何かしら学び面白さに気づかされた学生が少なからずいたと言うくらいなら、あながち間違っていないかもしれない。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策外国文読講II(フランス語)  
授業コード 70173-001  
教員名 真野 倫平  
教員コード 100083  
登録人数 6  
回答数 5  
回答率 83.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

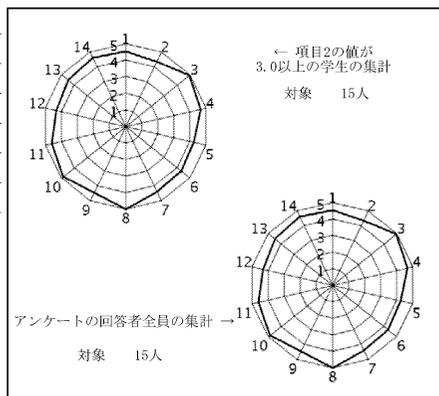


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は総合政策学部3年次生を対象とする学科科目である。フランス語の基礎文法の既習者に対してフランス語での文献講読を行うことを目的とする。第1クォーターに同科目のIを担当し、今回は前回の履修者のうち6名が登録した。授業では中級の時事フランス語の教科書を用いて、毎回講読を行い、さらに文法問題を行った。講読とは別に、適宜フランスの音楽や映画について紹介し、フランス文化の紹介に努めた。登録者数が6名に減少したこともあり、学生一人一人の能力や進歩に丁寧に目を配ることができた。①目標と到達の程度については、フランス語の読解力ならびにフランスの社会や文化に関する基礎知識を身に付けるという目標は、第1クォーター以上に達成できたように思う。②総合的な自己点検・評価については、設問3～14の平均は4.72であり、総合政策学部の学科科目の全体平均4.20を上回った。これは少人数による丁寧な指導ができたせいだと思われる。ほぼ全設問で平均を上回ったが、設問5の到達目標の理解に関する点数がやや低かった。③改善点としては、より履修人数が多い場合にも、学生一人一人の能力に対応した指導ができるような体制を整えることが、今後の課題になるだろう。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語VIII<全>I  
授業コード 11C08-001  
教員名 水守 亜季  
教員コード 103678  
登録人数 15  
回答数 15  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

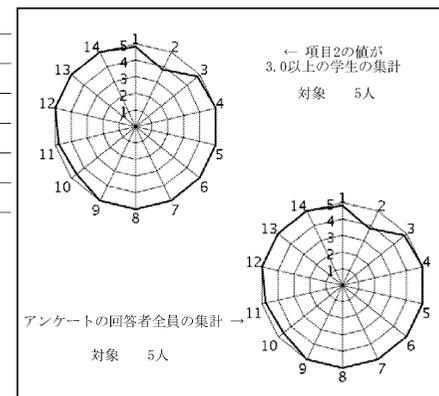


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のA2レベル相当の教科書を用い、ドイツ語を「実際に使える」能力の養成、主体的学習の活性化、学習ストラテジーの向上を図った。そのために授業は以下のように構成した。①ペアワークやグループ学習を積極的に取り入れ、学生がドイツ語を使う機会を多くすると同時に、②一方的な知識の詰め込みを避け、文法規則などを学生が自らを見つけるための話し合いの活動も多くした。③図や音声を用いて、既に持っている知識・経験を手掛かりに未習事項を含んだドイツ語の意味を推測するトレーニングを行った。④ポートフォリオを導入し、学習の振り返りを行った。学生にとっては慣れない方法で外国語を学ぶ授業であったが、設問(3)～(14)の平均値4.58は学生からの比較的高い評価を示している。自由記述には「グループワークで問題、会話の練習がしやすかった」、「Webclass などオンライン資料も用いられ、授業を楽しんでいます」、「動画作成や、ゲームなどがあり、楽しくドイツ語を習得できた」、などアクティブラーニングやeラーニングを評価する声が多く、また「楽しかった」、「ドイツのことがよく知ることができて良い」、「先生が優しく丁寧に教えて下さって、楽しく学べた。ただ勉強するだけでなくゲーム形式だったり映像を見たりで工夫されていた」、と授業を楽しんでくれた学生の声があった。ただ、語学学習を通して、見えない・見えにくい学力を伸ばす目的もあるビデオ作成課題については、新しい学びとして楽しみながら取り組んでくれた学習者が多かった一方で、批判的な声もあったため、今後はより時間をかけて学習者の理解を得る努力を続けたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本との出会い<国際科目群>  
授業コード 13B01-901  
教員名 RIESSLAND, Andreas  
教員コード 101252  
登録人数 13  
回答数 5  
回答率 38.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

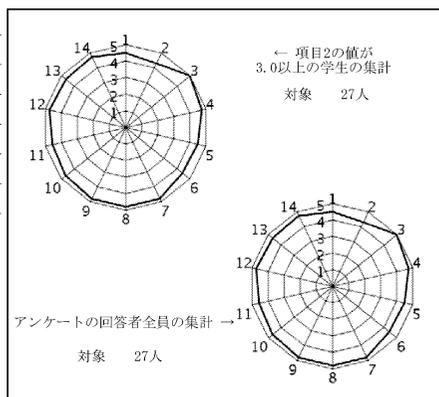
The purpose of this course was to encourage the students, through class projects and self study, to develop an awareness of their home country's position in the world, of their home country's perception from an outside point of view, and of the changes that this perception has undergone throughout the last five hundred years.

As the result of the student evaluation clearly shows, this goal was fully achieved. The overwhelmingly positive response in the students' evaluations supports the impression I had gained in the classroom, that the students were very responsive and showed great interest in the topics they were offered, and in the materials they were given.

As the intellectual benefit that the participants draw from this course is obvious in their evaluation, I intend to continue with this course format for the time being, in spite of the detrimental influence of the limited time frame in the quarter system which offers the students far too little time to hone their presentations and their reports to a degree that both I and they see as appropriate and satisfactory. Here, the limited time frame within the new system has proved highly detrimental to one of the core educational purposes of this course, the encouragement of learner autonomy. I hope this can be remedied in the future, for the benefit of our charges here at Nanzan.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 基礎演習II (言語文化)  
授業コード 34A06-001  
教員名 角山 朋子  
教員コード 104039  
登録人数 36  
回答数 27  
回答率 75.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



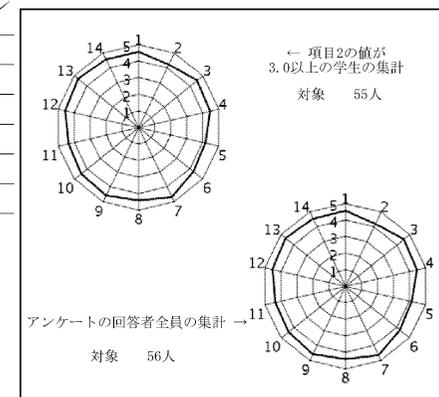
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標におおむね到達できたと考える。  
設問 (3) から (14) の平均値は4.70であった。設問 (2) (5) (6) (11) の評価平均は他の設問よりもやや低い。(2)については、全15回の授業の前半の、教員による講義形式の授業に対する回答と思われる。(11)と関連し、参考文献のみならず、展覧会情報や映像作品を紹介するなど受講者の学習意欲を引き出す工夫に努めたい。(5)については、到達目標の内容がやや曖昧で理解しにくかったかもしれない。理解しやすい目標設定に努める。(6)は、本調査の実施時期が比較的早く、担当する発表を終えていない受講者も多かったことと関わっている可能性もある。自由回答の中に、講義形式から演習形式に移行する授業構成に好意的な意見があった。今後の授業計画の参考にしたい。

。以上をふまえ、今後も基礎演習では1年生の知識量や学習歴を考慮しながら、彼らの以後の大学での学びにつながるような授業となるよう努めたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 論  
授業コード 34A14-001  
教員名 BAYERLEIN, Oliver  
教員コード 100842  
登録人数 71  
回答数 56  
回答率 78.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

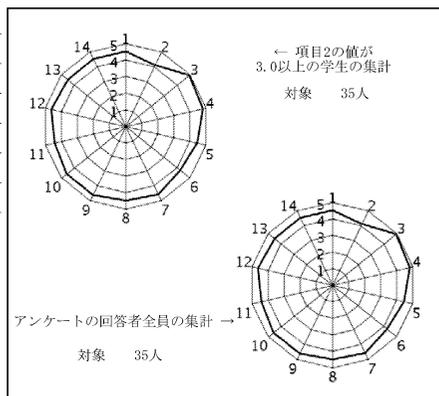


授業評価結果を踏まえた点検・評価

From the radar chart and the comments on the back, it is obvious, that there were no complaints concerning this course. Vice versa, the students were very satisfied with the fact that they could experience real German and could learn about life in Germany.  
From the comments on the back, I learned that the students find the implemented E-Learning system very helpful. However, in this area, I should prepare some changes for further improvement.  
And as always, the contents and the form of this course are not fixed, but a matter of continuous improvement.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ史  
授業コード 34A15-001  
教員名 SZIPPL, Richard  
教員コード 017582  
登録人数 76  
回答数 35  
回答率 46.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) 目標と到達度

目標は18世紀～19世紀のドイツ史の流れについて理解を深めていくことであるが、「到達目標に向けて力がついてきたか」という設問への評価が4.26点で、大学全体の平均点を0.19点上回っているが、学科平均点を0.08点下回っている。

2) 点検・評価

設問3～18への評価の平均値は所属学科と全学のすべての平均値を上回っており、全体の満足度への評価は大学全体の評価を上回り、学科の評価を0.05点下回っているが、大きな問題はないと言えると思う。特に学科平均より高く評価されたのは、「授業の構成や進行速度の適切さ」（4.83点）、「学習意欲を促すための適切な指導は十分だったか」について（4.43点）、「質問や相談の機会」（4.66点）についてであった。また、授業のいいところとして「ドイツ史近代史の基礎意識を得られた」や「レジュメがわかりやすかった」という自由記述欄への記述があった。

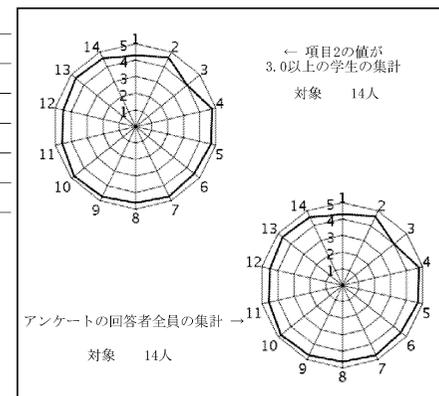
一方、わずかではあるが、学科科目よりも低く評価された項目（「新しいし知識を得て、理解が深まったと感じたか」、「全体の満足度」）もあり、改善する余地があると言える。

3) 今後改善すべき点

今後の課題として、学生の授業参加に関する設問2「予習や復習を含め、学習主体的な授業参加の努力を促す」ための工夫をしたいと思う。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文献講読（ドイツ語圏の社会）2  
授業コード 34A24-002  
教員名 中屋 宏隆  
教員コード 102885  
登録人数 14  
回答数 14  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

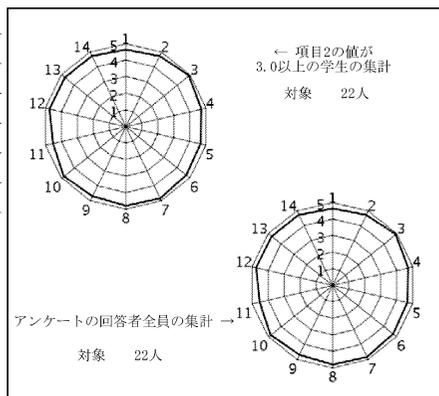
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：講義目標は、ドイツ語の講読レベルを引き上げることであった。到達の程度に関しては、自由記述にも「ドイツについての知識が身についた」や「普段の授業ではなかなか学ぶことができない専門的な単語や政治、経済分野における専門的知識を学ぶことができた」というものがあったので、学生自身も読解力の向上が図られたと感じているようであった。平均数値に関しても4.60あり、学生の満足度も高かったと言える。②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：

数値データが最も高かった（4.79）のは、設問4の「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」と「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生の行為に対して、適切な対処がされていきましたか」となっており、今後も同様の進め方で問題ないであろう。③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：設問3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか。」の数値が、4.00でもっとも低かったので、その辺りは改善を試みたい。

いずれにせよ、全般的に数値は高く、学生にとって有意義な授業を提供できたのではないかと。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級講読B  
授業コード 34C02-001  
教員名 岡地 稔  
教員コード 015206  
登録人数 26  
回答数 22  
回答率 84.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

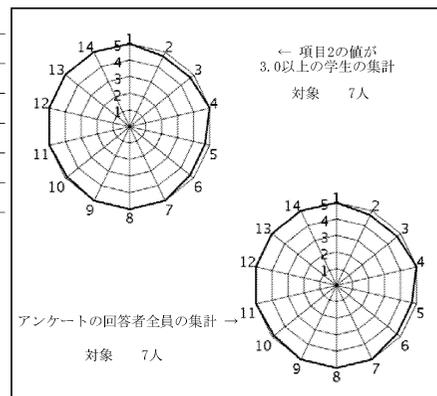
本授業はドイツ学科の主として2年次生を対象とした専門科目であり、当初に設定した到達目標は、様々な分野のドイツ語テキストを精読することを通して、文章を精確に把握し、読解力を身につけること、であった。そのため授業は、従属接続詞や関係代名詞、冠飾句などの文法構造を意識しながら多くの文章を読むことを通して、また同時に文構造から少し先の展開を予測することを通して、文章理解や把握が進むことを受講生に実感させつつ、進めた。

全質問項目の評価平均値は4.75であって、おおむね及第点であると思われる。また、各質問項目の評価平均値は4.55~4.91の中にあり、特にきわだった平均値を示す、特徴的な項目はないように思われる。自由記述式回答欄では、「初めての講読でしたが、分かりやすく進めることができました」「楽しく受けることができました」「しっかりとドイツ語の文章を読む授業は、これ以外ではなかなか無い」「先生も優しく、予備知識など教えていただけるのが楽しかった」「先生がいろいろな面で生徒の気持ちを配慮してくださった」と、すべて好意的な回答を得られた。

今回のおおむね好意的な評価を糧に、今後も、より良い授業運営を図っていく。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語表現法  
授業コード 34D04-001  
教員名 林田 雄二  
教員コード 017434  
登録人数 7  
回答数 7  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

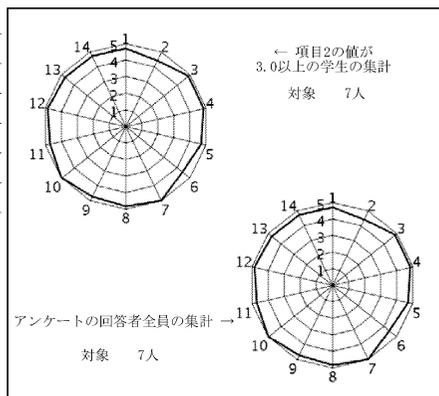
今年度は、ドイツ現代文学の祖といわれる、18世紀の作家 Georg Büchner :Leonce und Lena”を、上演対象作品とした。現代の学生には少々難解であるかもしれないと思い、時代背景、作家の思想、作品内容の分析にも時間を割いた。Q1開講科目「ドイツ語演劇研究」の関連科目であり、そこから地道に練習を重ね上演にこぎ着けた。授業以外にも、火曜日17時から練習時間を設け、また、空き時間を使つての練習も行った。上演に当たっては、旧カリ「ドイツ語演劇研究」受講者の助けを借りた。また、ドイツ人留学生も助力を申し出た。上演会は、「フラッテンホール」で行われ、120~30名の観客を得た。上演会終了後は、反省会、作品の再分析、習得した言語表現を使つてのドイツ語訓練、「ドイツ語弁論・暗誦大会」のテキストの表現練習も行った。履修学生の評価も高く4.92であった。

1. 翻訳を超えたテキスト理解：実際に演じることにより、十分に達成できた。
2. 演劇テキストの実践利用：実際のコミュニケーションで大いに役立てている。
3. 他人との協働作業による人間関係の深化：演劇は協働作業である。十分に達成された。

次期クォーターでは、旧カリ「ドイツ語演劇研究」受講者が卒業し、上演に対する助力が期待できない。作品選択の際に、文学以外の分野からのテキストも視野に入れて捜したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語通訳法  
授業コード 34D08-001  
教員名 太田 達也  
教員コード 101967  
登録人数 9  
回答数 7  
回答率 77.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



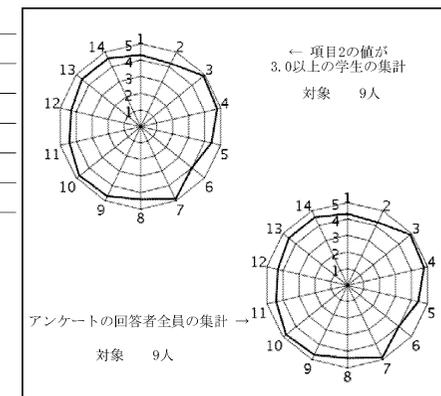
授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問（3）から（14）の平均値が4.79という評価を受けた。設問（3）から（14）の中で唯一4.50を下回ったのは、設問（6）「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」であった。授業担当者から見ると参加者たちはみなそれぞれに力を伸ばしたと思えるだけに、参加者たちがもう少し高く自己評価してもよいのではと感じた。一方、設問（7）「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか。」および設問（10）「私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生の行為に対して、適切な対処がされていきましたか。」ではいずれも5.00の評価を受け、嬉しく思う。ただ、設問（10）については、注意すべき学生がまったくいなかったことが大きく関係しているだろう。

開講当初に設定していた目標と到達の程度については概ね達成されたように思う。一貫してドイツ語を授業言語として用いたため、受講の前提としてヨーロッパ言語共通参照枠のB1合格相当のドイツ語力を持っていることをシラバスに明記していたが、実際に授業に参加した学生たちのドイツ語力には少なからぬ開きがあった。そうした状況の中、誰もがそれぞれに力を伸ばしていけるような授業を運営することは難しいことであったが、来期以降も、授業参加者の誰もがそれぞれに力をつけることができたと実感できるような授業作りを目指したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 東南アジアイスラム研究  
授業コード 35299-001  
教員名 小林 寧子  
教員コード 100089  
登録人数 12  
回答数 9  
回答率 75.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

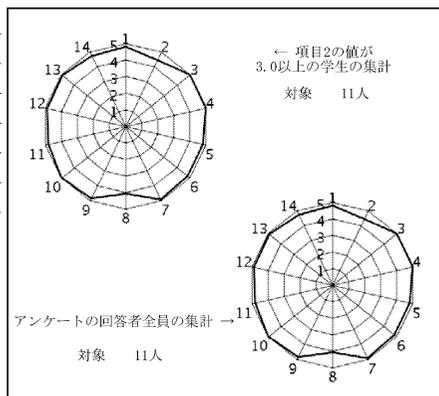


授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講生が12名と少ないうえに、うち9名はゼミ生であった。そのため、学生の様子を見ながら授業を進めることができた。講義では、イスラム世界を知るカギはイスラム法とウラマーであると繰り返し強調し、そこに注目するようにシグナルを送り続けた。結果、ムスリムの「知的営為」に学生が関心を示し、今までになく理解が高まったと試験答案でも判断できた。イスラムに対する先入観や偏見を一部でも払拭できたのではないかと考えられる。数値的に一番高い評価を得たのは、授業に対する教員の熱心さであったが、これも学生が教員をイスラムの専門家として認識してくれていたのも大きいと思う。ただし、情熱を示すには体力も重要である。昨年5月に授業中に倒れたことを考えると、体調を維持することの重要性を痛感する次第である。専任教員として最後の講義科目が、このようにスムーズにできたことは幸いであった。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語II語法1  
授業コード 35A08-001  
教員名 鈴木 史己  
教員コード 103651  
登録人数 11  
回答数 11  
回答率 100.0%  
休講回数 1回  
補講回数 1回

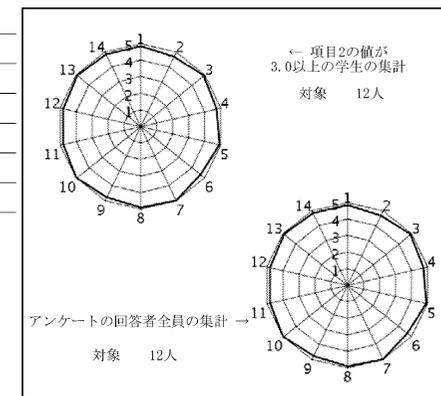


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
本科目の目標は、中級中国語I語法で習得した文法事項を応用し、さらに様々な語句や構文の機能について、その使用の実際に即して学習することである。教科書に沿って文法事項を確認し、応用力を養うために短文の中国語訳課題を課したが、受講生間のレベル差が授業運営に支障をきたすほどに大きかった。授業内容が定着していない受講生にあっては、今後の奮起に期待したい。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
おおむね高い評価が得られているが、単調な授業になりがちで、受講生とコミュニケーションをとりながら進められなかったことは反省したい。上記の受講生間のレベル差の問題があったため、解説のしかたは受講生の様子を見ながら調整したが、自由記述で肯定的な意見が得られたことは良かったと思う。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。  
評価が低めだった声の聞き取りやすさの項目は自覚しているところであり、普段の授業時に常に気をつけていきたい。また、一方的に解説するだけでなく、隣接する文法事項の共通点・相違点を受講生が自ら考える機会を設けるなど、毎回同じ進め方ではなくめりはりをつけるよう工夫したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語II読解1  
授業コード 35A10-001  
教員名 中 裕史  
教員コード 017830  
登録人数 14  
回答数 12  
回答率 85.7%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

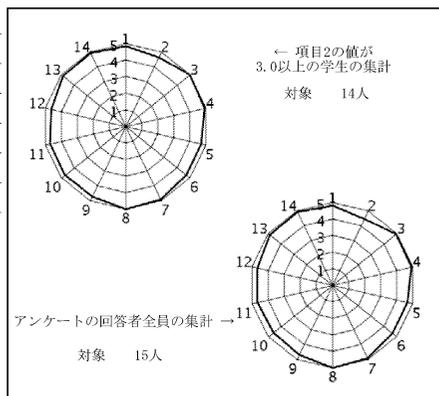


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の到達目標は、中国語検定2級程度に対応できる読解力を身につけていること、および2000語程度の単語を使いこなせることの二つである。授業を終えてみて、担当者として受講生の読解力と語彙力が伸びていることを実感できたことから、到達目標はほぼ達成できたものと考えている。受講生には、毎回、事前学習として、中国語の長文を日本語に翻訳してこることと音読の練習をしてこることを求めたが、多少の程度の差こそあれ、各自がそれなりに事前学習に取り組んでから授業に出席したことが、読解力と語彙力の伸長につながっている。予習・復習や授業への主体的な参加を問う設問2の平均値、および到達目標に向けて力がついてきているかどうかを問う設問6の平均値が、いずれも4.67になっているのは、そのことを受講生自身が感じている現れとみてよいであろう。自由記述でも、ピンインを覚えたり、音読練習をしたりと、大変ではあったがためになったという回答が見られた。他には、今年度の授業から取り入れた作文練習に対しても、各個人に添削指導をしたこともあって、よかった点として挙げられていたし、小テストの後に映画鑑賞の時間を設けたこともまた好評であった。来年度は基本的に今年度と同様の進行を考えているが、中国語の長文の内容については、一部差し替えをして、受講生がより関心をもって積極的に学習に取り組めることができるように工夫したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語時事B  
授業コード 35C09-001  
教員名 蔡 毅  
教員コード 100086  
登録人数 23  
回答数 15  
回答率 65.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目名は「時事」として、市販のテキストを利用せず、随時中国の新聞や雑誌およびネットから新しい記事を取って授業で使っていたため、適切なものを選ぶのに大変苦労しましたが、全体からみれば、開講当初に設定した授業目標はおおむね達成したと思います。しかし、自己反省の立場から、次の改善すべき点に重点をおいて述べたいと思います。

統計の数値から見れば、(2)(10)、すなわち予習や復習を含め、主体的に授業に参加しているか、授業の妨げになる学生の行為に対して適切な対処がされたかという点では、評価が十分ではありません。これは学生側の努力にもかかわることとはいえ、自分には学生に厳しく要求していないという問題があるのではないかと思います。

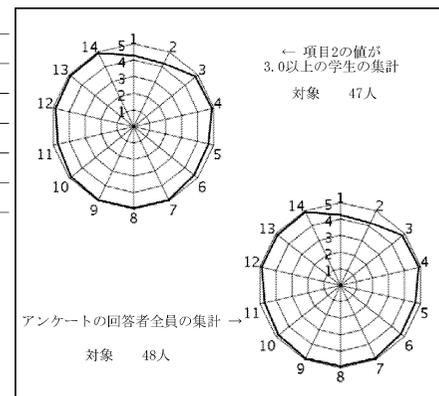
その他、学生の自由記述には高い評価が多かったのですが、これからは次の二点にさらに力を入れようと考えています。

まず、中国の最新情報を取り入れる際、難易度を十分に配慮したうえで、学生に対して授業の出席および予習や復習についてより具体的に要求し、学習の意欲を一段と高くさせることです。

そして、より中国語を使い、現在の中国にいるような臨場感で、活発な議論ができる、真に「時事」という科目名にふさわしい授業を学生に提供できるように、取り組んでいくことです。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 東アジア国際政治史研究  
授業コード 35C17-001  
教員名 宮原 佳昭  
教員コード 102232  
登録人数 80  
回答数 48  
回答率 60.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は次の3点である。①西欧諸国、アメリカ、ロシア（ソ連）などの国際関係をふまえたうえで日中関係を理解している。②国際関係にかかわる政治・経済・軍事などの諸要因を理解している。③平素より、東アジアの国際問題に関する最新情報を積極的に収集し、その内容を理解している。

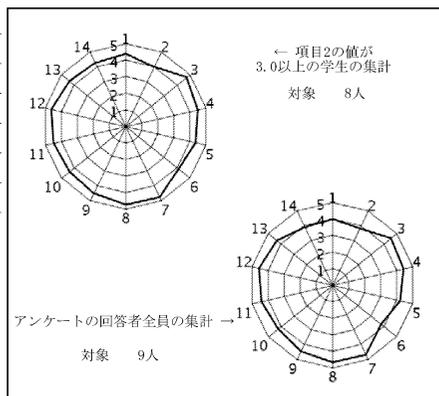
上記の目標を達成するため授業において工夫したことは、次の2点である。

①授業内容に関する映像資料を放映して、国際関係に対する学生のイメージ形成を促したこと。②毎回の授業の冒頭で最近の東アジア関連の国際ニュースを紹介し、歴史的イベントとの共通点に言及することで、国際関係に対する学生の理解を促したこと。②同じく毎回の授業でリアクションペーパーを配布し、授業の要点や授業に関する質問をまとめさせることで、授業内容に対する学生の理解を促したこと。これらは学生に好評であり、授業の目標到達にとって有益であったと考えている。

一方で、学生から要望があったのは、「より主体的に学生が取り組めるようなワークショップがあってもいい」という点である。本授業は大人数の講義科目であるが、少人数のグループに分けて討論する時間をとるなど、学生がより主体的に学ぶ環境づくりを今後検討したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 華人社会研究  
授業コード 35C20-001  
教員名 張 玉玲  
教員コード 101049  
登録人数 78  
回答数 9  
回答率 11.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

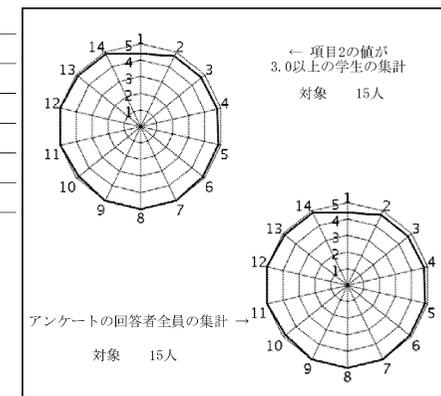
アンケートの回答者数は少なく、受講者全員の意見を反映できないが毎回の授業後に提出してもらっているリアクションペーパーを合わせて分析すれば、①開講当初設定していた目標と到達度、すなわち華人の移住要因について、送り出し側と受け入れ側の両方から理解することができること、華人社会の形成・構造・変容について、華人を取り巻く国際情勢など多角的に分析できること、ある国・地域の華人社会に焦点を当て、問題を発見し、自分の見解を加えながら考察できることは、おおむね達成できていると思われる。

②各設問の数値データや自由記述からもわかるように、様々な国、地域の様々な背景を持つ華人に焦点を当て、文献資料以外、古写真や映像資料も用いることで、受講者はより広い視野で華人を含めたトランスナショナルな移住・定住および民族関係について考えることができたように思われる。

③外国語学部の受講者が大半を示しているため、引き続き、アジア以外、欧米やアフリカなど様々な地域の歴史、文化、社会の文脈の中で中国系移民の移住を分析するよう心掛ける。一方、より広い視野を持ち、文化的多様性に寛容な心を持って国際的に活躍できるよう、授業に対する学生の主体性を引き出すような工夫をしていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 インドネシア文化研究  
授業コード 35D12-001  
教員名 間瀬 朋子  
教員コード 103607  
登録人数 36  
回答数 15  
回答率 41.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

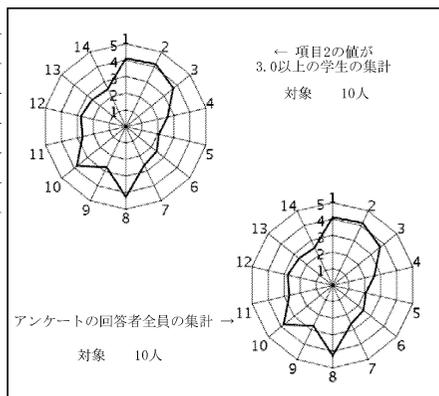
①文化のなかでも衣食住に注目して、多数の民族グループが存在してそれぞれが異なる価値観や生活様式を有する多様性と、経済発展・グローバル化・中間層化のなかで進む文化の画一化現象を考察するクラスだった。それに関する講義を踏まえて、受講生は基本的な課題文献を読んだ。その後、小グループでディスカッションをし、そのなかで各グループが具体的なテーマを設定し、情報収集・調査をし、最終的にプレゼンテーションをした（講義と演習の折衷方式）。ディスカッション・プレゼンテーション・そのふりかえりからなるクォーター後半のクラスは、ひじょうに活気に満ちたものだった。受講生がインドネシアの多様性を実感し、インドネシアの文化が次第に変容している様相やその背景を理解した、すなわち授業の目的をじゅうぶんに達成したことが、授業評価アンケートからわかった。

②ディスカッションを盛り上げるための「仕掛け」を工夫・準備したり、前回の授業のふりかえりを丁寧におこなったりしたことは、受講生の積極的な授業参加や自主的な学習につながったようだ。

③「もっとこうしたらディスカッションがおもしろくなる」「プレゼンテーションの形式はこうにしたい」など、クラス内でも受講生の声をもらっている。来年度に活かして、より充実した授業をめざしたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[G]4  
授業コード 11A08-035  
教員名 CALANTAS, Teresita  
教員コード 000187  
登録人数 17  
回答数 10  
回答率 58.8%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

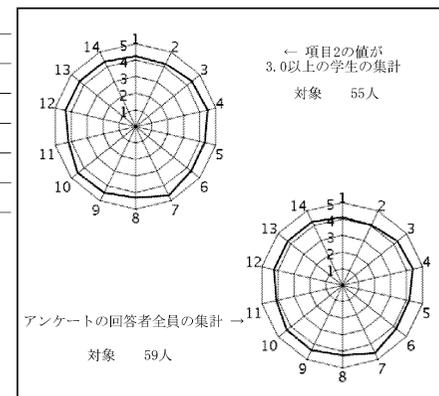


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The focus of this course is to build students' reading and writing skills, specifically argumentative and personal narrative essays. The course emphasizes integration of reading and writing through academic, multicultural, and literary content materials. Special attention was given to vocabulary building, structure of short academic essays, gathering information, Note-taking, and expressing personal opinions and reactions in a cooperative learning atmosphere. Students were also engaged in short discussions on topics, as well as personal reflections, before they write on topics they have chosen. Students' evaluation showed high valuation of a few items in the questionnaire. However, the rest of the items were rated low. The lowest items were in relation to: overall satisfaction of the course, appropriate structure and pace of class according to the level of students, and understanding of the attainment target of the course. Only 10 out of 16 students did the evaluation. Although students evaluated the course negatively, based on their performance, I believe that we have attained the goals for this course.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学A1  
授業コード 12C08-001  
教員名 林 尚志  
教員コード 017897  
登録人数 113  
回答数 59  
回答率 52.2%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、パン屋さんの売上げと利潤、原油価格の変動とその背景、コメの輸入自由化がもたらす影響など、身近な例を取り上げながら、「ミクロ経済学の基本的な考え方」に対する学生の理解を深めることを目標とした。そのために、講義中に提起される一連の疑問を列挙した“教材プリント”を事前に配布し、それら疑問への解答を探るという形で講義を進めた。

この目標の達成度については、各項目について一応の評価が得られるとともに、1) 経済学を学ぶ意味がわかった、2) 身近な話題を取り上げていたため、経済学の面白さを感じやすかった、等のコメントがあり、まずまずの成果があった。その背景としては、あ) 授業中の受講者への問いかけ等を通じて学生の理解度を確認し、次の授業で簡単な復習を行ったこと、イ) 理論的な説明と身近な具体例との対応に心がけたこと、等が挙げられる。

今後の課題としては、設問(9)と関連し、「解説がていねいで、理解しやすかった」、「板書がわかりやすかった」等のコメントがある一方、「内容が理解しづらい」、「板書が多すぎる」等のコメントも見られたため、「講義内容を深めつつ前者の学生の割合を高める」ことができるよう、板書内容を精選していきたい。また、設問(11)に関し、「原油価格と世界情勢」、「TPP交渉の進展」等を紹介したが、「関連文献や資料紹介」についても工夫を重ね、学生の学習意欲が高まるよう心がけていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済学B2
授業コード	12C09-002
教員名	大谷津 晴夫
教員コード	015222
登録人数	20
回答数	4
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

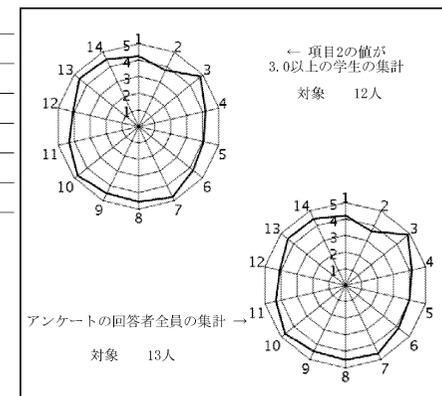
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目について、設問3～14の平均値が4.31であったことは、総合的に見て合格点の評価をもらったと受け止めている。その中で設問3, 4, 9の値が4.75, 4.75, 4.75であったことは、授業の形式面の条件を充足していたという評価と受け止める。また、設問7の4.25の評価に示されているように、授業への真摯な取り組みについての評価も合格の水準にあり、全体的な満足度を問う設問14の値も4.0とまずまずの水準にあると評価できる一方、設問6の到達目標にかかる評価が3.5と相対的に低いことに課題を残している。授業履修前の興味度が3.75で、参加度も3.25と低かったのに対して、新知識を得られたとする度合いの評価が4.0なのでまずまずの水準としてよいだろう。ただし学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加を促すもう一段の工夫が必要だろう。

自由記述欄の回答では、WebClassに資料を掲載したことや、前回講義の復習に時間を割いたことを評価してくれている一方で、内容が抽象的なので練習問題を講義終わるごとに提供して欲しいという要望も寄せられた。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治・経済の諸相9
授業コード	13C06-009
教員名	岸野 悦朗
教員コード	103035
登録人数	20
回答数	13
回答率	65.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

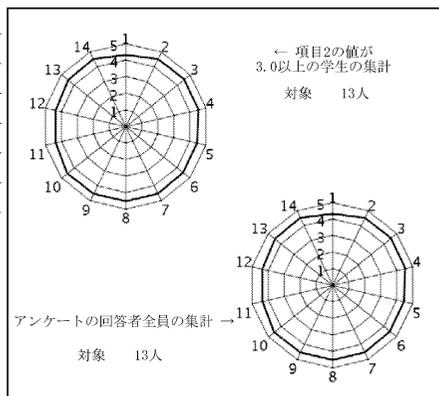


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
本講座では日本の税財政の現状を理解し、その問題点を考え、現在の有権者として将来の税財政に関する各種課題に対的確に対応できる判断力を養成することを目的としている。15回分の出席、試験結果やレポートの状況を見る限り、予想以上に良好で、内容面においても社会保障や消費税等の財政、税制の問題に関する意識はある程度醸成されたと評価している。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
各種数値状況は4超であり、学生からの自由記述欄において、パワーポイントや毎回授業の冒頭で紹介している財政、税制等に関する新聞に記載された時事的な状況については個別に評価している。ただ、本年初めて担当した授業で極力分かりやすくするよう努めてきたが、内容的になじみのない専門的事項があり1年生としては難解な部分があったのではと感じている。全体としては予想以上の結果であったと自己評価している。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
次年度においても、本年度と同様のスタンスで臨むとともに、財政、税制の基本的な部分を分かり易く説明するとともに、財政、税制等に関する新聞記事等紹介する等意識の醸成に努めていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 外書講読(政策)A  
授業コード 40C04-001  
教員名 焼田 覚  
教員コード 102065  
登録人数 36  
回答数 13  
回答率 36.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

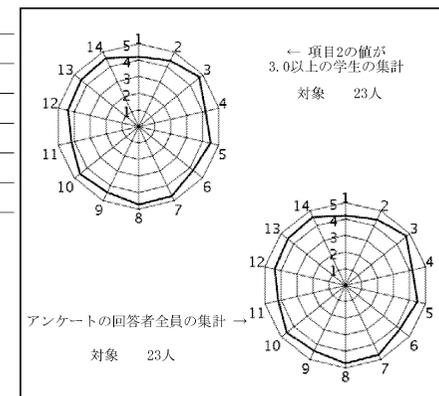


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初1冊を終える予定だったので、その意味では到達できなかった。しかし、3lecturesのうち二つ目の半ばまで内容を解説しながら進めたので、授業の目的自体は到達できたともいえる。②予習をしてきている学生とそうでない学生の差が激しかったように思う。内容が少し難しかったが、金融政策の実際に触れることができる内容だったので、興味を持ってくれた学生には、進むのが楽しかったと想像する。経済学特にマクロ経済学の基礎的な部分を理解していないか忘れていた学生がほとんどで、少し気落ちしたが、単語をつながげながらも理解してもらおうよう努めた。結果的に、経済学の解説部分でメモを取ってくれる学生もいたので、そこそこの評価が得られると考える。実際、授業評価をどれほどまじめに受け取るかの問題は別にしても、英語で経済学の理解が進んだ可能性が示唆されているのは嬉しい。③いわゆる英語の授業ではないので、現実の金融政策の動きを読み取り、日本語で理解する点に重きをおいたので、質問は経済学にかかるものしかなかった。金融分野ではカタカナを使うことが多い印象なので、英語の単語を対応させることをもう少し多くすることで興味をもってもらえるかと考えている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 外書講読(歴史と思想)A  
授業コード 40C08-001  
教員名 川本 真哉  
教員コード 103865  
登録人数 45  
回答数 23  
回答率 51.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①目標と到達の程度について

本講義は、①英文を読む習慣を身につけ、その和訳を通じ大意をつかむ力を養う、②戦後日本経済の歴史や現状について基礎から学び理解することを目標としていた。この目標の達成のために、毎回単語テストを行うとともに、単元ごとに確認テストを実施した。これに関し、質問項目2（授業の予習・復習）の平均値は4.43、質問14（総合評価）は4.57となっており、概ね達成できたと理解している。

②担当科目に関する総合的な自己点検・評価

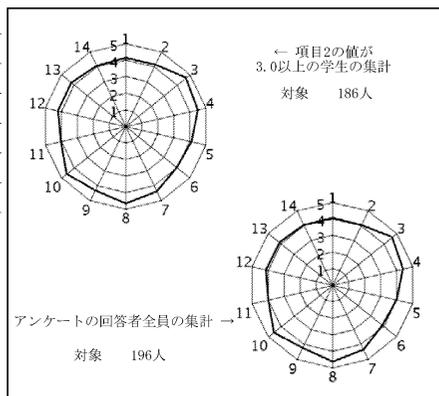
講義中にはテキストの内容に加え、そうした情報をアップデートする意味合いで、関連トピックに関する新聞記事等を紹介するように心がけた。これに対し、受講生からは英語を通して経済学を学ぶことができたとの声が聞かれた。その一方で、講義のスピードが速く、追いつくのが大変だとの声もあった。

③改善点、今後の抱負、方針など

授業進捗のスピード維持と受講生の理解度のバランスは、次年度に向けての課題である。受講生の理解度に絶えず気を払いながら、講義を進めたいと考えている。また、課題（単語テストと単元ごとの確認テスト）のあり方については、受講生の理解度の定着にとって有効だと考えられるので、次年度も継続していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際経済入門  
授業コード 40D06-001  
教員名 太田代 幸雄  
教員コード 100347  
登録人数 497  
回答数 196  
回答率 39.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

【授業目標および目標達成度】

この科目は、経済学科1年次生以上向けの選択科目であり、国際経済学関連科目における基礎的科目であると位置づけられている。今回の講義に際して、担当者が初めて担当する科目であったため、1から講義ノートを作成した。データとしては、回収率が全受講生中39.4%と、これまで担当者が実施したアンケート中でも相当に低い数字であったことが挙げられる。アンケート結果としては、全設問の平均値、設問3～14の平均値がともに4を上回り、ほぼ学部平均と同じ値を取っている。したがって、まずまず目標を達成できているのではないかと考えている。

【授業評価について】

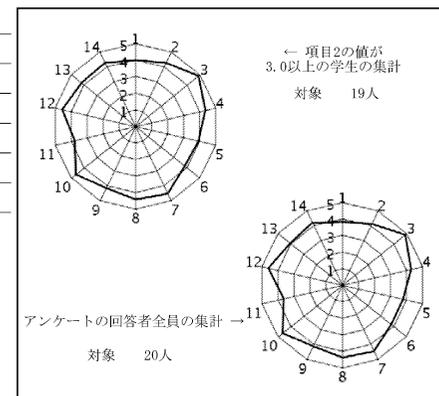
今回の講義で気を付けた点は、全学年の学生が受講する科目であるため、進行速度、基礎概念の説明、理論と現実との関係について、誰にでも理解できるよう講義を進めるということであったが、設問4の評価がまずまず高かったので安心している。しかしながら、設問5、6、7、9、11～14で僅かではあるが学部平均を下回り、特に設問6、11が平均値4を下回ったということで、ほぼ500名が受講する講義の難しさを改めて認識した。

自由記述欄についてであるが、今回の講義ではどちらかと言うと、好意的・建設的な意見を多く頂いている点について有り難く感じている。もちろん、改善すべき点も指摘されているが、次の講義で何とか微修正できそうなので是非試みたいと考えている。

これからも、より興味を持って授業に臨んでもらえることを来年度以降の目標の1つとしたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 計量経済学B  
授業コード 40D12-001  
教員名 大鐘 雄太  
教員コード 103641  
登録人数 63  
回答数 20  
回答率 31.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業では、「重回帰分析の基礎的な理論について理解できる」ことを目標とした。定期試験では高得点の履修者が多かったため、定期試験の結果を見る限りでは、この目標は達成できたと考えている。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

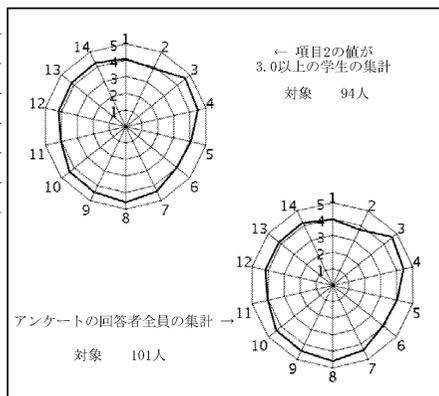
数値データでは、設問5、6、11が3点台であったことから、授業の到達目標があまり伝わっていないこと、および学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供が足りなかったことが、それぞれうかがえる。一方で、設問14が4.20であったため、全体的な満足度としては悪くなかったと捉えている。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

来年度の計量経済学Bでは、(1)授業の到達目標をより明確にする、(2)紹介する文献を増やす、の2点を実行することにより、本年度よりも満足度の高い講義にできるよう努めていく。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済統計論A  
授業コード 40D13-001  
教員名 宮崎 浩伸  
教員コード 101892  
登録人数 313  
回答数 101  
回答率 32.3%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標に対する到達度としては、まずまずの結果であったと思うが、今回の授業評価結果は、項目1~14で4.22、項目3~14で4.28と、昨年度から若干ではあるが評価が高くなった。

しかし、個々の授業評価項目では、設問5, 6, 11で低い評価となっており、何らかの対策が必要である。そこで、今後の改善すべき点としては、以下の2つが挙げられる。

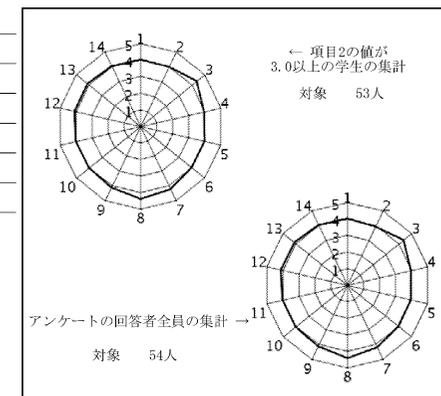
1. 授業の到達目標を理解し、到達目標に向けて、力がついてきたことを実感してもらう。
2. 学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導・情報提供を行う。

これらの課題には、例えば、授業内で、到達目標を繰り返し明示し、その目標に向けて、理解度が上がっていることを実感できるテストを数回実施することや時事問題に関連した課題設定型の宿題を課すことが有効かと思われる。

最後に、自由記述欄では、「練習問題があり、理解が深まった」、「実際の新聞の記事を見て、授業で習ったことについて説明していたので、理解しやすく、実際の値を見て学べたので良かった。」といった好意的な意見が多くあったので、これらは今後も継続していきたいと考えている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 理論経済学B  
授業コード 40D16-001  
教員名 井上 知子  
教員コード 019166  
登録人数 105  
回答数 54  
回答率 51.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

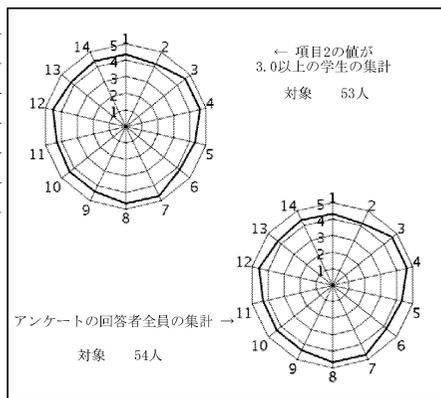
初回授業でシラバスに書かれている授業計画を確認し、ほぼシラバスに書いた日程で授業を進めることができた。

この授業は1限と2限の2コマ連続の授業であり、1限で前回の確認テストの解説をして採点基準を報告した後、その日の内容に入り、2限の途中からはその日の内容の理解を確認する演習問題を解いてもらった。この確認問題の解答作成に際しては他の受講生と相談可としたためか、2限だけ出席する受講生も多かった(1限の始まりにいる学生は40人弱、2限の途中で回収する確認問題は70枚程度)。

自由記述欄の改善すべき点のところに、この授業はゲーム理論を学ぶ初心者のための授業なのだから、すぐに内容を消化できない受講生のためにも確認問題を解くのはその日ではなく次回にしてほしいという意見があった。確認問題を解くのを次回の最初の時間帯にすることで、その要望に応えることができ、また、受講生が2限だけ出席するというのも避けられると思うので、ぜひそのアイデアを取り入れてみたいと思った。また、確認テストの評価基準がよくわからないという意見があったが、これについては、確認問題の結果を1限と2限の間の放課に聞きに来るよう促し、間違えた箇所は個別に解説し、採点基準についても授業で問題解説をする際に伝えている。毎回の授業で教員から結果を聞き、自分が間違えたところを確認するように、さらに強く促さねばならないと思った。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報経済学B  
授業コード 40D18-001  
教員名 小林 佳世子  
教員コード 100487  
登録人数 132  
回答数 54  
回答率 40.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、2年次生以上の専門科目です。ここでは、基本的な理論を理解したうえで、それを自分で現実の問題に応用することができるようになることを目標としました。そのために、講義でもできるかぎり現実の様々な事例を使うように心がけました。

自由記述でも、「事例で説明してもらえるので、わかりやすい!」「事例が面白い!」といった記述が多くみられました。ありきたりの例なく、本当に面白いと思える事例をと常に意識をしていて、事例探しには苦労しているので、その意味でも、こういった反応は、素直にうれしく思っています。

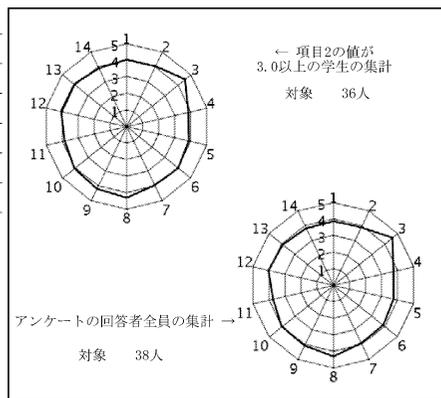
試験でも、あらかじめ予告をしておいて、自分で事例を考えることを問題としました。自分で問題を考えるのは楽しかったと書いてくれる人もいて、考える楽しさが少しでも伝わったなら、本当にうれしく思っています。

反省点は、本クォーターは、体調が悪く、それを気遣う声も自由記述にもありましたが、それが少し気が散ったという声もありました。体調管理はしっかりしないといけないと思いました。

点数としては、予習復習の項目や講義の目標に向かって力がついてきているか、の項目がやや低く、自主学習をどう後押しするかが一つの大きな課題だと考えています。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 データ解析B  
授業コード 40D20-001  
教員名 吉根 勝美  
教員コード 018358  
登録人数 58  
回答数 38  
回答率 65.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

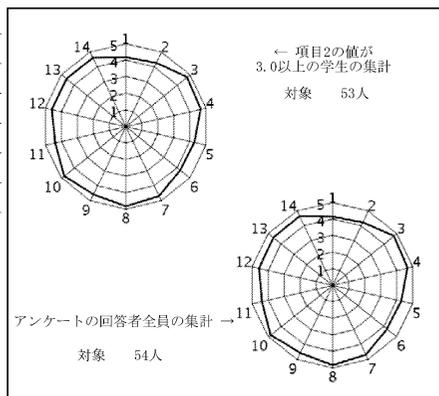
今回は、できる限りウェブで公開されているものを教材とし、授業では教材の説明をした後、出題した課題に取り組んでもらい、授業終了前に自分の学習成果をWebClassに提出させるという授業形態にした。学生による主体的な学習の促進を目指して、授業最後の提出は成績評価には関係なく任意とした。履修者数に対する提出者数の割合を主体的学習の達成度とみなすと、クォーター前半(12/10)は86%前後、後半(12/13)は67%前後であった。定期試験レポート提出率が93%であったことから、特に後半で主体的学習の促進が十分にできなかった。

設問(1)~(14)のうち3未満の回答が3名以上あったのは、(1)履修前の興味、(4)授業の構成や進行速度、(5)到達目標の理解の3問であった。特に設問(4)は6名と多く、「難しい」という自由記述も複数あった。「わかりやすい」という回答も複数あったものの、授業内容の難易度が、特に後半で高かったと思われる。また、「私語がうるさい」「意義が感じられない」という自由記述もあり、教材を利用して主体的に学習してほしいという意図を伝えることが十分にできなかった。

今回の授業形態が反転授業に近く、2020年度にもBYOD化されることから、主体的学習を促進する方法を検討する。また、文系・理系に関係なくデータと統計学について学ぶべき時代に合わせ、経済学部生にふさわしい授業内容を検討する。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ミクロ経済学特論  
授業コード 40D21-001  
教員名 赤星 立  
教員コード 103866  
登録人数 75  
回答数 54  
回答率 72.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 目標は十分に達成できたと思う。

この授業は、必修科目「ミクロ経済学」の理解を定着させ、さらにそこで扱いきれなかったトピックスについて学ぶことを目的としている。そのために、まず簡単に「ミクロ経済学」の復習をし、完全競争市場と呼ばれる理想的な環境下では、市場が効率的な資源配分を達成することを確認した。続いて市場が効率的な資源配分に失敗する代表的な3つの場合について講義を行った。ここでは、なぜ市場が効率的な資源配分に失敗するのかということと、それを解決するための具体的な政策について講義することに焦点を当てた。最後に問題演習を行った。

こうした授業の運営は、設定した目標に即している。また、講義内容および問題演習の解説をすべて板書するスタイルをとったことで、学生に、分析を進める上で最も大切な道具の使い方（例えばグラフを描く手順）を見せることができた。これもまた目標の達成に寄与した。

② 受講生が大いに満足してくれている様子が伝わり安心した。

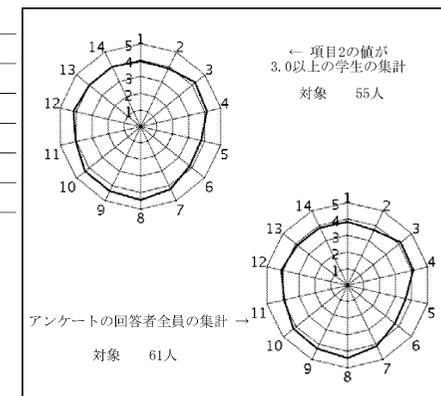
全学平均および経済学科平均と比較して何ら遜色ない。自由記述式設問への回答も好意的な意見が多い。

③ 良好な評価だが、改善のための努力を継続したい。

本学に着任して間もないこともあり、まだ本学の学生の様子が分からない部分もある。授業を進めるスピードや盛り込む内容のみならず授業の運営方法全般も含めて、しばらくは試行錯誤することになる。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 特別テーマ講義(経済分析の方法)B  
授業コード 40D24-001  
教員名 上田 薫  
教員コード 016832  
登録人数 289  
回答数 61  
回答率 21.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

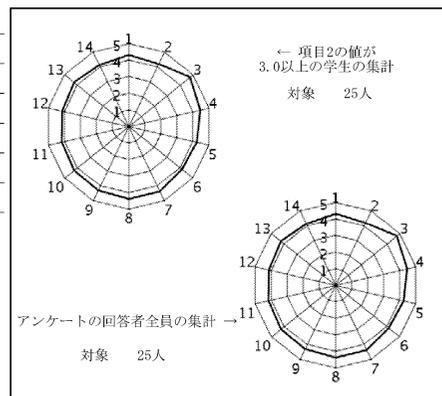
現実の社会において、人々は市場取引以外の側面で直接的な相互作用を持ちながら活動を行なっている。この授業はこうした相互作用のうち特に外部経済効果と呼ばれるものがもたらす結果と政策的介入の必要性を考えるための基本的理論を修得することを学修目標としている。ミクロ経済学の基本知識を前提とした今回限りの特別講義であることから、これまで授業で教えたことの無い発展的内容も盛り込みつつ、数学的な理解と納得を得させることを試みた。

設問13と設問14の平均値が3.9弱という結果であり、初めての講義内容としてはおおむね成功したのではないかと考えている。設問3、7、8の平均値のいずれも4.0を超えており、プレゼンテーションに関しては問題ないようである。設問15、16の記述では、毎回の授業の始めに前回の内容を15分から20分程度の時間を掛けて復習したことへの賛否両論の書き込みがあったが、設問9の平均点が4.2を超えていることから、肯定的に受け止めた学生の方が多かったのではないかと考えている。

平均値が最低だったのは設問5の3.64である。それに従い設問6の点数も低くなっている。これに関しては、抽象的モデルの説明に時間をとられ理論の背景にある問題意識や応用に関する説明が不足した面があったのではないかと反省している。次回に類似のテーマで授業を行なう際の課題としたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 金融論B  
授業コード 40D29-001  
教員名 都築 栄司  
教員コード 103265  
登録人数 97  
回答数 25  
回答率 25.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

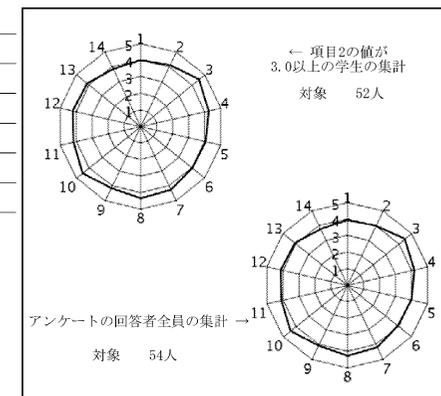
開講当初に予定していた講義の内容は過不足なく扱うことができた。また、期末試験の結果から、大半の受講生が当初予定していた到達目標に到達できていたことが分かった。

この科目には受講の上で若干の数学的な予備知識が必要されるため、数学を用いた議論が苦にならない人とそれを苦手とする人で理解の程度と速さに差が出ることは仕方がない。この点については、シラバスや初回のガイダンスで十分にアナウンスしている。毎時限、理解度の確認のための練習問題を配布している。授業内で解答の解説をするだけでなく、各自が自身のペースで再学習できるように、WebClassを活用している。毎回の講義資料もWebClassにアップロードしているが、煩雑にならない程度に、自習ができるよう幾分詳細な内容も反映した作りとしている。好評のようなので続けていきたい。

すでに述べたように、分析方法それ自体の理解度は十分であると思われるが、実践（実際の問題への応用）については、時間的な制約もあり、あまり詳細には扱わなかった。吸収した知識をいかに身の回りの事柄に役立てられるかは、学問の習得において最も重要なことの1つであると思われるので、今後はそのような内容をさらに充実させることを目指したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域経済学B  
授業コード 40D41-001  
教員名 相浦 洋志  
教員コード 103642  
登録人数 247  
回答数 54  
回答率 21.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

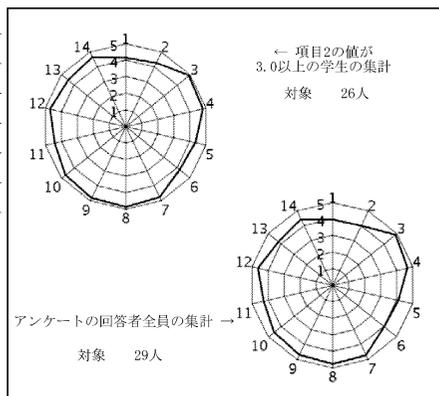


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、地域の経済政策や公共政策をマクロ経済学およびミクロ経済学の知識をベースに解説を行いました。期末試験の結果を見る限り受講生はおおむね理解できたのではないかと思います。本クォータでは、前クォータで評価が得られたアクティブラーニングの手法を取り入れました。しかしながら、これはシラバスに記載したものではなく、授業アンケートの自由記載欄に「シラバスに書かれていないことが行われた」との記述が10件強寄せられました。この為か、授業アンケートの「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」の項目の評価が3.76と学部平均を大きく下回ってしまいました。来年度以降のシラバスには、アクティブラーニングを行う旨を記載し、受講生の混乱を招かないようにすることで、受講生の満足度の向上に努めます。また、レポートの採点についての周知が十分に伝わらなかったため、レポートの採点結果について異議を唱える学生がいました。学生が納得できる評価となるよう、学生に情報提供を行いたいです。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	西洋経済史B
授業コード	40D61-001
教員名	梅垣 宏嗣
教員コード	102397
登録人数	48
回答数	29
回答率	60.4%
休講回数	1回
補講回数	1回



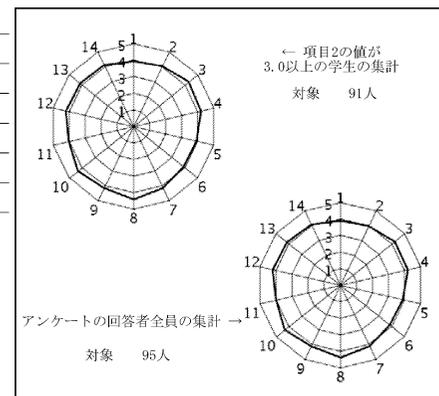
授業評価結果を踏まえた点検・評価

難易度は例年並み、もしくはそれ以上に設定したが、定期試験の結果は極めて良好であった。毎回、講義の後半に練習問題を出題し、学生が解答する時間をとり、その解説を行い、次の回の冒頭でも復習したことが、好結果につながったものと思われる。自由記述欄における学生からのコメントを見ても、その点が好意的に受け止められていることがわかる。また、数値データに関しては、特に問題となる点は見受けられない。

ただし、練習問題を出題し、それを解説するというやり方は、練習問題として出題した箇所の理解を深めることには役立つが、学生の側からすれば、練習問題の箇所だけやっていたら良いということになり、その他の箇所を軽視することにつながりかねない。それでは、身につく経済史的知識の幅をかえて狭めてしまうだろう。そのため、単位さえ取得できたら良いと考え、必ずしも知識の習得に積極的でない学生にも、できるだけ興味を持ってもらうための工夫、より幅広い知識を身につけてもらうための工夫が、今後必要となる。そのために、講義内容として教える「べき」ことだけに拘泥するのではなく、歴史に興味を持つ入り口となるような内容も採り入れていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	特別テーマ講義(歴史と思想)B
授業コード	40D71-001
教員名	阪本 俊生
教員コード	017020
登録人数	307
回答数	95
回答率	30.9%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回、この講義科目ははじめてであり、人数も多かったので心配であったが、とくに低い結果というわけでもなかったので、まずは安心した。内容について、4に達しなかったのは、設問1、2、5、6であった。設問1と2は、あらかじめ興味を持っていたか、ということ予習や復習をおこなったかといったことだが、経済学部の学生に社会学的観点を教えることの難しさもあると感じている。学生によって好みが変わるところであろう。ただ、回答を分析すると、設問1で1や2(興味なし)と答えた学生で、設問14で5と(この授業に満足した)と答えた学生が2名いたことはうれしく感じた。設問5(到達目標の理解)は、授業中に説明したつもりであったが、目標そのものの理解が難しかったという面もあるかもしれない。この設問5で3以下の回答をした者の大半が、設問1でも3以下であった。また設問14(最終の満足度)でも5の回答の学生は一人もいなかった。関心を掘り起こすことの難しさを感じた。設問6(到達目標に向けて力がついてきているか)が3以下の学生は、やはり設問14の満足度が低い傾向が見られた。到達目標の設定をさらに明確にし、学生に認識させることの重要性を知り、今後、この点をとくに改善したいと考えている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 時事英語B3  
授業コード 40E07-003  
教員名 V. Bose, James  
教員コード 100757  
登録人数 15  
回答数 4  
回答率 26.7%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

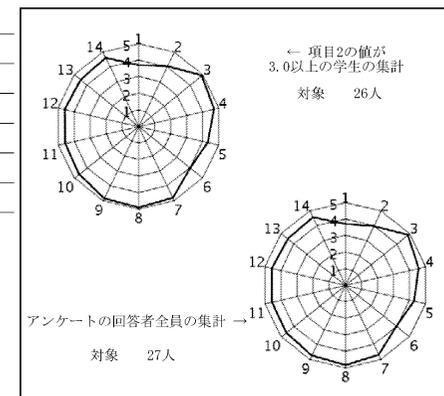
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objectives set were 1.To enable and motivate the students to understand the essential elements of correct English sentences, that they may learn to write such sentences. 2.To help the students to write such sentences on relevant topics, and arrange such sentences in logical order to form a GOOD ENGLISH PARAGRAPH. 3. To help the students to understand the essential elements of such a paragraph and introduce them to different types of English Paragraphs. To achieve these objectives, the following steps were taken 1. After consulting with my more experienced colleagues, appropriate text-books were selected for the course. 2. Basing on the contents of the text-books, appropriate audio-listening exercises and pair/group activities, were provided in the class. 3. Focusing on the text-books and the fundamentals of English grammar, on a lower to higher basis, I prepared teaching materials for students, with activities for class-room and home. 4. To help the students to cope with their insufficient competence in English, I prepared the relevant portions of such materials in English and Japanese. 5. In the first class, a bi-lingual (English and Japanese) hand-out, which clearly explains the course structure, objectives, policies of attendance and grading, was given to students, so that they know all they need to know about the course. In view of the students' participation in the class, and observing their performance in the final examination, I feel that the objectives set were largely achieved, and the students have improved their communication and writing skills in English.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済と人間の尊厳5  
授業コード 10D04-005  
教員名 高田 一樹  
教員コード 102887  
登録人数 39  
回答数 27  
回答率 69.2%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

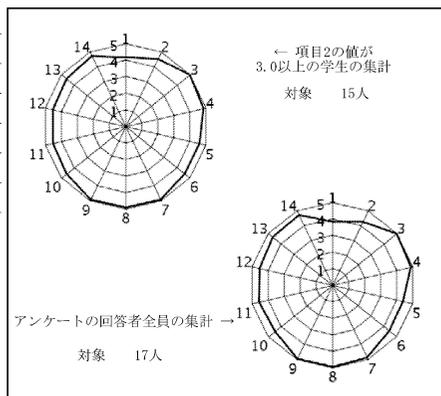


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) 政治、経済、経営など社会科学を対象とする被験者研究を講義のテーマに掲げ、人間の尊厳への理解を深めることを目標として授業を行った。研究倫理が問われる背景には研究上の不正行為と被験者を手段化する「人体実験」の歴史があり、インフォームド・コンセントやIRB制度など、被験者への倫理的配慮と公正な研究に資する理解を深めることに授業の重点をおいた。また各回の後半では、研究倫理を問う具体的な場面を設定し、レジュメに受講者各自の意見を筆記で回答させる機会を設けた。受講状況もおおむね良好であり、当初の授業計画をほぼ達成できたと考えている。
- (2) 全体を通じて4点台の中盤の評価を受けた。また設問14の授業への満足度も4.56点だったことから、おおむね肯定的な授業評価を受けたと考えている。受講者が入力した自由記述から、授業途中で用いた動画や写真などの視聴覚資料と、創作、または史実に基づいて作成した研究倫理を問う事例（ケース）を活用したことが、研究倫理という抽象度の高いテーマにもかかわらず、受講者の興味を喚起した1要因と推測している。
- (3) 設問6の評価が4点台を下回ったことから、受講者の理解を確認する手立てとして、今学期以上に双方向的な授業運営を検討したい。視聴覚教材およびケースの利用が受講者の肯定的な評価につながっていると推測されることから、教材研究もさらに深化させたいと考えている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会学B5  
授業コード 12C07-005  
教員名 堀田 治  
教員コード 103646  
登録人数 88  
回答数 17  
回答率 19.3%  
休講回数 1回  
補講回数 1回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

■目標と到達の程度

「舞台芸術と社会の関わり、社会への影響を理解」については、舞台芸術が各時代・各地域でどのように機能し、相互作用してきたを解説した。今回は特に、統治者や自治体による援助・助成がどのように変遷してきたかを現代の企業メセナとの比較によって論じ、理解が深まったと考える。「古典的な作品を知り、興味を持ち理解」については、数多くの名作や歴史に残る名演を映像で見ながら、背景と内容、その時代における意味、現代に繋がる価値について解説した。「様々な機会を知り、鑑賞をよりよくできる」は、授業で多様な作品を紹介したことをもとに、最終課題として鑑賞機会を各自選びレポート提出させた。初めて舞台芸術を生で見たという学生も多く、舞台に触れるよい機会となった。

■総合的な自己評価

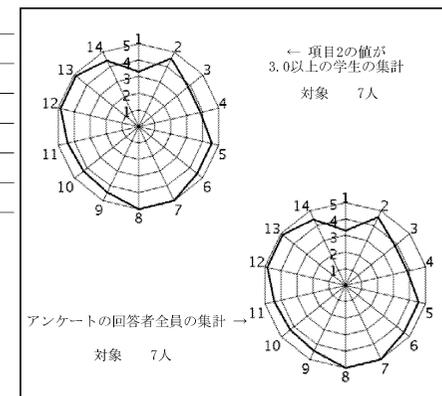
項目3～14の授業評価は4.70で、熱意や真剣さ、視聴覚教材の豊富な点が特に評価が高かった。「バレエやオペラは敷居が高く、実際に見に行くというのは難しかったので、DVDで色々見せてもらったのは嬉しかった」「作品を観るのが面白くなった。それを繰り返すことで舞台芸術の自分なりの見方も見つけられた」と回答があった。作品の感想や気づきなどを毎時間欠かすことなく提出させたのも、聴取力と感性を高め効果的だったと考える。

■今後に向けて

1限の出席を確認し、また出席率を高めるために、鑑賞の感想を1限と2限に分けて提出をさせた。用紙を出席者数に合わせ配布したが、途中から複数枚受け取る現象があり、形骸化した面があった。次回は一層方法を工夫したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報機器の操作4  
授業コード 14D02-004  
教員名 長谷川 高則  
教員コード 000162  
登録人数 10  
回答数 7  
回答率 70.0%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 授業目標

この授業ではMS-Officeのソフトウェアを学習し、学びの場におけるICTを有効に活用できるスキルの習得を目標としている。今回は受講者数が少ないクラスであったが、パソコンのスキル差は大きく授業の進行速度に大変苦慮した。

2. 目標達成度

出席状況は人数が少ないにもかかわらず通常より欠席数が多く、パソコンのスキル差の影響もあり、開講当初に設定した授業計画は80%ぐらいしか達成することができなかった。レポート評価は優れた内容のものが多く、設問13(新しい技術・能力を得た)の評価平均値も通常より高かった。

3. 授業評価

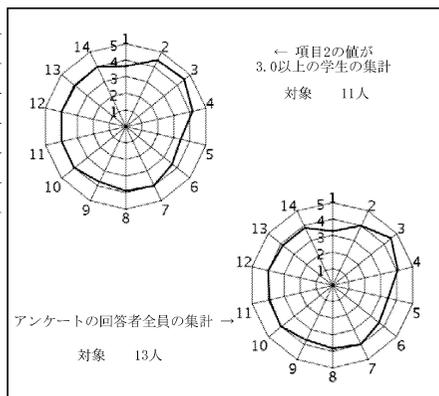
前回のアンケートと比較すると、全設問の平均値は4.27から4.43に僅かながら向上した。設問別の評価平均値を見ると、評価が高いのは設問7(教員の授業に取り組む姿勢)5.00、設問8(教員の声や音声機器の音)5.00であり、評価が低いのは設問1(授業内容への興味)3.29、設問4(授業の進行速度)3.86であった。設問1の評価を改善するのは履修前の事なので難題ではあるが、事前学習用のデジタル教材を作成し改善したいと思う。

4. 今後の抱負

授業の進度・課題のボリュームを慎重に調整しながら、eラーニングを利用して次世代の学校・地域の創生に対応する内容を取り入れ、パソコンが苦手な受講者にも興味をわく理解しやすい充実した授業になるように、今後も検討を続けていきたいと思う。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数学I12  
授業コード 42B04-002  
教員名 宮元 忠敏  
教員コード 017293  
登録人数 100  
回答数 13  
回答率 13.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標： 微積分の初歩を学ぶ。具体的には、平均変化率、極限、微分係数、導関数、接線、増減表、不定積分、定積分、平均値の定理、テーラー展開、マクローリン展開、2変数関数、等高線、偏微分、勾配ベクトル、停留点、極値の判定である。

到達の程度： 講義全体は3部から構成されており、初めの2部は、高校数学IIと高校数学IIIの一部を扱っている。また、最後の1部は、2変数関数の分析にあててある。概ね、シラバスに従って進行できた。ただし、次の3点を補足したい。(1) 証明にあたるものはそのアイデアと例示にとどまる場合が多い。(2) 中間値の定理、二分法は時間の関係上、飛ばした。(3) 取り扱う関数は整式、分数、指数、対数で表現されるものに限定してある。

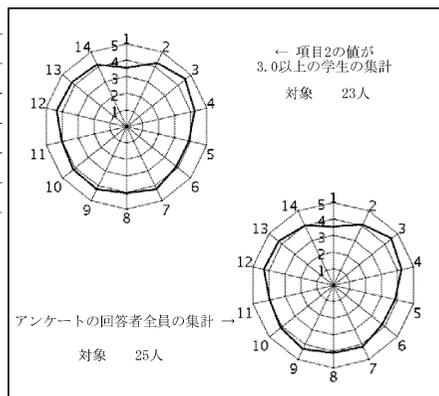
総合的な自己点検・評価： サンプル数が少ないが、当該科目にたいする履修生の履修前の関心は、3.23である。また、履修による新しい知識、理解が深まったとするは、3.85である。講義の開始、終了時間が守られていたとするが、4.56である。平均3.8-3.9あたりの評価である。自由記述欄には、記載が存在しない。

改善点、今後の抱負、方針： 講義形式の授業であるが、2回目以降の授業構成は、次のようであったが、これを踏襲したい。

(1) 前回の講義内容の復習のためのテストとその解説、(2) (1)をその回のテーマにつなげ、メニューの紹介(3) 実際の講義。 その他小テスト2回と期末テスト1回である。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数学I13  
授業コード 42B04-003  
教員名 池田 亮一  
教員コード 101880  
登録人数 97  
回答数 25  
回答率 25.8%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

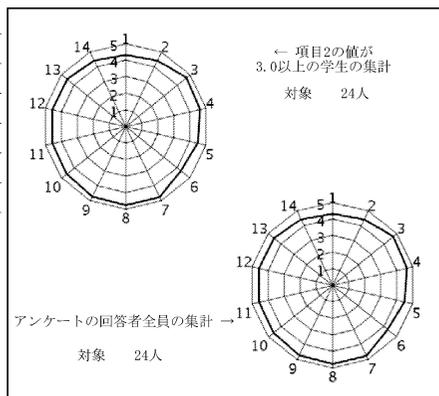


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標は微分法を学ぶことにより、グラフの増減の他、近似値や極限値を求められるようになることであった。配布した演習問題を授業中に解いてもらったが、その様子を見る限りは目標は達成できたように思われる。授業評価アンケートのコメント欄を見ても、良かった点に「全部」との喜ばしいものがあり、その評価が全員に当てはまるとは決して思わないが、概ね授業は高評価であったと結論付けたい。ただし授業評価の点数としては大学全体の平均を下回っており、この理由は余りよくわからない。そもそも、文系の学部で数学の授業を行うこと自体「アウェイ」なことであり、それが点数に反映されたのかもしれない。反省点があるとすれば、この数学IIはわたしにとって初めて行った授業であり、毎回配布したレジュメにミスプリが散見されたことであり、来年度は気をつけたいと思う。また、学部長から指摘された印刷物の量について、当初片面印刷だったものを両面にすることで対応したが、それについては特に不満が出なかったので今後はそのようにしてスマート化したいと思う。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 組織心理学B  
授業コード 42C26-001  
教員名 中尾 陽子  
教員コード 064188  
登録人数 43  
回答数 24  
回答率 55.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、到達目標として、組織における『個人』を対象とした組織心理学の研究領域に関して、

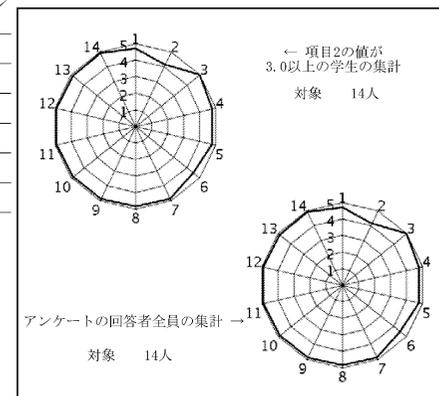
- ・各分野の概要を理解している
- ・基礎的な事項について説明できる
- ・生活の諸側面における具体的事象と心理学的知識を関連づけることができる

の3点を置き、進めてきました。

初めて心理学に触れる学生さんには心理学的な考え方や捉え方がピンとこない可能性もあるため、授業では、自分自身の体験と研究結果や理論を結びつけ、日常の中で起きていることから理解を深められるよう工夫をしてきました。しかし、到達目標へ近づけた実感に対する評定値は、全項目の中で最も低いという結果になりましたので、まだ工夫をしていく必要があると考えています。自由記述の内容からは、授業で毎回取り入れたグループワークが、参加者の学びを促進したり、参加意欲を高めることに繋がっていたと思われました。人とのわかちあいを通して視野が広げたり、様々な人と関わる機会を、今後も授業でも作っていきたいと考えています。ただ、グループワークの時間が不十分であった旨の意見もよせられているため、来年度に向けては、講義を通じた知的なインプットとグループワークの時間バランスを今一度検討していきたいと思えます。また、次年度に向けて、これまで以上に学生の皆さんがアクティブに学ぶことができるよう、ディスカッションのテーマも見直していきたいと考えています。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 マーケティング・コミュニケーションB  
授業コード 42C37-001  
教員名 川北 眞紀子  
教員コード 102879  
登録人数 41  
回答数 14  
回答率 34.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

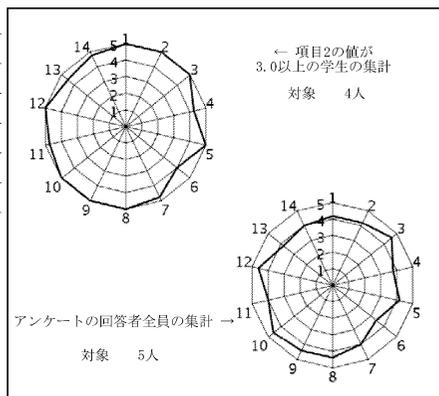
①基礎的な理解については、最終テストの結果からある程度の理解が得られていることが伺える。プレスリリースについては、まだ、社会の関心事といった視点を獲得することはできていない学生が多いが、作成するという意味は理解されているようだ。また、多くのステークホルダーの視点から組織を見ることができたかどうかは、授業内容を理解してくれていれば獲得できてはいるはずである。

②学生からの評価は全体的に高い。14番の全体満足の項目は4.93である。他の項目もかなり高いものがあり、たとえば13番の自身の能力や理解の項目の平均が4.86となっているため、力がついたと感じているようだ。自由記述の回答では、「実際にプレスリリースをかいてみて、第三者から評価してもらえたことは貴重な経験ができたと感じました」などの意見があった。改善点としては、「基本ひとりで受けていたので、インターンなどで授業を休んでしまったときに困りました」とある。これについては、出席した人が有利になるように授業を設計しているため、それほど改善はできない。

③出席率があまりよくない上、遅れてくる学生が多い。今後は、授業内でのミニテストを授業の最初に行うなど、何か工夫をしたい。次年度は前半の授業の受講態度を見てから講師を呼ぶかどうか決めることにしたい。また、テストや課題が多いと受講生の数そのものが減少してきているのが気になる。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営分析論B  
 授業コード 42C41-001  
 教員名 齋藤 孝一  
 教員コード 018259  
 登録人数 17  
 回答数 5  
 回答率 29.4%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

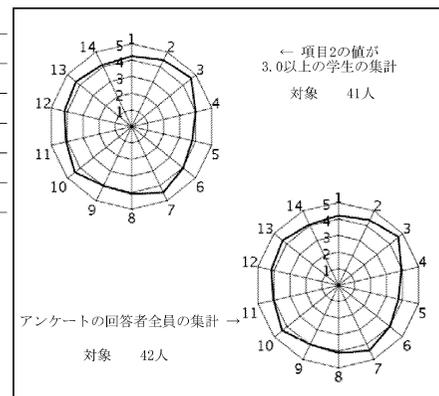


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は、自己資本利益率、総資産利益率とその構成要素を企業の有価証券報告書から計算し、過去10年度の推移と2014年の「伊藤レポート」、2017年の「未来投資戦略」との関連について取り上げたものである。アンケートの結果と見ると、設問1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味をもっていましたか。」は4.20、設問2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」は4.20、設問5「この授業の到達目標を理解することができましたか。」は4.20、設問9「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板所、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。」は4.40、設問11「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。」は4.00、設問12「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。」は4.60であった。一方で、設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」は3.40、設問13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」は3.80であったので、これらの点を考慮し、授業をより良いものに改善したいと考えている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報処理B  
 授業コード 42D03-001  
 教員名 姜 秉国  
 教員コード 019547  
 登録人数 49  
 回答数 42  
 回答率 85.7%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



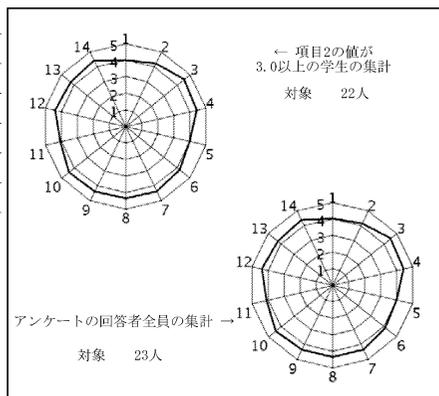
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は「ビジネス情報の基本的な加工・分析ができること」と「簡単な事務処理の自動化システムの構築ができること」であった。登録した学生のExcelの使い方に関する習熟度にばらつきが大きいため、講義内容に対する学生の理解度に合わせて進めていく必要があった。評価項目全般にわり良い評価を得ており、現段階で特に改善を要する点は見当たらない。学生の出席、レポート、発表内容からみて、授業の目標は十分達成されたものと判断している。自由記述式設問（この授業の良かった点、評価できることは何ですか）の回答には、以下のようなコメントがあった。

- －わからないところを丁寧に教えてくれる
- －パソコンの技術を得られる
- －マクロの使用方法を理解することができた点
- －文系の自分でもすごくわかりやすく説明してくださって、マクロに関する知識がついた。
- －プログラミングの基礎が知ることが出来るので、独学ではやりにくいことが学べる。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営環境論B  
授業コード 42E06-001  
教員名 薫 祥哲  
教員コード 018168  
登録人数 51  
回答数 23  
回答率 45.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

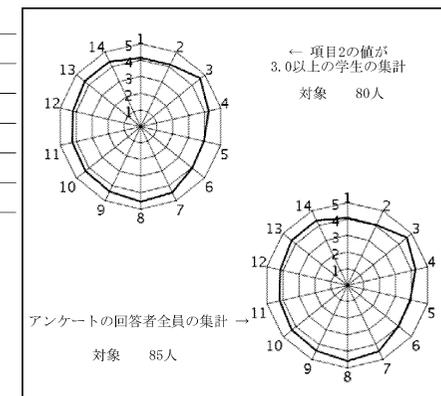
漁業資源の最適利用や、資源をどこまでリサイクルすべきか等のトピックについて理論的な講義を行った。また、米国における2大環境法規制である「大気浄化法」と「水質浄化法」を取り上げ、環境改善のための法規制がどのようなプロセスで進められ、どのような問題点があるのかについても解説した。授業では毎回レジメを配布し、その内容に沿って講義を進めると共に、関連する新聞記事を多数配布して受講生が理解を深めるように工夫した。さらに、学期中に講義トピックに関連した練習問題のレポート課題を2回出し、レポート提出後に授業で解答を説明した。環境政策を進めるためには費用便益分析が重要であり、環境資源の最適利用を考えるための経済学的アプローチを理解する事を目標とした。

今回の授業評価では、全体としての満足度についての設問14の平均値は4.39であった。また、設問2で尋ねられている「予習・復習や主体的な授業参加」についての平均値が4.15と例年より上昇していた点は満足できる結果であり、当初設定した目標は概ね達成されたと判断している。

自由記述欄では、良かった点として「分かりやすく説明されていた」「モニターやホワイトボードを適切に使用していた」「授業に関する新聞記事が紹介されたため理解が深まった」といった記載があった。一方、改善点として「もう少しゆっくり話してほしい」との指摘があったため、今後注意したい。今回は教室に大きなディスプレイ・モニターがあり、ここへ様々な資料やPC画面を映し出して授業を進める事ができ、とても効果が高く良かった。これからも、このような教材ディスプレイ装置を利用して行きたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法と経済学  
授業コード 42E08-001  
教員名 後藤 剛史  
教員コード 100374  
登録人数 196  
回答数 85  
回答率 43.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

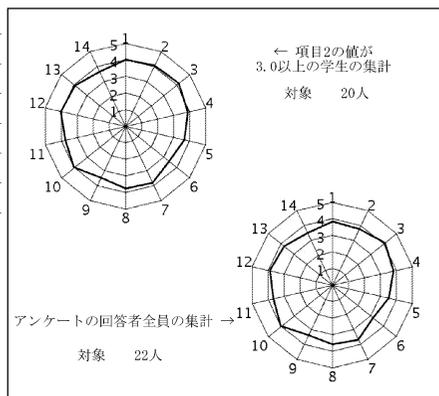


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①目標：法と経済学の基礎的な概念について、学生諸君に十分に理解してもらう。到達程度：期末試験の成績を踏まえると、十分に到達できた。
- ②授業内で一度、出席調査を行なった。出席者は129で、期末試験受験者172に対して約75%、登録者196に対して約68%。出欠を取らない大教室の講義にしてはまずまずである。一方で、授業評価の回答者は85に留まった。教研支援事務室の指示通りに協力を呼びかけたのだが、残念である。全体的な満足度（設問14）の平均値は4.33で、経営学科の平均値4.31および登録者数121~240人科目の平均値4.27を上回っており、最低限の授業運営はできたものと自己評価する。自由記述欄の回答はそれほど多くはなく、「私語があまりなかったので授業が受けやすかったです。」との回答がある一方で「五月蠅い人が多すぎる。法学部の授業ではこんな事はほとんどない。先生もほとんど注意しない。意味がわからない。」との回答もあり、どちらを参考にすればよいか悩むところである。静かな環境であったと思っているが、法学部生の受講する科目では、より細心の注意をすべきなのかもしれない。
- ③「パワポ使ってほしい」との要望が1名からあったが、しっかり手を動かしてノートをとってもらおうという授業運営の方針上、この要望には従わない。授業プリントに書き込む欄が少ないとの要望が2件ほどあったので、次年度は改善したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	グローバル・ビジネス論B
授業コード	42E12-001
教員名	KHONDAKER, Rahman M.
教員コード	100361
登録人数	28
回答数	22
回答率	78.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

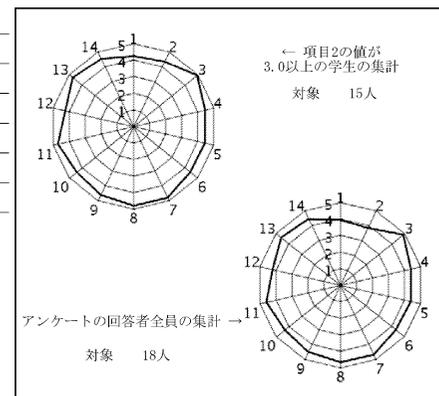


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、テキストや講義レジュメおよび関連資料を配布し、休講・補講なしで、シラバスを終了しました。シラバスの目的を全面的に達成したと思っている。設問1から設問2「授業への参加について」に関しては、2018年度第4クォーター全科目と経営学部の42001-001～42H04-999番台科目群とを比較すると、ある程度低い評価を受けている。設問3から設問7「授業全体について」の平均値4.66、4.35、4.11、4.06、4.47 に対して、本科目の評価は、4.09、3.82、3.55、3.18、3.68となっている。設問8から設問12「授業の運営について」では平均値4.51、4.38、4.41、4.29、4.37 に対して、本科目は3.59、3.36、4.00、3.68、3.91となっている。設問13から設問14「全体的な評価」では平均値4.37、4.31 に対して、本科目は3.77、3.50となっている。前歴がないから比較はできないが、一応全ての設問の評価が3.00以上になっている。設問15から17「自由記述」では、「ハンドアウトの中に授業の要点がまとめられており履修しやすかった；毎回読みやすいプリントだった；日本語のプリントを頑張っって用意してきた；配布資料が細かくてわかりやすかった」などの良いコメントと同時にいくつか批判的コメントもあった。「毎回授業が遅れてきて、始めるの遅く終わるのも遅い」については2回だけ理由があり2-3分遅くれてしまい、オン・ザ・スポットで学生に反省した。また、ある授業で1つの章が終わるところ、次回別の章から始めたかったので、学生に言う前から3-4分ぐらい授業を伸ばしたことがあった。「自分のお金でテキストをコピーすること」についてですが、最初の数回の授業に欠席した学生3名には最初に出した資料を「重要でないので再度配布しない、自分でコピーしてください」と言ったはずである。指摘のテキストの出版が遅れ、私が学部事務室に頼んだうえで履修者全員に1人当たり135枚のテキストを配布した。これは褒めるべきことだと思うが、批判を見て驚いた。今後もより高い評価水準をめざして様々な改善を試みる。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	オペレーションズ・リサーチB
授業コード	42E16-001
教員名	奥田 隆明
教員コード	102600
登録人数	50
回答数	18
回答率	36.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

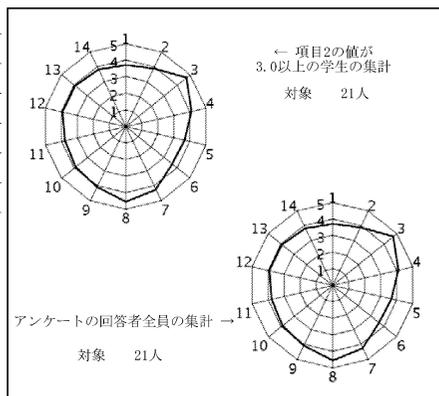


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は統計データを用いた物流分析を題材にして講義と演習を行った。数学や統計を得意としない受講生にも理解できるように、できる限り復習を行いながら授業を進めたが、当初の目標は概ね達成することができたと考えている。実際、受講生の学習意欲の誘引（設問11）は平均値4.61（学部平均4.04）、知識・理解（設問13）は平均値4.61（学部平均4.13）と高い値を示している。また、目標理解（設問5）は平均値4.39（学部平均3.86）、目標到達（設問7）は平均値4.33（学部平均3.83）と学部平均と比較すると高い値を示している。さらに、総合的な満足度（設問14）も平均値4.44（学部平均4.08）と比較的高い値を示している。自由回答欄を見ると、「分かりやすい」、「丁寧」との意見がある一方で、「進行が速い」、「スライドの字が小さい」の意見もあった。来年度は、今年度の経験も活かしながら、数学や統計を得意としない受講生にさらに理解できる内容したいと考えている。また、シラバスの内容についても改善を加えたいと考えている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(現代銀行論)  
授業コード 42F02-001  
教員名 山下 忠康  
教員コード 101152  
登録人数 118  
回答数 21  
回答率 17.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と実際の到達度

当初設定していた目標は以下の通り。

1. 一般的な有価証券報告書の形式が理解できる。
2. 銀行の有価証券報告書を読み取ることができる。
3. 銀行の経営戦略等の差異を有価証券報告書から分析できる。

期末の論述式筆記試験の結果をみる限り、おおむね当初目標を達成していたと考えている。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての自己点検・評価

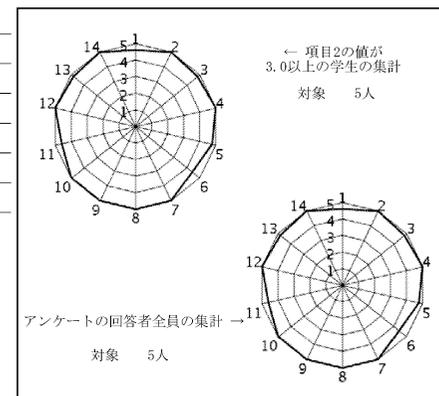
実際の有価証券報告書を教科書の代わりとして用いるという初めての試みだったので、教員側の準備不足は否めない。ただし、現実の銀行の経営状態や戦略を分析するには適切な資料があるので、今後とも活用していきたい。数値データに関しては、アンケートに参加してくれた学生が少ないため、参考値だが、全体的に学生の満足度が低いように感じる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針

学生の関心および満足度を高める工夫が不足していたと考えている。この点を次年度以降の改善につなげていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語ビジネス・ライティングB  
授業コード 42G13-001  
教員名 HEATHER, James  
教員コード 103649  
登録人数 9  
回答数 5  
回答率 55.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

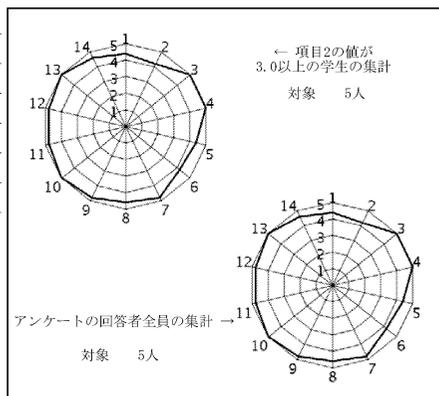
The goals of the course were completed successfully. The goals were to follow the textbook completing one unit and at least one assignment per week (2 classes). Completing a unit/assignment means: 1. The student has completed the textbook unit's activities and checked their answers with the teacher; 2. The student has received the assignment related to the textbook unit and completed writing their first draft; 3. The student has exchanged the first draft with another student in the class for proofreading; 4. The student has rewritten their proofread first copy; 5. The student has submitted final copy to teacher; 6. The student has completed the review worksheet.

The numerical data indicates students were satisfied with the course. The course is not difficult per se but it requires students to come to every class and complete the tasks by the deadline. The course load and the time limit a student has to complete each unit is challenging. There is no room for absences or the student will fall behind.

This course is well balanced and finely tuned as it is right now. If I was to make any changes perhaps I would consider adding a few more assignments.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Corporate Finance B<国際科目群>  
 授業コード 42G16-901  
 教員名 BREMER, Marc  
 教員コード 017913  
 登録人数 5  
 回答数 5  
 回答率 100.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is an advanced course that concentrates on some of the major issues in corporate finance. The focus is on making good financial decisions with regard to capital budgeting, dividend policy, debt policy and mergers. The course is offered in English. It uses a book written for the class along with specially developed PowerPoint slides.

The objectives of the course were achieved. Students refined their knowledge of the net present value method to make appropriate capital budgeting decisions. They learned about the capital asset pricing model as well as the Carhart four-factor model. They learned how dividend policy and investment policy are related, and in particular now understand the basic concepts underlying economic value added. Students also learned about the trade-off theory and the pecking order theory of capital structure.

The overall evaluation of the class by students was good. All students felt that the course was satisfying. The students gave the course a satisfaction rating of 4.60 which compares favorably to the Nanzan University average of 4.29. All students felt that the course improved their understanding of finance; they assigned a score of 5.00 to this metric. In general, the responses to the other questions were higher than the average of all Nanzan courses.

The students were very pleased with some of the additional material that we discussed in the class. There was special lecture on how to value reversible investments. We also discussed Japan's new code of corporate governance and the window dressing scandal at Toshiba.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語で学ぶ経営学(ビジネスとICT)  
 授業コード 42G27-001  
 教員名 BIERI, Thomas  
 教員コード 102517  
 登録人数 6  
 回答数 3  
 回答率 50.0%  
 休講回数 2 回  
 補講回数 2 回

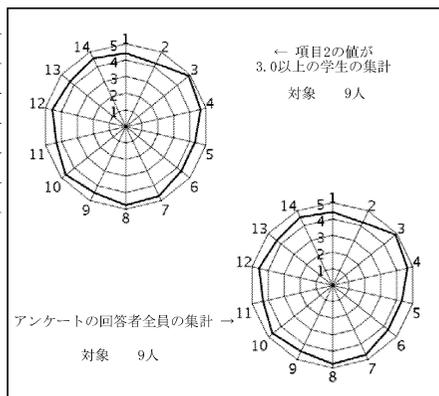
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

I believe that the goals in the syllabus were largely achieved, though I had hoped for more active and detailed discussions than actually took place, and all topics were addressed. In spite of giving class time and making other requests, only 3 students completed the questionnaire, and some expressed dissatisfaction with the feedback methodology for their university classes. The responses of the 3 were 4s and 5s for all items. Five students submitted final reflections which were not anonymous but which included an option to leave comments or suggestions for me. Comments in the two feedback modes indicated that the students appreciated the content of the course overall. They liked that they were actively involved by having regular discussion activities, though one student wanted more of the latter and one student felt the pace of lecture portion was sometimes too fast. Two comments praised the fact that materials could be accessed via a class website, and one student suggested that I push students to use that resource more. I will aim to refine my lectures, including providing more support for comprehension, and to find ways to encourage even more active discussion of the topics.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 工業簿記II  
 授業コード 42H04-001  
 教員名 窪田 祐一  
 教員コード 102901  
 登録人数 45  
 回答数 9  
 回答率 20.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した到達目標は、①標準原価計算について説明できること、②直接原価計算について説明できること、③本社・工場会計と製造企業の財務諸表について説明できることの三点であった。試験等の結果からは、各学生は、この到達目標に達していたものと推測できる。

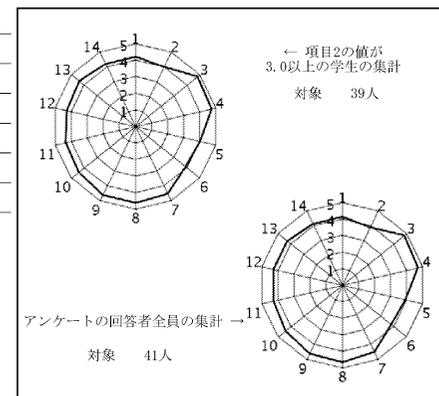
学生による授業評価においては、「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」の設問14に対して、4.56と全体平均4.29ならびに経営学科平均4.31よりも若干高い評価であり、それ以外も概ね好評価であった。一方で、設問13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」については、4.33と全体平均の4.34を下回った。

本授業科目は、工業簿記Iの受講が前提となっているが、一部の学生は受講していないこともあり、高度な内容を扱わずに基礎的内容の復習を含めたことが影響したものと考えられる。

今回の授業は、テキスト解説⇒問題演習⇒問題解説という流れで、学生に好評であったが、今後はもう少しビジネス実務に通じる高度な内容も含めるなどの工夫をしていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営学 / Management Studies  
 授業コード 48C15-001  
 教員名 湯本 祐司  
 教員コード 017533  
 登録人数 110  
 回答数 41  
 回答率 37.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

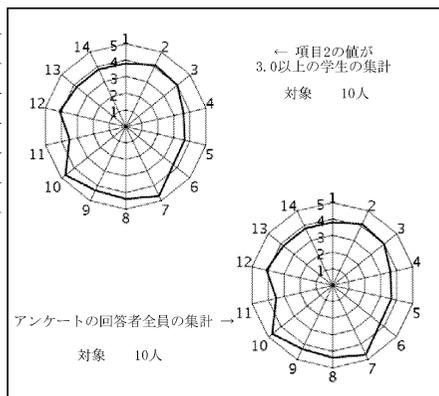


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は国際教養学科「学問知の基礎科目」の選択科目であり、登録している学生110名はすべて国際教養学科の2年次生である。到達目標は「経営戦略および関連する基本概念や理論が理解できる」「事例と理論の関連が理解できる」であり、授業中のリアクション・シートおよび定期試験の解答から判断する限り、かなりの学生は目標に到達している。学生の授業評価では履修登録者110名のうち41名が回答し、項目1から14の平均と項目3から14の平均はそれぞれ4.31と4.36であった。学生の評価が特に高かった設問は、3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか」(4.83)、4「毎回の授業の構成や進・速度は適切なものでしたか」(4.71)、8「教員の声や・声機器の・はよく聞き取れましたか」(4.66)、9「教員は学生の理解度に配慮し、また教科書、板書、配付資料、視聴覚資料などを効果的に使って適切に授業を進めましたか」(4.59)である。一方、7「あなたはこの授業の到達・標に向けて・がついてきていると思いますか」が平均値3.80で比較的低かった。経営学を初めて学ぶ学生がほとんどであり、かなり戸惑ったようである。自由記述欄には、「具体例が多く、経営学が身近に感じて興味が持てた」「CMなどの動画視聴が面白かった」「グループワークなどで学生が主体的に学習する場面があった」など好意的なコメントが多かったが、「もっと英語の教材や英語圏の事例を入れて欲しかった」という要望があった。次年度にはこの要望に応じて、もう少し英文教材・英語圏事例を増やすつもりである。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法と人間の尊厳2  
授業コード 10D05-002  
教員名 服部 寛  
教員コード 103600  
登録人数 31  
回答数 10  
回答率 32.3%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

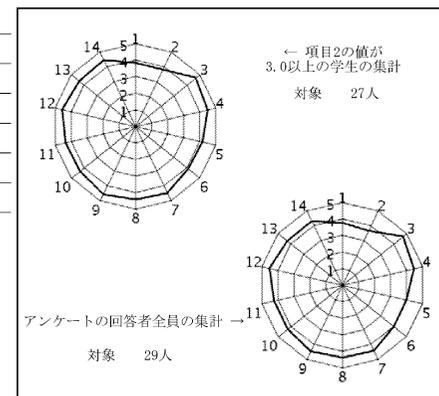
昨年度の同科目に比べて、総じて評価が上がった。これは、昨年度における諸課題を一つずつクリアし、とりわけ、受講者にとって分かりやすい題材を、急ぎすぎないように扱ったことが、功を奏したと思われる。小規模サイズの講義ながら——あるいはその強みを生かして——、受講者の反応に敏感となり、これに応じて、進度の緩急、問題のテーマの浅深などにつき、臨機に対処を行えたことに加え、受講者が総じて意欲的であったという状況も、今回の（高・好）評価の一因となったものと推察する。

他面で、数値が前年度から下がった、設問5・設問11については、15回の講義全体につき、まだタイトになっておらず、授業内容のメリハリなどをつけることについて、まだ改善の余地があるものと内省している。とりわけ、とりあげる素材に関して、できるだけ最近のものを取り上げ、ヴィジュアル面でも分かりやすい教材（新聞記事、ホームページなど）の有効活用をはかり、より興味関心を持ってもらえるようにしたい。授業の進捗についても、予習・復習を効果的に配することにより、シラバスにそった形のものになるよう、改善をはかりたい。

今回のデータは励みになるが、これで慢心しないよう、講義の内容をより洗練していくように心がけたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本国憲法4  
授業コード 12C03-004  
教員名 沢登 文治  
教員コード 017863  
登録人数 77  
回答数 29  
回答率 37.7%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

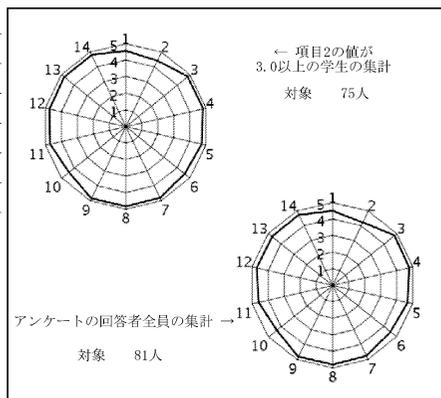


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
設問5（到達目標を理解すること）および設問6（到達目標に向けて力がついてきている）が、いずれも4.00と低かった点は意外であったが、真摯に受けとめ、来年度からさらによく理解した上で学習してもらえる方策を考えていきたい。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
設問3（授業の開始・終了時間）については、当然ながら4.72と高かったが、逆に守らなかったことはないのに5.0とならないのも意外であった。継続して厳守につとめたい。  
設問13（新しい知識・理解の深まり）が4.28、設問14（全体満足度）4.31とそれほどでもないのに、両者のバランスを取りながら向上に努めたい。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
授業中に2度3度と時間を使って、回答を呼び掛けたが、受講生数が70人以上であるにもかかわらず、回答数が29人と半数以下であり、さらに効果的な呼びかけを心がけなければならないと感じた。また、自由記載欄項目15では、以下のような記述があり、一定の評価と励ましをもらうことができた点はあると感じるとともに、今後も継続していきたい。  
項目15 この授業の良かった点、評価できることは何ですか。  
質問時間を設けている点が多かった。  
不適切な行為には指摘があり、快適な授業づくりに努めていた。  
授業で使うプリントが、webクラスですべて公開されており、予習がしやすかったことです。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人権をめぐる5  
授業コード 13C05-005  
教員名 森山 花鈴  
教員コード 103223  
登録人数 180  
回答数 81  
回答率 45.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

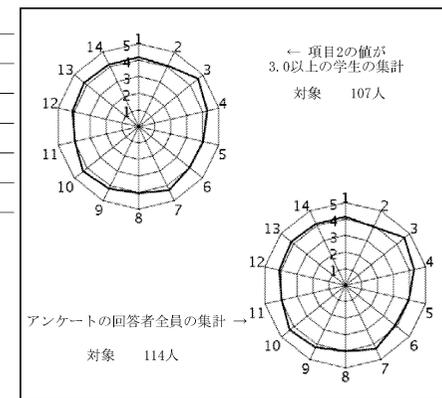


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標については到達していると考えられる。自殺問題に代表される人権をめぐる問題について、学生自身が深く考え、学んでいることがリアクションペーパーやレポート課題から確認することができた。
- ②すべての設問において、大学全体の平均値、学際科目での平均値、科目登録者数別集計の平均値を超えることができた。ただし、設問1～14の平均4.64（設問3～14の平均は4.69）となっているものの、その中で設問2の予習・復習の項目については4.21とやや低いため、予習・復習用の課題をもう少し充実させたいと考える。また、設問10の私語・遅刻に対する注意も平均的な点数であるため、もう少し注意していきたい。自由記述欄では、板書の字と大きさについて高い評価があり、さらにリアクションペーパーを通じて毎回学生からの質問に答えていたことに対して、「分からなかったことを次の授業で解決できてよかった」等の評価が多かった。これまでの授業でも多く評価があがっていたが、オリジナル教材や映像教材も併用した点に対する評価もあがっており、「映像資料を活用していて、実感を持って授業に取り組めた」との評価も多かった。今後丁寧な授業を心がけていきたいと思う。
- ③丁寧な授業であるという評価の反面、やや繰り返しも多いという指摘も一部あったので、少し全体の構成を見直していきたい。また、授業の受講人数が多くなるケースが多いが、次クォーター以降も学生の状況に応じて授業運営の方法を適宜見直していきたいと考える。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民法総論B  
授業コード 44A09-001  
教員名 副田 隆重  
教員コード 045880  
登録人数 285  
回答数 114  
回答率 40.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

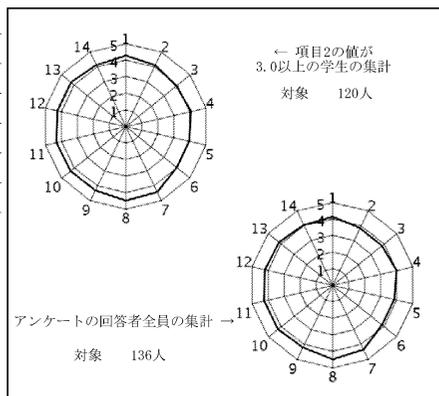


授業評価結果を踏まえた点検・評価

民法総論Bの授業評価については、前年度との比較より、むしろ第三クォーターに開講された民法総論Aとの比較が有用と思われる。そうした観点からすれば、前クォーターの民法総論Aの平均値は3.84に対して、今回は4.16と0.32ポイントの改善があり、また前回4点に満たなかった項目が11項目中に9項目あったのに対して、今回は3項目に大きく減少した。個別の意見に関して、前クォーターにおける改善を求める意見として、比較的におおかった、「板書の字が小さくて読みにくい」趣旨のコメントがなくなり（ただし、大きさは改善されたがマーカーのインクが薄いとの意見あり）、その他の項目も一定の改善が窺える。とはいえ、300人近い登録人数であり、大教室の講義のほぼ平均値に到達したにすぎず、法学部科目の平均値にはまだ届いていない。全体の向上を引き続きめざすとともに、低評価の項目について個別の対応も要請されよう。最も低い評価である項目6は、「あなたはこの授業の務到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」であるが、到達目標を自覚的に示し、例題などを授業時間中に解かせたり、学生を指名して発言を求めるなど方策を試してみたい。講義の中でさまざまな内容を取り上げることは、授業時間との関係で限界があるが試行的に取り上げてみることは一考に値しよう。また、レジメを開講時に用意して配布する点は好評価のようであることから、可能な限り踏襲したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 刑法総論B  
授業コード 44A11-001  
教員名 水留 正流  
教員コード 101566  
登録人数 299  
回答数 136  
回答率 45.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

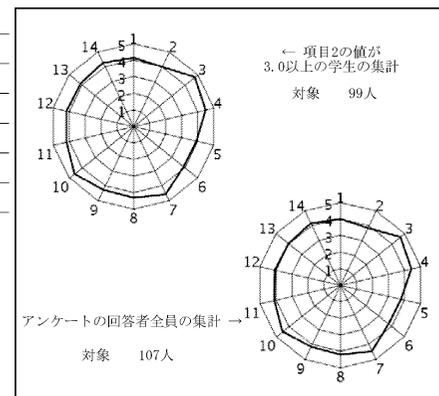


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 故意の単独犯という基本的な類型を理解していることを前提に、共犯などのやや複雑な事例での犯罪の成否の検討方法の体得することが、本講義の到達目標であった。
2. 項目全体の平均が4点を超えたこともあり、一定の評価を得たものと考えられる。ただし、昨年度との比較では、設問5（到達目標の理解度：3.85）及び設問6（到達目標の実現感：3.85）の得点がかなり低下してしまった。  
この点、自由記述中に、事例検討に対する模範解答例がほしいとの意見が多くみられることが興味深い。ただし、模範解答例の提示は、法律問題の解決が常に一つの「正解」に定まるとの誤解、あるいはそうした「正解」を暗記すればよいとの誤解を与えかねない。それが、法律的に問題を考えるセンスを育むという法学教育の目標と齟齬しうるとの懸念も拭えない。とはいえ、自由記述にもあるように、この授業でも司法試験等でも、筆記試験で成績を評価しているのも事実である。ドイツなどでは大学教員による解答付き問題集も多く出版されている。この授業でも、授業参加者の納得度も高いよりよい方法を模索したい。
3. 1年生全員が履修する授業でもあり、毎年有機會で、有用と思われる大学や学部の情報をアナウンスしている。自由記述ではこれに対する高評価が散見される一方で、今年度は、アナウンスが長すぎて授業の進度に影響を与えたとの指摘もあった。次の機会ではこの点にも留意して授業を進めたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 刑事訴訟法B  
授業コード 44B10-001  
教員名 岡田 悦典  
教員コード 100621  
登録人数 243  
回答数 107  
回答率 44.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

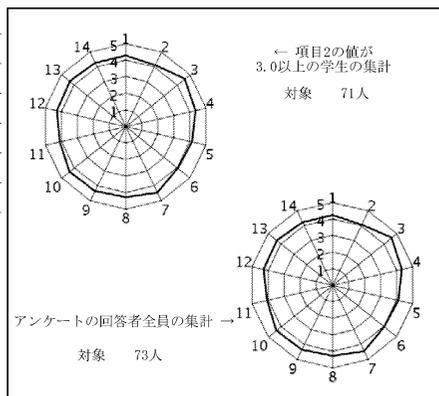


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回、比較的评价がいつもより低かったことで、大いに反省すべきである。もっとも評価が低いのは、授業目標を理解できていたのか、とその目標に向かって努力できたのか、ということである。いずれも3点台であることは、大いに反省すべきである。また、久々の刑事訴訟法Bの講義であったので、以前の講義経験が積み上げできなかったことも大きかった。今後、具体的な目標設定を考えるとともに、講義の中身も反省を加えて改編していきたいと思う。また、板書の文字が薄くて見えづらいという評価が本当に自由記述で多かった。この点も改善したい。また、12、13の評価も相対的に低かったことは反省点である。もっとも最大の要因は、証拠法の分野、証拠開示の分野が絡んでいたため、内容が難しく、受講生、特に学部生にとって理解しがたかったこと、また、何のための話なのかを、十分に説明できていなかったからだと思われる。さらには、教科書として指定した教材との連動についても指摘している学生もいたので、総合的に、コンテンツの充実を学部生向けに考えていかなければならないように思われる。また、質問の機会を十分に設けたかどうか、についても、今後、そのような時間を設けるべく、検討していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 家族法B  
授業コード 44B21-001  
教員名 伊藤 司  
教員コード 100474  
登録人数 212  
回答数 73  
回答率 34.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



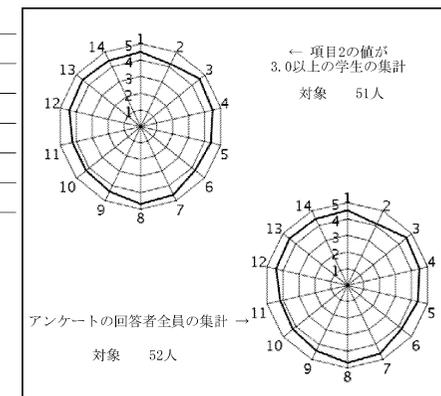
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義は、民法第五編「相続」を概説するもので、民法の条文を使用して、家族法上のいろいろな問題解決の方法を学んでいくことが到達目標となる。今年には特に講義期間中にこの部分の改正が成立し、それについての知識も必要となった点でややこちらとしてははてんでこ舞いであった。それでも学生からはおおむね高評価をえることができ、特に不満も漏らされていないようである。ここから特に早急に改善すべき点などはないように思われるが、これに慢心することなくよりよい講義を追求していくべきであろう。

また以前から指摘してきた点であるが、講義の出席者に比較してアンケートの解答者が少ない。これは以前も指摘した点が、もしも授業評価アンケートに協力をする気のない学生が多いということであれば、アンケートのあり方自体を再検討する時期にきているように思われる。講義時間をこれだけ費消して行うべきアンケートであるのかどうか、あるいは毎回全教員を対象にすべきかどうかなど、検討すべき点は多いように思われる。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 労働法B  
授業コード 44B28-001  
教員名 緒方 桂子  
教員コード 103261  
登録人数 376  
回答数 52  
回答率 13.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

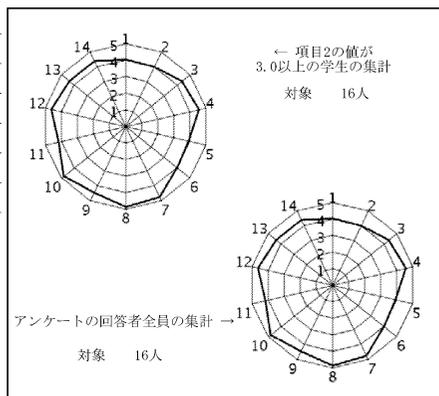
この授業では、第3Qに開講した労働法Iの授業に続ける形で、労働時間法制、解雇、非正規労働法制、集团的労働関係について講義した。

授業の目的は、取りあげたテーマに関わる基本的な法令の理解及びその解釈、そして具体的な事案への適用にある。授業後の質問、とりわけ定期試験が近くなった時期の授業後の質問を聞いていると、非常によく理解し、学習を進めている学生がいることがわかり、たいへん喜びを感じた。受講生の大多数がというわけではないにしても、授業の効果が出ているように思われる。

次年度も、同様の方針で臨みたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際私法B  
授業コード 44B30-001  
教員名 青木 清  
教員コード 017855  
登録人数 42  
回答数 16  
回答率 38.1%  
休講回数 2 回  
補講回数 3 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講登録が、42名と今期もたいへん少なかった。例年の200人規模の講義に比べると、受講者一人ひとりに質問をし、その反応を踏まえて授業を進めることができ、講義としては丁寧にできたと考えている。ただ、受講者からすると、繰り返し質問をされるため、負担感の伴う講義であったかもしれない。

到達目標として、下記の4点をあげていた。

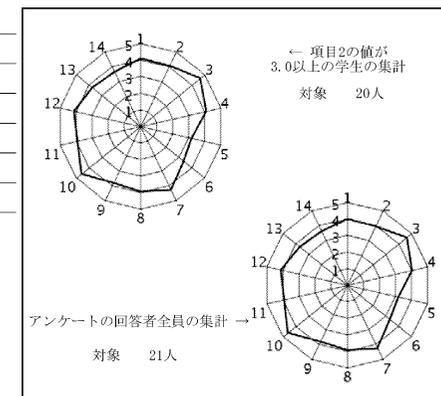
1. 準拠法の決定の仕方を理解する。
2. 決定された準拠法の適用の仕方を理解する。
3. 国際裁判管轄の構造を理解する。
4. 涉外事件の処理の基本を説明することできる。

国際私法特有の構造になじめず苦労した学生がいたことが、評価結果からうかがえる。唯一の3点台(3.94)項目が、「この授業の到達目標を理解することができましたか。」というものだったからである。とはいえ、国際私法Aに比べると、学生たちの授業中の態度も積極的で、多くの受講者が国際私法のエッセンスを感じていたと理解している。

公務の関係上、休講や早めの授業終了があり、その分、学生たちには迷惑をかけた。3回の補講で授業内容の補てんはしたが、結果的に、学生たちには負担を強いたことになった。率直に反省したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 西洋法史B  
授業コード 44B36-001  
教員名 田中 実  
教員コード 017038  
登録人数 81  
回答数 21  
回答率 25.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は受講者が比較的少数で、かなり落ち着いた雰囲気講義を展開することができたと思われる。成績のよい答案も、例年になく多かったと思われる。とはいえ以前に見られたような優れた答案は稀になっている。授業運営についての形式的な設問を除けば、評価の数値は必ずしも芳しくなかった。逆に、従来殆ど受けることのなかった自由記述欄に、数件、内容的にあるいは資料配付につき、肯定的なコメントがなされており、担当者としては励みになる。また例年評価の低い、設問12について比較的よい数値が出ている。確かに試験直前にいくつかの質問を受けたことがあるが、例年通りの対応を行った記憶しかない。ただ今年度は、限られた時間で比較的詳しく解説してほしい箇所のアンケートをとり、それに応じることができた。来年度は、こうしたアンケート以外、質問の時間をもうけるなど、さらに工夫をしてみたい。西欧の歴史の基本的知識を欠いている者、法律学の中のオーソドックスな法解釈学に馴染みのない受講生が増える中、つい専門的な話をしがちになるが、各単元の冒頭に述べる、基本的な知識の部分により時間をさこうと考える。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英米法<国際科目群>

授業コード 44B37-901

教員名 中田 裕子

教員コード 103638

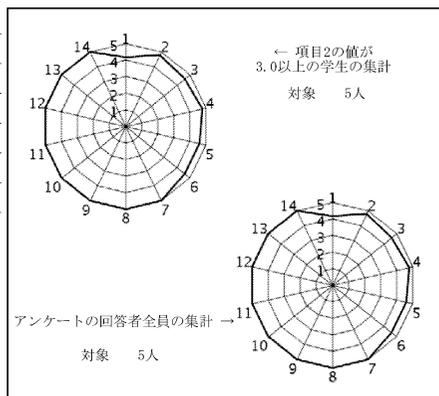
登録人数 7

回答数 5

回答率 71.4%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

当初予定していた目標については達成出来たと考えている。ただ、開講当初、毎回少なくとも英文20頁を読んでもらう事を想定していたが、クォーター制のため、3日間で20頁の英文を読ませるのは状況的に厳しいと判断し、宿題の問題を1頁、その他予習で6頁程度への変更を行った。クォーターを念頭においてももう少し考え直すべきだったと思う。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

設問5及び6の評価が低く、自分の努力が足りなかったと思われる。自由記述欄に関しては、最初は口数の少なかった学生も最後は積極的に発言し、評価上も楽しく授業を受けてもらえたようで大変よかった。当初は、エッセイ課題の文が小学生のような文章だったが、指導で大きく変わり、最後は学術文の基礎が出来上がっていたので、大変よかったと思う。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針等

今回授業に当たって作成したテキストが分かりやすいと好評だったので、より良いテキストに今後も改良したい。また、動画資料も今後も積極的に活用したいと思う。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治史

授業コード 44B46-001

教員名 長谷川 一年

教員コード 103576

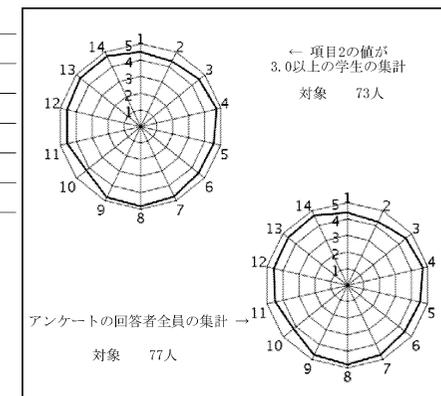
登録人数 507

回答数 77

回答率 15.2%

休講回数 0 回

補講回数 0 回

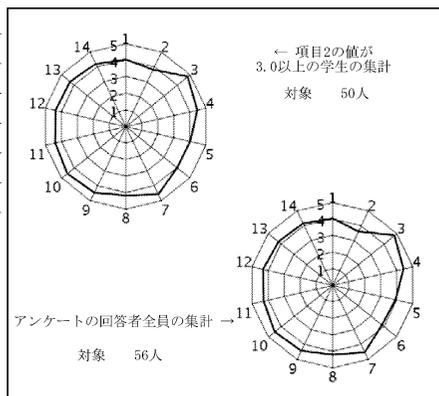


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本講義について、開講当初に設定されていた到達目標は、「1. ヨーロッパ、アメリカ、日本の近代政治史が理解できる。2. 各国の歴史的文脈の相違を踏まえて、国際政治の動向を捉えることができる。3. 現代日本政治について歴史的かつ比較政治的観点から議論することができる。」というものであった。授業はおおむねシラバスに沿って、ヨーロッパ、アメリカ、日本の近現代政治史をまんべんなく取り上げることができたので、その意味では目標はほぼ達せられたと思われる。②数値データに関しても、おおむね好意的な評価となっており、その意味でも目標は達成されたように思われる。なお自由記述に私語があったとの指摘が見られた。500人が履修する科目であるから、私語をゼロにすることは難しいが、よりいっそうの注意を促すことで静謐な学習環境を目指したい。③今後については、これまでの授業内容をブラッシュアップしながら、学生のニーズに対応していきたいと考えている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 債権法総論  
授業コード 44C12-001  
教員名 王 冷然  
教員コード 103577  
登録人数 147  
回答数 56  
回答率 38.1%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



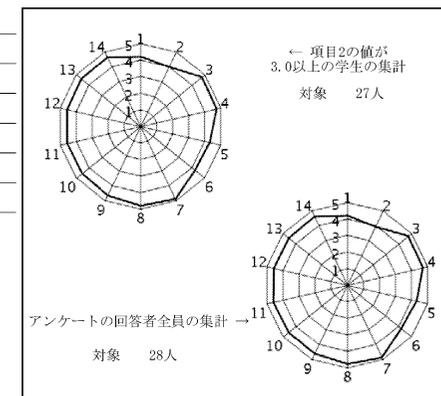
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目標は、債権総論における基本的な制度の仕組みや諸問題の解説を通じて、この領域の基礎知識および法的思考方法、議論の仕方を学生たちに習得させ、その知識を運用して妥当な解決を導き出す能力を身に付けてもらうことです。債権総論は民法典の中で極めて難しい部分ではありますが、練習問題の答案や期末試験の成績などから見ると、当初の目標はほぼ実現されたと言えます。

授業評価集計の数値データによれば、設問の半分ぐらいは法律学科の全体の平均値より高いことがわかり、日々の努力が学生たちに伝わったようであり、安堵しましたが、自由記述設問からみると、説明のわかりやすさやレジュメの簡潔などのような意見がある一方、進行速度や話すスピードが早いこと、補講日を利用して講義するときの通知が遅すぎたことなどの意見もありました。授業の内容が多いことに気が取られて、ついつい進行速度を上げたところがあり、今後では授業の内容を精査し、適切な進行速度を保つように努めます。また、補講日に講義するときの通知のことについて、前の週の講義中に口頭でアナウンスしましたので、ポルタに掲載しなかったが、補講日の前日に学生からの問い合わせがあって、慌ててポルタに掲載しました。今後、講義中に知らせたあとに、ポルタにも掲載するようにします。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民事訴訟法C  
授業コード 44C13-001  
教員名 渡邊 泰子  
教員コード 101553  
登録人数 56  
回答数 28  
回答率 50.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

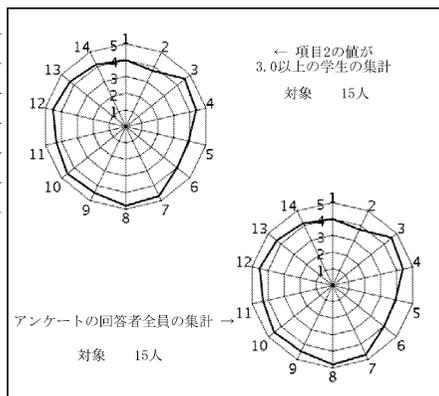
この授業では、複数請求・多数当事者訴訟の体系的な知識修得と、上訴・再審、略式手続の理解を到達目標としていた。今回の授業評価で到達目標の理解に関する項目5は4.32、目標に向け力をつけてきたかを問う項目6は4.21であることから、学生自身の学びの意識が高かったと考えている。授業評価項目全体の平均値は4.52（項目3～14は4.60）、授業満足度に関する項目14が4.61であることから、全体として良好であったと受けとめている。

また、この科目は3年生以上を対象としており、取り扱う内容の難易度も上がることから、各手続の関連性や相違点をまとめたレジュメを作成し、授業の進行に応じて適宜配布し、それをを用いて説明した。指定のテキストで次回学ぶ内容を予習するよう促す一方、復習にはレジュメ末尾に掲載した練習問題で学生自身が取り組む課題を提示して、次回授業でその解説をおこなった。項目11が4.61であり、自由記述の項目15に「適宜資料を配布され、理解に助かった」、「教科書と照らし合わせての復習がしやすかった」、「民法の知識も同時に整理できた」、「聞きやすい」、「説明がわかりやすくてよかった」等のコメントが寄せられていること、項目16で改善すべき点が挙げられなかったことから、授業内容や自主的な学習方法が学生に好意的に受け入れられたものと思われる。

次年度以降については、受講人数にもよるが、学生がより積極的に授業に参加できるような取り組み（リアクションペーパーの実施など）を考えている。今後も、難しい内容を学生が楽しく学べる授業を心がけたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済法B  
授業コード 44C20-001  
教員名 齊藤 高広  
教員コード 103599  
登録人数 39  
回答数 15  
回答率 38.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

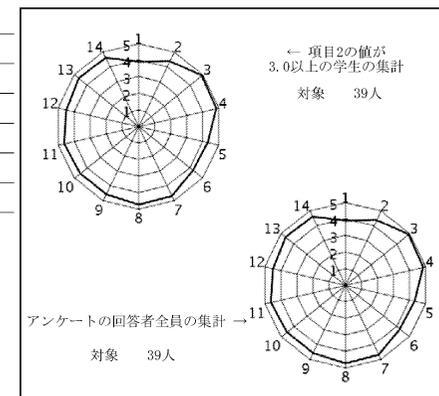


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、市場経済における基本ルールである独占禁止法のうち、主として不公正な取引方法を扱った。経済活動に対する法的規律、法的規整方法および競争減殺行為の理解が当初の目標であったが、全講義を通して、カリキュラム通り、授業を進行させることができた。経済社会や取引社会に対する法の機能企業のみならず、とくに消費者が普段接する経済活動とも密接に関連している分野だったこともあり、試験結果は良好であった。今年度は、公正取引委員会中部事務所の職員をスピーカーに呼び、それを踏まえた補足授業も実施した。先方のアンケートに対して積極的な意見や質問が記載されるとともに、今回のアンケートでも好意的な意見が見られた。次年度以降も、かような試みを継続していくことが望ましいと感じた。受講者数が必ずしも多いとは言えず、個人的な印象として、双方向型の授業を実施することに抵抗を抱くことも皆無とはいき切れなかった。もっとも、良好な試験結果等も踏まえると、こちらも継続的に実施することが望ましいと感じた。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 倒産法  
授業コード 44C22-001  
教員名 小原 将照  
教員コード 102897  
登録人数 69  
回答数 39  
回答率 56.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

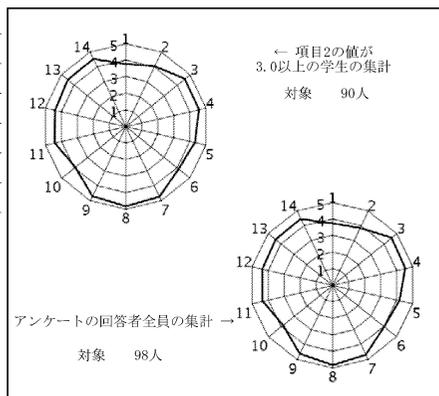


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本年度、本科目において掲げた目標については、十分に到達できたと思う。昨年度までの講義と比較して、大幅に授業スタイルと評価方法を改善したことも、その要因の一つと考えられる。昨年度までも、一定水準までは目標に達していたと思うが、本年度はそれがより高い水準に達したと実感している。本年度、法律専門科目で初めて、アクティブラーニング形式での授業を実践し、評価方法についても試験一発勝負をやめて、複数の評価方法を組み合わせるスタイルにした。アンケートの数値データや自由記述には、それらに対する学生の好意的評価がうかがわれ、今後もこの形式での講義をさらに発展させていくことになると思われる。ただし、授業に出席しない学生、あるいはあまり出席しない学生にとっては、この形態を忌避する傾向も強いだろう。一部の批判的意見は、そのあたりの学生である可能性が高い。今後は、アンケート調査の中に、出席率を組み合わせるアンケートが必要であると思われるが、その努力は私が行うべきものではない。次年度以降は、今回の講義をベースとして、担当者自身が改善すべきと思っている部分の修正を行っていきたいと考える。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[J]3  
授業コード 10A01-019  
教員名 山田 望  
教員コード 000211  
登録人数 150  
回答数 98  
回答率 65.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

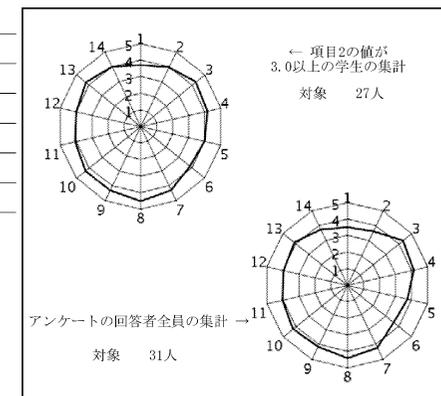


授業評価結果を踏まえた点検・評価

法学部の1年生対象の必修科目「宗教論」の授業であった。授業全体に対する学生の満足度・評価を示す設問13が4.40ポイントで、宗教科目全体のこの設問の平均値4.29を0.11上回っていたこと、また、設問14が4.46ポイントで、こちらも宗教科目平均値4.27を0.19ポイント上回っていたことから、ほぼ、この科目の目標に到達できたものと考えられる。設問10以外の全ての設問においても宗教科目平均値をすべて上回っており、全体として、この科目に対し、学生たちが十分に納得のいく満足感を得られたものと考えられる。自由記述欄にも肯定的な評価が多く、その中でも、当初、宗教科目がなぜ必修なのかがわからなかった、当初は何の興味も持っていなかった学生たちが、授業を通して、宗教に興味を持てるようになった、もっと勉強してみたくなった、との感想を持つようになっていることが伺えた。唯一、設問の中で宗教科目の平均値を下回ったのは、設問10の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる学生の行為に対して、適切な対処がなされていたか、という設問であった。これは、教室がQ101という縦に細長い教室で、後ろに座った学生たちは、教室の中ほどの左右上部に設置されたディスプレイを通してでなければホワイトボードの記載を見ることができないようになっており、教員がずっと教壇に留まって話していると、後部の学生たちが私語や内職を始めてしまい、教員の側もなかなか気づけないため、中間より後ろに座っている真面目な学生にとってはこれが授業内容を聴き取る妨げになったものと考えられる。今後、教室の後部に座っている学生たちの私語や内職に対する注意を怠らないよう気をつけたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会の諸相5  
授業コード 13C04-005  
教員名 前田 洋枝  
教員コード 102264  
登録人数 42  
回答数 31  
回答率 73.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

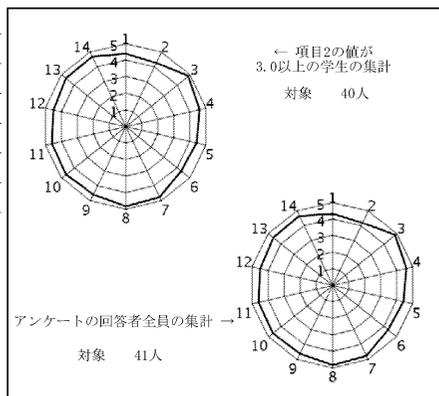


授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスと一部順序を変更した回はあったが、予定した内容を実施し、全体の振り返りの時間も取ることができた。  
授業内容と関連したゲームの体験とその振り返りを4週実施しているが、この点については自由記述でも『実習が挟まれて定着しやすくなっていた』など基本的に学生に肯定的な評価がされていた。また、配布資料の充実を良かった点に挙げた学生もいた。  
一方で、授業全体としての満足度は十分に高いとはいえなかった。これは、『声が一定調子』の傾向があることも一因の可能性はある。説明の時の声の通り自体は良い。設問8の平均値も4.4である。また重要な点は説明でも「重要」と明確に言っているため、『評価されるべき基準が明確に示されたので、そこに集中して取り組めた』という自由記述での声もある。そのため、声の大きさや説明時の重要部分の明示は現状で問題はない上で、声の調子の抑揚に注意するようにしたい。  
また、各回の内容の参考文献は配布資料で提示しているが、復習をより促す工夫についても検討したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人間と環境4
授業コード	13D02-004
教員名	藤本 潔
教員コード	100100
登録人数	112
回答数	41
回答率	36.6%
休講回数	2 回
補講回数	1 回

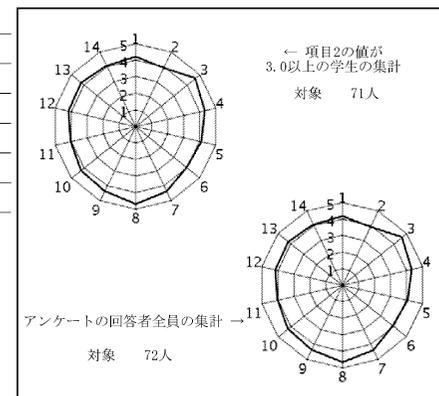


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の授業評価は、これまで2005、2007、2010、2011、2014年度に行われており、今回4年ぶりに行われた。すべての設問の平均値は4.57、設問3-14の平均値は4.62と高い評価が得られた。以前の授業評価における同様の設問項目の平均値は、それぞれ4.23、4.01、4.48、4.30であったことから、今回はより評価が高まったと言えよう。ただし、以前は300名前後のマスプロ授業であったが今回は114名と受講者数が少なかったことも高評価の一因と考えられるが、これまでの授業評価結果を踏まえた授業内容等の改善によって、より学生の関心と意欲を高めることに成功したものと考えられよう。昨年度から授業中の資料配布をやめ、事前にWebClassに授業ファイルをアップし、予習復習を促す試みを始めたが、自由記述欄にはこれを評価する意見が複数見られた。それ以前は予習復習に関する学生の自己評価の平均値は3点台の低い値が当たり前であったが、今回設問2は4.2と相対的に高い値が得られたことも、WebClass利用の成果と言えよう。ただ、WebClassへのアップをもう少し早めてほしいという意見もあり、今後は早めのアップを心掛けたい。なお、父が他界したため2度の休講を余儀なくされたが、補講時間を1回分しか確保できなかった。予定した授業内容はまとめの時間を短縮することで補ったが、これもクウォーター制の問題点として指摘できよう。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会保障法
授業コード	44C24-001
教員名	三輪 まどか
教員コード	102263
登録人数	273
回答数	72
回答率	26.4%
休講回数	3 回
補講回数	3 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

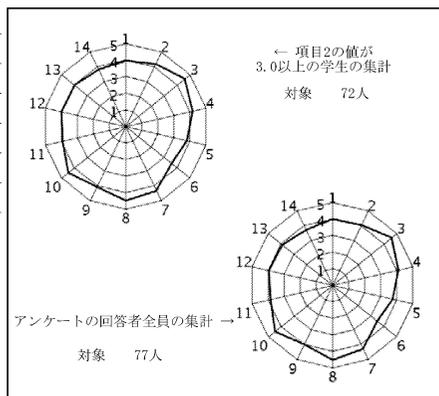
目標の到達程度は、定期試験での記述の状況を見る限り、達成できているように思われる。

本講義では、自分自身や家族の事情・体調により、想定以上に補講が多くなってしまった。自由記述にもあるが、全体の満足度も4.03とかなり低くなってしまったことが反省点である。受講生の皆さんにも多大なご迷惑をおかけしてしまい、せっかく熱心に聞いてくださる学生の皆さんも多い中、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいである。今後、できる限り補講とならないよう、自分自身や家族の体調管理に留意したい。また、Q4の補講に対する意見については、就活の時期と重なっていること、アルバイト等がすでに入ってしまったことが原因のように思われるが、補講をできる限り少なくすることで、回避できる問題と思われる。しかしながら、就活時期との関係は、単にこの授業のみならず、Q4に開講される授業全体の課題であるように思われるため、全学的な授業日程の見直し等の検討をお願いしたい。また、Q4の開講については法学部による指定であり、例えば、就活の影響のない2年生から受講可能とするとか、何らかの方策の検討をお願いしたい。

自由記述にある、板書の方法や話すスピードについては、人によって感じる場所はまちまちであり、留意していきたい。テスト範囲については、補講時の授業が対象となったとしても、同じ内容について正規の授業で言及したり、レジュメを再度配布したりするなど工夫しているが、より留意していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際関係論  
授業コード 46D06-001  
教員名 小尾 美千代  
教員コード 102453  
登録人数 255  
回答数 77  
回答率 30.2%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



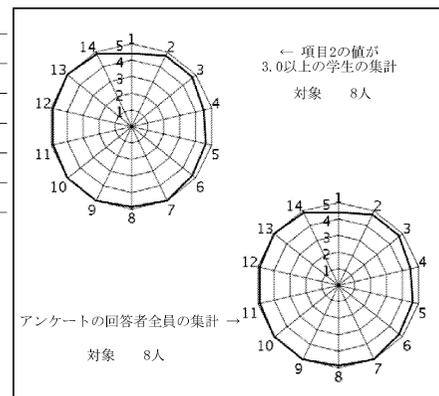
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、国際社会の特徴を国内社会との相違から位置付け、国際関係の変遷や主要な課題に焦点をあてつつ、リアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムを中心とする国際関係の主要な理論や概念について扱った。そして、(1)国際関係論の基礎的概念を理解すること、(2)国際関係の変遷や現在の主要課題について理解すること、(3)国際関係を体系的に捉える分析視角を習得すること、の3点を目標とした。今回のアンケート回答者は77人で、そのうち「受講に際して主体的に授業参加をした」との質問項目で3.0以上の評価をした回答者は72人でした。授業評価については、項目1～14の平均値は4.05（総合政策学科4.17）、項目3～14の平均値は4.06（同4.20）でした。

項目5「この授業の到達目標を理解することができましたか」が3.77（同4.02）、および項目6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」が3.48（同3.96）でしたので、授業内容の理解促進が今後の課題と認識しています。パワーポイントの文字の色ですが、黒一色では見にくいことと、重要な概念をわかりやすくするために黒以外の色も使っています。文字の色そのものに特に意味はありません。また、講義をきちんと聞いて初めて理解できるように必要最低限の記載にとどめています。授業中の私語対応の必要性については改めて理解しましたので、今後も引き続き注意していきます。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会調査法  
授業コード 46E04-001  
教員名 松戸 武彦  
教員コード 100357  
登録人数 20  
回答数 8  
回答率 40.0%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

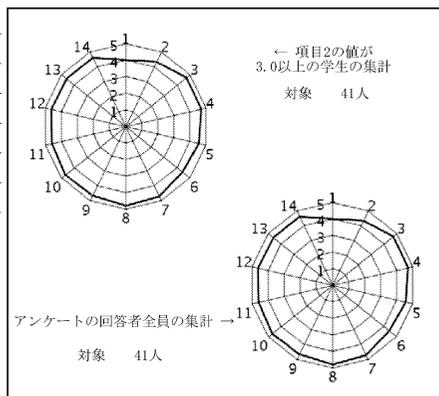


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回授業目標はおおむね達成できたと感じている。インテンシブな講義授業内容なので学生は大変だったと思うが、今年度の受講生たちは最後までしっかりと受講してくれていた。また、授業への積極的参加も今年度はかなりうまく言ったと感じている。このような授業はどうしても受講生のモチベーションが授業を成功に導く決定的要素となる。その点で今回は本当にこの科目を学びたい学生が受講していたことが大きかったと考えられる。また、今年度は意識して、この授業内でふれる技術的内容について現実の社会生活や職業生活の中で使ったり、参照したりする場面を話しに織り込んで説明した。こうしたことが学生の興味につながっていると考えられる。事実当初はそれほどモチベーションが高くは見えなかった学生が、実生活や就職活動の場面と関連付けて説明した後に興味が増えていることが見て取れた。それは、今回の数値データを概観しても確認することができる。もちろん受講生の数など外的構造要素が良い評点につながっていると思うが、そのような要素も受講生自身が受講の「楽しみ」と言うかたちで受け止めてくれたのではないかと感じている。前に出てきて発表する機会も設けたがこれもプラスに働いたと考えられる。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策英語III4  
授業コード 46F03-004  
教員名 O' CONNELL, Sean  
教員コード 100448  
登録人数 61  
回答数 41  
回答率 67.2%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

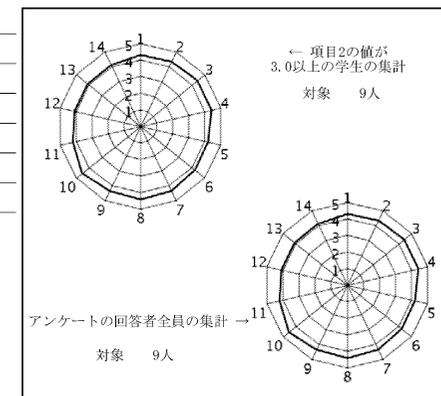
The goals of the English for Policy Studies III course for second-year students focused on three main areas: (1) reading, writing and discussing issues related to international, public and environmental policy, (2) presenting individual findings in recent news related to one of the three policy areas, and (3) becoming more familiar with the Introduction to Policy Studies material studied in Japanese in the 1st year.

Upon review of the evaluation results, it would be seem that the students were satisfied with the course design and the tasks they were expected to perform. From a teacher's perspective, I felt that whilst the student number was large (66 students), their positive approach to individual writing task, pair and small group discussion and individual presentations to small groups made the class a joy to teach.

In future, I hope that we are able to increase the number of teachers available to lead this course. This would allow us to reduce the number of students per class which would then lead to us being able to provide more individual feedback during and after class.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策中国語I111  
授業コード 46F06-001  
教員名 原田 直枝  
教員コード 018754  
登録人数 14  
回答数 9  
回答率 64.3%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

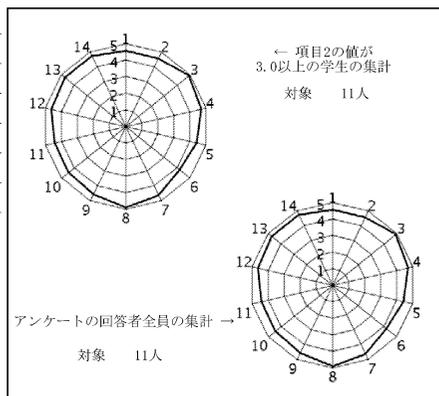


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①シラバスにおいて示した到達目標3点（1. 中国語によるコミュニケーション実践に必要な語法・会話の運用力を発展させる。2. 時事的な中国語文の分析に必要な語法を習得する。3. 現代中国の諸事情に関する初歩的課題の中国語文献を処理することができる。）のうち、2.と3.については目標に近い達成が出来ている（授業の状況、試験の成果）。しかし、1.については、授業展開の中で、コミュニケーション実践を伸ばすための時間を十分にとれなかったという反省が残る。自由記述式欄に「アクティブに、いろんな人と話す部分を取り入れてほしかった」というコメントがあるのは、それを指摘するものとして真摯に受け止め、次年度以降の授業で改善をめざしたい。
- ②2017年度カリキュラムでできた新規の科目ということで、受講する学生たちの基礎力、ニーズを今一つ把握しきれずに、授業の進め方全般に迷いがあった。それが、教員側のパフォーマンスに関する諸項目の数値に反映しているだろう。2年目となる次年度の授業に向けた反省点としたい。他方、学生たちが意欲的で積極的に授業に取り組んでいたことは、その自己評価に当たる項目の数値に表われているようだ。担当者個人としては、これまで項目10（私語、遅刻等への対応）がどうしても全体集計値を下回り続けていたのが、今回初めて（と思われる）上回ることを、率直に喜びたい。
- ③上記①②に関連して述べたとおり、改善をめざす。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策中国語II12  
授業コード 46F06-002  
教員名 梁 暁虹  
教員コード 045229  
登録人数 16  
回答数 11  
回答率 68.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

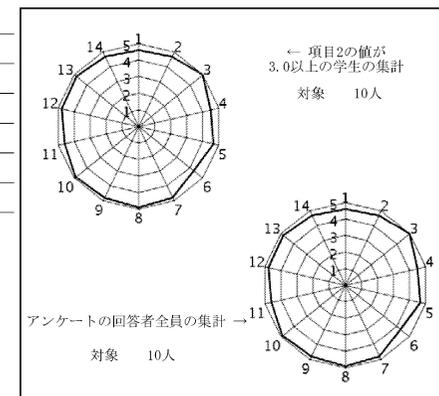


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「学生による授業評価」から判断して、この科目に設定した目標は、概ね達せられたと思う。「授業評価集計」を見ると、設問1～14の平均値は4.60、設問3～14の平均値は4.61、特に設問3、8はかなり高い点であり、双方の満足感をも窺えよう。但し教師として改善の余地がないわけではない。「授業評価集計」から見ると、設問6は「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」4.18、一番低い点であった。実際、授業中ある学生は積極的に欠けていたようである。甚だしきは、授業中眠っているものさえいた。今後どのようにしたら学生の学習欲を引き出し、さらに積極的な授業参加を促ような工夫をする必要があると考えている。特にマンネリ化しやすい語学授業をどのようにしたら改善できるかを考慮に入れつつ、努力するつもりである。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策日本語II  
授業コード 46F12-001  
教員名 山口 和代  
教員コード 049726  
登録人数 10  
回答数 10  
回答率 100.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

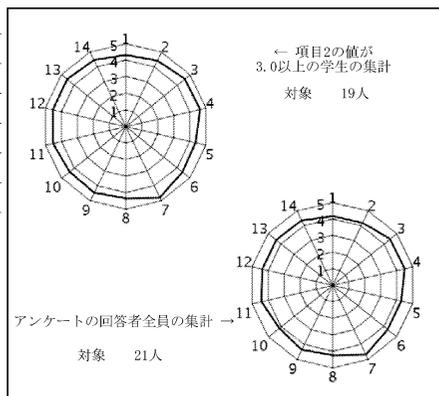


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目標は、現代の諸問題に関する具体的課題を取り上げ、情報収集と分析を行い、ディベートにより視点を広げることで理解を深めることである。学生による授業評価の設問への回答結果から授業運営および全体的な評価に関する項目を見ると、4.30から5.00という結果であった。授業への興味についての項目が4.60、到達目標への理解についての項目が4.70、授業を通しての新しい知識の獲得や理解に関する項目が4.80であったことから、学生たちが授業の目標を理解し、真摯に授業に取り組んだことが伺われる。以上から判断する限り、おおむね授業目標は達成できたのではないかと考えている。自由記述欄に記入してくれた学生が4人いたが、いずれも肯定的なもので、「新しい形で日本語を学ぶのは楽しい」、「これからのゼミに非常に役に立つ」との記述があり、ゼミ（プロジェクト研究）の基礎となる知識と技術を学ぶという目標もある程度達成できたのではないかと考える。今後も学生の様子を見ながらモチベーションを下げることなく取り組んでいけるよう、工夫をしたいと思う。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 行政学  
授業コード 46K01-001  
教員名 井上 洋  
教員コード 100177  
登録人数 64  
回答数 21  
回答率 32.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



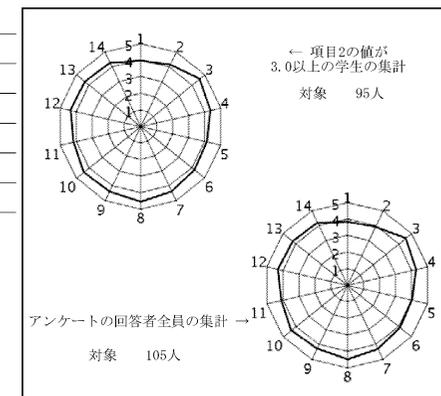
授業評価結果を踏まえた点検・評価

行政学の講義を開講した2018年11月から2019年1月半ばまでの時期、日本の行政の基盤的信頼を突き崩すような事実が立て続けに明らかになった。すでに数年前より行政文書の改竄と隠蔽、官僚の国会における虚偽答弁などが目を覆うばかりになっていたが、そこに基盤統計の不正という問題が持ち上がり、もはや現官邸に総轄された行政部の出す情報と政策の信頼は地に落ちたというべきである。講義ではこの問題を意識して取り上げた。まず今日の前で何が起きているのかについて、『中日新聞』の記事や社説を利用して説明し、それを受けてどうしてこのような状態になってしまったのかを戦後史の文脈と、日本近代史の文脈（日本における官僚制の形成の歴史の文脈）で話した。受講者の反応は三つに分かれ、聞こうとする者2割、とりあえず出席はするという態度の者3割、欠席が目立つ者5割といったところである。力を入れて話したこともしばしばであったが、それはかえって彼らの体を引かせる効果をもったに過ぎなかったかもしれない。それでも聞こうとしてくれた学生にはそれなりの受けとめがあったようにみられる。本講義に対する4.3前後の数字は彼ら2割の学生の評価の数字である。

受講生の受講態度、意欲に大きなばらつきがある現実を前に、彼らのどこに向かって何を話せばよいのか、しばしば迷い、しばしば自分の語りに落胆する。試行錯誤を続けるしかないのだと言いきかせてまた臨むつもりである。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 グローバルガバナンス論  
授業コード 46L01-001  
教員名 佐藤 創  
教員コード 103882  
登録人数 268  
回答数 105  
回答率 39.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

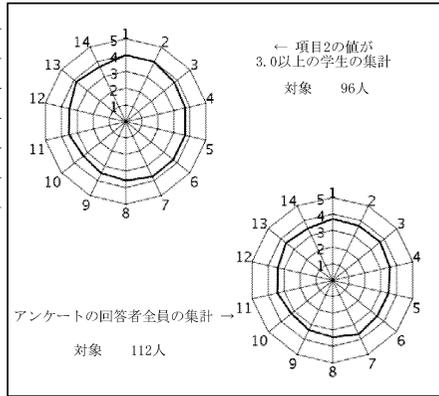
開講当初に設定していた目標と到達については、アンケート及びテストの結果をみると、おおむね達成できたと思われる。

Q1、Q2の授業にて、学生のレジュメ依存が憂慮すべき水準にあり、レジュメやパワーポイントなどいわば親切にしすぎていることが学生の自発性を低めているのではないかという印象を持ったため、Q3の授業ではレジュメの事前配布をやめたが、授業の進度が落ちるという欠点が大きく、今回Q4の授業ではレジュメの事前配布を復活した。また、Q1、Q2にて、授業貢献を採点するとして実施していたレスポンス・ペーパーに授業貢献ではなく要望を書いてくる学生が多くまた代筆が横行したのでQ3の授業ではこれをやめたが、学生の理解度を把握できないという難点があり、今回の授業ではこれを復活し、ただし、純粋に授業の内容への貢献のみを書かせることを徹底し、要望があれば直接申し出るよう指示した。

こうした変更をしたゆえか、Q3の授業のアンケート結果と比較して、今回のアンケートでは、受講生の満足度は上がっており、授業方法に関連する設問9、11などの数値も4を超えている。ただし、学生の授業のノートテイクについていわば楽をさせることで数値が向上したという側面もあり、これが良いこととは一概にはいえないとも考えている。250人を超える大人数の授業ゆえの限界も感じているが、「当該授業の理解度」「自発的な学びの促進」「社会人としての教育」のバランスの取れた授業の方法を引き続き試行錯誤していく必要があると考えている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	対外政策論
授業コード	46L03-001
教員名	平岩 俊司
教員コード	103613
登録人数	475
回答数	112
回答率	23.6%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

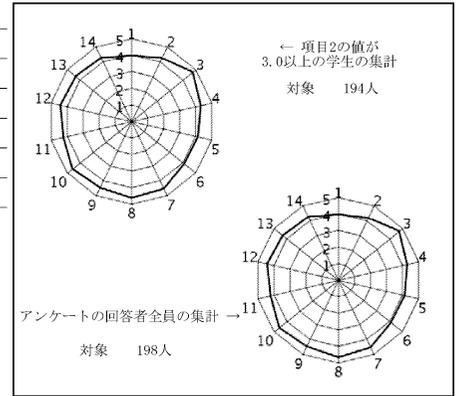
①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
日本の朝鮮半島政策決定過程を題材として、分断国家に対する政策の特殊性、難しさについて理解してもらえるよう心がけ、一定程度達成できたと思うが、まだ十分ではなかったと思う。その原因として、まさに現状が日々刻々動くテーマであったため、基礎を理解してもらう前に情勢が動いてしまう、という状況が続いたためもあると思われる。単なる時事解説ではなく学問的な状況分析の手法をどのように伝えるかは今後の課題と言える。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
当初予定していた受講生を大幅に超えていたこともあり、板書をせずPC画面に話しながら入力する方法をとったところ早すぎてノートがとれないなどの意見が多く、非常に不評であったため、事前に入力した画面を見せる方法をとった。学生からはPowerPointおよびシートのアップを求められたが、学生にノートをとること（メモ取り）の重要性を理解してもらうようその都度説明に努めた。ただし、板書の方法については検討する必要があると考えている。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
次年度も基本的に同じスタイルをとっているが、板書の方法については学生の意見を聞きながら検討していきたい。また、来年度はますます東アジア情勢が動くものと予想されるので、動いている「状況」をどのように伝えるのか、また「状況」をどのように分析するのかをうまく伝えられるよう、具体的には私自身がどのような形で状況を分析しているのか（なにを根拠として状況を把握し、どのような動きに注目し、その結果、日本にとってどのような状況が好ましいのかについてどのように分析するのか）、について伝えられるように準備したいと思う。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	環境経済学
授業コード	46N01-001
教員名	鶴見 哲也
教員コード	102265
登録人数	399
回答数	198
回答率	49.6%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

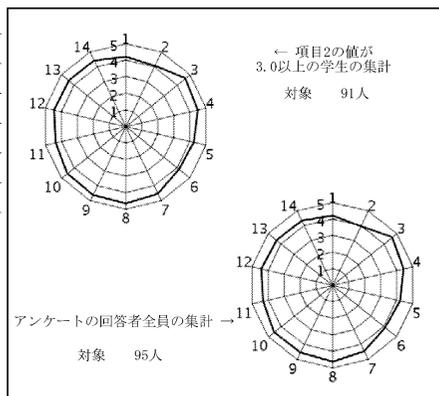


授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目3から14の平均が4.39であり、400名程度の大人数講義としては比較的高いスコアを得ることができたと考えている。全学での240名以上登録講義の平均が4.2であることから一定の評価が得られたと考えている。毎回の講義には多くの学生が出席し、出席率が非常に高かったことから学生の意欲を感じ、また授業中は非常に静粛な環境を保つことができ、集中して各学生が講義に臨んでいた印象がある。回答率も50%であり大人数広義にしては高い割合と考えられ、講義への出席率の高さが反映されたと考えている。環境経済学は経済学の基礎がないと理解が難しい学問であるが、経済学の基礎から説明をしてみたことに対して個別コメントで高評価が書かれており、今後も基礎からの説明を心がけていきたい。総合政策学部の学生がほとんどであったが、総合政策学部では経済学の基礎を学んでいない学生も多く、今後も分かりやすい講義を心がけていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際経営戦略論  
 授業コード 46N03-001  
 教員名 金網 基志  
 教員コード 102923  
 登録人数 311  
 回答数 95  
 回答率 30.5%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

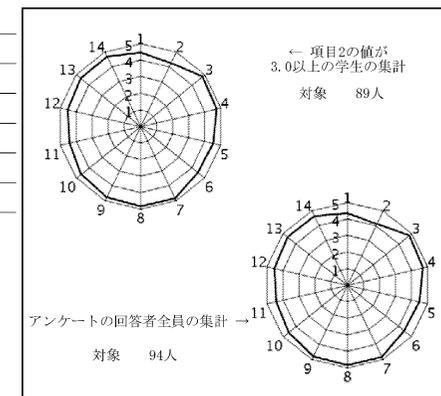


授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1から14の平均は4.37、項目3から14の平均は4.41であり、総合政策学部平均値を上回っている。授業は、教員からの一方向にならないように、講義中にExerciseを取り入れ、学生に考えさせたものを口頭で発表させている。また、講義内容に関連するDVDを視聴させるなどして、内容を具体的に理解させるようにしている。全体としては、こうした内容が評価されていると考える。自由記述式の回答欄も、レジュメが分かりやすい、学生との交流があった、DVDの視聴で理解が深まったなど、好意的な回答が多かった。レジュメは、Webclassにアップして、講義当日に欠席した学生も入手できるようにしている。レポートも、Webclassで提出させている。締め切り厳守を講義中に何度も確認したため、締め切り後にレポートを提出しようとした学生はいなかった。設問6の評価がやや低いのが課題である。到達目標に向けて力がついてきていることを実感できるような工夫を考えていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人的資源管理論  
 授業コード 46N05-001  
 教員名 久村 恵子  
 教員コード 100026  
 登録人数 191  
 回答数 94  
 回答率 49.2%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、経営学の視点に立ち、企業（＝経営者）は従業員である「ヒト」をいかに捉えてきたのかを整理しつつ、労働観と人間観の変遷について学び、その上で、企業における人的資源管理の体系と機能についての理解を深めることを目的とした。

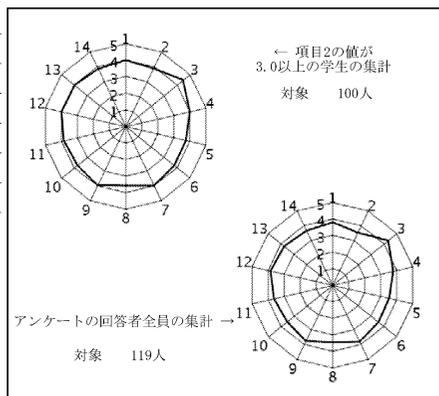
今回の授業評価の結果を見る限り、設問3～設問14の平均値は4.65であり、全体として肯定的で高い評価が得られた。項目毎に見ても、主体的な学習に関する項目（設問2）は他の項目と比べやや低い値（4.11）となった。そのため、より学生の主体的な学習を促す工夫を取り入れることが必要と判断される。

自由記述では大きく分けて、「分かりやすい説明と解説」、「資料（レジュメ・スライド）が良い」、「将来に役立つ」の3つの点からの肯定的なコメントが多く寄せられた。その一方、「レジュメの穴埋めと解説についてはもう少し記述する時間が必要」という指摘も寄せられた。授業内で記述出来ない場合には、Webclassに公開している資料が参照できるようにしているが、この点については再度、検討の必要があろう。

以上の点を踏まえ、今後もスライドやプリントなどの授業資料と運用の改善を進めると共に、学生が社会に出ると直面するであろう問題を人的資源の立場から取り上げ、興味や関心を高めつつ学習できる授業内容および授業への参加を促す構成へと改善を図りたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域経済論  
授業コード 46N06-001  
教員名 森 徹  
教員コード 101861  
登録人数 382  
回答数 119  
回答率 31.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

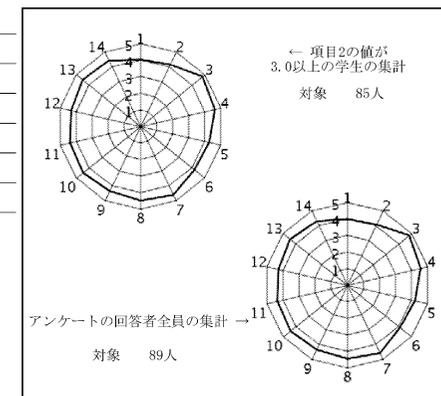


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定した到達目標のうち、人口・産業・所得の各面における日本の地域構造の特徴や推移、それらの相互間冷静の理解という面や、大都市制度構想の内容や評価といった面では、目標を達成することができたと考えている。ただ、シラバス執筆時と講義の構成内容をやや変更したこともあり、企業立地理論や企業立地と地域構造の関連性の理解という面では、当初の到達目標の達成には至らなかったと反省している。今後においては、到達目標を、より事業内容に即したものに整理していく方針である。
- ②アンケートの数値的集計結果は、教員の授業内容・授業運営に関する総合評価とみなしうる設問項目3～14の平均値が3.72と、総合政策学科科目の総平均と比べるとかなり低く、芳しい結果とは言えない。こうした結果となった一因は、学生間でかなり評価に差があったためと考えられる。自由記述意見を見ると、説明が丁寧でわかりやすく良い事業であったという意見が少なからずある一方、テンポが遅く説明もわかりにくくどうしようもない授業だったという意見も出されている。
- ③受講者が多数に及んでいたことから、こうした評価の多様性は致し方ないところではあるが、今後においては講義項目の関係性の一層の明確化や簡潔な説明に努め、より多くの学生が満足できる授業を心がけていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治変動論  
授業コード 46N10-001  
教員名 星野 昌裕  
教員コード 101897  
登録人数 234  
回答数 89  
回答率 38.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

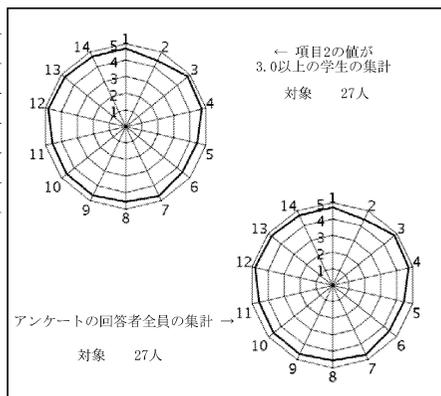


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- この授業は、東アジアの政治変動を理解するために必要不可欠な政治学の基本概念を詳しく説明したうえで、中国の一方支配政治システムの形成とその変容過程、台湾における権威主義体制の確立と民主化、中国の少数民族問題を個別テーマとしてとりあげた。これを通じて、「地域とは何か」、「歴史とは何か」といった地域研究の分析手法、「権威主義」、「民主化」、「民主主義」などの政治学概念、世界各国の政治体制を比較分析する手法を習得することが、開講当初に設定した本授業の目標である。
- 授業評価集計における各設問の平均値をみると、例えば、項目3から項目14の平均値が4.41の評価を得ていることから、総じて言えば開講当初の目標を十分に達成することができたのではないかと考えている。ただし、授業の到達目標に向けて力がついてきているかどうかを問う設問6の平均値が4.12だったことを勘案すると、授業の内容は理解できていても、それを自らの分析手法として十分に活用、応用するには至っていないことを示していると考えられる。また、自由記述においてよかった点として評価されたのは、政治学概念に関することよりも中国や台湾の具体的事例に関するものだった。
- 今年度の授業は、政治学概念に関する授業を10回、具体的な事例に関する授業が5回となり、過去の授業に比べると、前者の割合が高めであった。来年度以降の授業では、理論的抽象的な政治学概念を平易に伝える工夫を一層ほどこしつつも、分析手法を具体的に応用させる機会を作るとともに、東アジア政治の具体的事例をより多く取り組む工夫を実践していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 開発政治論  
 授業コード 46N11-001  
 教員名 POTTER, David M.  
 教員コード 100098  
 登録人数 44  
 回答数 27  
 回答率 61.4%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 0 回



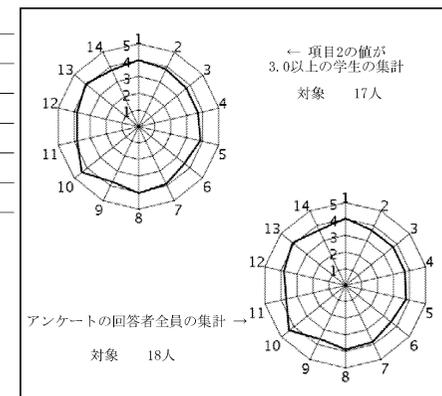
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This is a course of the politics of development focusing on key approaches and use of data to analyze key issues of development. The latter component of the course introduces widely used development indexes that students might use in related courses and seminar research.

The ratings were high for this course, almost all averaging 4.5 or higher. The written comments were almost exclusively positive. All things considered I will make few changes to this course, especially since I am not sure I will teach it next year.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生活環境学  
 授業コード 46N25-001  
 教員名 成田 靖子  
 教員コード 100250  
 登録人数 73  
 回答数 18  
 回答率 24.7%  
 休講回数 2 回  
 補講回数 2 回

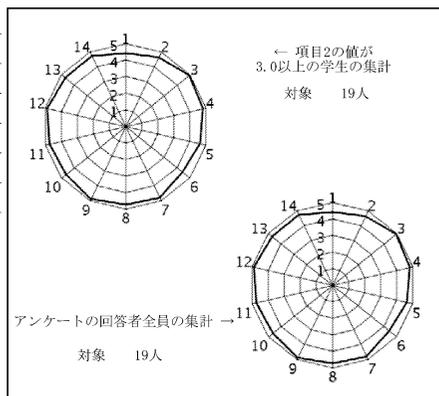


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に予定していた目標と到達の程度  
 2005年に南山大学総合政策学部にて奉職して以来、14年間当科目を担当した。2016年度までは瀬戸での開講であったので、総合政策学部生のみが受講した。2017年に名古屋キャンパスに移転したが、その年は他学部学生は2名であった。移転2年目の2018年度は、他学部学生が全体の4割程度を占めた。他学部学生にも興味を持ってもらえたことは嬉しいことであった。科目担当者は今年度をもって退職するので、今までの総決算として意欲を持って挑んだが、結果はあまりよいものではなかった。
- ②数値データ等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価  
 瀬戸C時代は総評価は常に4を超えていた。しかし、今年度は項目3～8の結果は3.81であり、担当者自身が目安としている4には届かなかった。設問1の履修前に抱いていた興味を持っていかたについては4.06。それに対し、設問14の全体としてこの授業に満足したかとは3.67でしかなかったのか。すぐには答えは出せないが、2019年度も非常勤として他科目を担当するのでそれまでにじっくり考えることとする。
- ③今後の抱負・方針など  
 2018年度は2コマ連続の授業で2コマ完結する授業計画を立てた。おかげで前回の復習に費やす時間が減り集中できた。2019年度もこの方針で行う。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策外国文献講読II(英語)3  
 授業コード 70171-003  
 教員名 CROKER, Robert  
 教員コード 100082  
 登録人数 42  
 回答数 19  
 回答率 45.2%  
 休講回数 2 回  
 補講回数 2 回

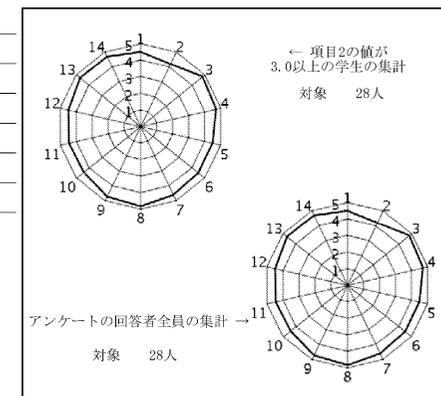


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this class was to help the 40 enrolled students prepare for the fourth-year graduation thesis by giving them the opportunity to find and read academic literature (mostly journal articles) in English. Each week, students found articles relevant to their own graduation thesis topic using the online digital resource portal of Nanzan Library — CiNii, Jstor, EBSCO Host and ProQuest — and other online digital resources. They then read the article in our double-period, Wednesday morning class and completed a summary sheet. This helped to train students to skim articles, identify useful information, summarize it and note useful quotes, add their own ideas, and to cite sources correctly. At the end of each class, students summarized the article to a partner, and then discussed their ideas. At the end of the quarter, students wrote a report that summarized the articles that they had read, which could form the basis of the literature review for their graduation thesis. The feedback from the students was very positive. Although the class was rather challenging for students, and was largely self-directed and independent, students seemed to enjoy the class.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策論III(労働問題と政策)  
 授業コード 70275-001  
 教員名 水落 正明  
 教員コード 102745  
 登録人数 55  
 回答数 28  
 回答率 50.9%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

総合的な満足度(項目番号14)については4.68と、総合政策学科平均4.08を大きく上回っており、良好な結果であると考えます。労働問題とその政策を取り扱う授業であったが、学部3、4年生が受講しており、就職活動に関連するトピックを織り交ぜた内容にしたほか、比較的少人数であったため、頻りに学生に意見を求めたところが良い評価を受けたと推察され、今後とも、こうした内容を継続していきたい。各項目について見ると、全ての項目で総合政策学科平均を上回っている。評価点が最も高かったのは「教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか」(項目番号8)の4.86、次いで「授業の開始と終了の時間は守られていましたか」(項目番号7)の4.82であり、授業環境としては評価が良かった。一方、最も評価点が低かったのは「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」(項目番号2)の4.18であった。これまでの経験では3点台であることがほとんどであり、やや向上しているように見えるが、まだ改良の余地があると考えている。良かった点についての自由回答では「意見が聞かれることがある点について分からない事だと少し緊張はするけど自分が考えていることが言えたり周りの考えが聞けてよかった」というものがあり、単に聞いているだけ講義にはしなかった点は評価されているようである。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化と情報<国際科目群>  
授業コード 13E05-901  
教員名 鈴木 敬夫  
教員コード 016469  
登録人数 7  
回答数 1  
回答率 14.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

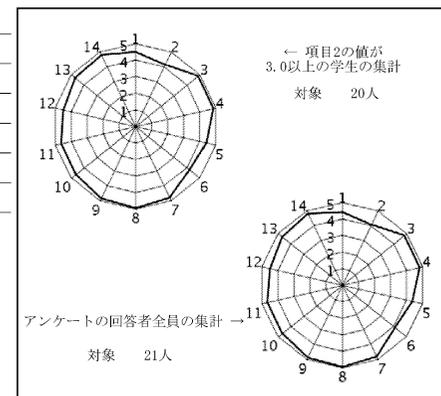
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) 開講当初の目標は、英語で解説することでオペレーションズ・リサーチの概要を学生に理解してもらうことであった。その目標は達成された。毎回の受講者は2, 3名であったが、受講者の反応を見ながら、彼らが興味を持つ内容を話すことができた。評価はレポートで行ったが、それらの内容はオペレーションズ・リサーチの考え方を理解したものであった。
- (2) 回答者は1名であったので、評価をするのはひかえる。
- (3) 来年度は登録した学生が出席するように、学生が興味を持つような話題を選んで講義するようにしたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化と情報3  
授業コード 13E09-001  
教員名 三浦 英俊  
教員コード 102259  
登録人数 40  
回答数 21  
回答率 52.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
以下の3点を到達目標として設定した。
  1. ORが実社会でどのように使われているか、いくつかの例を知っている。
  2. ORの基本的な手法について理解している。
  3. 実社会の様々な問題解決のためにORの一連の考え方が有効であることを理解している。実社会の問題を説明し、問題解決のための手法を説明し、例題を通じてその手法適用による問題解決の道筋について説明した。設問5の平均値が4.38であったのでおおむね達成できたと考えている。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
今年は、理解を深めるために、授業中に取り上げる例題を増やし、クラス全体で行う演習も2回実施した。授業評価結果の数値にそれらが反映されていると考えている。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
人工知能、機械学習が社会で取り上げられることが多いようなので来年はこの話題を取り扱いたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	統計解析
授業コード	46E03-001
教員名	阿部 俊弘
教員コード	103189
登録人数	18
回答数	4
回答率	22.2%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：本授業の目標

1. 区間推定が理解できる。
2. 仮説検定が理解できる。
3. 回帰分析が理解できる。
4. 主要な統計的方法に対する統計ソフトの結果を理解できる。

はすべて達成されている。

②学生の受講状況、受講態度等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：

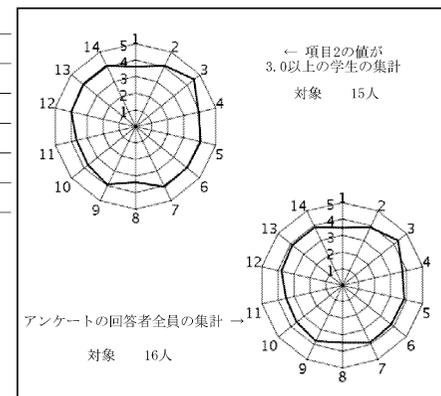
本授業では学生が積極的に授業に参加しており、受講態度もよかった。  
また、授業中に全員参加型の問を出してみたところ、積極的に答える等、内容を良く理解していた。その結果、上記の目標はすべて達成された。  
期末試験の点数も全体的に良好であった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：理系科目の多くの授業と同様、予習よりも復習を重視しており、学生もその意識で勉強をしていたと思われる。

来年度も同様の方法で授業を継続することが望ましいと考える。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	線形代数学II および演習[SE]1
授業コード	50A07-002
教員名	福島 雅夫
教員コード	042820
登録人数	46
回答数	16
回答率	34.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

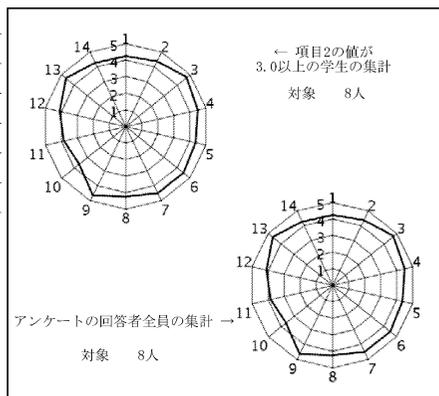


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目はQ3の「線形代数学Iおよび演習」に引き続き、1年生を対象として、将来専門科目を学ぶ際に必要となる線形代数学、特にベクトルや行列に関する基本的な性質や計算方法について説明している。奇数回目の授業では、ところどころに空欄を配置した講義資料を配布し、空欄に適切な数式や言葉を埋める作業を行わせながら、説明を行っている。これは学生が自分の手を動かすことにより理解を深めるとともに、授業に対する集中力を保たせることを意図したものであり、学生の回答結果からも概ね目的を達成していると考えられる。次に、配布資料に基づいてひととおり説明を終えたあと、資料の最後に付けた演習問題を、別に配布した用紙に回答させ、TAが採点したものを次回の講義で学生に返している。偶数回目の授業は演習であり、奇数回目の授業で学習した内容に関連する問題をその時間内に実際に解いてみることは、内容の理解を深める意味で効果は大きいと考えている。特に奇数回目の授業では、多人数クラスであることや数学に対する学生の関心と習熟度にかなりばらつきがあるという事情はあるが、丁寧な説明を心がけることにより、学生の学習意欲を引き出すよう努めている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 線形代数学II および演習[SS]2  
授業コード 50A07-004  
教員名 小市 俊悟  
教員コード 101691  
登録人数 35  
回答数 8  
回答率 22.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

受講生がシラバスにある到達目標に達するように、演習も通して逆行列やベクトル空間等について理解を深めてもらうことが目標であったが、成績から判断すると概ね達成できたものと思われる。線形代数学IIは線形代数学Iに比較して、ベクトル空間等の抽象的な概念も取り扱うため、思考力が要求されると思うが、授業中にも適宜、注意喚起したことで、意識して学習してもらえたのではないと思う。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

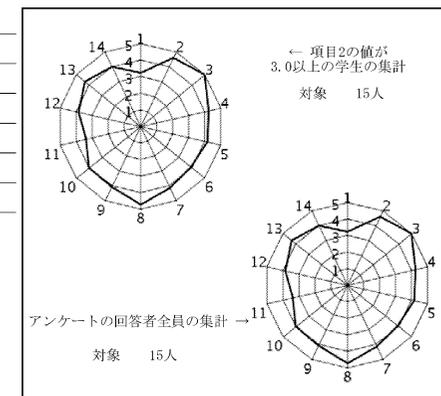
回答数が8名だったために、数値データの信頼性は高くないかもしれないが、数値自体は悪くない値であった。設問11はやや低めであるが、演習問題の解答例をWebClassに示すなどの自主的学習の用意はある。WebClassの履歴からすると、定期試験が近づくまで学生があまり閲覧しないことを憂慮すべきかもしれない。自由記述は、好評のみであった。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

続く線形代数学IIIも担当予定なので、引き続き丁寧な説明を心がけたい。今年度は2コマ連続で学生を注意するだけの余力があまりなかったが、来年度は1コマのみなので、少し余裕を持って学生にも接したいと思う。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[FB・FF・FG]4  
授業コード 10C01-018  
教員名 大月 英明  
教員コード 047340  
登録人数 35  
回答数 15  
回答率 42.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

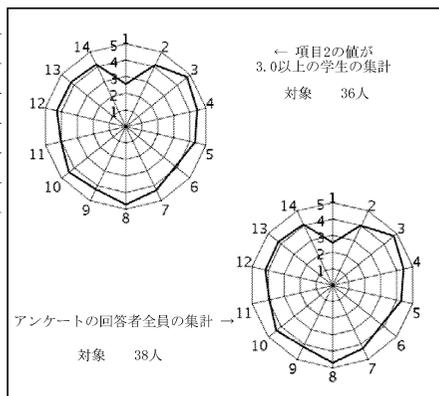
情報倫理での授業評価は同じ傾向があったのだが、今回は設問6, 11, 12が4を切るという、例年とは少し違う傾向がみられた。自由記述欄に指摘があったのだが、この理由として時間の配分に問題があったとも思える。今回は、自由なディスカッションの時間がもっと欲しい学生が多かった推測される。学部によって学生の傾向は異なるので、この点を次回からは考慮して授業運営を行いたい。

この評価にあたったクラスではなかった事案であるが、ディスカッションの際に全く関係ない談笑をする学生がみられるクラスが例年見受けられる。そのような学生がいた場合には適宜注意をしている。ディスカッションの時間を長くすればそのような学生が増えるかもしれない、ディスカッション時間さえ長くすれば良いものではないだろう。必須の作業とディスカッションのバランスについて、次回からは学生の様子を見て柔軟に配分していきたい。

前は上がった授業評価の回答率だが、また下がってしまった。授業評価を授業中に時間を取ってやるように指示したが、やらなかった学生のほうが多数であった。次回からは、評価期間内には毎回アナウンスすることとしたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[FB・FF・FG]8  
授業コード 10C01-022  
教員名 張 漢明  
教員コード 049627  
登録人数 40  
回答数 38  
回答率 95.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

■開講当初に設定していた目標と到達程度について

・通信ネットワークの発展に伴う情報社会における、ネットワークおよびネットワーク上の情報の取り扱いやコミュニケーションに関する知識や特性を理解して、自分の行動に社会的責任が伴うことを理解することは概ね達成することができた。

■総合的な自己点検・評価

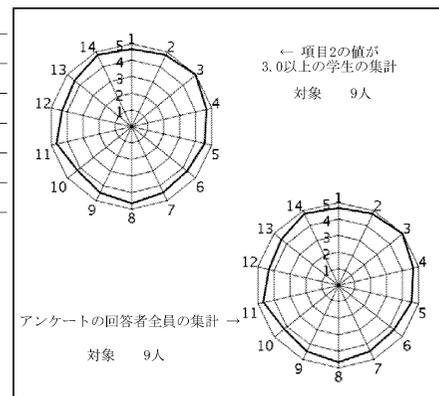
・当初、事業内容に興味はなかったようだが、グループ学習や発表を通じて情報倫理に対する興味が深まったようである。  
・グループワークおよびe-learningに対して良い評価の回答が得られている。  
・授業の満足度(4.08)に対して、どの程度身についたかという評価が低い(3.08)ことは、学習内容について不十分な点があると考えられる。

■改善点、今後の抱負、方針

・レポートの回答にばらつきがあるので、評価基準と回答を例示することにより、レポート作成の意欲を高めたい。  
・学習内容が不十分な点に対して、課題に関する重要事項を解説することにより改善を図る。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数学科教育法B  
授業コード 15B22-001  
教員名 佐々木 克巳  
教員コード 018051  
登録人数 22  
回答数 9  
回答率 40.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

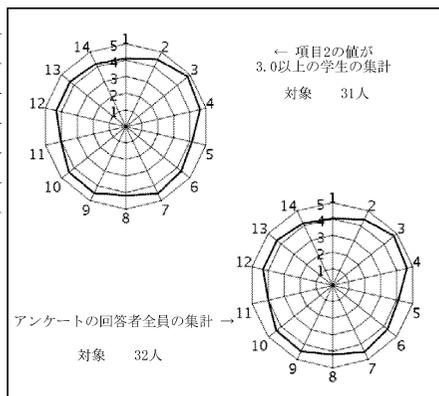
【授業目標】4つの目標、すなわち、「学習指導要領の理解」、「授業構想の理解」、「数学的な表現力」を育成する指導法の考察、「模擬授業とその評価による具体的な教育方法の考察」を挙げた。第2・第4の目標においては「教科書に書いてないことを適切に補えること」、「授業目標を定めそれを指導案や模擬授業で強調できること」に重点をおいた。

【目標達成度】概ね予定どおり進めることができた。昨年同様に、授業期間の前半で、第2の目標をとりあげた。そこでは、教科書に書かれていないことを補い、授業目標を意識した授業構想の例を挙げ、その重要性を強調した。そして、後半の模擬従授業につながるようにした。模擬授業でも、昨年と同様に、授業内でのコメントを全体的に関係する内容に絞り、詳細は個別対応という形をとった。自由記述でこの個別対応を「良かった点、評価できること」として挙げているコメントが2件あり、一定の効果が確認できたと考える。授業評価の数値からは、設問3～設問14の平均が4.55であり、概ね目標は達成されたと考える。ただし、登録者数22に対し、回答数9だったことは留意しなければならない。

【今後の方針】再課程認定申請の関係で、次年度から、新課程の内容を担当することになるが、【授業目標】で「重点をおいた」と述べた2点を強調した授業を担当する機会があれば、この運営を継続したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報システム開発実習[S]2  
授業コード 52A04-001  
教員名 金山 知俊  
教員コード 019455  
登録人数 46  
回答数 32  
回答率 69.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

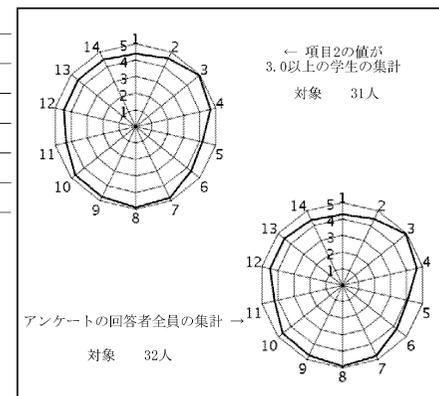
1. 本科目は工学的なソフトウェア開発の実践によってソフトウェア開発技術や組み込みシステム開発の特徴等を理解する科目であり、アクティブラーニングの考えを取り入れ、授業で行う実習、その内容をまとめたレポートの提出と評価、最後の授業回での発表の組み合わせにより学生の積極的な取り組みを促しつつ学習を進めるという工夫を行っている。授業は計画通りに進められ、本科目のシラバスに示された4つの到達目標はおおむね達成できたと思う。

2. 授業評価の結果は項目1~14の平均が4.33、項目3~14の平均が4.35であった。これは理工学部ソフトウェア工学科科目の平均より僅かに低い値である。個別の評価項目はいずれも4以上であり、全体として授業に対する満足度は低くないと思われるが、履修前の授業に対する興味を示す項目1が4.03、学生の学習意欲を引き出す工夫に関する項目11が4.00と他の項目に比べ低い値であった。グループ単位での実験や、学生同士による相互評価など、自主的な学習を進めるための工夫は行っていたが、自由記述の回答にはグループ内の学習意欲に差があるという意見もあり、授業に不満をもつ学生もいたようである。

3. 本科目はレポートの相互評価、自己評価や提出済みレポートの相互参照など、アクティブラーニングを目指した形で授業を構成しており、意欲のある学生にはそれらの点についても評価が得られている。一方で、意欲が十分でない学生の存在がグループ単位の学習に影響を及ぼすことも考えられる。次年度以降は学生の学習状況をより注視し、クラス全体の学習意欲の底上げを図りたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報システム開発実習[S]1  
授業コード 52A04-002  
教員名 横山 哲郎  
教員コード 101934  
登録人数 50  
回答数 32  
回答率 64.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
教育版レゴマインドストームEV3を用いて工学的なソフトウェア開発の実践を行って、基礎的な概念や技術の説明ができるようになることを目標とした。ソフトウェア工学の専門教育をこれから受けていく2年生が主な受講生であるが、統合開発環境を用いて実時間性を考慮したソフトウェアの開発をよく行っていた。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
問3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか。」と問8「教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。」が4.94と4.91でほぼ満点であった。実習の授業であるので、授業の開始・終了時刻が厳密なのや教員の指示を聞かないとできない実習であるのでこれらの結果は重要である。到達目標の理解や到達目標に向けての力がついてきているかについては、相対的に平均値が低い。シラバスに記載の到達目標の周知や何をもって到達目標を達成できたかみなせるのかについての説明をするとこれらについての改善も見られるであろう。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
プログラミングを汎用言語で行うことができるようにしたい。プログラミング基礎でも用いているC言語が良いのではないかと考えている。ロボットを教材に取り入れて実践的に学ぶ機会を早期に設けることは教育上意義があることであり、また学生の満足度も高いように見受けられる。今後も、学生の意欲を引き出して本分野に興味をもってもらえるような授業にしたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 プログラミング応用[HS]1  
授業コード 77221-001  
教員名 横森 励士  
教員コード 101114  
登録人数 5  
回答数 1  
回答率 20.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目では、例年多くの学生（2割ほど）が単位を落としており、なるべくそれを減らしたいというところがまず教員側の頭にある。  
昨年度から講義資料を持ち込み可として試験を行っているので、開講当初に設定していた目標として、今年は、要点がここだよ、ここはちゃんと講義資料に書いておくんだよ、ってことを伝えることを重視したうえで講義を行うことを注意していた。試験前においても、レポート課題を意識して取り組ませ、こんな感じの問題が出るという試験対策も行いながら、プログラミングを教えた。

結果として、今年は試験の答案を見る限り、そのあたりのサポートがうまくいっているようで、不合格者も少なく、出来も平均的に良かったと考えている。日程的には、最後の講義の二日後に試験があるという不利な条件であったが、学生は十分に対応し、対策を立てて頑張ってくれたものだと評価している。わかりやすいという意見も多かったので、この方針は続けていきたい。アルゴリズムとデータ構造の講義にも、生かせる部分を増やしたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 プログラミング応用[HS]2  
授業コード 77221-002  
教員名 蜂巢 吉成  
教員コード 019448  
登録人数 5  
回答数 0  
回答率 0.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回は2016年度以前入学の再履修者向け科目(受講者5人)が授業評価の対象となったが、学生からの回答がなかった。  
この科目は2018年度入学者、2017年度入学の再履修者と同じ時間、同じ教室で講義をしており、こちらは100名ほどの受講者がいる。  
アンケート依頼には「乗入れ科目も含む」とあったので、この2科目が対象と思っていたが、違ったようである。

(1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
授業はシラバスに記載した通りに進んだ。  
到達の程度は例年通りである。

(2) 数値データおよび自由記述等を踏まえての自己点検・評価  
講義を聞いてわかったような気にはなるが、実際にプログラムを書こうとすると書けない学生が多いと感じる。  
このギャブをどう埋めるかが長年の課題である。

(3) 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
来年度から、時間数が変わる予定なので、内容を検討して、学生の学力向上につなげたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	プログラミング応用[HS]3
授業コード	77221-003
教員名	宮澤 元
教員コード	019422
登録人数	6
回答数	0
回答率	0.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

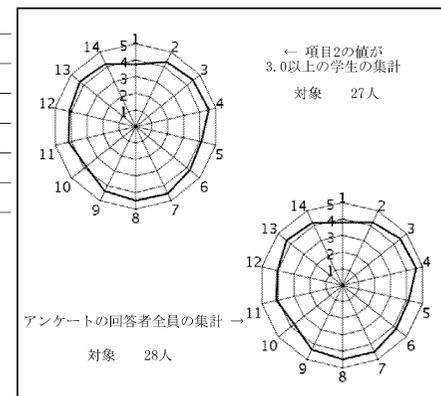
授業評価対象となった本科目は、再履修生を対象に開講されている旧カリキュラムの科目であり、もともと登録者が6名しかいない。授業評価対象科目となっていることについて授業時間内に2度ほど案内をしたし、最終回の授業時には15分程度の授業評価への回答の時間もとったのだが、回答者0という結果になってしまった。回答時間をとった最終回の講義に出席していた学生もいたはずなのに残念だ。乗り入れて開講されている新カリキュラム科目を授業評価科目としてもらった方が良かったのではないかな。

講義中の様子などから考えると、授業目標は十分達成できていなかったと考える。プログラミングに必要なコンピュータの仕組みや論理的な処理の組み立て方を伝えているつもりだが、単純にプログラムの字面を覚えれば良いと思っている学生が少なからずいるという印象を受ける。

授業内容という点では、昨年度の反省から、実習時間に難しいと思われる問題の解説を行うようにしていたが、こういった解説を必要とする学生が本当に聞いてくれているのかという疑問が残る。結局、解説などをろくに聞かずに、単に解答を写すだけで終わっている学生も一定数いるようである。多人数のクラスでも学生個々にそれぞれ考えてもらうような授業を心がけたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	応用解析学
授業コード	51B02-001
教員名	杉浦 洋
教員コード	100769
登録人数	294
回答数	28
回答率	9.5%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

・開講当初に設定した授業目標

華麗な理論に流れがちな内容である。逆に計算技法に捕われ、本質を見失う危険性もある。微積分学I, IIの内容からの自然な発展として複素関数論が理解できるように努める。初等関数に関する具体的な例題を多く取り上げる。毎回授業の内容をまとめたプリントを配布する。複素関数の取り扱いに習熟するため、毎回演習課題を与え、レポートを提出させる。中間試験を行い、習熟を促す。

・実践状況（目標達成度）

最終回を除き、毎回演習課題を与えレポートを提出させた。レポートは返却せず、その代わりに次回の授業の冒頭で解答を詳しく説明した。この方式は、好評であった。

複素微分の内容までで中間試験を行った。成績不良を自覚した学生のために、中間試験の再試験を行った。定期試験は複素積分を出題範囲とした。

・授業評価

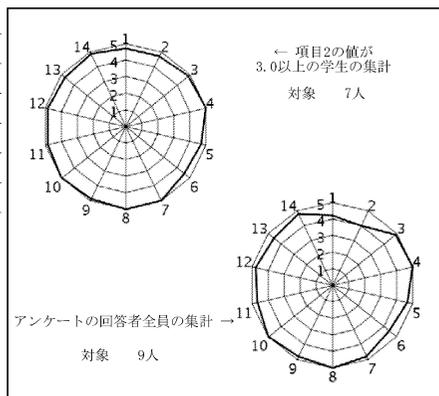
アンケートによれば、授業に対する評価はまあまあであった。受講者が400名近くになり、教室が狭いと言う苦情があった。

・改善点抱負方針

板書は毎回考えている。配付資料とうまく組み合わせたい。これからも、要点を絞り込んだ解説とレイアウトに配慮した板書、充実した演習、適切な資料の配布に努めてゆきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報社会と倫理  
授業コード 52B09-001  
教員名 杉原 桂太  
教員コード 101115  
登録人数 112  
回答数 9  
回答率 8.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

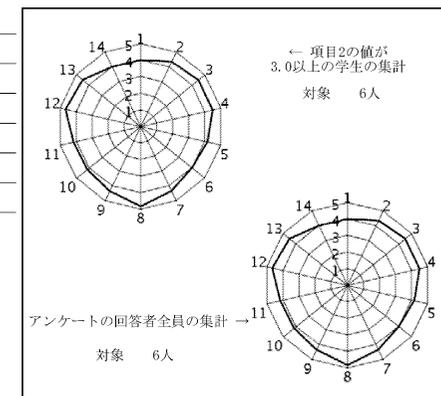
この授業は、各回の授業をケーススタディの解説部分と、実際に課題に取り組む部分とに分けることによって行った。そのため、そのような授業が問題なく展開し、受講者が授業の内容をより理解できるようになることが目標となった。設問項目(1-14)では、設問1, 2, 3, 5, 6, 7, 9, 11, 12, 13, 14は4点台、設問4, 8, 10は5点であった。これらの点について悪くはない評価だが、回答数が少ない点は問題と認識している。学生による授業評価のアナウンスを複数回の授業で行ったが、全体的にこの授業への満足感が高い受講者のみがアンケートに回答していると考えられる。この点について、来年度以降は、この授業において多くのアンケート結果が得られるような方策を検討したい。

自由記述からは、設問15について、「話の展開がとてもスムーズで、つまずいた学生へも丁寧に教えている教師の姿勢に大変好感を覚えた。」という記述があるが、全体的にこの授業への満足感が高い受講者による評価という点に留意する必要がある。設問16, 設問17への回答はなかった。

以上を踏まえ、来年度以降は、4点台の項目の内でもより評価を高められる項目に留意したい。今回の授業評価の問題点として、出席者数に対して回答者数が少ないという点がある。この改善点について、次のこの授業が学生による授業評価の対象科目となる際には、十分な数の回答が得られるように必要な方策を考えたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 制御システム実習2  
授業コード 53A02-002  
教員名 中島 明  
教員コード 103140  
登録人数 40  
回答数 6  
回答率 15.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

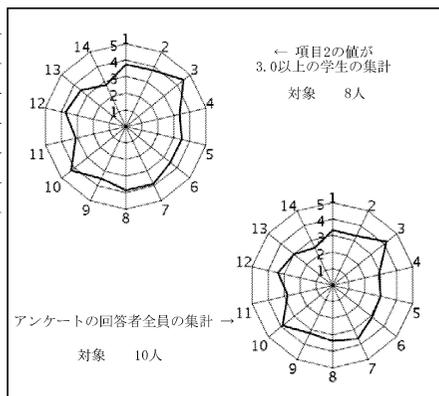


授業評価結果を踏まえた点検・評価

そもそもとして、回答数が6しかないことにただただ呆れるしかない。アンケートに回答するように求めて時間を設けたあの時間帯に彼らは一体何をしていたのだろうか？  
以前も(この授業であったかは不明だが)同じことを書いた記憶がある。回答を授業出席の一貫とするなどしない限り回答率が向上することは望めないのではないか。  
1割少々しかない回答をもとに報告書を書くことにどれだけ意味があるか甚だ疑問ではあるが、致し方ない。  
もう例年同じことを言っているが、相変わらず項目20, 21だけ飛び抜けて悪い。  
様々な要因があることは承知しているが、この実習は学問的に先行して習得すべき科目が多くあり、2年生Q3, Q4に行うこと自体が不適切であると言わざるを得ない。  
そうは言ってもカリキュラムは変わらないので、Q3の同一授業に関する授業評価でも述べたように、根本的に内容を見直すしかないであろう。  
現状の知識先行型から、体験先行型にすることが最も劇的かつ簡易な方法であるが、小学生の体験学習講座になる危険性を多分にはらんでいる。  
むしろ小学生は自分で希望して参加し好奇心に目を輝かせているが、一方の学生は必修だから仕方なく参加しスキあらばスマホを取り出して濁った目でいじっているの、小学の方がましであろう(そもそも小学生に失礼である)。  
まず来年度は、スマホ禁止を通達することから始める。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 電子通信工学実習2  
授業コード 53A03-002  
教員名 野田 聡人  
教員コード 103679  
登録人数 55  
回答数 10  
回答率 18.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

当初計画通りの実習内容をすべて実施した。レポート提出状況およびレポートを採点した結果の成績を見ると、最終レポートを提出しなかった者以外は全員合格点に達している。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

授業への満足度や理解度についての問いへの回答の平均点が3を下回っている。進行速度についての設問も点数が低いことから、授業が速すぎるとの評価であると読み取れる。本年度の実習内容は昨年度の内容から大きく見直し、難易度の高いテーマを削るとともに、測定器の基本的な使い方に関する実習に初回2コマを割り当てるなど、相当の配慮を行った。一般的な工学部の2年生レベルとしてはかなり基礎的な内容である。また測定器も老朽化したものと置き換える形で最新機種を新規導入し、機材トラブルによって実習に影響が出ないようにも配慮した。また、過去に履修済の他科目や高校までに学習しているはずの内容についても必要に応じて補足説明を与えた。これらの対策によって受講生のレベルと授業レベルとの整合性に努めた結果、所定の最終レポートを提出した者は全員合格点に到達していた。昨年度は、提出はしているが不合格点にとどまる学生が1~2割を占めていたが、大きく改善した。それでもこの授業進行についていけないというのであれば、受講態度に問題があると考える。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

来年度の同科目についてもさらに改善を図るべく、新機材の手配など準備を進めている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 卒業研究IVG  
授業コード 53A14-003  
教員名 陳 幹  
教員コード 100770  
登録人数 9  
回答数  
回答率  
休講回数 0 回  
補講回数 1 回

レーダーチャートなし  
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 目標と到達

卒業研究I, II, IIIの成果をまとめ、研究背景、新規性、有用性が明記された卒業論文を提出し、口頭発表することを目標とした。大学を卒業することだけが目標の学生が受講しており、「どこまでやったらいいでしょうですか」という、研究以前の段階であったが、文書再提出などを繰り返し、受講生全員が最低限のラインには到達した。

2. 自己点検・評価

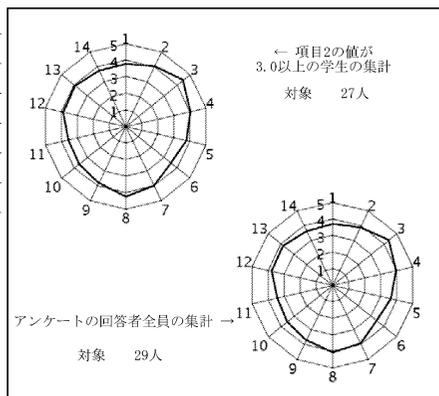
研究成果そのものは要求せずに、作業のプロセスが研究であったのか、提出物・報告書が就職後上司や顧客に見せることができる体裁になっているのか、といったことを言葉をかえてひたすら繰り返し説明し、要求した。学生は、毎回、口先では「わかりました。やりなおります。」という回答をするが、再提出においておなじことをひたすら繰り返すことになった。学生自身がだめだと認識しているものを提出することを止めることができなかった。再提出を繰り返し、最低限の体裁は整えたが、学生自身にその能力が身についたのかは不明である。最低限の仕事はこなしたつもりだが、非常に効率の悪い仕事であった。

3. 改善点・抱負

非常にレベルの低い状況なので改善の余地はいくらでもあるが、こちらの努力でどうにかできる気がしない。一方、卒業研究を英語で作成し、国際会議へ投稿し、採択された学生もいた。やる気のある学生については今後も同様のサポートを行いたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 通信理論[S]  
授業コード 53B02-001  
教員名 河野 浩之  
教員コード 048595  
登録人数 155  
回答数 29  
回答率 18.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

教科書を中心とした板書で授業を行い、WebClass上に授業補助資料を提示した。授業目標は、「情報源のエントロピー計算」「ハフマン符号や誤り訂正符号等を構成する典型的なアルゴリズム」への理解を深めることであり、レポートと試験で到達度を評価した。加えて、授業内容と関連するアンケートを15回実施し、技術用語などの定着を試みた。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

例えば、自由記述の回答に「教科書に準拠した内容を説明したり、数回課題を出して、授業内容の定着を図っていたこと」とあり、授業形式に一定の支持が得られた。

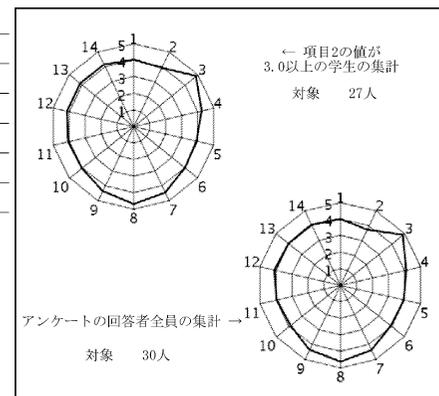
なお、設問21「情報量の期待値、すなわち、エントロピーの計算方法」の評価が2.52と、他の項目に比較して低い。そこで、授業評価を案内したWebClass項目のアクセス数を確認したところ、アクセス者数は21名にとどまっていた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

成績評価に用いないアンケートに毎回80名程度の回答があり、他の授業での実施を検討したい。なお、実質的な受講者数を考慮すると、授業評価の回答率は約35%程度と考えられる。最終回の総括時間を多く取ることが、回答率低下に影響している可能性もあるので、十分な時間確保を検討したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報通信セキュリティ[S]  
授業コード 53B08-001  
教員名 石原 靖哲  
教員コード 103810  
登録人数 180  
回答数 30  
回答率 16.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

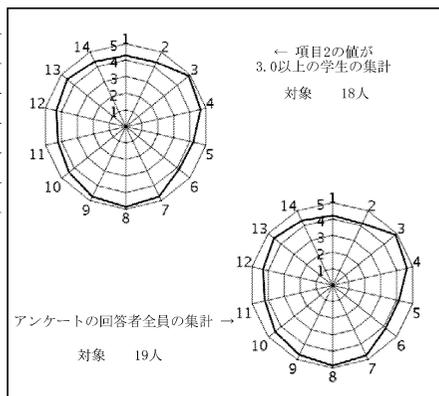
①情報セキュリティに関する個々の技術の習得度合いや位置づけの理解に関しては個人差がやや大きかった。ただし、毎回の授業の出席人数を考えれば（受講者ほぼ全員が出席していたという状況ではないため）、妥当な結果であるとも考えている。

②スライドには教える内容すべてを書き込まないというスタンスで実施しており、授業初回にもその旨受講生に伝えている。その分を補うための板書をきっちり行う必要があるが、受講生にとって不十分に見えたところがあったのかもしれない。

③改善すべき点はいろいろあるが、来年度は特に設問11の結果をよくする方向で取り組みたい。この科目を担当して2年目であり、選定した教科書の内容をいかに受講生にわかりやすく教えるかということに注力してきた。来年度以降は少し余裕ができると思われるので、教科書には書かれていないが受講生にとっては身近な話題を絡めるようにして、受講生の興味関心をひくような工夫をしていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 機械電子制御工学特別講義  
授業コード 77378-001  
教員名 大石 泰章  
教員コード 101405  
登録人数 78  
回答数 19  
回答率 24.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

○授業の目的

この授業は理工学部機械電子制御工学科の専門科目（選択）であり、動的システムの状態空間表現と、状態空間表現を使った動的システムの解析と設計の方法について講義するものである。

○数値評価（設問1～14）について

全項目で4点を上回った。数理的な内容の授業としては満足してよいレベルと考える。ただし回答者が少数であるので、もっと回答率を上げられないか工夫したい。

○評価できる点（設問15）について

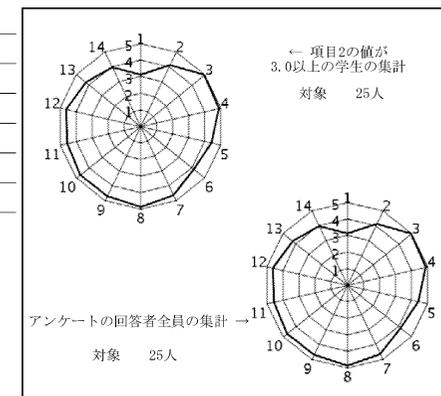
「証明を含めて説明が丁寧（4件）」「わかりやすい（2件）」「問題演習が有用だった」「教員の準備がしっかりしていた」などとあり、基本的には学生のニーズに合った授業ができていると考える。

○改善すべき点（設問16）について

「問題演習の時間を増やしてほしい」「早い時期から定期試験の説明をしてほしい」との意見があった。確かにその通りで、次回から気をつけると言いたいところであるが、来年度はこの授業は担当しないので、別の担当授業において注意することで代えさせてもらいたい。「板書が多くて大変だった」との意見もあった。そうだったかもしれないが、手で書き写すことで頭も活性化するというのが私の信念である。スライドを使って授業をすると、理解する前にスライドが切り替わってしまい、体も動かさないので眠くなるばかりだと思っている。今後も今のスタイルで授業をするつもりである。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[FB・FF・FG]2  
授業コード 10C01-016  
教員名 後藤 邦夫  
教員コード 016428  
登録人数 35  
回答数 25  
回答率 71.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目標は、受講者全員が到達目標を達成することであるが、欠席が多い数名を除いた全受講者がAまたはA+の評価を得たことから目標を達成したと言える。

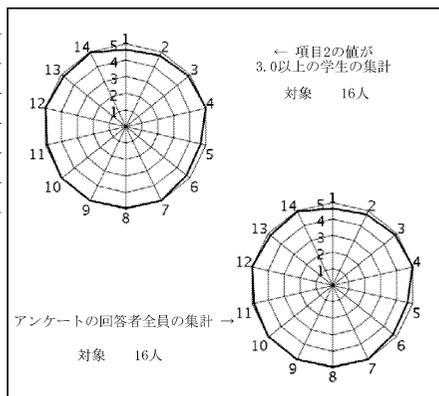
実施当日出席者のアンケート回答率は78%と悪くなかったが、授業でスマートフォンを使用し、十分な回答時間をとっているのに回答しない学生がいることは残念である。ほとんどの設問において、4以上の評価で「情報」のカテゴリの平均値を上回っている。4を下回るのは設問1(3.12主体的授業参加)と14(3.96、満足度)であるが平均値よりは高い。

自由記述は肯定的な一件「主体的に学べる授業形式がよかった」と否定的な一件「高校で済ませておくべき内容のカリキュラム、電子メールアドレスの扱いに関する説明に同意できない」があった。確かにこのカリキュラムは高校の教科情報教科書の内容よりを絞り込んだ内容であるが、本人が述べたように、周辺の学生は高校で情報倫理を十分学んでいないので、当分の間はこの内容を続けるべきだと思われる。2点目は、研究論文に仕事用の電子メールアドレスを書く、などの前提を聞き逃し、電子メールアドレスは個人情報だからできるだけ隠すべきなのに違うことを言ったと感じたことによる批判である。

今年度Q3までは、レポートの書き方、発表方法をきびしく指導していたので学生に嫌われた感じがあった。Q4では、細かい誤りまで指摘はするが、ひどくなければ減点しないと明言したところ、自主的な改善がみられた。次年度もこの方針を続けるつもりである。スライド発表におけるスピーチ原稿の読み上げは相変わらずなくならないので、根気よく指導するしかない。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[G]8  
授業コード 11A08-039  
教員名 鹿野 緑  
教員コード 101092  
登録人数 18  
回答数 16  
回答率 88.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

国際教養学科1年次必修「英語IVリテラシー」についての授業評価報告をする。第3クォーターも同科目への授業評価アンケートを行ったが、今回もほぼ似たような結果となった。

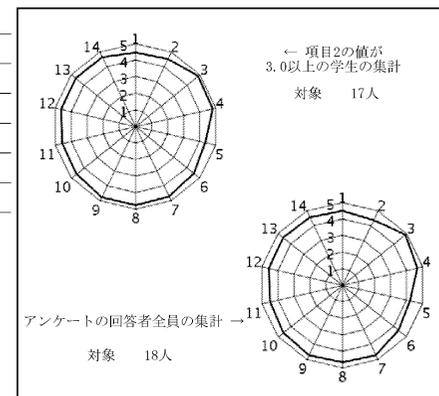
① 目標の到達度：1年次の総まとめとなるIVの目標は、読みに関しては、まずアカデミックな内容の英文を論理的に読み、文学の英文を味わうという点であったが、文学については味わうための基盤がやや不足していた。アカデミックな英文の読みは、ほとんどの学生が目標達成していた。4～5ページのArgumentative構成のペーパーを書くことは全員が達成できた。APAスタイルには今後の慣れが必要であろう

② アンケートの平均値は、項目1～14が4.88、項目4～14が4.91という結果であった。第3クォーターから変化はあまりなく、1年次の最終段階の達成度、満足度は高かったと思われる。教師の側からの観察とも一致しており、学生が時間とエネルギーを割いて授業課題に取り組んでいた様子がわかる。

③ 今後への留意点：「英語でペーパーを書く」タスクについては、フィードバックを含めて段階的に指導していくことの重要さをますます感じている。「読み」については、アカデミックな文脈を抵抗なく読めるようにはなっているが、細かく辞書を引くなど基礎基本にもどった読みの指導を心がけていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語II<G>  
授業コード 11C02-010  
教員名 大竹 弘二  
教員コード 101968  
登録人数 30  
回答数 18  
回答率 60.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



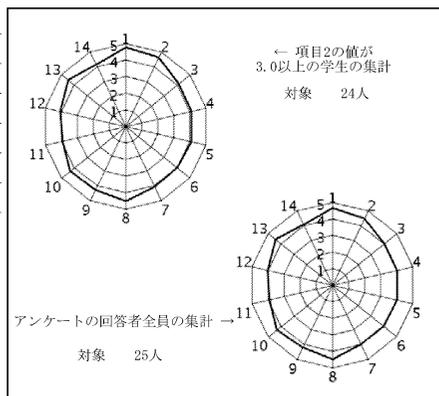
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この「ドイツ語II」は、本年度Q3に国際教養学部2年次生向けに開講されていた「ドイツ語I」の後を受けた授業であり、引き続き「ドイツ語I」と同じ受講者に対して初級ドイツ語を教授した。ドイツ語の本格的な上達を目的としているドイツ学科の授業とは違うので、「ドイツ語I」ではかつて担当していたドイツ学科生向けの授業よりも平易な内容を心掛けたつもりであったが、それでも授業に追いつくのが難しそうな学生が散見されたので、この「ドイツ語II」ではさらに授業進度をゆっくりにして、一層丁寧に教えるようにした。

しかしそれでも、授業内容になかなかついていけない学生が何人か見られた。既習の文法事項でも、小テストを行うなどして繰り返し復習させたものの、その効果がどの程度あったかについてはいまいち確信が持てない。学生ごとに上達度の差がずいぶん見られるので、どのレベルに合わせた授業進度にすべきか難しいのだが、学生同士の共同学習であるグループワークなどをより頻繁に取り入れるなどして、適宜なるべく学生間の差を均していくようにすべきかもしれない。今後とも、授業進度を速めて多くの学習事項を覚えさせるよりも、ドイツ語への拒否反応をもたせないように、個々人の学習上達度に配慮した丁寧な授業に努めたいと思う。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語II<G>  
授業コード 11D02-011  
教員名 安原 毅  
教員コード 017905  
登録人数 44  
回答数 25  
回答率 56.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



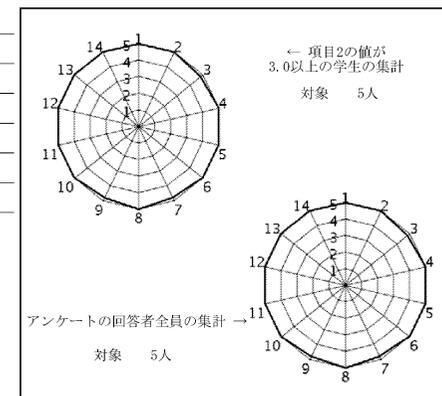
授業評価結果を踏まえた点検・評価

平均値が4.19と4.13という結果から判断すれば、当面の授業目標は達成できたと考える。また今回は、回答数を前回の10(?)から25まで増やすことができ、より正確なデータが得られたと考える。とくにQ2では会話作文のApaza先生と連絡を取り合って震度の調整を図ったので、学生も勉強しやすかったようだ。定期試験の結果を見ると、中程度以上の出来と判定できるものがほとんどだった。

全体平均すれば十分良好な結果だが、ただ設問6の結果が3.96であることから伺われるように、最近では内容を理解している学生とそうでない学生との格差が拡大してきている。人数が44人と多いせいもあるが、1回の授業中に一度も指名されない者がどうしても出てしまう。小テストや宿題でカバーしようとしているが、今後は一層の留意が必要かと考えている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治学B<国際科目群>  
授業コード 12C05-901  
教員名 山岸 敬和  
教員コード 101411  
登録人数 10  
回答数 5  
回答率 50.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

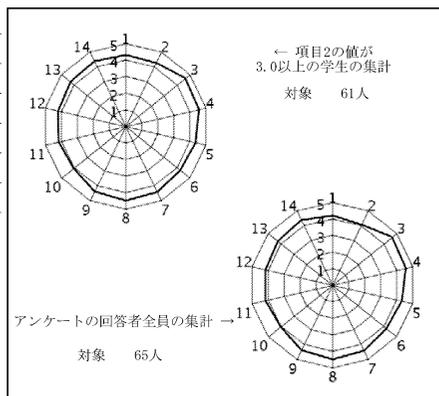
本科目の学生の到達目標として以下のものをあげた。

- 1) To understand basics of political system and public policy in the United States and Japan
- 2) To read and discuss in English
- 3) To do research and make presentation in English

クラスの冒頭に到達すべき目標について丁寧にした結果、求めるレベルが高かったのか、約半数の学生が履修取りやめをしたが、最終的には学問に対する意識が高い学生が残ってくれた。その結果、学生の相互作用もあり、非常にインテンシブながら楽しく学びを深めていくことができたクラスとなった。また人数が少なかったことで、一人一人丁寧にフィードバックができたので学生も満足していたことに加え、教員としても充実した時間となった。このクラスに関する反省点としては、一部シラバス通りに進まなかったということだが、これも学生との話し合いをしながらの軌道修正だったため問題はなかったと考える。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生命と倫理問題5  
 授業コード 13A03-005  
 教員名 神崎 宣次  
 教員コード 103280  
 登録人数 199  
 回答数 65  
 回答率 32.7%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 0 回

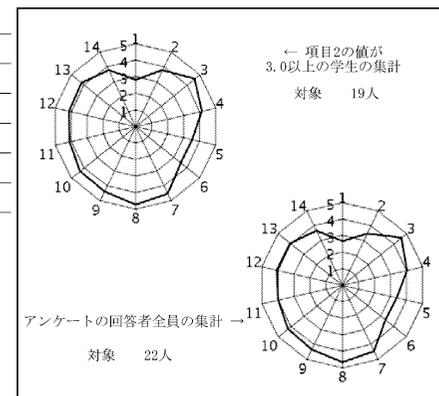


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 当初設定していた目標に関しては、おおよそ達成されたものとする。
2. 自由記述の回答を見る限り、各回のテーマについて事前に受講生の考えを課題とアンケートで提出させておいて、それらからピックアップした意見やその傾向を講義内で検討するというやり方はそれなりに効果を持っていると考えられる。ただし、受講生間でのディスカッションを実際に行わせる場合と比べて、多様な意見に触れる効果が多いか少ないかは不明。また、こういう形式に対して自宅での課題と授業での内容の重複が大きいと考える回答もあったので、この点については調整の必要性を感じている。
3. 2で述べた点について検討が必要と考える。ただし200人以上という受講生数から考えると、実際にディスカッションをさせるとすれば、教室の構造も含めて工夫が必要となる。  
もう一つ検討すべきポイントとして、毎回WebClassで配布している授業資料の構成、分量をどうするかという問題を認識している。今クォーターの場合、前半では復習のしやすさを重視してかなりシンプルで分量の少ない資料にしていたが、後半は分量が増えてしまった。各回のテーマによっても分量が変わってくるのは仕方の内面もあるが、来年度はできるだけ統一されたものに修正していく必要があるだろう。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化と情報2  
 授業コード 13E05-002  
 教員名 永井 英治  
 教員コード 018861  
 登録人数 30  
 回答数 22  
 回答率 73.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

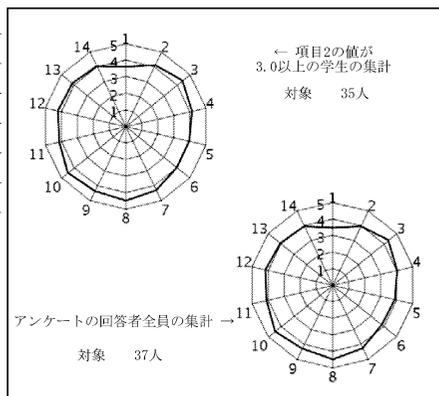


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、アーカイブズについての①基本的知識、②社会的重要性、③現状と課題について理解できていることを到達目標として設定した。アーカイブズについて何も知らなかった履修前の段階からは理解を深めているはずであり、とくに③に関しては、PC教室を利用してアーカイブズのWebページを閲覧したことで、経験に基づく理解ができていると考えられる。これは定期試験の結果からも言えることであり、授業を通して①について修得できているようすが多数の学生から窺える。またこの授業では、アーカイブズの実際を模擬的に体験できる時間を設けた。これは③を経験的に理解できる点で効果が期待できるだけでなく、実践の学であるアーカイブズ学に適った方法であるといえる。自由記述からは好評であったことがよくわかり、今後も継続していきたい方法であると考えている。しかし、授業評価で設問5・6・14の回答の数値が他と比べて低いのは、受講生の中により高い知的関心を持つ者がいたためと考えられる。理解のために工夫することは必要と考えるが、今後はこのような受講生を満足させる授業を展開できるようにしなければならぬ。自由記述では他に、授業の進行について意見があった。この授業では教科書を用いず、配布資料をよって授業を進めている。配布資料は概要に過ぎないと考えていたのであるが、受講生には違和感があったようである。補助教材の効果的利用についても注意していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教と文明  
授業コード 46B05-001  
教員名 VOLPE, Angelina  
教員コード 000167  
登録人数 83  
回答数 37  
回答率 44.6%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

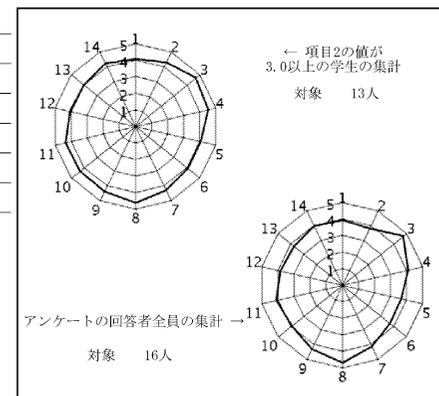
本講義は、その第1の目標である「時代や文化、また宗教観が異なっただとしても、宗教が常に人間の社会的行為の中に存在し続けている理由や要因を理解している」に到達したと考える。その理由として、特に以下の二点が挙げられる。1) どのような文明を分析したとしても宗教と関係していることを学生は発見した (M. エリアーデ参照)。2) 中世のヨーロッパは暗黒の時代ではなく、アッジのフランチェスコ、またダンテやジョットのような天才が生きていた時代であったことを学生は理解した。

第2の目標である「現代の国際社会における宗教の役目について理解している」においても達成したと言える。理由は特に以下の点である。学生はイスラムに対する偏見を持っていたが、本講義を受講し、本物の宗教とその信者は「聖戦」を行わないと理解した。事実、戦争や争いは、権力また土地や金を奪う結果生じる事象である (D. ヴィダール、G. リヴァー参照)。

学生の最終レポートの中に大変賢く深いものもあった。一人の学生は、「この授業中、それまで体の臓器のようにになっていたスマートフォンから90分間離れることができた」と書き残した。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English IV2  
授業コード 48A08-002  
教員名 松永 隆  
教員コード 015081  
登録人数 21  
回答数 16  
回答率 76.2%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Course outline:

この授業は講義および演習の形式で行なわれる。GLS Englishは、英語の4技能の能力を駆使して大学の日常の活動を行い、国際教養学部のコンテンツ科目を英語で学ぶ力を養う。また、海外留学においても十分に機能できる能力を養う。「GLS EnglishIII」の学習に引き続き、IVではさらなる実践能力を養い、英語で行われるEMI学科科目、および、海外留学に対応できるアカデミック学習スキルを学ぶ。また、TOEFL、IELTSなどの語学試験の対策も行う。

目標達成度

Active Learning をしっかりと実施することができ、目標は十分なレベルまで達成できたと思われる。

高く評価できる点

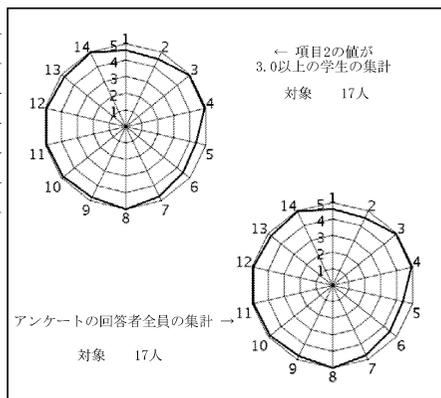
授業全体、授業運営、全体的評価に関してはすべて4ポイント台の前半に平均値があり、まずまず満足いく結果になったと思われる。設問1~14は4.05ポイント、設問3~14の平均値は4.08であった。また「英語でのプレゼンテーションを行う機会が良かった」、「リサーチや発表における技能を自主的に引き上げることができた」などの自由回答があった。今後もこのような手法は継続し、さらに新たな試みも導入していきたい。

改善点

Active learningの活動をもっと多様なものにしていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English IV3  
授業コード 48A08-003  
教員名 MILES, Richard  
教員コード 101363  
登録人数 19  
回答数 17  
回答率 89.5%  
休講回数 1回  
補講回数 1回

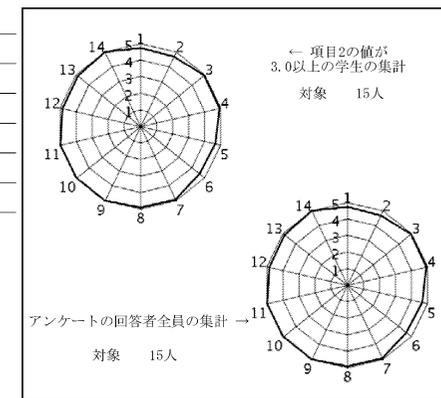


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Overall, I am very satisfied with the evaluations and with how the course went. Students were very positive in terms of their comments and the scores they gave the course. This course was also evaluated in the 3rd quarter so there was not much of a difference in the replies. The course was designed specifically to help students learn about different academic fields, in English, through active learning. Students answered very positively to questions #13 and #14, indicating they felt they had achieved a lot, had improved their skills and gained a better understanding of the course materials. Students also responded positively to question 9, indicating they thought the level of the class was appropriate.
2. The written comments from the students were all positive and reflected particular happiness with the atmosphere in the classroom and the interaction between the teacher and students, as well as the interaction between students. In particular, students once again seemed to benefit from the daily news stories (listening activities). Responses to question #4 also indicate that the course had been taught at an appropriate level and pace for the students.
3. For next year, I intend to provide more positive feedback to students, as their responses to question #6 indicated they were still unsure of the overall progress.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English IV4  
授業コード 48A08-004  
教員名 DEACON, Bradley  
教員コード 046920  
登録人数 16  
回答数 15  
回答率 93.8%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

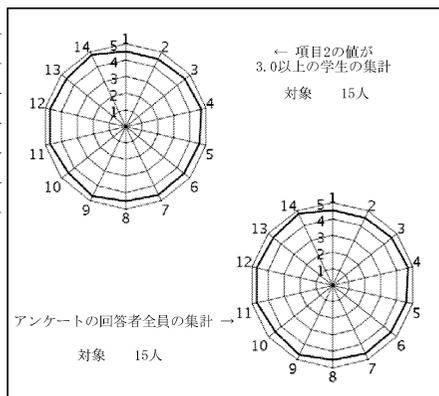


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- This course offered students opportunities to improve their oral proficiency and other skills in English. The students critically explored several global issues through discussion, presentation, and other mediums in order to build their schema and express themselves more logically.
- I was pleased to notice that the students found the course to be both engaging and challenging. A lot of effort was spent on building the kind of learning community that allowed students to both challenge themselves and each other to learn. As all areas of the numerical data were consistently scored at a high level, I would like to continue to create learning environments that meet such student expectations.
- As these students are particularly excited to participate in active learning, in particular, perhaps one way to improve is to continue to form teacher development communities with other likeminded teachers to collectively increase the active learning in our classes. Such collaboration would help the Global Liberal Studies program to more effectively cultivate students with the skills that will help them to thrive more when going abroad to locales such as ASU in the future. I would like to continue to build such learning communities with like-minded teachers to continue to grow and develop in a collaborative environment in the future.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English IV5  
授業コード 48A08-005  
教員名 YARDLEY, Gabriel  
教員コード Q16998  
登録人数 20  
回答数 15  
回答率 75.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

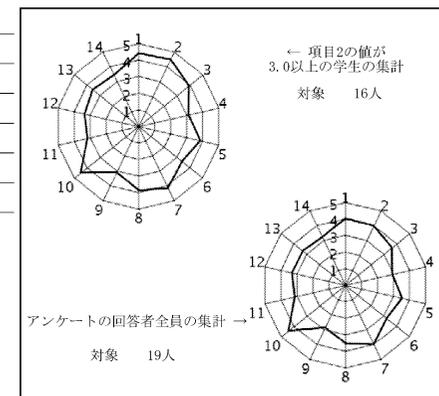


授業評価結果を踏まえた点検・評価

There appeared to be general satisfaction with this course in terms of the syllabus, the knowledge acquired and the materials and teaching methods used. The objectives as presented in the course outline were met in full. A few students appeared to be disinterested in the course content before classes began (Q1), but this was, it is hoped, addressed during Quarters 3 and 4. The issues raised in Qs 2, 6, 8 and 10, will be addressed in consultation with students in 2019 GLS English sessions. Progress and individual issues were discussed with students during personal interviews during Quarters 3 and 4 and helpful, constructive feedback was exchanged. Students were enthusiastic and diligent—with two exceptions—throughout both quarters, participating actively in all aspects of the course. The instructor will endeavour to provide a more thorough learning experience in all areas covered by this survey. Where appropriate, additional activities and materials will again be introduced or extended as requested by the comments and suggestions presented in both this and a supplementary course evaluation.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English IV6  
授業コード 48A08-006  
教員名 平岩 恵里子  
教員コード 100953  
登録人数 19  
回答数 19  
回答率 100.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

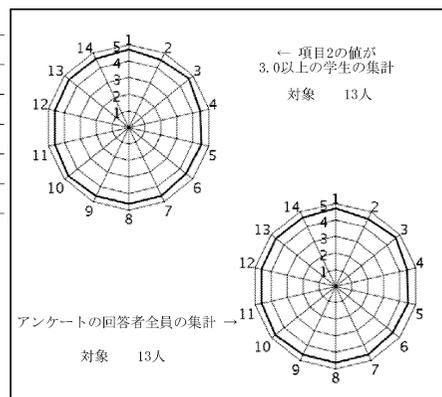


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 1年を締めくくる時期にある1年生に、自分の「興味」「関心」「これから国際教養学科で何を学ぶか」についての学問的な問いをテキストやペーパーをじっくり読み、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて考えさせること、そのプロセスの中で、テーマを絞り込む学問的な手順や考え方を身に着けること、を目標とした。学生はそれぞれに自分の思いや関心事について、考える機会を持ってくれたと考えている。
- ② ただ、自由記述や各項目の評価から気づいたこと、反省すべきこととして、①の目標をうまく伝えることができていなかったこと、補助資料のペーパー（先行研究）がなぜ大切に伝えきれなかったこと、時間配分や学生への指示を徹底させることができなかったこと、を挙げたい。また、学生と求める英語の授業とは違っていたのかもしれない、ということも、講義初回に学生としっかり話し合うことによって、講義の目的を共有していれば、避けることができたかもしれない。
- ③ ①の目的のためにはどのようにしたらよいか、試行錯誤しながらの講義だった。それが学生にも伝わったのであろう。したがって、今回の評価を出発点とし、講義の目的とそれを実現する方法をしっかりと伝えることをまずもって実践したい。学生にはポテンシャルがあり、それを学問的な問いにどう結びつけ、自分の「問い」を見つけるか（英語で）、に次もチャレンジしようと思う。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English IV7  
授業コード 48A08-007  
教員名 森泉 哲  
教員コード 100542  
登録人数 20  
回答数 13  
回答率 65.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

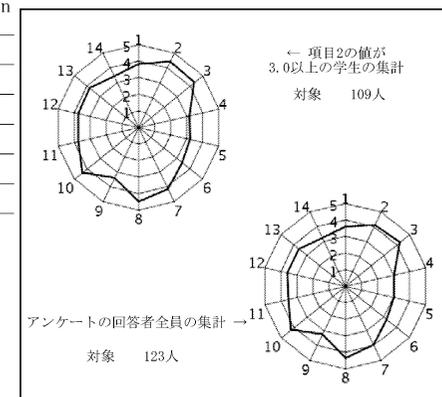


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目的は、GLS English IIIに引き続き、アカデミックな環境で使用できる英語4技能の伸長とともに、社会的問題について英語でディベートできるスキルを養成することであった。犯罪に関するディベートを2回行うことを目的として、教科書のリーディングとともに、ディベートの肯定側、否定側、ジャッジの視点から、論点をまとめて英語でコミュニケーションできる訓練を通して、4技能の向上を目指した。学生からの評価を踏まえると、学生自身も積極的に活動に取り組み、成果があったようにとらえることができる。どの項目についてもおしなべて肯定的な評価がなされている。一方で、自由記述のコメントにみられるように、本授業の進度がやや遅かったのではないかと2名からの意見があったので、学生との対話を通して、適宜確認しながら、より良い授業環境および運営がお互いに行えるように不断の努力をしていきたい。本授業が温かい雰囲気であったというコメントもあり、学生の学びが深められる授業のありかたについて、引き続き学生の様子を観察したり、コメントを求めたりしながら、考えていく。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 グローバル・スタディーズ概論A / Introduction to Global Studies A  
授業コード 48D01-001  
教員名 森山 幹弘  
教員コード 100090  
登録人数 154  
回答数 123  
回答率 79.9%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年の授業の振り返りから、今年度の授業では教科書を指定して一人一人の学生がしっかりと英語を読み内容を理解すること、その内容についてグループワークをして理解を確認できれば深め、さらにはそれぞれの学生が自分の考えを持つことができることを狙いとした。毎回のグループワークをまとめたシートを見る限りにおいて、ほとんどの学生はこの授業の狙いを理解し取り組み、目標に到達していたと考えられる。昨年の評価で指摘されたグループの規模が大きすぎたことを踏まえて、本年度はグループの構成メンバーを半分として、グループ数を2倍としたことで、活発にグループワークができていたと思われる。数値データと自由記述から窺えるのは、この狙いと目標に合致している学生が7割程度を占めていた一方で、教科書が難しすぎることや丁寧な説明がされない等を指摘する自由記述も見られた。毎回の授業のまとめをweb-classを通じて配布するとともに、その次の授業の初めに前回の復習をして難しい箇所を解説するなどの対策を講じていたが、十分でなかったのかもしれない。次年度の授業の運営については、この科目が1年生の必修科目であることを踏まえて、授業のレベルを落として学ぼうとする意欲のある学生を失望させることなく、かつ全ての学生に意欲を持たせることができるように、より丁寧な説明を行うなどの工夫をして授業運営をしていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 サステイナビリティ・スタディーズ概  
論A/ Introduction to Sustainabilit  
授業コード 48F01-001  
教員名 菅橋 一輝  
教員コード 102569  
登録人数 150  
回答数  
回答率  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

レーダーチャートなし  
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本講義では、「持続可能性に関連する問題群について、倫理および経済の両面から検討できるようになる」という目標を掲げていた。この点に関して、本講義ではサステイナビリティをめぐる経済学と倫理学の基礎を丁寧に解説し、公害や地球温暖化、食と農などの具体的な問題を取り上げながら、現実の問題の多面性と、多角的に物事を捉えることの重要性を学生に伝えるように努めた。また、3回に1回の割合で設定されているグループ・ディスカッションの回で、問題を多面的に分析する力を涵養するよう指導した。授業中に課した課題やレポート、グループ・ディスカッションの内容から、当初に想定していた目標は概ね到達できたものと評価される。

②学生の受講状況、受講態度等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

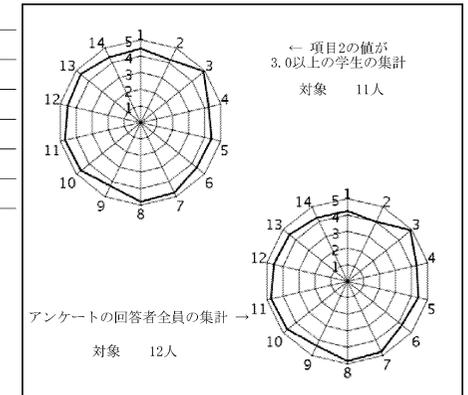
学生の受講状況は概ね良好であった。受講態度に関しても、講師の指示をよく守り、グループ・ディスカッションの回には概ね、建設的なディスカッションが行われていた。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

次年度はグループ・ディスカッションの課題を事前に示すなどして、より充実したグループ・ディスカッションが展開されるようにしたい。また、グループ・ディスカッションの回がゲストレクチャー等の都合でずれることがあったので、学生が講義とディスカッションの回を間違えないよう、授業の予定を随時示すようにしたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 典礼学(典礼暦年B)  
授業コード 21C49-001  
教員名 市瀬 英昭  
教員コード 055525  
登録人数 23  
回答数 12  
回答率 52.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

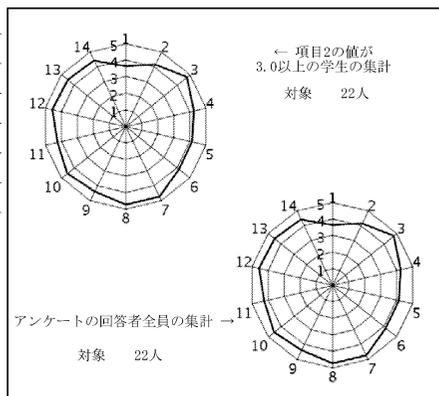


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標達成については十分であるとは言えない。Q3の典礼暦年Aの授業評価の結果と比較しても良好ではない。Q3の場合と同様に毎回講義資料を配布し丁寧な講義を行ったにも関わらず、評価は高いとは言えない。その理由の一つとして、背景的知識がほとんどない受講生と一定の土台がある受講生の割合が半々であるようなクラスで、講義水準を落とさないという基本方針を変えなかったことがある、と考えられる。自由記述欄に見られる「説明が細かくされていた」「授業内容に関する文献をたくさん紹介していただくこと」「参考文献をたくさん紹介して頂けたこと」などの記述は、すでに基礎知識をある程度有する受講生からのものであり、一方で、具体的な絵や動画の使用を要請する記述はそうではない受講生からのものであると思われる。また、板書の際の丁寧さを求める指摘もあるが、毎回詳細な講義資料をもとに解説しているので内容理解の点では問題ないと思われる。しかし、日本語習得後間もない受講生のためにも、彼らの安心のために、今後丁寧な板書を心がけたい。しかし、これは担当者の「講義のリズム・テンポ」に関する問題であるのでその兼ね合いをどうするか、今後の課題としたい。次クォーター・学期以降に向けての方針として、典礼暦年Bの受講は、原則として、典礼暦年Aの履修を前提とすることとする。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英米の詩
授業コード	31265-001
教員名	山田 泰広
教員コード	050443
登録人数	30
回答数	22
回答率	73.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業ではイギリス詩に対する理解を深めるために、ある時代のイギリスを代表する詩人が書いた詩をそれぞれの時代について2人一組で取り上げ、形式面、内容面、修辞面等において比較することで、その共通点と相違点を明らかにした。

この授業の到達目標は以下のとおりである。

1. 個々の詩の音韻的特徴を理解し、指摘できる。
2. 個々の詩の詩想の流れを理解できる。
3. 個々の詩の語り口の特徴に気づき、その効果を理解できる。
4. 個々の詩の修辞的表現に気づき、その効果を理解できる。

評価項目1の平均値は3.64で、授業が始まる前の関心は決して高くはなかったようだが、項目13の平均値は4.50で、終わりには「新しい知識を得たり、理解が深まったと感じた」受講生が大多数であったことがわかる。項目5と6の平均値はいずれも4.14なので、到達目標をまずまず達成できたと考えられる。

項目のうち最も高いのは7と8でとりわけ授業に取り組む姿勢が評価されたのは嬉しい。自由記述欄にも、「わかりやすさ」とともに「熱意」「真摯」が「良かった点、評価できること」として挙げられている。

反省点としては、シラバスに挙げた詩人のうち半分程度しか扱えなかったことがある。個々の作品にかかる時間が予想以上に長くかかったためであるが、その分密度の濃い作品理解になったと思う。この授業は今年限りの担当なので、今後の課題は書かずに反省のみにとどめる。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アドバンスト演習B
授業コード	44C02-017
教員名	倉持 孝司
教員コード	045237
登録人数	15
回答数	
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回

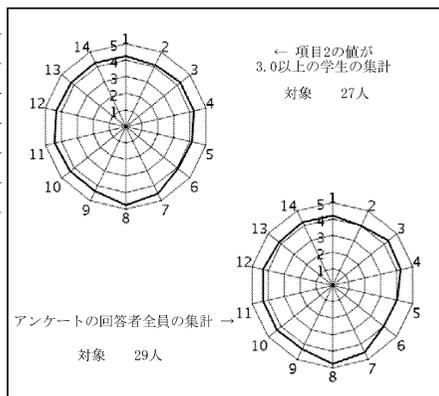
レーダーチャートなし  
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、演習形式で行われ、「憲法」を通して「現代社会において生起している諸問題」について考えることをテーマとした。すなわち、共通のテキストを用いて、「憲法」の基礎を学びつつ、「事例」を通して「憲法」で「現代において生起している諸問題」を考えることとした。「到達目標」として、1 「日本国憲法の基本構造、全体像に関する基礎的な理解が得られる」点については、日本国憲法の全体にわたって基本的事項を確認したことによって、資格試験などの受験を予定している者にとっても、「憲法」の総復習を行う機会にもなった。2 「「演習」での議論を通じてディベート力が養われる」点については、全員が発表し、比較的多くの質問が出され、質疑応答が行われた。3 「「現代社会において生起している諸問題」について「憲法」の観点から考え、議論ができるようになる」点については、アドバンスト演習Bを引き継ぐアドバンスト演習Cで行われる。来年度の新規演習では、上記経験を踏まえて、事例研究により力点を置いてみたいと思う。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 会社法C  
授業コード 44C18-001  
教員名 永江 亘  
教員コード 103861  
登録人数 65  
回答数 29  
回答率 44.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

会社法のシステムを条文ベースで理解するという目標については、具体的な事例を交えながら進めることができ、試験を見る限り学習目標に沿った講義ができたと評価できる。到達度としては、事前に複数の試験範囲に係る問題を提示している中で、十分な自主的な学習を学生がしていないことによる不足分を強く感じる結果となった。このような点を踏まえ、以後小テストの活用など、講義時間中の強制的な学習促進についても検討する必要があると感じた。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法学演習AII  
授業コード 44D02-004  
教員名 都筑 満雄  
教員コード 101565  
登録人数 2  
回答数  
回答率  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

レーダーチャートなし  
(授業評価アンケート不実施のため)

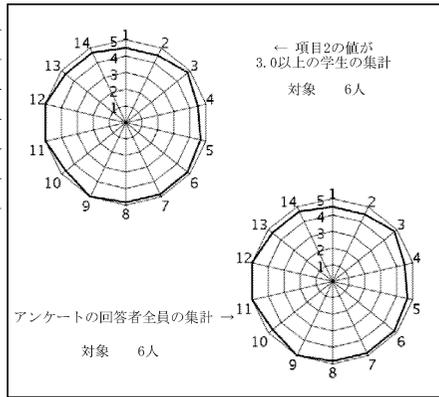
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、主として平成29年の民法（債権関係）改正により民法にどのような改正がなされたのかという観点から、演習形式で民法の財産法について学ぶことを目的とする。授業では、改正の重要なテーマのうち、まず債務不履行について、担当教員である都筑が改正の意義等について解説を行った。続いて、錯誤と消滅時効について、受講生が改正の意義等について報告を行った。続いて、都筑が作成した同改正内容を問う事例問題の検討を行った。事前に事例問題を配布して、受講生に予習してもらい、のちの授業で一緒に検討を行った。今般の民法改正は史上最大の改正であり、改正項目も多岐にわたるところ、限られた授業回数と受講生の要望を踏まえ、できる限りの検討を行うことができた。また、受講生の数が2名であったことから、報告回数を抑えて、代わりに、比較的事前の予習の負担の軽い問題演習を授業の中心にした。これにより、民法財産法の総合的な学習ができたものと思われる。

今後に向けての改善点として、受講生の参加意欲がやや弱かったように思われる。容易なことではないが、学習意欲に乏しい4年生にも勉強をする動機付けを工夫していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教職実践演習(中・高)2  
授業コード 15A16-002  
教員名 大塚 弥生  
教員コード 000065  
登録人数 8  
回答数 6  
回答率 75.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

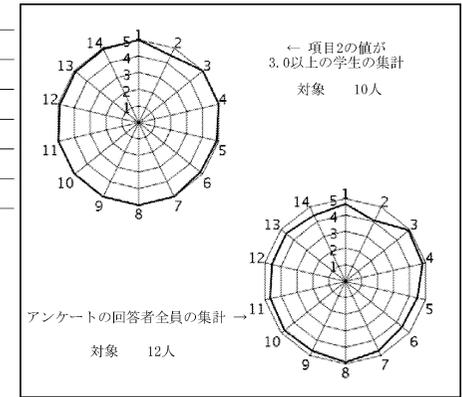
すべての項目において4.5ポイント以上であり、設問13（理解の深まり）および設問14（全体の満足度）は、ともに4.67ポイントであったことから、本授業の目標は達成されたものとする。

授業の内容は、現職教員を外部講師として招き、教育現場の実際を知ること、グループ実習を通して対人関係を体験的に学ぶこと、さらに、フィールドワークとして、学校現場の観察を通して学ぶことで構成されている。本授業は、教職科目における4年生の集大成に位置づけられており、教職に就く、就かないに関わらず、卒業後の進路を見据えて、受講生自らが自分の学びを意味づけていくことが求められている。すなわち、授業の内容は受講生の主体性に基づいて構成されており、この点において学びの広がりや深さをもたらし、学習への満足の高さにつながったと思われる。また本授業の受講生数が少なかったことで、教員がひとりひとりに働きかける機会が増え、その点も満足度の高さにつながったと思われる。

次年度も、今年度と同様に、外部講師の講話と体験学習、フィールドワークの実践を行っていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教職実践演習(中・高)3  
授業コード 15A16-003  
教員名 笹尾 幸夫  
教員コード 103858  
登録人数 30  
回答数 12  
回答率 40.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

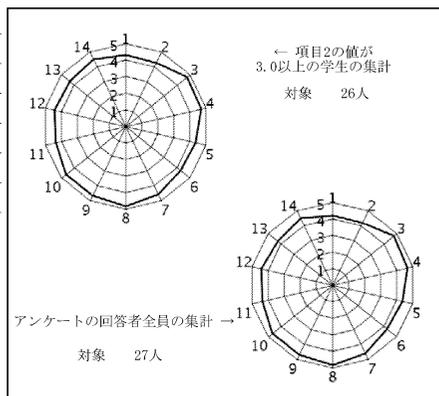
①本来、来春から実際に教職に就く学生を対象とした実習形式の講座であるが、企業への就職率の良さから教員とまらない学生がかなりいた。出席時間数に差は見られたが、授業は全体として真面目に取り組んでおり、概ね当初の目標は達成できたのではないと思われる。

②数値的にはかなり高い評価を得た。「項目2」の評価が他と比べてやや低いが、レポート提出を課しており、講座内容を復習する機会があったものとする。先輩教員の体験談や討論の時間を確保し、充実した講座内容であったと思われる。

③東日本大震災から8年が過ぎていたが、大学4年生でも心を痛めている者がいるかも知れないので、今後、映像を流す前に配慮してまいりたい。企業に就職する学生もかなり存在することを踏まえ、討論を充実させるため、まとめの仕方等を工夫してまいりたい。なお、フィールドワークの活動で愛知県総合教育センター研修講座の参観を企画しているが、参加者数の減少が見られるので、参観の意義を強調してまいりたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教職実践演習(中・高)4  
 授業コード 15A16-004  
 教員名 宇田 光  
 教員コード 100494  
 登録人数 34  
 回答数 27  
 回答率 79.4%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



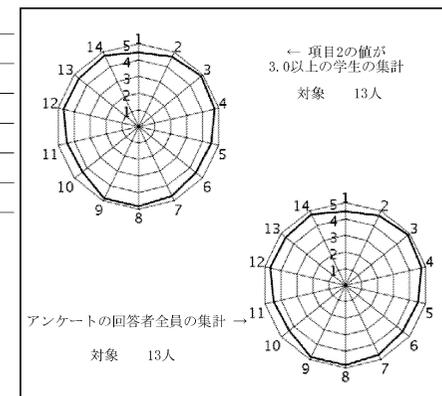
授業評価結果を踏まえた点検・評価

教職課程の必修科目で、4年生を対象として「最終確認」をねらいとする科目である。演習科目であるので、グループワークを中心とした構成としている。また、卒業生の教員らによる特別講義も含む。履修登録者数は34名、回答数は26名。項目3から14の平均値は4.53、満足度を示す設問14の平均値は4.48であった。レーダーチャートでも大きな落ち込み部分はない。全体としては、まずまず満足であるという回答を得たと言える。

個別の自由記述では(a)良かった点として、「教室の人数が多かったが、グループ活動はしやすかったので、適切に指示してもらえたと感じました」、「教育者を目指している人が多いので毎回の講義が集中できて雰囲気がとても良かったと思う」、「パワーポイントがわかりやすく、座学に終わらない授業だったので、最後まで楽しく受講できました」など。一方、(b)改善すべき点については、「出席点をつけて欲しいと感じた。グループワークを含む授業だったので、ワークに参加しない生徒に対する評価をはっきり示して欲しかった」、「とくになし」の2件のみ。協同で取り組む課題における公平な評価方法については、再度検討してみたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教職実践演習(中・高)5  
 授業コード 15A16-005  
 教員名 五島 敦子  
 教員コード 101282  
 登録人数 22  
 回答数 13  
 回答率 59.1%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 授業目標の達成度・点検・評価

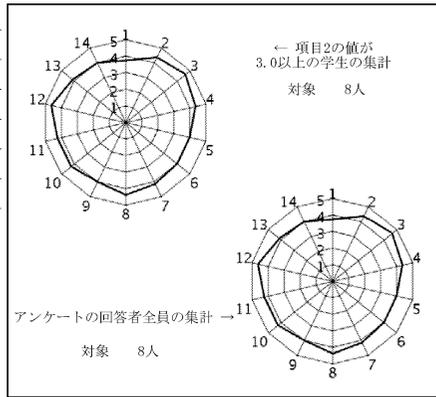
本科目は、教職課程4年間の学修履歴を総合的に診断し、実践的指導力をもつ教員としての資質の確認と構築を目標としている。設問3, 8, 9が4.85であったことから、学生の理解度に即して計画的に講義を実施できたと考えられ、講義目標を十分に達成したことがうかがえる。自由記述でよかった点として「教育実習を振り返ることができた」「講師の方の話がたくさんきけた」「楽しかった」と記述されていたことも、充実した講義であったことを示している。他方、改善すべき点として「毎回ルーブリックを書くのが大変だった」というコメントがあったが、教員として必要な能力であるため、むしろ、学習密度の濃さを示す証左と捉えたい。

2. 今後の改善点・抱負・方針

とくに大きく問題になる点はない。最も低い値は設問10の4.38、設問11の4.46であるが、学外講師による合同講義やフィールドワークが全体のほぼ半分の回数を占めること、介護等体験などで欠席者が多々見られることなどのため、各学生に対する個別指導の時間が少なかったことは確かである。今後は、ウェブクラスを活用するなどして個別指導を行い、学習の遅れがないよう万全の体制でサポートしたいと思う。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育行政論  
 授業コード 15A17-001  
 教員名 山崎 智子  
 教員コード 103555  
 登録人数 51  
 回答数 8  
 回答率 15.7%  
 休講回数 2 回  
 補講回数 0 回



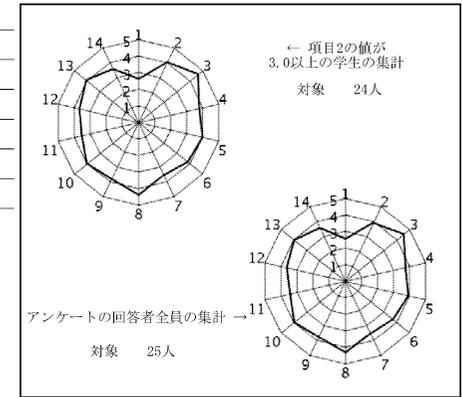
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は、(1)日本の教育行政の構造と特質、および(2)教育行政学にかかわる議論について学んだ上で、(3)現代の教育行政をめぐる諸課題について、根拠を示しながら自らの考えを述べる、というものであった。受講生の到達の程度に関しては、(3)には多少課題が残ったものの、(1)と(2)については多くの学生が概ね達成したといえる。

科目の特性上、実際の学校現場の事例等について学ぶというよりは、覚えなければならない法制度が多いため講義中心の授業となることを初回授業において説明し、本授業の特徴をよく理解した上で履修を判断するよう強く勧めたものの、この点を十分に考慮しないで履修した学生もいたようである。併せて、やむをえず急に休講となる可能性があることについては初回授業で伝えていたものの、この点も十分に伝わっていなかったようである。今後は、これらの点をどのように周知していくかが課題であると考えている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[FS・FA]2  
 授業コード 10C01-024  
 教員名 柴原 寛明  
 教員コード 103522  
 登録人数 30  
 回答数 25  
 回答率 83.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



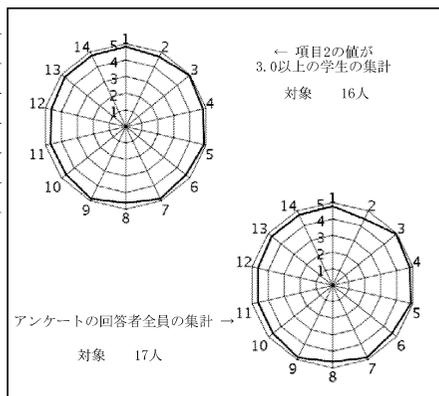
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目の到達目標は、情報ネットワークの拡大に対応した社会的ルールを知っている、情報ネットワークにおけるプライバシーの重要性を理解している、様々なコンテンツは知的財産権によって保護されることを理解している、の3点であった。最終レポートを含むすべての課題を提出して合格した受講生については、到達目標をおおよそ達成しているとみなしてよい。特に、ネット上の行動とプライバシーや著作権との関わりに対して理解を深められたと思われる。

授業はe-learningと対面授業を組み合わせ実施され、e-learningで学習した内容に関して対面授業でグループディスカッションや発表を行うことで理解を深めるようになってきている。e-learningの教材と課題の分量は適切であり、しっかり取り組んだ受講生は理解を深められたと思われる。一方、e-learning教材の一部あるいは大半に目を通した記録のない受講生が少なからず見受けられることは非常に残念である。小テストやレポートとは異なり必須としていないが、教材も必ず読むあるいは視聴するようにしてほしい。対面授業については授業の中心となるグループ活動に十分な時間を確保するように努めた結果、いずれのグループも十分にディスカッションや発表の準備を行うことができたと思う。技術の進化や社会の変化など我々を取り巻く状況は刻々と変化しているため、教材にはない最新の話題や出来事を継続的に取り上げていく必要がある。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[F  
B]3  
授業コード 11A04-003  
教員名 KJELDGAARD, Marie  
教員コード 103478  
登録人数 19  
回答数 17  
回答率 89.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

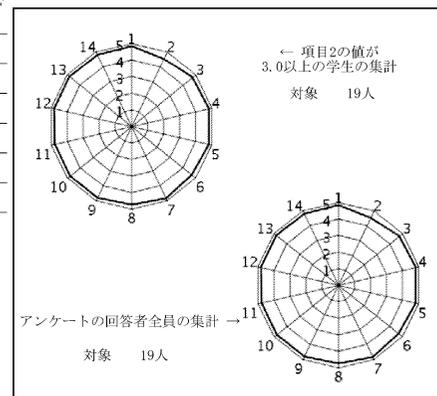
This course was a conversation class, with the primary goal of helping students develop their communication skills. Over the course of Quarters 3 and 4, I felt that students were able to start talking more, increase the length of their conversations in English, and develop as English-language communicators. Students successfully gave a final presentation on a topic from the textbook and participated in a final conversation of about 10 minutes.

I believe the goals for this class were well met. According to the survey data, students agreed with this assessment. Almost all the students reported that they felt they had acquired new knowledge and were satisfied with the course overall. I was especially pleased to see that students both understood course goals and felt that they had made progress towards those goals.

According to this class, my weakest area was audibility. Some students found it a bit difficult to hear my voice during class. In the future, I will pay more attention to my voice volume and audibility. I would also like to make sure I'm setting appropriate guidelines and managing classroom discipline well, encouraging students to participate fully in and out of class, and giving clear instructions and opportunities for questions, as there were a few students who felt uncertain about those areas. Overall, though, I believe this class was a success, and I hope to continue many of the same activities and methods in future courses.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[F  
B]4  
授業コード 11A04-004  
教員名 MORRISH, Jaime  
教員コード 103479  
登録人数 21  
回答数 19  
回答率 90.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

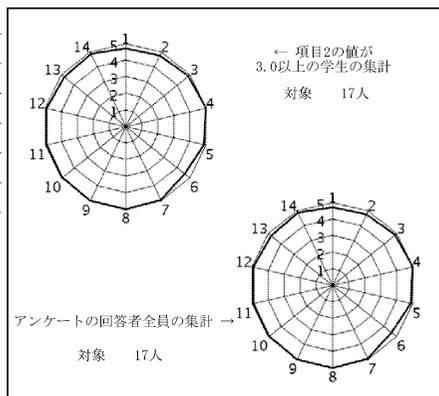


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course objectives were completed by all of the students, this was reflected in the feedback I received where students commented that they had ample opportunities for talking in English. The students' attendance was mostly exemplary with only a few students missing more than 2 classes, and only 2 students missing 3 or more and none missing more than 5. The overall motivation and attitude was very good. I aim to give the students as many opportunities as possible to interact with each other, one aspect that received particularly positive feedback was a new exercise I carried out this year which was a question and answer session at the start of every class. This involved students randomly choosing a different question and talking about the topic with their partner or small groups for one minute, and then repeating this process for 10 questions. This activity was designed specifically with Eibei OC students in mind to improve the students' fluency in English speaking. The students seemed to appreciate this as it was reflected well in the student feedback I received. Overall, this class was very enjoyable and rewarding to teach. I hope that by taking note of the comments from the students, I can continue to improve my teaching as a whole. I feel that by varying the in-class activities and changing partners and group members regularly contributed to a lively classroom atmosphere. Also, by keeping the students on a continuous class by class assessment, together with some key speaking tasks throughout the quarter kept their motivation and attention throughout the whole quarter.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[F  
B]7  
授業コード 11A04-007  
教員名 FILER, Benjamin  
教員コード 103850  
登録人数 24  
回答数 17  
回答率 70.8%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

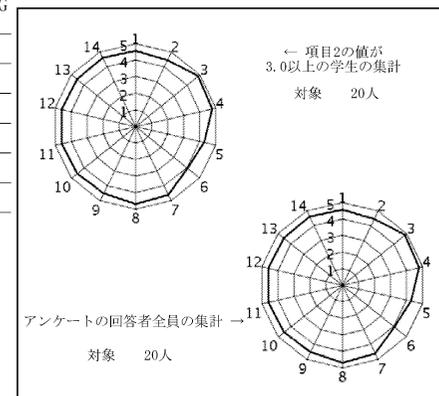
As this was the 4th quarter of the 1st year for these Eibei students, I wanted to give them a bit more freedom and focus a little more on task-based learning. Therefore, I focussed on performance and giving the students the opportunity to write a short play and perform it in front of their peers. This gave students a feeling of control and independence that I feel empowers them in their language learning. I also gave them the opportunity to choose their own way of completing homework through a programme of recording one's own self-study and then sharing with classmates.

I am extremely relieved to see the feedback from the students and it seems that they found the lessons to be useful, enjoyable and motivating. It was interesting for me to see some comments about the not using of a coursebook. This is something I had been agonising over during the year - eventually deciding to move away from the coursebook in class. It is very gratifying to see that the students seemed to appreciate this. I always found as a student myself, that the best lessons were the ones that veered away from the textbook and involved the teacher's creativity more.

I will, therefore, aim to continue in this vein as we move into the 2019 academic year.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[G  
15  
授業コード 11A04-036  
教員名 KUMAI William N.  
教員コード 000204  
登録人数 21  
回答数 20  
回答率 95.2%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

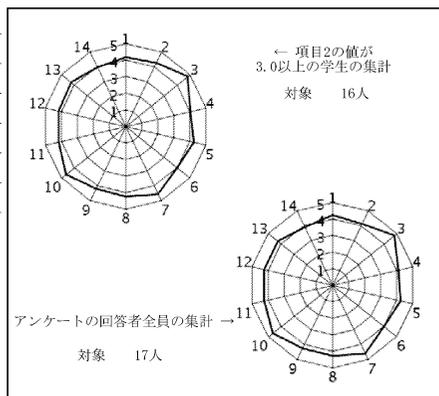


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class represents the second iteration, incorporating several improvements from last year. The biggest change came in the dramatic increase in the amount of listening for which students are responsible. Last year the average was around 10 minutes of authentic listening via TED Talks; this year the same listening was assigned but another weekly video (in the 30 to 60 minute range) was added. This is a direct consequence of the evaluation of students' experience in Arizona. Unfortunately, student complaints of being overburdened by homework emerged. There is a need to convince students that their listening skills need more reinforcement. On the other hand, students seem satisfied with the amount of discussion opportunities afforded them. This came at the expense of limiting the amount of time spent on the textbook.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[G]3  
授業コード 11A08-034  
教員名 石崎 保明  
教員コード 102444  
登録人数 20  
回答数 17  
回答率 85.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

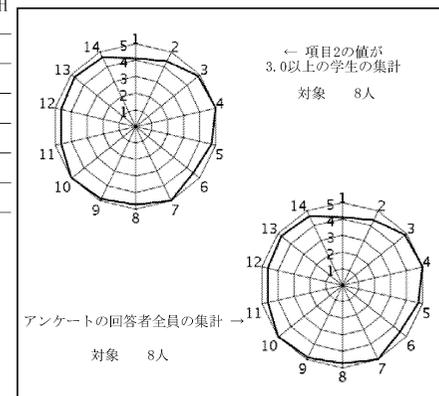


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①今回評価を受けた科目は、特にアカデミック・ライティングに焦点を当てた共通教育科目です。同科目は昨年度も担当しており、そこで得られた学生からの意見を踏まえて、リサーチを伴うエッセイの書き方をより丁寧に指導し、求める語数や回数も増やしました。到達目標に関連する設問5については、回答者のすべてから4以上の評価を得た一方、設問6については2名が3と評価しました。書く量が多くライティング力がついたとの複数からの自由記述コメントと合わせて、十分とはいえないまでも、ライティング指導という点では、改善がみられていると考えています。
- ②開講時期は異なりますが、今回と同学科・同学年を対象とした同種の科目の授業評価を受けており、今年度第2Qの授業評価と比較すると、項目3から14の平均値が0.18下がったものの、昨年度第3Qと比較すると0.85改善されました。設問14については、8割弱の受講生からは5または4の評価を得たものの、結果としては全体で最も低い数値となり、受講者全員から満足を得るという意味では課題が残る結果となりました。
- ③自由記述欄に、なぜかこの科目では日本語を喋ってしまう、という意見があり、英語で説明した内容を時折日本語で説明することも不要ではという意見がありました。このクラスの学生は英語学習に対するモチベーションが高く、授業中はできるだけ英語を聴きたいという意識が高いことから、日本語は極力使わないという雰囲気づくりを心掛けたいと考えています。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[H]  
A, HP, HJ]3  
授業コード 11A12-008  
教員名 LOTT, Danielle  
教員コード 103593  
登録人数 19  
回答数 8  
回答率 42.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

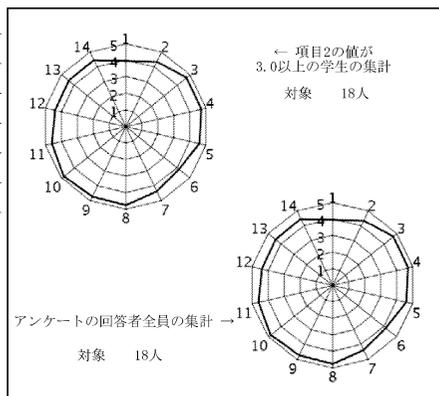


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1) My goals were to develop students' communicative competence through recursive practice, conversation strategies, and self-assessment. I also taught reading strategies. Finally, I tried a new final project, a jobs fair, to require them to use the reading, research, presentation, and conversation skills they had learned through the year in a practical task.
- 2) Based on the numerical data and comments, I feel that from the students' point of view the course was a success. However, only half of the students completed the course evaluations during the given class time, because most were more concerned about working on the final project. I need more information.
- 3) Next time I will give more time for students to complete the course evaluations and the final project. I also want to make the connection between media literacy, reading skills, and the final project clearer. Also, to help with the pace of the course, I may use one book for the reading and have students talk about the content instead of requiring students to buy two books. Finally, I want to incorporate more extensive reading activities into class time because according to the the MReader quizzes, student participation really dropped off in the 3rd and 4th quarters.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[E]  
111  
授業コード 11A12-035  
教員名 BLYTH, Andrew  
教員コード 102982  
登録人数 20  
回答数 18  
回答率 90.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

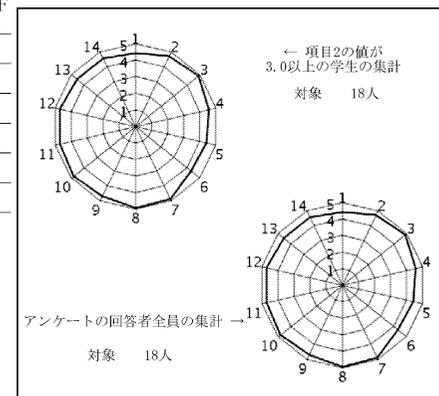


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course was initially taught by another teacher who suddenly left in the middle of the year. I took over the course for quarters three and four. In my experience, it is always very difficult to take over another teacher's class. The class already has an established routine, their own culture, and expectations. I had to figure out what the level and abilities of the class is, and how to use the books the previous teacher had already been using. Additionally, I hadn't taught a class of this low-a-level for such a long time. Consequently, my main goals were: Make a clean and clear break from the previous class; establish a new routine; establish new expectations of the required skills and abilities to pass; encourage students to put in an effort to strive to pass the class. This class was fortunately understanding but still required some encouragement to participate. As they worked hard, I informed them of their improvements, and gave them positive reinforcement. However, I expected my overall survey score to be much lower, perhaps in the three-point something range. However, getting 4.51 and 4.57 is unexpectedly higher than anticipated, but still lower than my other class results

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ[F]  
A, FF, FS, FG]8  
授業コード 11A14-029  
教員名 OTTOSON, Kevin  
教員コード 103121  
登録人数 24  
回答数 18  
回答率 75.0%  
休講回数 2 回  
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

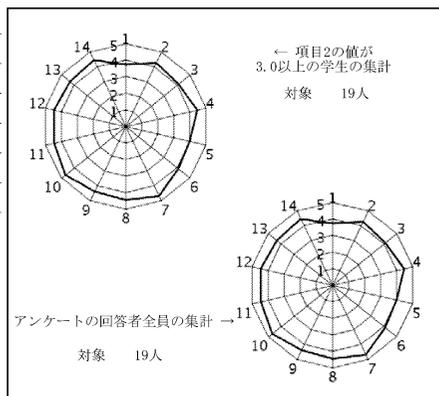
(1) Most of the speaking goals were achieved for this class. However, I believe a couple of the goals were not achieved to the extent to which I would have hoped. The first is in regards to listening. I did not provide the students enough chances to practice their dictation and note-taking on listening tasks. Another goal of the class was to be able to make suggestions requests, complaints, and speculations. I should have facilitated activities for students to better demonstrate their ability to perform these objectives.

(2) Overall, the responses look positive based on the numerical objectives. One of the statements that received a lower score (4.56) was in terms of gaining new knowledge on the topics and their satisfaction with the class (4.56). This could be due to the topics we covered in class.

(3) With that in mind, I will use different materials for next year's class. These materials will focus on intercultural communication. Most of the students just came back from an overseas programs, so I believe that topics focusing on identity, values, and cultural norms will be more meaningful and useful for the students.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIIIコミュニケーションスキルズ [S]16  
授業コード 11A16-008  
教員名 HOWREY, John  
教員コード 100371  
登録人数 24  
回答数 19  
回答率 79.2%  
休講回数 1回  
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course is designed to improve students' overall English ability, particularly speaking, listening and reading skills. Students worked on reading strategies, vocabulary building, reading for speed, and reading aloud. They wrote reports of extensive readers and shared them with classmates. Students also learned and practiced speaking strategies for starting, maintaining, and concluding conversations, and gave two short presentations.

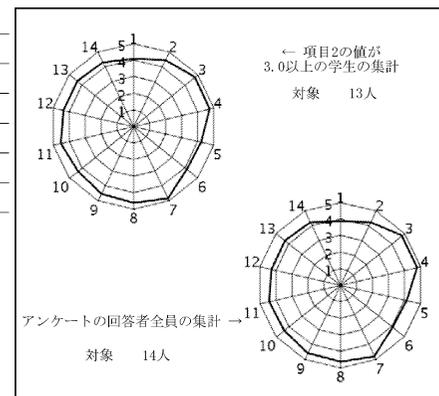
This was my first time to teach the science and engineering majors. Overall, I was satisfied with the results of the questionnaire. The scores were lower than I normally receive in most categories, but students in this department often have a stronger negative view toward English.

Students commented that my English explanations and pronunciation were easy to understand. They also said they could ask questions in class when they did not understand. The complaints I received were due to time. Students said I arrived late and kept students late. However, the clock in the classroom (Q311) was off by five minutes, which is probably the reason for the complaint.

I will change to an easier textbook for next year and try to slow the pace of the class down a bit. I will also try to reduce the amount students read in Q1 and Q2 so that students do not feel as much pressure with homework.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iライティング<S>2  
授業コード 11A17-024  
教員名 ELLIOTT, Darren  
教員コード 101579  
登録人数 18  
回答数 14  
回答率 77.8%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



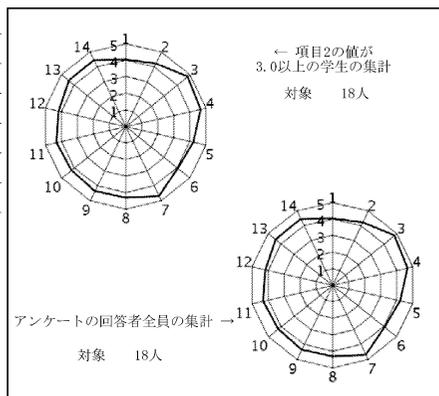
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was a new course for me, taken on at the last minute to cover the schedule, so I have been creating and testing the materials 'live' so to speak. As the class evolved I tried to pick out important aspects of grammar and focus on them in correction, in addition to the broader organizational focus in each of the five pieces each student produced. Overall, I think I am going in the right direction but for this particular quarter I felt that the class needed more energy and creativity. For example, we used anonymous examples from the students own writing in a grammar auction error correction activity - this was really well received and motivating. But many of the other exercises I had prepared were more static and less interesting. During the spring break, developing a more engaging set of materials is my major project.

Having said that, the students were largely able to produce good work and improve on their base work.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIディスカッション<B>3  
授業コード 11A20-003  
教員名 BROADBY, Deborah  
教員コード 103594  
登録人数 24  
回答数 18  
回答率 75.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

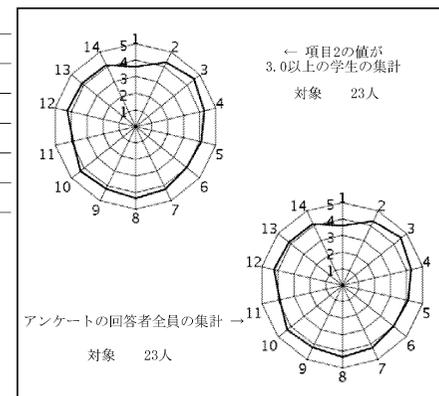


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I believe that the goals set at the beginning of this course were met to a high degree. While the both the quantitative and qualitative data were positive, in retrospect, I believe that as a teacher I should always try my upmost to improve my teaching and learn from my mistakes. From the results, I was pleased to notice that 18 out of 24 students had filled out the questionnaire. This was the second quarter for me to teach this class and I felt that I was able to successfully engage the students in some interesting and thought provoking discussions. In the next academic year, I hope to further challenge myself by creating and developing fun and interactive lessons along with continuing to listen, adapt and modify my lessons to suit the needs, level and interests of my students. I will also continue to ask my peers and senior advisors for advice on ways to help me be a better teacher. I would like to continue to create a positive and enjoyable learning environment for my future students

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIディスカッション<B>4  
授業コード 11A20-004  
教員名 都築 千絵  
教員コード 103924  
登録人数 24  
回答数 23  
回答率 95.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

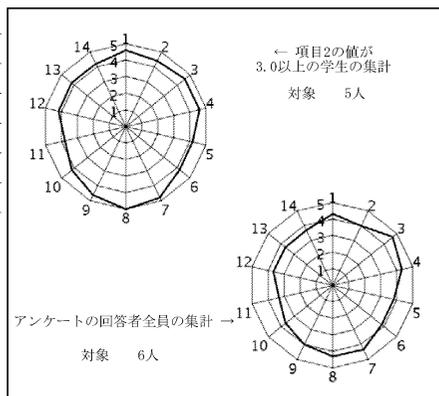
この授業は、第3、第4クォータを通して、英語でディスカッションする力を向上させることを目標とした。具体的には、身近なテーマについて、賛成・反対の意見を述べ、理由や例をあげ説明することができ、同時に人の意見を理解し質問ができるようになることが目標であった。学生は英語力の差は大きかったが、すべての学生が到達目標を概ね達成した。

学生のアンケート評価結果では、設問6で授業の到達目標に向けて力がついてきているとあまり思わないと答えた学生が2人いた。この2人が第4クォータから参加した再履修者であれば、第3クォータからの積み上げがなかったので、もっとフォローをすべきだった。そうでなければ、徐々にディスカッションの時間が長くなり、課題が難しくなったので、力がついてきたことを感じるよりまだ不足していると感じたのかも知れない。また、設問11の結果から、学生の学習意欲、積極的な授業参加、自主的な学習を促すことがまだ足りなかったことがわかり反省している。この授業では8割がグループワークだったが、良かった点として「グループワーク」というコメントがあり嬉しかった。

来年度以降は、再履修の2年生数名が1年生に混じって第3クォータあるいは第4クォータだけ履修することがわかったので、第4クォータの最初にもう少し丁寧に第3クォータの復習をしたい。また、ディスカッションのテーマに関する適切な情報を提供することで、テーマに関して興味をもたせ、それについて意見を言う動機付けの部分を工夫していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリーディング<全>4  
授業コード 11A24-006  
教員名 FLORES, Ana Maria  
教員コード 102899  
登録人数 24  
回答数 6  
回答率 25.0%  
休講回数 1回  
補講回数 1回

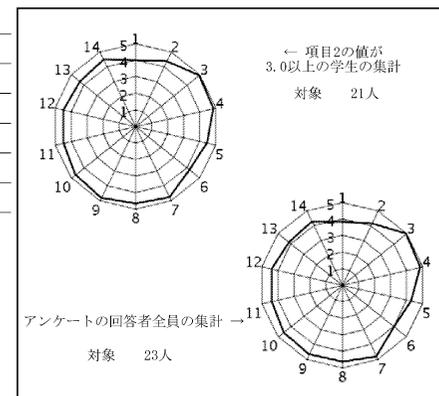


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Every student has a different way of learning, motivation for learning, and learning interests. Some students may find a particular learning task easy to complete, others may find the same task difficult. This is the most common problem in a mixed-ability classroom. In this class, students were from different grades with different levels of English language skills and abilities, which was truly a very challenging obstacle during the course. Nonetheless, I believe that it is important for a close monitoring of each and every student to meet their learning needs through a variety of ways. This kind of learning group requires more time for evaluation so that the learning tools and materials are appropriately adapted to the learning needs.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリーディング<全>6  
授業コード 11A24-008  
教員名 WOOD, Joseph  
教員コード 103072  
登録人数 24  
回答数 23  
回答率 95.8%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

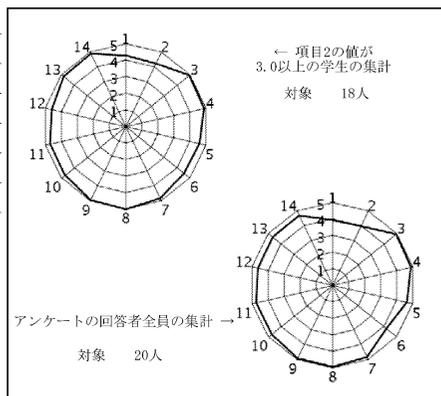


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am happy to learn that the students in my Reading class enjoyed it and learned from it. Based on the survey results and the comments that students wrote, it appears that the course goals were met and that students were able to strengthen their reading skills in English. The students in the class were motivated and worked hard at reading in class as well as at home. Furthermore, students were able to write about the books they read in their extensive reading journals and then discuss the contents of the journals with their classmates at the beginning of each class. Based on the students' comments I am happy to know that they liked working in class with partners and thought that my lessons were good. I plan to continue doing many of the activities we did in class in future classes. I will also continue to find new and better ways to teach English Reading classes.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング<全>4  
授業コード 11A26-016  
教員名 GOTOH, Mie  
教員コード 100186  
登録人数 24  
回答数 20  
回答率 83.3%  
休講回数 1回  
補講回数 1回

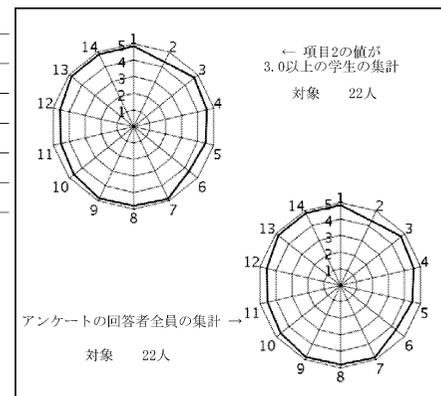


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義は全学部対象のリスニングのため、生徒間に多く見られる英語に対する興味の違いと、英語力の差を考慮しながら進めるように努めました。ペアワークやグループワークを毎回多く取り入れたり、生徒が自宅で練習できる教材を用意し、英語の音声を自宅でも聞き、リスニングや発音練習ができる環境を作ることに工夫しました。生徒のコメントには、「リスニングの基礎が学べてよかった」「くりかえし発音練習ができてよかった」「わかりやすい授業だった」などの内容が多かったです。設問4の授業の構成や進行速度が適切だと感じた生徒が多かったのもよかったと思います。クウォーターという短期間でリスニング力が向上していると感じてもらうことは困難だと思いますが、今後の課題として挙げられるのは、講義目標や毎回の授業での到達目標を明確にし、生徒が自分の英語力が着実に向上していることを実感してもらえるように工夫したいと思います。これからも、一人でも多くの生徒に英語の楽しさ・おもしろさを伝えられるような授業作りに努めたいと思います。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語VIII[FG]1  
授業コード 11C08-003  
教員名 梶浦 直子  
教員コード 102557  
登録人数 29  
回答数 22  
回答率 75.9%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

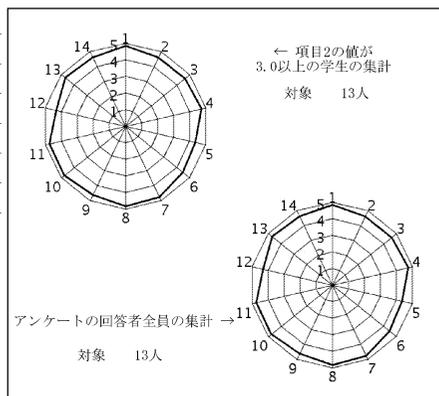
この授業はドイツ語の基礎的な語彙・文法知識の習得だけでなくドイツ語の運用力をつけること、終了時にCEFRのA2レベルのドイツ語力を身につけることを学習目標としている。授業ではグループワークを取り入れ、学習者を中心に進められた。ドイツ語Ⅶとおなじ教科書で進められるため、1週間の進捗が非常に速い。これが設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」(4.32)の評価が比較的低い要因のひとつではないかと思われる。また、設問2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」(4.32)の平均値が低いのは、教科書が予習をしていないことを前提に進められることによると考えられる。

設問1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」(4.86)の平均値が非常に高いが、設問13「この授業を通して、新しい知識(あるいは、技術や能力)を得たり、理解が深まったと感じますか。」(4.82)、設問14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」(4.82)も同様に高い評価を得ていることから授業がうまく機能したと言えよう。

自由記述にある高評価「意見交換の場が設けられていたこと」、「先生からもっとこうした方がいいと教えていただける点」にあるように学習者の主体性と教員のサポートがうまくかみ合うように今後も授業を進めていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語VII[FS]2
授業コード	11D07-002
教員名	LANDEROS NERI, Sergio Gustavo
教員コード	103688
登録人数	17
回答数	13
回答率	76.5%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

We were working on developing a communicative competence that allows students to:

- To be able to describe and compare places.
- To be able to express an opinion, agreement and disagreement.
- To be able to express differences and similarities.
- To be able to talk about the weather.
- To be able to express likes and dislikes.
- To talk about historic events.

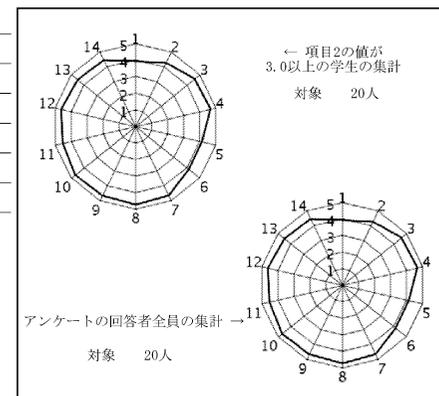
In order to achieve that students learned to:

- Use comparative expressions like: "more... than...", "the most...", "the same... than...", "as much... as...", etc. in Spanish.
- Use expressions for opinions like: "to me...", "In my opinion...", "I think that...", etc. in Spanish.
- Use the expressions "I like" and "I would like" in Spanish and understand their differences.
- Construct and use some relative clauses with connectors like: "... that...", "... where...", "in which...", etc. in Spanish.
- Differentiate and properly use the "Indefinite Past" and the "Perfect Past" in Spanish.

As for the results of the survey, as it can be interpreted in the graph, the answers of the students were positive compared to the media. Nevertheless, every academic year represents an opportunity for improving and that's the aim for the next term.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語IV<H>4
授業コード	11F04-004
教員名	虞 萍
教員コード	101432
登録人数	30
回答数	20
回答率	66.7%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は開講当初の目標と到達の程度をほぼ達成しています。拙著がテキストとして採用されたため、授業をスムーズに行うことができました。また、拙著は中国語検定4級試験にマッチしているため、開講当初の目標にぴったりであります。学生は拙著を使って勉強し、自然と中国語検定に関心を持ち、多くの学生は検定試験にチャレンジし、また「今後チャレンジしたい」と言っています。

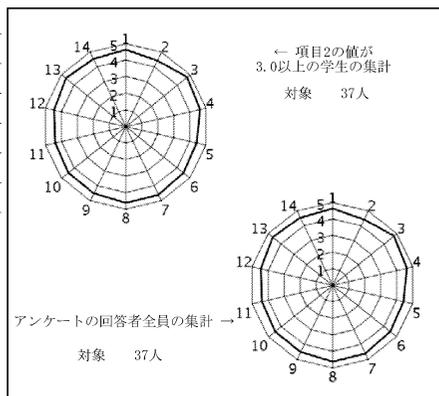
シラバスは前年度の授業進度の妥当性や学生が授業に対する理解度や期末試験の結果などを厳密に分析した上で作成されたため、クォーター制の学習効果がますます現われるようになりました。学生からは「1つのパートを3回の授業で進める速さが適切だと感じた。」というコメントをいただきました。また、私が授業に対する熱意も伝わっていると感じました。具体的には、「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」という設問に対して、「本場の中国語が聞けること。」「説明が分かりやすい。」「復習の仕方を教えてくれたこと。」「語学だけでなく、中国の文化も教えてくれた点。」「解説がわかりやすかった。またひとつの授業の進行度がきちんと決まっているのが良かった。」などのコメントをいただきました。

授業が始まる前によく学生に教室の温度について確認しましたが、ほとんど何の提案もありませんでした。アンケートには「教室が寒かった」というようなコメントがあったため、少し意外でした。日本人の学生は中国人の学生より遠慮しがちな部分があります。先生に面と向かって何も言わないが、後になって陰で意見を述べたり、アンケートで書いたりする傾向があります。

今後も学生に意見を述べやすい雰囲気を作り、学生の学習意欲を最大限に引き出せるような指導方法を摸索したいと考えています。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 韓国朝鮮語IV<J・P>  
授業コード 11G04-004  
教員名 陸 心芬  
教員コード 101225  
登録人数 40  
回答数 37  
回答率 92.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q4の授業目標にしていた、初級レベルの基礎文法の習得や基礎会話ができることについて、おおむね達成したと言える。学生による授業の評価の設問項目の平均値が4を超えており、評価にそれが現れていると思われる。

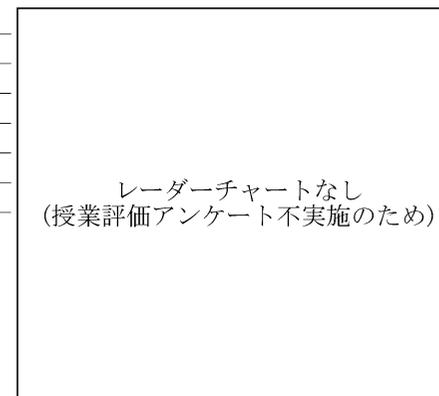
今回の基礎文法の重点は、尊敬、意志、推測、勧誘の活用語尾が自由自在に対応できることだった。特に表現力をアップさせるため会話の自由作文を取り入れ、確認と修正を行った。学生の作文力が上がることが確認できたし、学生自らがやる気を出す結果に繋がり、今後も続けるつもりである。

学生の自由記述欄の良かった点としては、「説明がわかりやすい／楽しく学べた」「語学と一緒に文化も学べた」「自主的に会話を書くときに先生が一人一人見てくれるので、自分がどのくらい書けるか理解できた」「書き取りや読み取りだけではなく、授業内に会話で練習することが多くあった」などであった。書くことと会話の練習が多かったことが学生の満足度に繋がったと思う。

改善すべき点としては、「減点することが多い割に加点する場面が少ない」「宿題を出すならしっかりチェックすべき」などがあった。学生の授業参加をアップさせるために授業を妨げる行為や欠席、遅刻について厳しくチェックし減点をしていたが、宿題について確認はしたものの、前回欠席の学生には与えられた宿題ができない点を考慮して減点までには至らなかった。これらの意見を参考に今後の対策を工夫していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語I(読解作文)2  
授業コード 11L08-002  
教員名 山口 薫  
教員コード 019406  
登録人数 16  
回答数  
回答率  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、総合政策学部の留学生が、日本語I(文法)で習った文法や語彙、漢字などの運用力を統合させ、日本語の文章を読んで理解し、作文が書けるようになることを到達目標としている。そのために、日常生活を題材にした易しいものから、日本の文化や社会などについて理解を深めるための難しめのものまで、様々なタイプの文章を読む練習を行った。また、その理解度を測るため、内容に関する質問に答えたり文章を要約したりする練習も行った。学生たちの受講状況は、概ね良好であった。学期終了時には多くの学生が、文法知識を活かし、漢字語彙の意味を確認しつつ文意を大まかにつかむことができるようになっていた。しかし、文章全体として筆者の言わんとするところを正確に把握する力は、まだついていない学生が多いように見受けられる。そのような力をつけさせるためには、まず段落ごとに要点をまとめ、文章の流れを構成面から把握する練習が必要である。従って来学期以降は、そのような活動に重点を置いて指導を進めていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語I(読解作文)2  
授業コード 11L08-002  
教員名 佐々木 陽子  
教員コード 019695  
登録人数 16  
回答数  
回答率  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

レーダーチャートなし  
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

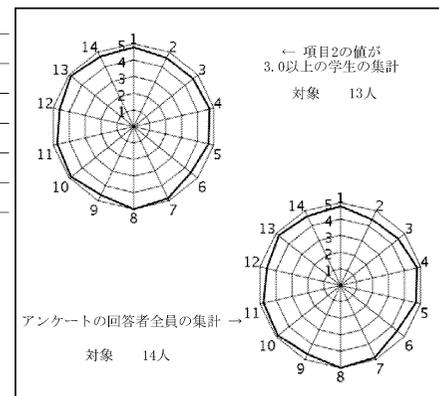
①従来年度と異なり今年度は運用クラスとの連携が構築されない限定的な関与となった。作文能力の構築は、その基礎に音声的運用能力があるため、その点で時間数の制限を感じる場所があった。しかしながら、クイズその他の機会を設定することで、欠席過多の学生を除き、ほぼ全員の学生が目標レベルに到達するに至った。

②前年度から持ち越しで受講している成績の振るわない学生については、学生指導の点からもう少し援助支援があってもよかったのではないと思われる。とりわけ来日直後の生活習慣の構築が重要となる留学生については、授業範囲内では個別の生活指導、学生指導を行うことが不可能なので、関連事務部を含めた各所が学内外で連携して支援体制を作る必要がある。一人二人の欠席過多学生(留学生)が身近な学生を巻き込み、学業態度に影響を与えることも懸念であるため、関係者で対応を協議すべきと思われる。

③次年度は運用クラスとの連携が構築されるため、一時的な問題であった1については改善が期待できる。自動翻訳の機能のついた端末をもってそれを作文に利用する学生がいるなど、従来あったコピー問題を越えた範囲で、ことば学習の環境が変化している。そうした中で、やはりことば学習の基本は、異文化への興味と関わりへの動機付け、そして「人と人のコミュニケーション」の充実であるという点を基礎として、現在の学生の環境に対応した、教育支援を模索する必要があると思う。一時期中断していた、学外の「人の多様性と言葉の重要性」に触れる学習機会の設定(異文化の架け橋となる意味の動機付けとして重要)や、インターネットサイトにおける質疑応答機会の拡充など、ICT支援の拡充も視野に入れながら、学生に合致した教育を模索したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 実践英語LIA<全>試験対策TOEIC5  
授業コード 14A12-005  
教員名 BAILDON, MARTIN  
教員コード 102326  
登録人数 17  
回答数 14  
回答率 82.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

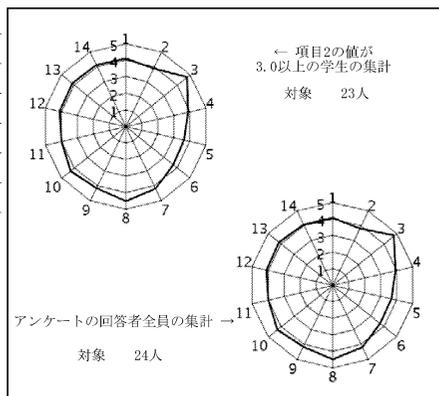


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am satisfied that the two main goals of the course were fulfilled; the ability to study for the TOEIC test independently and improved awareness of how to increase scores on that test. I am satisfied with the students' responses for the evaluated questions as those which are directly influenced by the instructor are over 4.50. Referring to question 16, two students commented that answers were given too quickly after practice tests. I accept those responses and will check all students have enough time to confirm their answers during follow up. One student preferred vocabulary to be provided solely by the teacher. However, other comments state that vocabulary tests should focus on items students have chosen. To learn independently, I believe students need to choose items appropriate for the TOEIC test themselves. One comment referred to doing more practical TOEIC tests. Students do mini TOEIC-style tests at the end of each lesson and a 'mock' test at the end of the quarter. I believe this is sufficient. I hope to improve my lessons by introducing more Websites that are TOEIC specific or include TOEIC style testing material for use outside of class allowing further student autonomy.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ科学論1  
授業コード 12D08-001  
教員名 金 興烈  
教員コード 102721  
登録人数 58  
回答数 24  
回答率 41.4%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

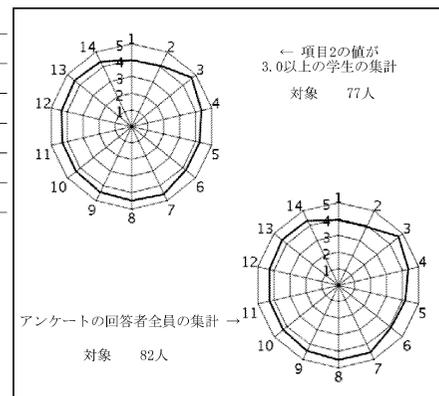


授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生による授業評価が、全体平均の4.0点以上を達成していることは、それなりに評価してよいのではないかと思います。しかし、評価項目の、「I(5).この授業の到達目標を理解することができましたか。」の設問項目においては平均3.67%という全体平均に比べ、多少低いように思う。また、自由記述式設問の回答結果(項目16)では、「授業内容が十分に理解できない状況の中で授業が進められ、かつ、その内容についてレポートが出された」という意見もあった。その理由としては、すべての受講者がスポーツ科学を専門とする学生ではなく一般学生であったこと、また、この分野に関する基礎の土台(力学、物理、生理学など)を築いていなかったこともあって、一部学生においては難しい内容であったことが主な理由として考えられる。とりわけ身体運動を運動学および運動力学的観点から理解を深める単元においては、エクセル分析を用いたデータ解析も試みたが、7割近くの学生がエクセル分析に親しんでおらず、苦戦する様子が見られた。個別アンケート集計でもエクセル分析に関する改善点(難しい、進行が早い、スライドが見えにくいなど)が最も多かったので、次年度はこれらの学生の意見を十分に考慮し、改善に向けて取り組んでいきたい。しかし、興味や新しい知識の習得などに関する設問において、一定の高い評価が得られたのは、授業運営に関する取組が評価された結果である。次年度の授業においても、「学習や復習」など自主的な学習も行われるような授業展開や指導法の工夫をしていきたい。また、毎回の授業において教員の熱意が完全に受け止められているかといえ、必ずしもそうではないので、その辺の指導法ももっと工夫する必要がある。その一方、教員の熱意が、受講するすべての学生に伝わっているとは考えられないので、その辺の授業内容を学生にどのようにして伝えていくかを工夫し、学生が満足できる授業展開に心がけていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人間と環境3  
授業コード 13D02-003  
教員名 平川 武仁  
教員コード 101419  
登録人数 101  
回答数 82  
回答率 81.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の学修目標は、人間が運動やスポーツの活動を通じて、生活する環境、運動する環境、他者との関係など、様々な環境で互いに影響を与えながら生活している環境であることについて、スポーツ心理学や運動心理学で実証されてきた理論を解説し、これらの環境で実際に発生している日常生活との接点をも考察していくことを狙いとしていた。授業内容に関する設問3から14の平均値が4.36という評価が得られたことから、学習目標は概ね達成されたと考えられる。項目別にみると、特に、教員の授業に取り組む姿勢(設問7:4.51)、教員の声(設問8:4.52)、効果的な教材(設問9:4.41)の評価が高かった一方で、主体的参加・内容理解の努力(設問2:3.91)、学生の能力の育成(設問6:4.11)が低いという評価になった。これらの点に関しては、自由記述において、板書・記入式資料・新聞報道などの補助教材など、効果的な教材を準備・提供したことが好評価に繋がっていたことを裏づけられている一方で、履修前の授業への興味(設問1:3.93)が低いことが学生自身の自己研鑽に影響していたと考えられる。今後は、更に学生の興味を喚起するよう、今年度の授業以上に、応用・発展的に日常生活の現象の理解ができるような授業構成とするような具体的方策を取り入れることを中心に、授業改善に取り組む所存である。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スポーツ実技(フィットネス)フィットネス
授業コード	14E06-003
教員名	飯田 祥明
教員コード	103610
登録人数	5
回答数	4
回答率	80.0%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本科目の目標は、1. トレーニングの目的とその効果について理解できる、2. トレーニング方法の実技に関する基礎を身につける、3. 健康状態や体力に合わせ、運動プログラムの作成および実践することができる、であった。登録者5名、実際に受講したのは4名という少人数クラスであったため、トレーニング理論のレクチャー、実技指導、運動プログラムの実践を1人1人の理解を確認しながら進めることができた。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

数値データは2つを除き全て5評価であり、理解度・満足度ともに高かった。自由記述は1つあり、個人ごとに丁寧な指導ができた点が高評価を得た理由であると推測された。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

次回以降の第一の課題は、受講人数の増加にいかに対応するかである。今回の授業運営は少人数であった場合に適したものであり、人数が増えた場合の効率的な進め方については準備を進めておく必要があるだろう。また、初回授業と終盤授業で実施した体組成・体力測定ではあまり結果が改善しない受講生も見られた。トレーニングを自分で進められるようになることが主眼の科目ではあるが、もっと積極的にこちらからアドバイスをおくり、成功体験を与えられるようにしたい。

2018年度Q4集中 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	短期留学プログラム(春季)A2
授業コード	14C01-002
教員名	原 由紀恵
教員コード	103740
登録人数	17
回答数	
回答率	
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

①(注:前半部(渡航前講義等)迄を担当した)

短期留学前の達成目標は学生が「日本文化の紹介を魅力的に英語でグループプレゼンテーションできる」ことであり、この成果を測る機会(プレゼンテーション大会)にて目標達成を確認することができた。講義活動を行うことで1. 英語プレゼンスキルを学び体得する(英語論述法、英語力)、2. 日本文化についてよく理解する(紹介できるほどに)(自国の文化理解、多文化理解への基盤)、3. チームでひとつのものを作り上げる(主体性、協調性、積極性)」というグローバル人材に求められる3つの主要素を養えるよう設計し、良い発表に必要な構成、内容、英語表現等、ピアフィードバック等も経て繰り返し学生が意識し養成してきた。留学生との文化ディスカッションも行き、交流力、英語力を高め、大会では多くの学生が原稿を見ずに堂々と英語での発表を実施できた。併せて、学生は渡航先フィールドワークについても並行して計画に取り組めた。

②各回の明確な目標に則したクラス内課題(アクティブラーニング)、提出課題を課し、レクチャーと折り込ませたこともあり、学生は常に主体的、意欲的な態度で取り組んでいた。教員からのフィードバックにて学習と学習意欲の向上を行った。補足課題に於いても、今後役に立つ内容に繋げ工夫して実施した。学生の提出課題・成果も良好である。

③明確な目標のもとに活動を通じて学ぶ方針を継続する。また今回は、聴講生を10名程、部分的に受け入れた。クラスサイズが大きく、また学生の出入りがあると学生もやや緊張するよう見えたので、こうした場合の(ラポール)マネージメントを模索していく。

2018年度Q4集中 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 短期留学プログラム (春季) B  
授業コード 14C02-001  
教員名 森 由卯子  
教員コード 048017  
登録人数 8  
回答数  
回答率  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

レーダーチャートなし  
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初設定していた目標は、留学前においては、「関係図書、事前講義からペルーについての知識を学び、往還する南米日系人について、また自分の関心のあるテーマについて調べ、日本語と英語でのプレゼンの仕方を学びつつ、現地で学ぶ目標を明確にし、意識を高める」ことであった。留学中は、「大学での講義により新たな知識を得るとともに、事前に学習したことを実際目で見確かめ、新たな気づきを得ること」であった。

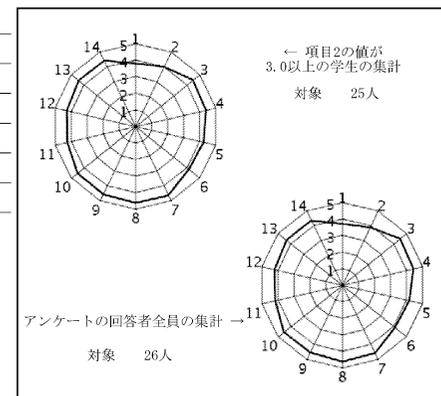
事前講義においては、プレゼンの方法論を国際センター特任講師の原先生の講義に一部参加させていただくことにより、日本語と英語でのプレゼンの技法等を学び、日本語と英語での2回のプレゼンをすることで、より論理的なプレゼンをすることができるようになった。このような準備もあり、現地の大学でのプレゼンはよいものになったと聞いている。また、留学中も自分の関心のあるテーマについて積極的に聞いたり、調べたりする場面が見られたということで、さらに知識を深めようとする姿勢がみられた。

学生の受講状況についてはよく、病気欠席のみであった。欠席の場合はレポート提出をさせることにより、知識の補充をした。また、事前講義が始まる前に関係図書を読ませ、ペルーについての各分野についての一般的な知識を得ること、またその中から自分の関心のあるテーマを見つけることができた。事後報告会においても、同じ講義やフィールドトリップでも学生により視点や感じ方がちがいで、新たな知識を自分なりに消化している様子がみられた。

このように留学前の準備が大切であることを学生にも十分認識させながら、来年度も進めていく予定である。また、改善点については、このプログラムのテーマである「往還する南米日系人」についての講義数が少なかったことにより、テーマがぶれていた点が反省点である。来年度は、日系人の往還について調べる課題を課し、現地で日系人の関わりに課題をもって交流をさせることが重要であると考えている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人文地理概説  
授業コード 22C05-001  
教員名 岡本 耕平  
教員コード 049502  
登録人数 99  
回答数 26  
回答率 26.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

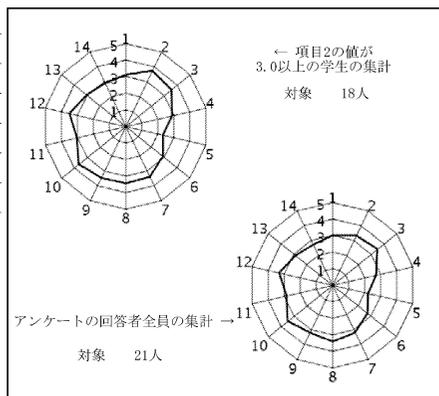


授業評価結果を踏まえた点検・評価

前半の質問の中で、評価が全体の平均値を下回ったのは、設問1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」、設問2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」、設問3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか。」の3つであった。このうち設問3については、授業が2コマ連続制になってから、1限目と2限目の間の休憩時間を必ずしも定時に取らなかったこと、2限目をなるべく少し早めに終えようとしたことが影響しているのだろうが、定時をきちんと守ることが良いことなのか悩ましいところである。後半の設問で評価が全体の平均値を下回ったのは、設問11「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。」、設問12「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。」である。これらは、設問1、2とも合わせて考えると、基本的にこの授業に興味を持つ学生が少なかったことを表しているのであろう。回答者26名のうち自由記入欄に意見を書いたのは3名であった。これら3名は、いずれも授業の良い点について記していたが、未記入の学生の多くは、さほど授業に高い関心は持たなかったと推測される。設問14の全体的な満足度も平均値は上回ったが、さほど高い値ではなかった。授業の内容には、他の学問分野に比べて学生の日常生活に関わる部分も多いと思われるので、何らかの方法で今の学生の関心をリサーチして、対応した内容を加えていく必要があろう。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 応用哲学A  
授業コード 22C19-001  
教員名 竹下 至  
教員コード 103135  
登録人数 64  
回答数 21  
回答率 32.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

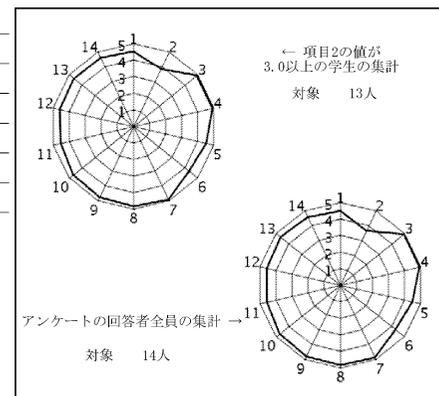
開講当初に設定していた到達目標は、(1) 情報についての様々なとらえ方を知る、(2) 志向性の問題を理解する、というもので、達成度は芳しくなかった。

まず、授業内容や課題が難しすぎたようで、説明の仕方、内容を見直す必要があると感じた。この点については今年度から授業内容を変更したということも影響したと思われる。

また、今年度の授業では数学の知識を前提とする内容を一部含んでおり、特にその部分に関して十分理解できなかった学生が多かった。数学といっても高校で習う内容の極めて初歩にあたる部分なので、解説(ないし復習)を簡単に済ませてしまったが、実際の所、完全に忘れてしまっていた学生が多数いたようだった。(分からないことがないか授業中に訊いても反応がなかったが、授業内の課題代わりに行った簡単なアンケートでは、数学の内容について忘れてしまっていると答えた学生が多かった。) 次回、前提知識の解説を手厚くすると共に、疑問や質問を気軽に行える雰囲気を作っていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域の文化と歴史(西アジア)  
授業コード 22C48-001  
教員名 門脇 誠二  
教員コード 102240  
登録人数 42  
回答数 14  
回答率 33.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

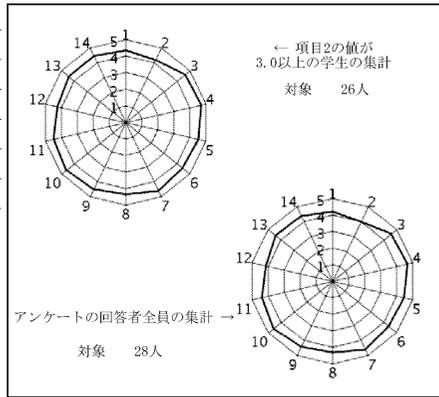
① 2つの目標を掲げていた。1つは「多様な自然や文化が交錯する西アジアの地理的特徴とそれに起因した西アジア特有の文化と歴史について知識を有している。」2つ目は、「2. 西アジアの歴史と文化に関する研究は、人類全体に共通する課題でもあることを理解している。」これらの目標を達成するために、ほぼ予定通りに講義内容を行うことができた。また、今回からパワーポイントのスライドの主要なものを配布資料として作成し、学生のノート作成の補助を行った。目標達成ができたかどうかについては、学生のレポートと期末試験を見る限り、良好な結果と思われる。

② アンケートの数値を見る限り、授業に対する評価はどれも平均以上だった。スライドの配布資料を作成したので、それが評価に反映されたのはありがたい。また、できるだけ毎回、講義に関する実物資料(考古遺物やそのレプリカ、関連文献)を回覧してもらおうようにした。

③ クォーター制において、2回連続で合わせて3時間の講義は、単調だと受ける学生にとっても集中力が欠けると思う。来学期も実物資料を見せるなどアクセントをつけたり、途中でミニクイズなど学生が主体的に行う活動を組み入れて、受講者の集中力が続くような工夫をしたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(アフリカの社会人類学)  
授業コード 22C68-001  
教員名 山口 亮太  
教員コード 103824  
登録人数 119  
回答数 28  
回答率 23.5%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

休講と補講にともなって、授業の構成を一部組み替えたが、当初に予定していた目標を達成することができた。

②自己点検・評価

自由記述において、授業終了がギリギリで、コメントペーパーの課題を記述する時間が確保できない、次の講義に遅れてしまうという指摘は、真摯に受け止めた。昨年度も類似の指摘があり、今年度は授業内容をスリム化したが、終了時間ギリギリになってしまうことが多々あった。

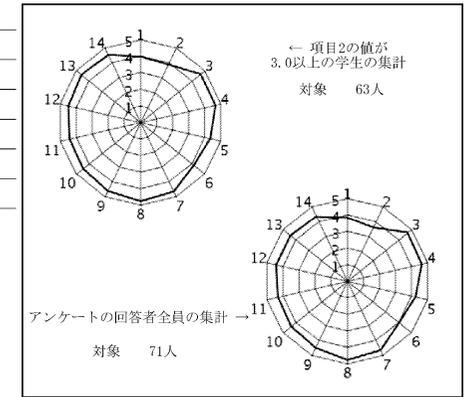
また、スライドの更新が早いのでプリントアウトが欲しいという要望があったが、こちらに関しては、学生が積極的にメモをとることを狙ってプリントアウトの配布を今年度から廃止した。その代わりに、後日、ウェブクラス上にスライドをアップロードして対応している。

③改善点

コメントペーパーの課題を授業のはじめに発表してはどうかという提案があったが、授業の構成の都合上、難しい場合が多い。授業内容のさらなるスリム化によって、終了時に5分程度の課題の時間を確保するか、学生も疲れてくる中盤あたりに課題をやるように、授業の構成を変更していくことを目指す。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 障害児教育論  
授業コード 23C19-001  
教員名 伊藤 修毅  
教員コード 103837  
登録人数 107  
回答数 71  
回答率 66.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①ほとんどの学生については、目標を到達できたと考えます。

②数値データにおいては、設問1および設問2が3点台と低めの評価となっています。必修科目でもないのに、「そもそも興味がなかった」「主体的な授業参加する意欲がなかった」という学生が少なくなかったということであり、大変残念です。

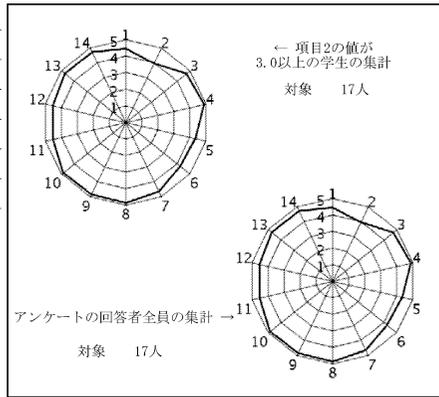
自由記述のうち、暖房およびスライドについては教室の構造上の問題かと思われます。課題図書については、改善いたします。

なお、「授業外学習を促そうとしていたがそんなん事は無意味だと考える」という意見がありましたが、こういった学生に対しては、きちんと学部で指導をしていただきたいと思います。

③教職課程科目と心理学科の専門科目の合併という科目の性質上、また、他学部・他学科の学生も多く、学生のモチベーションもレディネスもだいぶ幅があるということがわかってきました。初回講義の段階で、より詳しいオリエンテーションを行い、齟齬のないように進めたいと思います。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	心理検査法2
授業コード	23C26-002
教員名	井村 安之
教員コード	048439
登録人数	22
回答数	17
回答率	77.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

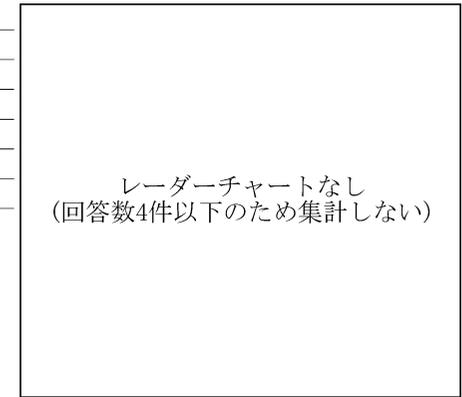


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業はこれまでになく非常に受講生が少なく、それに対して教室が広く、戸惑ったまま、最後までうまくできなかったという実感を持っていたが、いざ授業評価を見てみると、かなり良い評価をもらったようでほっとしているところである。授業の進め方については、良い評価をもらったので、今後も継続していきたい（項目4、8、9、10）。特に、これまで課題となっていた授業の妨げになる行為への対処（項目4）が評価されていたのは、今後の励みにもなりありがたい。一方、授業の到達目標がわかりにくいという結果（項目5、6）であったので、私自身が授業の到達目標をさらに意識しながら授業計画を立てていきたい。また、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための適切な指導や情報提供や質問や相談時間の機会が少ないとのことから（項目11、12）、自主的、積極的な学習ができるような情報提供や課題等を行うとともに、学生がより質問をしやすいような工夫をしていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域開発と人間関係II
授業コード	23C33-001
教員名	神田 浩史
教員コード	103071
登録人数	10
回答数	1
回答率	10.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

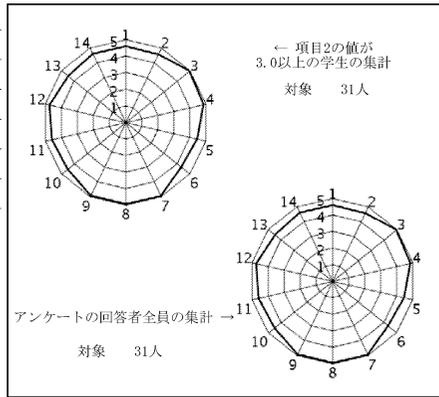


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
受講生数が極めて少なかったので、個別の授業内容は変更したものの、目標については、受講生個々がよく理解してくれたので、到達できた。
- ②学生の受講状況、受講態度等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
受講生の意見にもあるように、受講生数が少なすぎたので、来年度は受講生が増えるように制度変更がなされるとありがたい。  
受講生数が少なかったことは、逆に講義内容を見直すきっかけとなり、シラバスの範疇で受講生に関心の高いテーマを受講生が選んで、そこを集中的に学ぶ形態とした。それにあたっては、受講生が能動的に講義内で発表するといった時間を多くとったので、災い転じて福となす、といった具合に、受講生にとっても効果の高い科目となったと思われる。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
Q3の履修生しかQ4に登録できないとなると、Q3で必要単位を満たした4年生の受講が減り、今年度のように極めて少人数のクラスに陥ってしまう。Q4の初回授業にはQ3を履修していなかった学生も参加しており、はじめの2講を熱心に受講し、継続受講を希望していたにもかかわらず、それは叶わなかった。この点が改善され、Q3で見られたような適度な数の受講生（20名前後）があれば、さらに多彩なワークショップの展開が可能となる。  
もちろん、今年度と同等の制度が続くようならば、来年度は最初からそのような構えで臨み、少人数クラスならではの良さを出していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文章表現法2  
授業コード 24C08-002  
教員名 吉川 望  
教員コード 101123  
登録人数 48  
回答数 31  
回答率 64.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



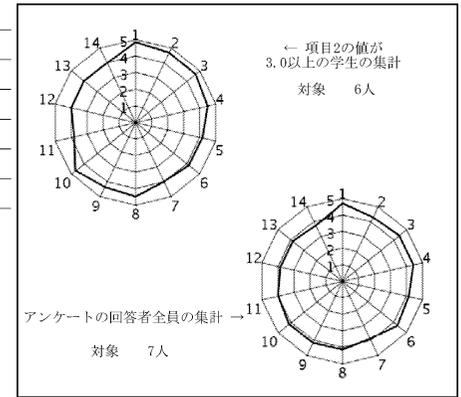
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、論理的で明快な文章を書くための基本的な手順や技法を習得すること、限られた時間と字数の中で、課題をよく意識して自分の考えをまとめることに慣れること、すでに自分の中にある考えや思いつきをすぐさま言葉にするのではなく、自らの考えを問い直し、深めるという経験を積むことを目標としている。文章技法の解説と文章作成演習を行い、添削して翌週返却するという形式で進めている。集計結果をみると、全項目において全体平均・学科平均以上の高評価だったので安堵した。「自由記述欄」の「良かった点」には、添削・書画カメラでの講評・段階を踏んだ実践が文章技法の習得に効果的だったと書かれていた。また、レポート作成や日常での表現に生かせるとの声があった。実際、毎回の取り組みは熱心で、レポートでもその成果が見られた。よって、概ね当初の授業目標は達成できたと思う。

今後改善すべきと思われるのは、「自由記述欄」の「改善すべき点」に書かれていた時間内に書き上げられない学生への対応と、ピア活動の頻度である。時間配分に注意を払い、適宜予定していたペアワークを省くなどした。書くための時間はすでに十分割いているので、それでもなお上げられないという学生には個別の指導で対応することにしたい。また、ピア活動を好む学生が以前より増えており、基本的には積極的に取り入れたいが、効果と効率をよく考えて、方法を工夫しながら実施していくつもりである。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語の構造II  
授業コード 31227-001  
教員名 吉田 江依子  
教員コード 103084  
登録人数 59  
回答数 7  
回答率 11.9%  
休講回数 2 回  
補講回数 1 回

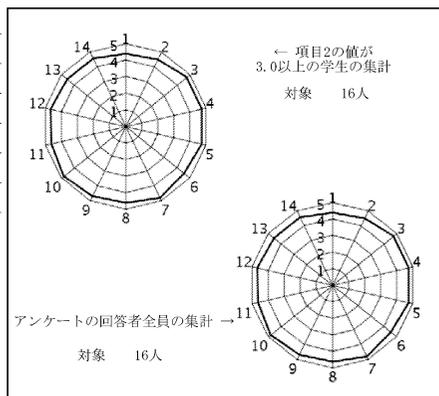


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
当初に設定していた目標については授業の内容・進度を含め、ほぼ達成できたと思う。初回に成績評価についてもあらかじめ確認をしておき、それに基づいて評価も行った。
- ②総合的な自己点検・評価  
実際受講者は、60名弱おり、そのうちの回答者数が7名ということで、このアンケート結果が総意ではないかもしれないが、それを前提として、数値については平均的にすべて4以上、低いものでも3.7以上の評定となっており、この講義については大体の評価は得たように思われる。講義形式であったため、全体の意見をくみ取ることができなかったかもしれないが、少しでも理解を助けるため、授業に関することは授業資料だけでなく練習問題の模範解答を含めすべてWeb classに載せることで対応を行ってきた。また授業内容の理解を助ける補足として、参考文献等、該当ページ数も含め学生に伝えることによって、より理解を助けるよう工夫を行ったつもりである。
- ③次クォーターに向けての改善点、今後の抱負、方針など  
カリキュラム編成のため本授業は今年度が最後であるが、授業のやり方などについては今回の学生の声を参考に、よりよい授業を行うようにしていきたいと考える。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 イギリス文学史II  
授業コード 31257-001  
教員名 橋本 恵  
教員コード 014068  
登録人数 77  
回答数 16  
回答率 20.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

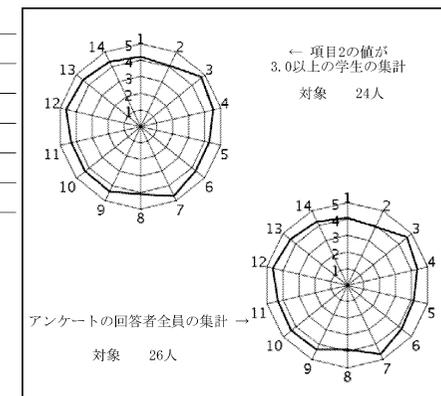


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「講義内容」イギリス文学を歴史の流れに沿ってたどると同時に、歴史を超えて繰り返し現れる文学形式と主題に着目に考察した。各講義では、作家や作品を数多く取り上げることせず、各時代の時代思潮を鮮明に表す作品、作家を重点的に取り上げた。さらに、作家名や作品名を網羅的に記憶することによって知識を積み上げるばかりではなく、代表的な作品を実際に読むことによって、「文学」と「文化」、「歴史」という概念を修得し、イギリス文学史の全体像を把握できるようにした。「授業方法」1. 講義で取り上げる作家、作品の文化的背景、歴史的背景について、資料を用いて解説する。これは文学や芸術の重層的理解のためである。2. 各時代の代表作品は必ず読解する。作品内容に触れることを重視。3. 1および2の為に文学テキストに加えて、DVD、オーディオテープ、図版、写真を用いて解説を補った。「評価」文学史という、単調になりがちな、また、暗記を強いるような特徴を持ちがちな講義を、いかに興味深く聴いてもらうことができるか。一人一人の作家、一つの作品でも印象に残すことができ、さらにはイギリス文学、イギリス文化により興味を持ってもらえるようにできるか。これらの事柄を念頭に置き、講義を行った。このことが評価されたと考えられる。また、学期中のレポート、感想は、そして質問時間を設けたことも有効であった。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アメリカ史特殊研究B  
授業コード 31293-001  
教員名 藤本 博  
教員コード 100125  
登録人数 37  
回答数 26  
回答率 70.3%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

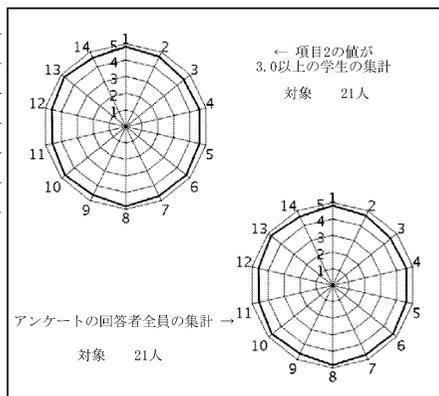


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、講義への関心と理解を喚起できるよう三つの工夫を行った。①テキストを指定し、次の週の講義内容の箇所を読む等、予習を促す。②毎回、質問を含めたりフレクシオンペーパーを提出してもらい、質問に関しては翌週の講義で回答する。③映像教材を多用し、関連図書等を随時紹介する。全体として見れば、対象の英米学科専門科目の集計と比較して、項目1から14の平均では4.31（英米学科集計4.50）とやや低いものの、項目12「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか」では4.65（英米学科4.59）とやや上回り、おおよそ受講者の満足が得られたと考えている。自由記述欄では10名（回答数26名）の受講生が好意的評価を書いている（例えば、「文献紹介などが沢山あり、自分で勉強する手段を沢山教えていただいた。」、「生徒のリフレクシオンペーパーに書かれた質問に対して次回の授業で丁寧に解説していた。」）今後の課題としては、講義中の話が聞きとりにくい（項目8で3.92）との印象があり、今後留意することにした。毎年度、気にかかっていることだが、予習・復習に関する項目2が本講義を含め全学的に見ても相対的に評価が低く、本講義では、冒頭で述べたように予習を促したものの、本講義受講学生の間でも予習の習慣が必ずしも定着していないことが判明しており（項目2の本講義集計値は3.92）、今後さらに何らかの改善を試みたいと考える。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Academic English A IV6  
授業コード 31A04-006  
教員名 RICART, Michael  
教員コード 103617  
登録人数 27  
回答数 21  
回答率 77.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

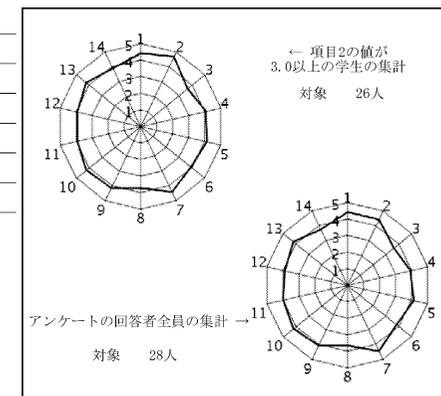


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals of the class were largely achieved as students were introduced to the academic disciplines of historical research and societal and political debate. Many students gave feedback regarding the various themes discussed and their own experiences of engaging in critical thinking. Many students still suffer from shyness and lack confidence in their speaking abilities.
2. Being interested in the themes of this quarter, I believed I enthusiastically taught the students in seeking to introduce them to political debate and historical analysis. My self assessment is to focus more on classroom time management. There was too much material that needed to be covered.
3. There is no next semester or quarter for me here at Nanzan. Thank you very much.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語音声学  
授業コード 31E17-001  
教員名 服部 範子  
教員コード 100353  
登録人数 43  
回答数 28  
回答率 65.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

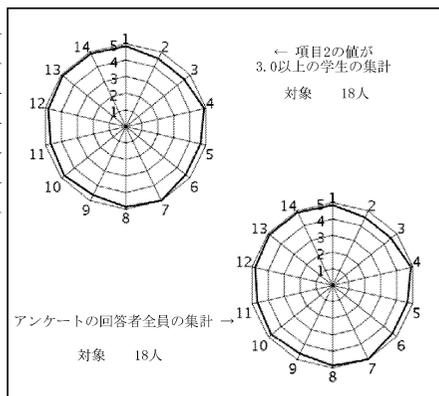


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は、英語の音声について調音の仕組みを理解し、パソコンを使った音の可視化の基礎を身につけることであった。授業は講義と発音確認テスト、音声分析実習の組み合わせで行った。設問2「予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしたか」については4.43、設問13「新しい知識を得たり、理解が深まったか」については4.18であった。今後は理解がより深まるような教授法を工夫していきたい。評価が低く自由記述に意見が寄せられた項目として終了時刻の延長があった(3.61)。復習として定期的に一人ひとりの発音確認テストを実施したが、ポイントを十分におさえていない学生にコメントをつけているうち終了チャイムが鳴ったことが2回あった。公平を期すためその日のうちに全員終わらせようと続行し、帰れない学生がいたことを反映したと思われる。今後はテストの時間配分を工夫する。他に複数寄せられた意見として、「声が聞き取りにくかった、マイクを使ってほしかった」とあったが、なぜもっと早く教員に言ってくれなかったのかと非常に残念に思う。1対1のテストの折に、あるいはパソコン実習では机間巡視をし、教室の端から端まで歩き回っていたので、どこかの時点で申し出てくれれば対策は取れたので悔やまれてならない。今後は後ろまで聞こえているか初回に確認する。設問7「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さ」について一番高い評価であったのは救いで、今後は時間配分や教室状況を踏まえ、学問への魅力がより学生に伝わるように工夫したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語翻訳法2  
授業コード 31E23-002  
教員名 クマイ 恭子  
教員コード 101131  
登録人数 20  
回答数 18  
回答率 90.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初設定した目標に関しては、達成した学生が2割、他は「目標の意味」が理解でき、今後も訓練が必要と実感したという感じではないかと思う。

開講にあたり、「翻訳という何か特別な方法があって、ある程度英語ができれば、その方法に沿って訳せばできるのでは」という考えをまず払拭してほしいと思った。翻訳力とはまず語学力（英語日本語共）であり、情報収集能力であり、センスであり、その後で各分野（文芸、ビジネス等）における適性や専門用語の問題となると思う。そのため様々な領域の翻訳エクササイズのみでなく、語学力そのものを上げるための課題を週に一回の頻度で課した。具体的には原書がある程度のページ数を読み、そのうちの指定範囲を訳出できるように準備してくるというものである。これと翻訳そのものの課題と交互に行った。目標達成できるかどうかは、個々の学生がどれだけこれらの課題を真摯に受け止め、言葉というものの面白さと難しさを知りつつ研鑽し、翻訳においては100%の等価はありえない中で試行錯誤できるかによる。結果的に、後半に入って課題の評価が上がる学生がかなりおり、努力した分だけ成果は出ていたように思う。

課題が多いので少々心配していたが、評価の結果を見ると杞憂だったようである。むしろその課題に取り組む中で、翻訳や言葉に対する概念が変わり、自分自身の新たな発見や自信に繋がっていったようでホッとしている。設定レベルの調整が当初は難しいと感じたが、学生にヒアリングを行いつつ、量を調節したのも功を奏したようだ。それでも課題が多いことは否めないが、その点は覚悟して受講している学生がほとんどであった。

それぞれの学生によって訳出の仕方に個性が出るため、それを共有・批判してほしいと思い、授業内エクササイズ（主にペアワーク）では他のペアの訳も見て、感じたことを述べてもらったが、これは結構時間がかかり授業を延長してしまうことが時々あった。今後、この点に関して気を付けたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IIB3  
授業コード 32A13-003  
教員名 HOPKINS Mariella  
教員コード 103653  
登録人数 19  
回答数 3  
回答率 15.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

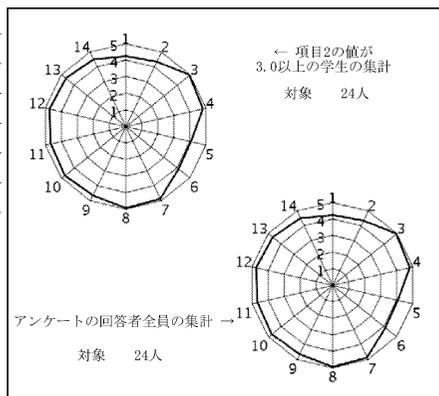
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) Excelente participación de los alumnos en las diferentes actividades que han sido propuestas en las diferentes clases. (Tareas de conversación en grupo, practicas en parejas, exposiciones de diferentes temas, etc.)
  - (2) En relación a este punto insistiremos con mayor énfasis para que los alumnos puedan comprender en su totalidad los nuevos conceptos impartidos en clase y, mejorar la comprensión de los los objetivos que se tienen que alcanzar,
  - (3) Orientación para el aprendizaje de una lengua extranjera.
- Estrategias para el desarrollo de nuevas habilidades en relación a la adquisición de una segunda lengua extranjera,

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IIA2  
授業コード 32A19-002  
教員名 ROJAS ESPINOZA, Lorena Sue  
教員コード 103464  
登録人数 36  
回答数 24  
回答率 66.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

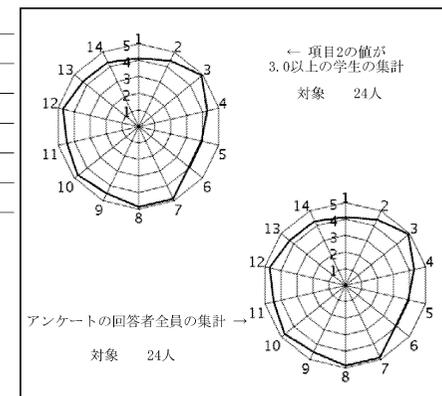


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①目標達成にあたっては、到達することができました。スペイン語上級クラスのため、困難な課題を一生懸命取り組んでいた学生は言語能力試験を上達しテーマごとに好奇心を促すことができたと思っております。
- ②自己点検及び評価  
学生を巻き込んで課題を行うことができ、質問や疑問などを自由に行える環境を築くことができた点を自身で高く評価します。学生からもコメントがあったように学問的な単語を簡単な言葉やコンテキストに合わせ解説することができた点です。
- ③来年度も、引き続き学生の立場になって授業計画を行って行きたいです。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IIC1  
授業コード 32A23-001  
教員名 GONZALEZ DIAZ, Alejandra Maria  
教員コード 103652  
登録人数 33  
回答数 24  
回答率 72.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

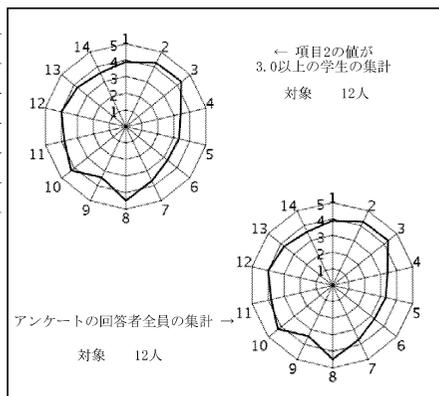
The teacher constantly emphasized the goal of the class by specifying the writing skills students were expected to achieve throughout the trimester. Many students well understood the goal, but I think some students struggled as they found the content difficult. As the content was high level, the teacher explained it in Spanish with advanced words all students could understand and with the support of dictionary.

The class had 15 sessions in total. To learn how to and what to write, students are expected to do readings. On one day we would do readings and exercises in small groups, and on another day students would write papers in class supported and monitored by the teacher. In total they wrote 7 papers. Each paper was based on the content of the syllabus. Homework were readings and drill exercises. Some students wanted more time to write so in the future students can have more writing paper assignments.

The textbook is really good, rich in information, and helps to learn how to write. The content to be covered is extensive for a quarter so teacher is expected to summarize and synthesize some chapters.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IIC2  
授業コード 32A23-002  
教員名 JAIME LAZO, Alan Christian  
教員コード 103654  
登録人数 33  
回答数 12  
回答率 36.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Regarding the goals of this subject, first of all in each session I have emphasized on the particular relationships between the long tradition of writing in Spanish language and its practical projection of diverse forms of discourse that show signs of a remarkable diversity of thought. Secondly, the goal of describing and exposing essays referring to geographical zones, urban centers or interior spaces of buildings and the consequent logic of customs and traditions in certain social contexts has been satisfactorily developed by developing several writings proposed in the didactic material. Finally, although the fact of constructing and arguing coherently texts which reflect the properties of the systematic and analytical character of scientific and academic fields has been covered in general terms, it still remains as a point that requires advanced planning. Actually, stimulating an intermediate level writing process is a demanding task that requires permanent monitoring. So as to, each student has been asked for a specific number of works that, depending on the circumstances, needs and progress, have been corrected as far as possible. However, in some cases it has not been possible to offer a highly detailed feedback given the global amount texts presented and for this reason it has been necessary to give priority the development of students who had some problems. For the next course, a system of better selection will be implemented in order to detect the specific weaknesses of each student in the written production process.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン思想特殊研究A  
授業コード 32C09-001  
教員名 木下 登  
教員コード 016287  
登録人数 22  
回答数 4  
回答率 18.2%  
休講回数 3 回  
補講回数 3 回

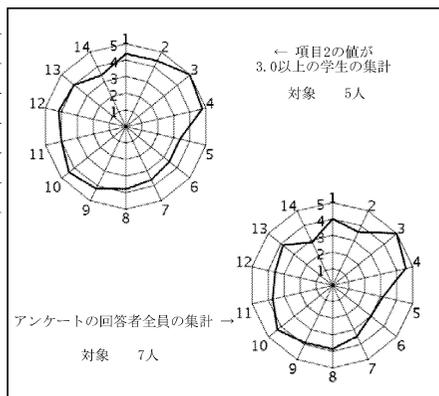
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

当科目は、講義形式でスペイン思想の変遷を学生とともに迎えることによって、人々において受け継がれきた「思想」を丁寧に紐解き、真摯にその中身を思考し、異なる時間と空間を過ごす我々の文化においてどのように捉えるべきかを研究するものであった。実際の授業を担当した教員側からすれば、こうした目標はほとんどの学生において達成されたと思うが、授業評価の回答数がわずかであるため、断定することは困難である。だが、そうした少ない回答結果の中にあつて、授業に対して高い満足度を感じている学生も存在するため、学生側においても先の目標は達成されたと考えても差し支えないだろう。学生が評価した点については今後も継続するとともに、より質の高い授業を目指す努力を常に怠らないようにしたいものである。最後に、良い授業には学生の協力が不可欠であることは言うまでもない。その意味で、当科目の授業に対し、真摯かつ熱心に取り組んでくれた学生たちに心から感謝を表したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテンアメリカの政治  
 授業コード 32C22-001  
 教員名 中川 智彦  
 教員コード 102940  
 登録人数 19  
 回答数 7  
 回答率 36.8%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスで示した到達目標については、期末試験結果をみる限りでは、出席者16名のほぼ全員が及第点は十分クリアできており、ほぼ達成できていると考える。

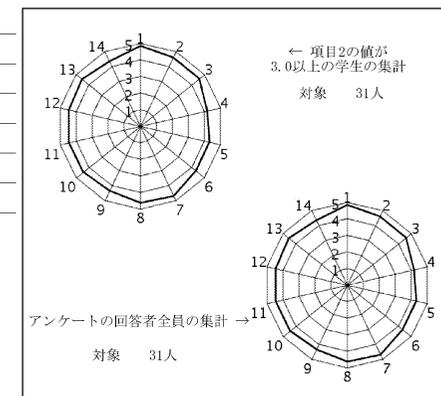
アンケート結果に関していうと、授業運営に関連する項目では、比較的高評価を得ているものの、受講生自身の満足度や到達度自己認識に関しては低評価となった。また、今回、授業中に余裕をもって告知したにも関わらず、アンケート回答者が受講生の半数に及ばなかったため、回答率を上げる努力も必要かと反省している。

回答してくれた7名のうち、授業の構成や進行速度では全員が高評価だったにも関わらず、「授業の到達目標に向けて力がついてきている」と思うかどうかの自己認識で極めて評価が低く(項目2が1の学生の評価1を含む)、全体としての満足度では、3の2名は別として、5が2名、2が1名、1が1名(+1名:項目2が1)、と極端な結果になった。授業に出席せずに回答されるのは困るが、極端は評価割れが起きないように、なるべく多くの受講生に達成感を得てもらえるよう工夫していきたい。

自由記述には、レジュメを配布しないときは、事前にpdfで配布して欲しいという要望があった。事後にWebClassで配布することで復習してもらえたいと考えていたが、この授業でも、事前に読んできてもらいたい内容は、事前に配信してきた。他の資料も、レジュメ代わりに授業中にWebClassで配信するなど、改善策を検討してみたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLSスペイン語II  
 授業コード 48A22-001  
 教員名 APAZA, Pablo  
 教員コード 100878  
 登録人数 44  
 回答数 31  
 回答率 70.5%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 0 回

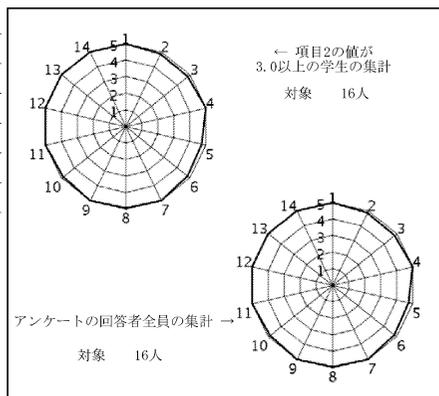


授業評価結果を踏まえた点検・評価

As a result of the course evaluation from the students, we find that in every item the students were satisfied with the class and their learning in class, before and after class. At the beginning of this fourth quarter, we reminded the students the importance of use the language everyday if it's possible, so they did it. In class we try to practice lots of conversations using topics that we explained in class and try to use different kind of didactic to make the students active learners, and most of them 99% understood the spirit of this work, as a result we had a very cooperative students with their peers. Because, this is the second quarter learning Spanish, it was a little harder to learn, so some students got stressed which I find normal at this stage. We hope that on the next stage of the course, more students will get more confident speaking the language learned. We conclude that students were satisfied with the class, because the methodology and didactic were according to their level, and the interest. The objectives that we had on the syllabus, which encourage to develop the four areas of the languages, were achieved. The statistic chart shows (3~14 the result is 4.45 and from questions 1~14 the result is 4.49). On the comments, some students wrote that they were satisfied with the conversation class, beside they learned the culture of the countries. So, we hope to continue doing the same challenging job.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IIB2  
授業コード 33A16-002  
教員名 LAUTIER Fabien  
教員コード 104047  
登録人数 21  
回答数 16  
回答率 76.2%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



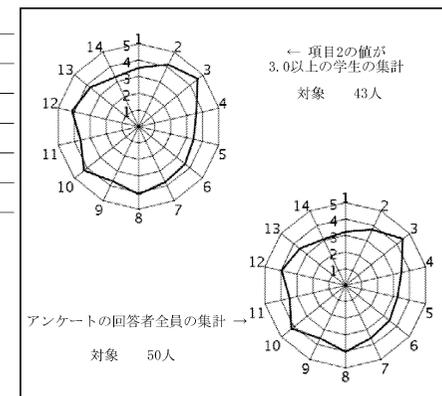
授業評価結果を踏まえた点検・評価

After watching the results of the enquiry that has been done in my class, i have been glad to read that the students enjoyed the way i taught them french and they could progress a bit along this quarter. For me, it has been a bit difficult at the begining because of the amount of structures, grammar and vocabulary i had to teach them. We could spend a good time of the class doing a text compré hension and grammatical explanations and oral production. We used to do a common oral report that worked and forced the student to work together on different subjects. That's why i am planning to change a bit the structure of my class so that i will focus a bit more on this kind of work. Moreover, i would like to try to insert linguistic games inside the class too.

In conclusion, i think the students enjoyed the way i taught them french and how i tried to help them. However, even if the students seem to enjoyed the class, there are some points i need to improve like trying to insert games so that the class will be more dynamic.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランスの思想  
授業コード 33A22-001  
教員名 飯野 和夫  
教員コード 043513  
登録人数 80  
回答数 50  
回答率 62.5%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ・開講当初に設定していた授業目標  
フランス語による思想の重要な成果を、翻訳等の資料を用いて具体的に理解することを目指した。まずフランス文化の特徴とされている諸点にふれ、次いで17世紀以降時代順に代表的な思想を取り上げることとし、具体的にはデカルトによる哲学の革新、ルソーの社会契約論、19世紀の植民地主義、フーコーの性をめぐる議論、現代のジェンダーをめぐる議論を扱うことにした。受講者参加型の授業にすることも考えた。
- ・その目標の到達程度  
予定通り講義を行ない、授業目標は達成できた。
- ・総合的な自己点検・評価  
目標どおりの授業ができたと思う。学習目標を明確化し、それにかかわる設問への解答を受講者に提出させる取り組みも行い、有効に機能したと思う。ビデオ教材も導入し好評であった。  
この授業は以前より担当しているが、現在はクォーター制の下での、受講生が80人規模の大規模授業となった。大型授業で、授業内容も学生がとすれば難しく感じる「思想」であることを考慮すれば、学生の評価も悪くはないと思う。大型授業ではあるが、受講者を受身にさせないために発言を求めた。授業に集中せずについて授業内容に対応した発言ができない受講生もいたが、彼らには必要なコメントや指摘をした。そうした受講生の一部と思われるが、授業評価アンケートで、私の意図を曲解する回答が混じていたことは残念である。
- ・次学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針  
内容についてはすでに十分なものを提供している。後は、さらに授業方法を工夫して、学生に「思想」に興味を持たせるよう図りたいと考えている。授業中の受講生の動向に一層注意を払うことなどを実行していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	コミュニケーション特論D
授業コード	33C04-001
教員名	清水 ペアトリックス
教員コード	047845
登録人数	5
回答数	0
回答率	0.0%
休講回数	0回
補講回数	0回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

Preparation for this lecture was done meticulously so as to ensure that students' interest would will stimulated during 3 hours.

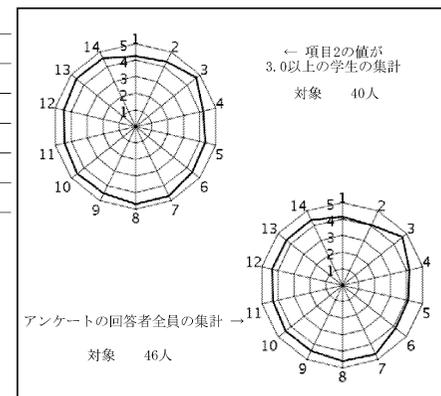
The goals for the fourth quarter were to get students communicating individually and interactively about a different theme each week and also prepare for a variety of oral examinations conducted in French. Chosen themes generally compared and contrasted similar situations in France and Japan, mostly concerning social issues. A lot of work was based on the study of newspaper articles and research was widely conducted on the internet. Students were asked twice to present a paper in front of the class. They chose topics of general interest and seemed to be highly motivated by this type of exercise.

The number of attendants was extremely small and students did not respond to the online survey, but they definitely showed interest in the course and satisfaction regarding its organization.

In the future, the lecture will continue to be organized along the same lines, always keeping in mind the students' fields of interests and adjusting goals to their individual skills and goals.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ文学史
授業コード	34D05-001
教員名	越智 和弘
教員コード	044461
登録人数	176
回答数	46
回答率	26.1%
休講回数	3回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

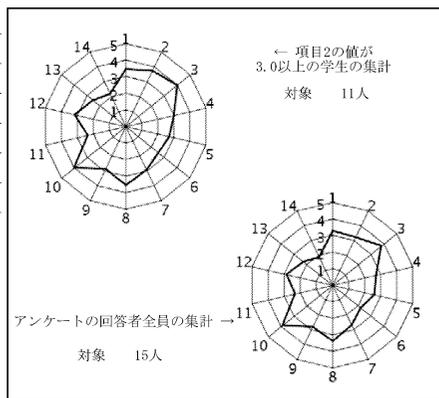
「学生による授業評価」の結果を総合的に鑑みると、本授業の目標は概ね達成できたものと思われる。

数値データを分析すると、まず設問1の数値が平均値を明らかに上回っていたことから、180名近い受講者がおり、その多くがドイツ語を専門としない者たちであったにもかかわらず、授業内容に興味を覚えて受講していることがうかがえる。設問6と設問7の平均値も、全体平均値を上回っていた。これは、学生が授業内容が十分に役立ったと判断したことと、担当教員の授業にたいする姿勢の真剣さが伝わったものと思われる。設問11と設問14も、平均値を大きく上回っていた。このことから、授業を実施する上でとられた方法も情動的今日が、学生の意欲を引き出しす上で効果があったことがうかがえる。実際、大人数クラスでの「ドイツ文学史」という専門色の濃い授業であったにもかかわらず、最初から最後まで欠席するものが少なかったことには、本授業の担当教員自身にとって嬉しい驚きであった。最後に、設問14が全体の平均値を明らかに上回ったことは、学生の授業内容への満足度が高かったことを物語っており、そのような評価を受けたことは、長年本授業を担当してきた甲斐があったものと、安堵の気持ちで受け止められた。

自由記述内容をもみても、「配付資料に加えた説明がありとても興味深かった」「先生の話し方がとても理解しやすかった」など、つねに授業内容の改善に気を配り改善に努めてきた成果が現れたものと判断される。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 環境政策と倫理  
授業コード 46J03-001  
教員名 高畑 祐人  
教員コード 048736  
登録人数 53  
回答数 15  
回答率 28.3%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

●学生に対する挑発的・敵対的態度を改める：哲学／倫理学に対する無知・無関心・無理解に対して、こちらが過度に苛立ち、それを露骨に言葉／態度に出してしまう愚かさは、今回を限りにきっぱりと改めたい。哲学／倫理学に対する無知・無関心・無理解という問題は根が深く、一介の非常勤講師風情がどうこうできるものでもないが、頭と気持ちを切り替えて、自分にできる範囲のことを試みてゆこうと思う。

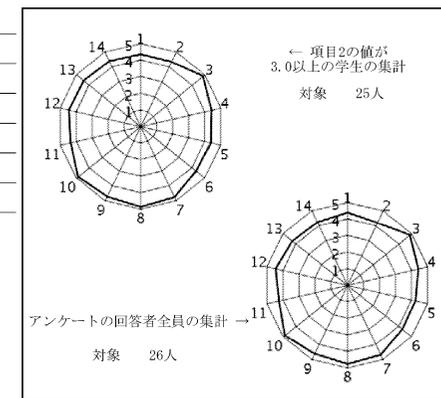
哲学／倫理学の思考法は科学的思考法と異なるので慣れるのが簡単でないこと、哲学／倫理学の思考法に慣れていない者には哲学／倫理学自体がおおいに苦痛であろうことはたしかである。古い世代の私は、苦痛の経験も大切だと思うのだが、現在はそういういわゆる「北風」では学生はついてこないらしい。私自身がそのあたりの割り切り／頭の切り替えができずに（時代について行けていないということか）、「単位を取るだけなら云々」「目が死んでいる」と発言したことによって、引込みのつかない状況を作り出してしまったことの非は自分にある。まず授業内容／方法以前の前提として、学生を見る目を改めたい。

●できる限り学生の知的現状に即した授業：授業の中の倫理学の部分でベースにしている先行研究をできるだけかみ砕いて丁寧に解説する。

自分が拠り所にしてしている環境倫理学の先行研究は環境問題を考える際の基礎教養の一つとしてきわめて重要であるという自負があって、その全体像を分かってもらおうとしてきた。ただ、言い訳は見苦しいが、「環境と倫理問題」（旧カリキュラムのテーマ科目の）ではそのために一学期（十五回）使うことができるが、「環境政策と倫理」ではそうは行かないことは分かっていた。それゆえ、なるべく要点化する工夫をしたつもりだが一言い訳ついでに言い訳すると一いつかの大学を掛け持ちで授業が週十数コマという状況の中で準備が不十分だったことはありうる（以下省略）

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 韓国・朝鮮の言語と文化II  
授業コード 35C02-001  
教員名 金 美淑  
教員コード 102466  
登録人数 41  
回答数 26  
回答率 63.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は韓国語・朝鮮語の基本的な語彙を用い、簡単な会話ができることと、韓国の衣食住に関する理解を深めることであった。定期テストでは自己紹介や簡単な質問に答える問題は概ねできていたので、言語に関する目標は概ね達成できていると思う。また、衣食住の文化は言語にも影響を及ぼす点や日本人の学生が当たり前のように思っていたことが、そうではないということなど、楽しく学べていたのではないかと思う。自由記述にも言語に重心が著しく傾かず、韓国料理を実際作る時間や、韓国の文化に関する映像を見れたことがよかったと好評を得た。次回も身近な文化を体験できるようにしたい。

学生による評価では、概ねよかったと思われるが、「設問2の予習や復習など主体的に参加し、理解しようとする努力をしたか」の数値が一番低く「4.19」であった。この点を踏まえ、次回の授業では学生たちが主体的に参加できるような予習や復習を促す方法を用意する必要があると思われる。

授業評価は概ね良好であったので、この授業形態を維持しながら、今後は学生の主体的な参加を促せる方法を取り入れた授業を進めていく。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 タイ文化研究  
授業コード 35D15-001  
教員名 加藤 久美子  
教員コード 100483  
登録人数 6  
回答数 0  
回答率 0.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

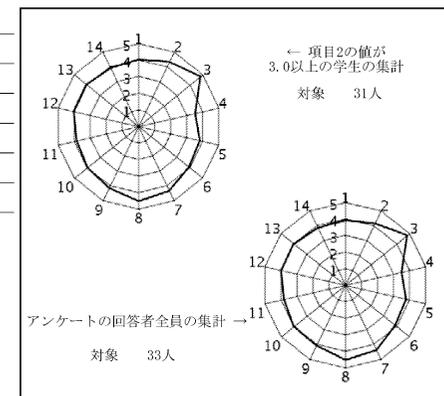
開講当初に設定した授業目標は、「タイ国の自然環境、タイ国に住む諸民族の文化、タイ国の歴史について理解する」ことと「タイ(Tai)族地域の自然環境、各国に住むタイ(Tai)族の状況とその歴史について理解する」ことであった。試験の結果から見ると、受講生のほとんどが目標をほぼ達成できたと考えられる。

この授業の受講生のほとんどが就職活動をしている3年生で、就職活動のために授業を欠席せざるを得ない場合も多かった。当初は、連続してほぼすべての授業に出てもらうことで最終的に授業目標を達成できるような授業計画を立てたが、途中から、出席できなかつた日が何日かあっても授業に出た分だけ知識と理解が深まるよう授業計画を立て直し、それに適した授業方法を用いて授業をおこなうようになった。また、受講生の人数が少なかったので、授業内容が受講生の興味・関心・バックグラウンドなどにできるだけ沿うように努力をした。

今後も、このような状況が生じるかもしれないが、その場合も臨機応変に対処し、受講生に受講したかいたががあったと思ってもらえるような授業にしていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済統計入門2  
授業コード 40D05-002  
教員名 荒深 美和子  
教員コード 049353  
登録人数 43  
回答数 33  
回答率 76.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

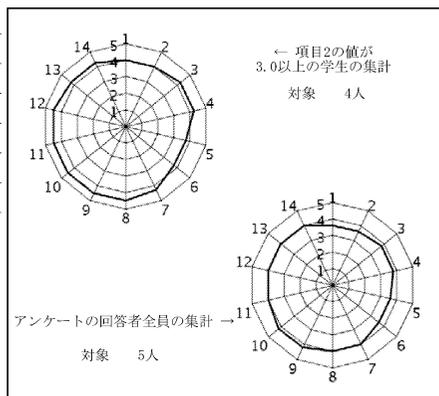


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は「統計学」をパソコンのExcel上で学んでいく入門科目である。今回、アンケートに回答した学生は出席者39名中33名で、回答率85%であった。第4クォーターであることから、Excelの操作に関して不慣れな学生は少なかった。ここでは、各設問に対して「はい(5,4)」と「いいえ(2,1)」の割合を使って評価していく。学生の理解度に合わせた進度で、單元ごとに確認しながら授業を進めるようにしており、設問9の「はい」76%、「いいえ」12%という結果から、4分の3の学生が満足している結果であった。設問15、設問16の記述をみると、相反する意見がかかれており、TAの見回りによる授業補助を是非活用して、学生全員の進捗状況を見ながら進めていきたい。設問2の主体的な学習については、82%の学生が努力している。課題を次の週に提出させ、授業中に使用した教員のExcelファイルをネット上に置いておくことで、自主的な学習の機会を増やしている。設問11、設問12の結果をみると、64%、70%が「はい」という結果であり、ネット上にファイルを置いておくことは有用である。設問13の新しい知識を得て理解が深まったと答えた学生は全体の76%で、知識が本当に身につく授業を目指したいと考える。今後はさらに、学生が授業へ積極的に参加できる授業構成にしていきたい。講義内容が積み上げていく科目であることから、授業の進め方として、欠席・遅刻はしないや課題の提出締め切りを厳密に指導していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際金融論B  
授業コード 40D49-001  
教員名 神野 真敏  
教員コード 103880  
登録人数 15  
回答数 5  
回答率 33.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



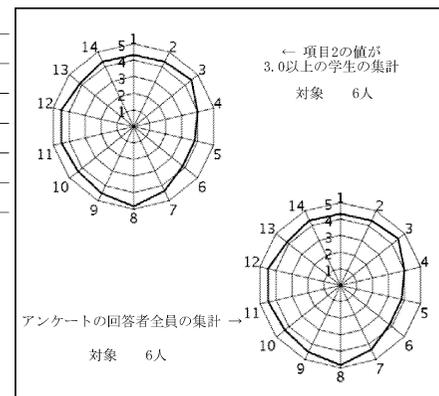
授業評価結果を踏まえた点検・評価

国際金融に関するフレームワーク、例えば、マクロ経済政策（金融政策と財政政策）が固定・変動為替相場制においてどのような影響を与えるか、あるいは最適な通貨圏はどの程度なのかなど、国際金融に関する議題について理論的に理解し、説明できるようになることを目標に講義を行いました。ただ、第3クォーターを踏まえての内容や、上記目標を学生に達成してもらいたく、より複雑な国際的な相互依存を考慮した2国モデルを利用しての国際政策協調の意義と限界などについて講義したこともあり、あまり理解度や満足度につながらなかったのは、とても残念に思いました。受講生が少なかったこともあり、一人一人の理解度を確認しながら講義を行ったつもりですが、まだまだ改善の余地が大いにあることが理解できました。

来年度も引き続き、講義内容は同じことをするつもりですが、より分かりやすく、見やすいPPTを作成することを心掛けていきたいと思っております。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語B4  
授業コード 40E05-004  
教員名 秋田 貴美子  
教員コード 047613  
登録人数 19  
回答数 6  
回答率 31.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

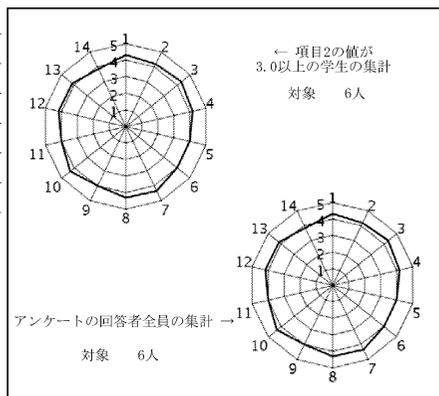


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①ビジネスの基礎英語語彙習得と基礎英会話力を高めることを目標とした。学生の英語レベルに合った内容の英会話の反復練習を集中的に行い、英会話をするチャンスを増やした。興味深い参加型の楽しい授業になるよう努めた。小テスト、英会話発表、英語プレゼンテーションを行った。教科書は4章まで終えた。学生は積極的に参加し、実践英語を習得し、今までより自信を持って英語を話せるようになった。目標は達成できたと思う。②履修生19名のうち6名がアンケート回答をした。ほとんどの項目が4.33以上で、「教員の声の聴き取りやすさ」は4.83であった。「授業時間は守られ、教員は学生の理解度に配慮し、学生の学習意欲を引き出し、質問や相談に応じた」(4.50)。学生はこの授業に満足した(4.33)。自由記述は「留学経験者から刺激を受けた。英語の勉強法を教えてもらい励みになった」。英語が苦手な学生が混ざっていたが、皆積極的に参加し、活気がある授業であった。③学生全員が教科書を買う揃えるのに時間がかかったので、授業を進めにくかった。今後は、こういう事態に備え、授業開始時は配布資料だけで授業を進められるよう準備する予定だ。また、海外留学経験者と英語が苦手な学生が混ざっていたので、これらの学生が躊躇せずお互い安心して授業中ペア練習ができるように工夫した。英語運用能力のギャップがある学生達を指導する方法をもっと改善していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 時事英語B2  
 授業コード 40E07-002  
 教員名 森川 信子  
 教員コード 100136  
 登録人数 17  
 回答数 6  
 回答率 35.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

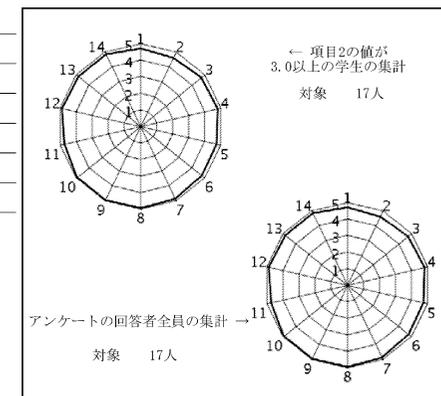


授業評価結果を踏まえた点検・評価

テキストは日本の新聞社が発行する英字新聞や通信社等の記事で、社会問題や環境、科学技術、ビジネスなど身近なトピックを中心とした記事のリーディングを通して、英文記事に慣れながら、読解力と語彙力を養うことを目標とした授業を行った。反省点としては、受講者17名の少人数クラスであったが、そのメリットをあまり生かすことができていなかったように思う。少人数の中にも熱心さやレベルの点で幅があり、アンケートで「わかりやすかった」という感想もあったが、その一方で、アンケートと試験結果からは、授業の照準の設定がやや高すぎた場合もあったのかもしれないとも感じられた。理解度に合わせた進み方という点で配慮がやや不足していたのかもしれないと思うし、授業前の予習が不十分な学生への指導も十分ではなかったと反省している。課題や小テストやコメント用紙などでこまめに理解度を確認したり、質問をしやすい機会を作ったりして、フィードバック得る方法を考え、こまめに授業に反映することが必要だと感じたので、次の学期は試みたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営学総論B  
 授業コード 40F02-001  
 教員名 太田 幸治  
 教員コード 103267  
 登録人数 21  
 回答数 17  
 回答率 81.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

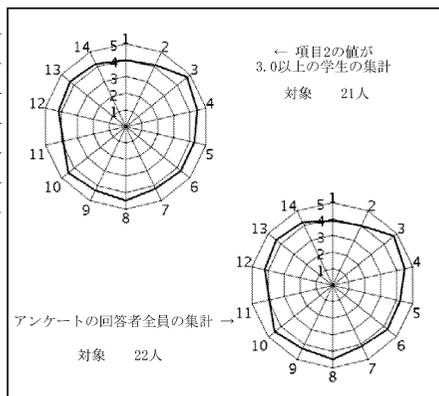


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
 授業は当初の予定通りに展開できた。しかし、学生の期末試験の結果を鑑みると、目標への到達度は70%程度だったと判断している。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
 大変高評価を頂いて、嬉しく思う。講義は教員と学生で作るものである。この講義の評価は、学生の講義への主体的な参加がなければ得られなかった。学生に、改めて感謝する。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
 履修生が少ないことが、本講義の最大の問題点である。学生からは、当該科目のシラバスが厳しすぎるとの声も聴いている。シラバス通りに講義を行なっているが、今回の評価を頂いていることを鑑みると、何か対策を考えねばなるまいと感じている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民法B  
授業コード 40F05-001  
教員名 仮屋 篤子  
教員コード 102079  
登録人数 74  
回答数 22  
回答率 29.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

本講の目的は、基本的な家族法の知識を身につけ、家族法の問題を理解することである。当初は、ステレオタイプのな家族像や偏った家族法の知識が見られたが、現行の家族法について、基本的な知識を身につけることができたようである。また、家族についての法的な問題点についても、興味を持つようになった。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

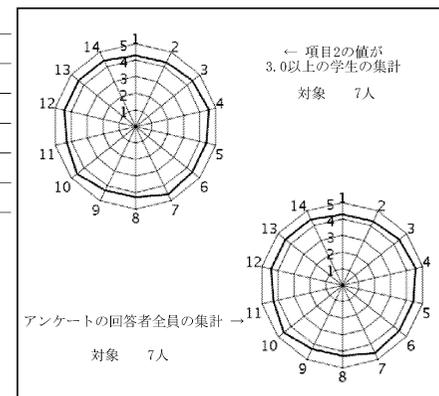
昨年から2コマ連続の授業となったため、今年度はレポートの分量や点数配分、やり方を変更した。平常点（授業レポート）の評価割合を減らしたが、まじめに出席し、授業に参加することについて一定以上の評価ができるように配慮した。一応の効果は出ているようである。特に本年度は登録学生数が少なかったため、きめ細かい対応ができたように思う。授業において、学生が興味を持ちそうなことについては、自分で調べられるように、参考となるHPや本を紹介していたが、その点について、効果があったかどうかは、判断材料に乏しい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

平常点（授業中のレポート）と定期試験の点数割合の変更は必要なさそうである。授業で興味を持った学生が、更に発展的に勉強できるような導きの方法を工夫する。できれば、前回の授業の後に自分で調べたことが、次の授業で立ち、また、評価されるような工夫を試みたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 商法B  
授業コード 40F07-001  
教員名 村上 康司  
教員コード 103658  
登録人数 31  
回答数 7  
回答率 22.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

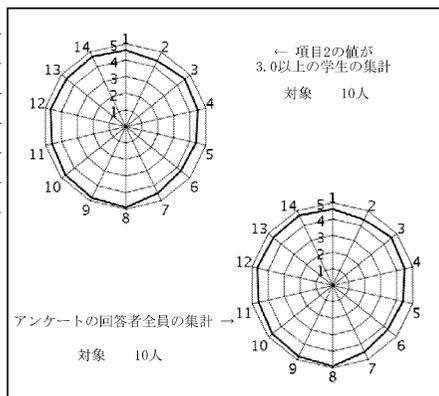


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 1)本講義は、企業が行う取引活動の特徴や、手形・小切手、さらには銀行振込や電子マネーといった決済手段について、それぞれの特徴を理解できることを目標とした。小テストを実施し、中間での取り組みを顧みるとともに、普段の講義でも、少人数であることを活かしたアクティブラーニング型を積極的に取り入れた。さらに、普段から日常的に利用している電子マネー等の現代的決済手段に関しても、法的に分析することで関心を刺激した。もともと積極的に受講を希望した学生が多く単位取得率も高かった。
- 2)本講義に対するアンケート結果も、おおむね高い評価を得た。これは、上記でふれたように、自らが望んで受講を選択した少人数からなる講義であったことがその一因であろう（項目1（当初の関心）のスコアは4.29）。個別項目は、そのいずれにおいても、項目1のスコア同等以上（4.29～4.57）であり、各項目において、受講者の一定のニーズに応えることができたものと理解する。
- 3)アンケート回答数が、少人数クラスのうち3分の1程度であることから、学生全体のニーズととらえるには十分ではない。今回は、自由記述は見られなかったため、設問以外の声を知ることができなかったが、継続的に講義の内容を見つめなおすとともに、改正動向の大きい学問領域であるがゆえに、レジュメも適切な分量に抑えつつ効率化を考えたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アドバンスト会計B  
 授業コード 42C18-001  
 教員名 木下 勇人  
 教員コード 102242  
 登録人数 10  
 回答数 10  
 回答率 100.0%  
 休講回数 2回  
 補講回数 2回



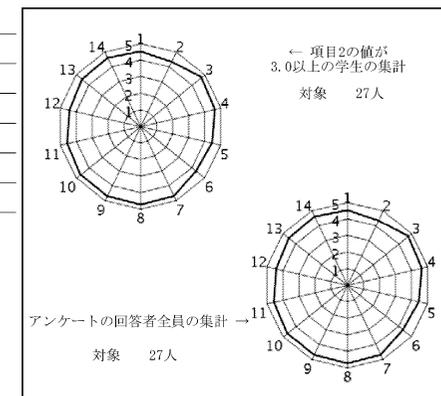
授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
- ②学生の受講状況、受講態度等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

アドバンスト会計Aと比較すると、アドバンスト会計Bは半期通しの内容になり積算的な内容になるため、一度欠席するとなかなか理解度が低くなる傾向があります。そのため、適宜復習を入れながら進めましたことは学生にとっては有意義なことだと感じております。このような形の講義形式であったことから、授業目標は概ね達成できたと考えております。実社会を写す鏡が会計であるため、実社会の出来事がどのような形で会計に反映されるかにつき講義を通して伝えることも実施しました。知識を実社会に当てはめる作業がイメージをつけるためには非常に重要になると考えております。単に知識を取得するだけでなく、取得した知識を生きた経験にできるよう今後も工夫を凝らしながら講義を進めていければと考えております。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営管理論B  
 授業コード 42E04-001  
 教員名 藤川 なつこ  
 教員コード 101618  
 登録人数 140  
 回答数 27  
 回答率 19.3%  
 休講回数 1回  
 補講回数 1回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の学修目標は、①経営管理論の理論的内容を理解した上で、②現実の企業の事例を、経営管理論を用いて分析し、③現実の企業が抱える経営課題に対し、経営管理論の視点から打開策や改善策を提示すること、であった。学生による授業評価の設問13の回答の平均値が4.56、設問14の回答の平均値が4.59であることから、学修目標を概ね達成できたと判断できる。

また、全ての設問項目で学科平均を超える高い評価を学生から得ることができたが、これは以下の点に心がけながら講義を進めたことによるものであろう。

①小テストの実施

単に講義を聴くだけでは、受け身の講義になってしまうので、講義の最後には小テストを実施し、その日の講義内容について学生に考える時間を与え、理解を深めるようにした。

②学生からの質問への対応

講義の最後に質問を書いて提出してもらおうということを行った。また、そこで出た質問に対しては、次回の講義の最初に全体に対して回答した。このことにより疑問と答えの共有を進めることができた。

以上のように、一方的に講義をするのではなく、学生からの意見や質問にも応えることによって、双方向の関係を築き、学生とともに講義をつくり上げていったことが、学生からの一定の評価に繋がったと考えられる。

しかしながら、以下の課題も残されている。

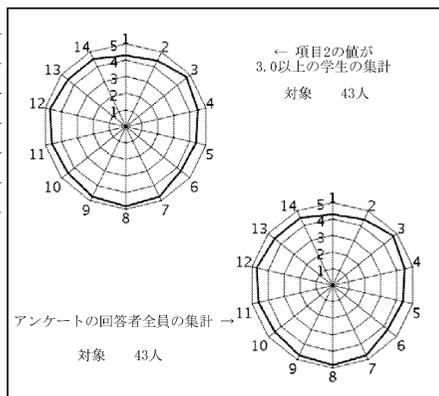
①アウトプットの時間および映像資料の視聴時間の配分

②授業外の自主的な学習意欲の喚起

以上の点を踏まえて、学生の学習意欲を高められるような、より参加的な講義にできるよう次年度はさらなる努力をしていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(起業論)1  
授業コード 42F05-001  
教員名 藤榮 幸人  
教員コード 103879  
登録人数 98  
回答数 43  
回答率 43.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

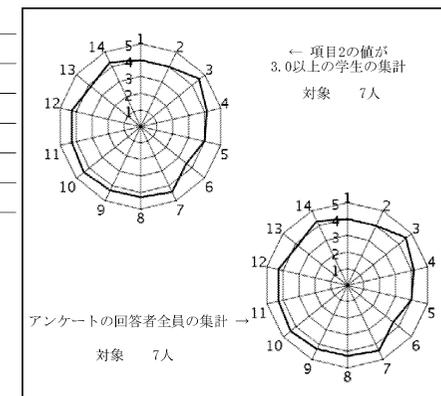


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
当初設定していた目標は、次の3点であり、授業内容もこれらに沿って実施をしたため、基本的には学生に伝えることはできた。  
しかし、目標自体を1回目および3回目の授業で触れただけだったため、②で述べるとおり学生にとっては授業内容と目標との関連性を意識させることができなかったという反省がある。
1. 日本における起業のダイナミズムの必要性理解と、起業家やフリーランスとして働く意義やリスクを知っている。
  2. 企業の成長ステージ毎にそれぞれ取り組むべきこと、陥りやすい事象を理解することができる。
  3. イノベーションの重要性と具体的な思考プロセスを実践できる。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価  
質問項目番号6および7の平均値が相対的に低かった。授業の到達目標と授業内容との関連を繰り返し説明することがなかったことが要因と考えられる。  
学生からの質問、特に社会人生活やビジネスに関連した生の情報に関するものについてできる限り丁寧に回答するように心がけていたことから、質問項目番号7、12の評価が相対的に高くなったものと思われる。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
上記より、授業の到達目標と内容との関連を意識づけることで、成長実感を得られるような運営を心がけたい。  
また、期末レポートの告知が遅いとの指摘が散見されるため、今後はテスト期間中の学生の負担を考慮したタイミングで、課題を指示するように改善する。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本法史  
授業コード 44B34-001  
教員名 神保 文夫  
教員コード 048306  
登録人数 64  
回答数 7  
回答率 10.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

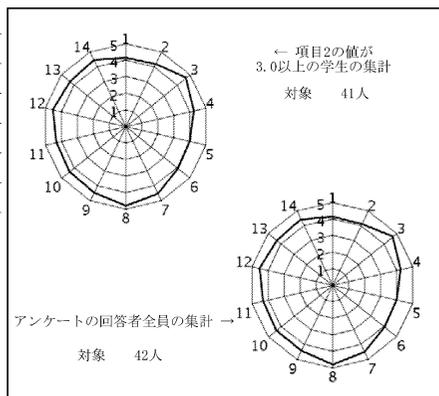


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 定期試験の答案を見る限りでは、到達目標として掲げておいた三点のうち、「(1) 日本法の歴史に関する基本的知識を備えている」及び「(2) 主要な法分野の歴史に関する専門的知識を備えている」の二点についてはおおむね達成できたといえる学生が多かったと思いますが、「(3) 近現代日本の法文化の特徴を歴史的な視点から理解している」については、十分達成している学生とそうでない学生との差がやや大きいように感じました。
- ②及び③ 講義じたいが概説的な内容であり、また今年度は講義の進行に応じてかなり詳細なレジュメを配布したので、講義内容を理解するのは比較的容易であったかと思いますが、そのことはアンケート結果にも反映されているように思います。そうするとどうしても多くの学生はレジュメに頼るというのか、試験に備えてレジュメに書かれていることを覚えようとするようで、レジュメの記憶を頼りになんとか書いたというような答案が多かったように感じました。そこから進んで自分なりに考えたり、文献を読んで調べたりして更に理解を深め、各人の法の歴史像を自分自身のことばで表現できるようになってほしいと思いますが、そのためには講義の進め方や配布資料の内容などに改善の余地がまだいろいろあると感じています。来年度に向けて一層努力したいと思います。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済原論B  
 授業コード 44B53-001  
 教員名 川地 啓介  
 教員コード 103289  
 登録人数 172  
 回答数 42  
 回答率 24.4%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

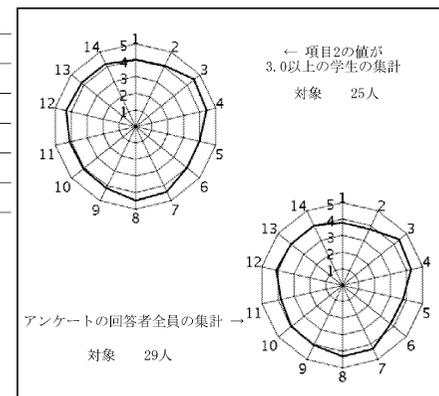


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標として、国全体のモノやカネの流れに加え、マクロ経済における各市場の仕組みや経済政策の意義について理解できるようになることを設定し、その達成のために統計データや理論モデルを表すグラフを多用する授業構成とした。授業評価の到達目標に関する項目からは、受講生の理解度および満足度はおおむね良好だったと判断される。しかしながら、いくつかの項目について改善の余地があり、特に、授業の到達目標に関する項目の評価が相対的に低い。初回の授業で授業目標などを丁寧に説明しているが、今年度から開講時間を午後に変更したことで、昨年度までと異なり授業期間の途中から履修変更してくる学生が目立ったことが要因として挙げられる。また、Q3の経済原論Aから引き続き履修した受講生と本授業で初めて経済学に触れる受講生との間に、授業の理解度で差がついている姿が目立った。来年度は、上記の点を改善できるように、授業の到達目標の説明を何度も行うことに加え、授業内容のレベルを維持したまま各グラフについて身近な例を交えながら説明する機会を増やすとともに、グラフ同士の関連について説明する比重を増やすことで初めて経済学に触れる受講生の理解を促すよう授業構成を工夫したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アジア政治社会論  
 授業コード 46L02-001  
 教員名 鈴木 隆  
 教員コード 102972  
 登録人数 84  
 回答数 29  
 回答率 34.5%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

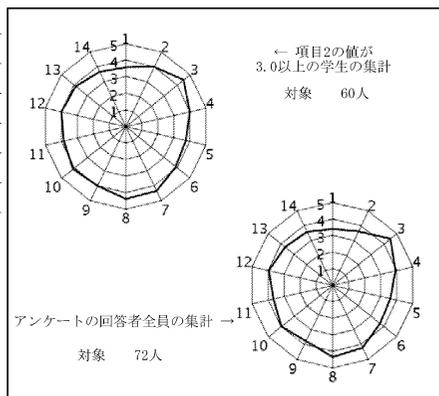


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の進度に合わせて、シラバスの内容の一部を省略する結果になったが、履修者の回答結果を見る限り、おおむね理解されたと思われる。回答結果では、設問1-14の平均値が4.01、設問3-14の平均値が4.06で、学部平均値よりも若干低いが、ほぼ同程度であった。アンケート結果のうち、設問4「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」は4.28である一方、設問5「この授業の到達目標を理解することができましたか」は3.79で、履修者の理解度の自己認識がやや低い。原因として、講義内容の分量がやや多いのかもしれない。これは、自由記述の回答の中にも、「レジュメに書いてないことも多く説明していたので、何が重要なかわかりづらかった」との記述があることにも、部分的に表れているように思われる。来年度は、講義内容の分量を減らす方向で見直し、映像資料やレスポンスペーパーをより多くすることで、履修者のフィードバックを増やすことも検討する。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 環境と法  
 授業コード 46M05-001  
 教員名 岩崎 恭彦  
 教員コード 102072  
 登録人数 157  
 回答数 72  
 回答率 45.9%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

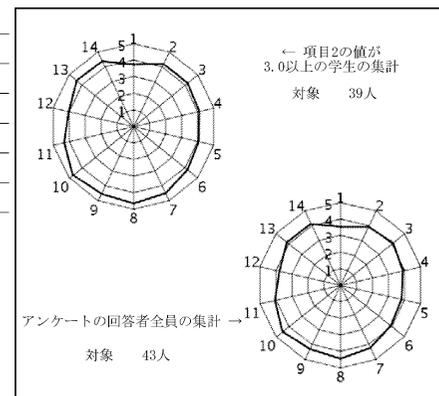
南山大学総合政策学部では、これまで瀬戸キャンパスで「環境法制論」という科目を担当し、昨年度からは名古屋キャンパスで「環境と法」という科目を担当しています。授業の方針としては、当初より、法学について必ずしも系統的に学ばれているわけではない学生のみなさんを対象に、法学のなかでも先端・展開科目に位置付けられる環境法を講ずるうえで、次の点に注意を払ってきました。

すなわち、毎週一回の間隔で開講される講義の内容についてより一層の定着が図れるように、図表やイラストを用いた資料集を作成・配付して学んでいる内容をビジュアル面からもとらえられるようにすること、各回の講義において“学びのポイント”を指摘して環境法の重要論点がどこにあるかを明確に示すことなどを実施しています。また、法学関係科目の未履修者に配慮し、法学のテクニカル・タームを説明の中で用いる場合にはできる限り丁寧に解説することを心がけています。これらの点に対しては、今回のアンケートでも、自由記述欄を中心に多くのみなさんに評価していただいているのではないかと感じています。

他方、同じく自由記述欄では、板書の見やすさ、口頭説明の速度の適切さ等について、具体的な要望をいただきました。これらの点に関しても、適宜対応を図ることを通じて、数値データの更なる向上をも心がけようと思っています。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策論III(先進国政治の課題)  
 授業コード 70271-001  
 教員名 小野 耕二  
 教員コード 101898  
 登録人数 121  
 回答数 43  
 回答率 35.5%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

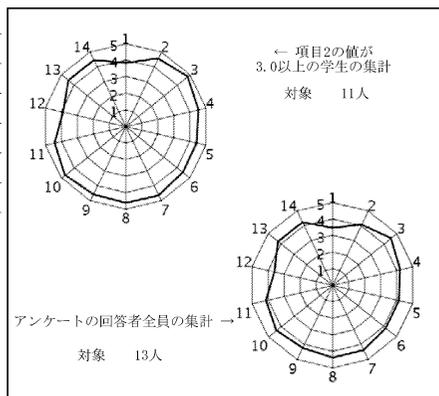


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①「先進国政治の課題」という現代的テーマについて、戦後ドイツ政治とEU統合のプロセスを具体例としながら授業を進めた。受講生の基礎知識がやや不足していると感じたので、基礎的データについては繰り返し話しながら、知識の定着を試みた。その成果を確認するために3回の小テストを実施したが、結果は満足できるものではなかった。学生諸君には、講義の過程で学習した知識に関し、その時点でわがものとするように努力してほしい、と願っている。その知識を前提として次の授業を行うので、知識の蓄積がないと後段の講義の理解が困難となってくる。
- ②スマートフォンを講義中に操作することについては、講義の雰囲気壊れてしまうので禁止した。この点について理解してくれる学生もいたが、それを不満に思う学生もいたようである。講義で聞いた用語をすぐにネットで検索したい、という要望もあるかもしれないが、授業をする立場からするとゲームやラインをしている学生と区別がつかないので、一律禁止とした。私としては来年度もこの方針で行きたいが、この点については大学としてのガイドラインを示してほしい。
- ③試験の出来も、それほど良いものではなかった。来年度は講義の材料を整理して、もう少し分かりやすい講義にしたいと考えている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本政治論  
授業コード 70305-001  
教員名 森 正  
教員コード 100983  
登録人数 46  
回答数 13  
回答率 28.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義の主目的は、①戦後70年間に構築された日本の政治システムとそのメカニズムを明らかにする、②政治改革、政権交代に伴う政治過程の変化とその評価を論じる、の2点であった。

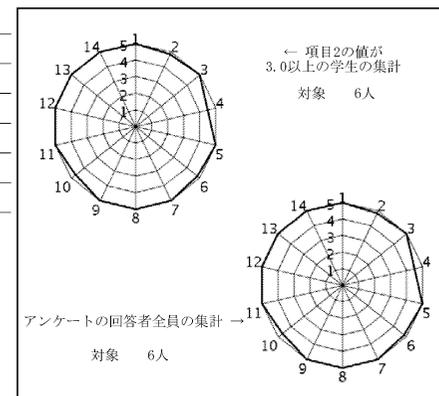
アンケートの回答者がわずか13人（そのうち1人は全ての設問に対して1と回答している）に留まったため、集計結果の数値（およびその解釈）には一定の留保が必要ではあるが、設問5・6の評点は昨年度よりは向上しているものの依然として本講義の課題として認識している。設問9・10については比較的高い評点を得ており、授業の運営、進行はスムーズにいったものと評価している。一方で、設問11・12・14は他設問項目と比べ、低い評点となっている。

今年度は、毎回、前週の講義内容から小レポート課題を課し、回収後に講義内で詳細な解説を行った。なお、定期試験も小レポート課題の内容を中心に出题した。試験準備として小レポートの復習を指示しており、レポートやその復習に真摯に取り組んでいた者であれば、回答は極めて容易だったはずである。

次年度に向けた対応として以下の2点を挙げる。①履修者自身が現代日本政治の抱える課題とその解決策を考察する機会を提供する、②（①とも関係するが）講義内容と現実の政治状況とのリンクに留意し、より時事的な話題を取り上げて解説する。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語II<G>  
授業コード 11B02-013  
教員名 遠藤 美加  
教員コード 101551  
登録人数 15  
回答数 6  
回答率 40.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

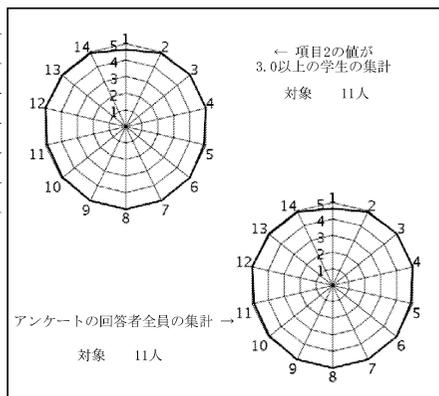
当授業は国際教養学部2年生向けの初習フランス語を扱っている。初級文法を習得し、平易なフランス語の日常会話および読み書きの能力を獲得することを目標とする。授業・試験を終えて、意欲の強い学生がこの短期間に高度な知識と能力を獲得しただけでなく、受講生全員が、各種検定の問題をこなす、実用的フランス語運用能力をつけてきたことが確認できており、一定の成果が得られたと考えている。

今回のアンケートは最終授業内に登録時間を設けたが、実際にweb登録できた人数は6名にとどまった。次回は予告を早めにして登録数の改善を期したい。

その登録した学生においては全般的に評価は悪くなかった。個別のコメントには改善すべき点が見える。二冊の教科書に加えての配布資料に、かえって学習内容が煩雑化、分かりにくくなるとの指摘には、資料の厳選、簡素化を意識したい。また練習問題の活用法に関する指摘には、学生の自主性を一層考慮して、提出課題と自習課題のバランス、課題実施のタイミングなど、全般的に見直す考えである。その他の反省も踏まえ、継続する授業においては、よりアクティビティ形式のエクササイズに力を入れ、さらにフランス語運用能力の獲得を図っていく。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IIIA1  
授業コード 33A13-001  
教員名 NISHINO, Aurelie  
教員コード 103640  
登録人数 20  
回答数 11  
回答率 55.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

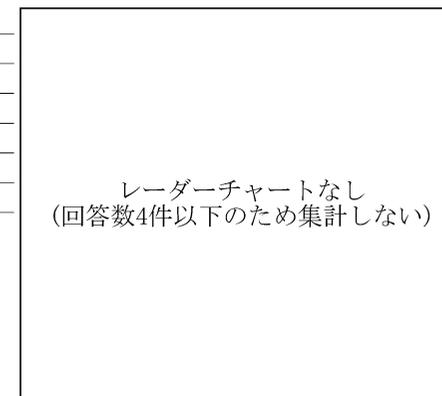
1. the goals at the start were: to finish the book , to make them speak as much as possible and to make the students improve for them to reach the level B1. We manage to achieve the first goal and the student were happy and surprise that we finished the book within a year. They were proud of themselves.  
For the second goal, we tried with my colleagues (I work as a pair with a teacher on Friday), to put as much as possible some kind of debates / theaters act / reportage (make some videos for an assessment) and the students were very happy to do that and to show the class what they did. this task was a real success.  
For the third goal, I am not sure everyone manage to reach that level but they were very willing to improve and get better, so mainly the level in the class were within A2+ et B1+.

2. Overall, I was very happy about the students and it work very well in this class.

3. For next year I think, I will try to make them talk more by doing more little task. However, it won't be easy because they have to have a certain level of French to accomplish that. So I think it will be possible right from the Q3.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLSフランス語II  
授業コード 48A16-001  
教員名 HERGOTT, Florian  
教員コード 101725  
登録人数 15  
回答数 4  
回答率 26.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Students seem satisfied with the course content and the manual used. The weekly tests allow them to know if they have correctly acquired the knowledge and skills studied previously.  
If it is possible, I would like to give more time to oral expression and introduce a little more cultural content into the courses.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IIB2  
授業コード 32A13-002  
教員名 VILLALOBOS Antelma  
教員コード 101011  
登録人数 25  
回答数 4  
回答率 16.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

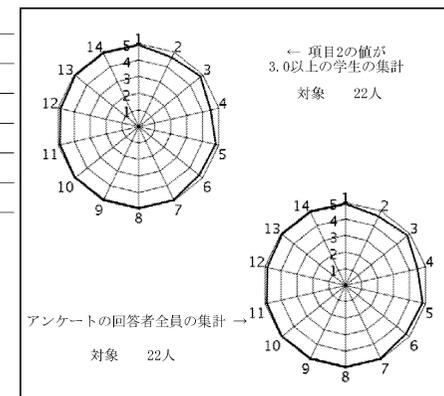
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

Many students did not respond to the survey, however this course has gotten a good evaluation of the students who responded and their comments were all positive indicating that the general objectives of this course were well fulfilled. The students seems to be well satisfied with the kind of techniques used using the course classes and the way the professor behaved during the trimester. As a general evaluation of the course, I should stress that the most important point is the fact that I should continue my teaching with the standard and new methods I have developed and used until now and looking for improvements, according to the students' reactions to the contents and the teaching methods. In other words, I should respond to the good evaluation of the students by trying to find more ways to let them obtain a better and more effective learning experience every class of the year.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語II<G>  
授業コード 11F02-027  
教員名 中野 麻里子  
教員コード 102125  
登録人数 33  
回答数 22  
回答率 66.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

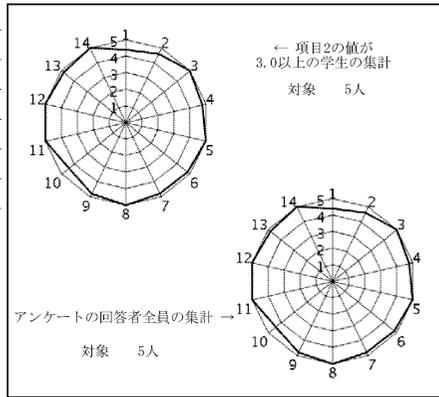


授業評価結果を踏まえた点検・評価

初めて担当した学科の初めての授業のため、来年度のQ1まで同じ学生たちが継続するというを分かっておらず、開講当初の達成目標を少し無理があるものに設定していた。途中で今期Q4の内容を、来期Q1で継続して学習することを前提のものに変更して修正をした。結果として学ぶペースも予定よりゆっくりしたものになり、知識もしっかりと定着したはずである。アンケートではシラバスの達成度や目標についての評価が少し低かったようだが、この変更によるものだと思う。学生たちの多くが、授業中に行う小テストや様々な練習は効果があると感じてくれているようだ。よく勉強する子たちばかりだが、Q3に比べると、出席率が落ちたり、自主学習（復習）が減っているのではないかと感じられる学生も数名見られる。知識の積み上げなので、前の単語や文法がわかっていないと、次がどんどんとわからなくなってしまう。解説の速度が速かったり、板書をとる時間がないという指摘がQ3から続いてあるが、前の知識が身につけている学生とそうでない学生とで、解説の速度や板書にかかる時間も違ってくるのではないだろうか。自主学習（復習）をしっかりして、授業中復習に充てる時間を減らし、解説をゆっくりできるよう、板書をとる時間を多く取れるように学生たちも授業運営に力を貸してほしいと思う。わたしのほうでも、解説の速度、板書をとる時間については、引き続き気をつけるようにしたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語IV<全>1  
授業コード 11F04-027  
教員名 李 香善  
教員コード 103871  
登録人数 40  
回答数 5  
回答率 12.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

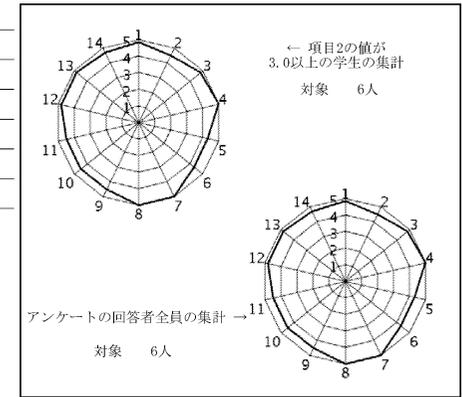


授業評価結果を踏まえた点検・評価

月曜日と木曜日の第5時限の授業で、履修登録者40名、再履修の学生の多いクラスです。Q4を終えて、過半数の学生が中検4級試験に対応出来るほどの単語をマスターし、複雑なフレーズによる書く表現力も身につけたと思います。ただし、話したり聴いたりする能力はまだ欠けています。授業参加積極度の促しや小テストの実行により、教室における学生の受講姿勢はほとんど良く、一人で本文を朗読したり、ペアで会話練習をする時、熱心にその役を全うする姿が見られます。出席面においては、皆勤の学生が少なく、中には4回まで欠席が許されると安易に思われる学生が結構いるので、今後、学生が欠席せず毎回きちんと出席出来るよう指導することも課題の一つだと思います。また話す能力と聴く能力をアップするために、より沢山ペア会話練習を行うことを試みたいと思います。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級中国語IV会話1  
授業コード 35C06-001  
教員名 張 静萱  
教員コード 048047  
登録人数 8  
回答数 6  
回答率 75.0%  
休講回数 2 回  
補講回数 2 回



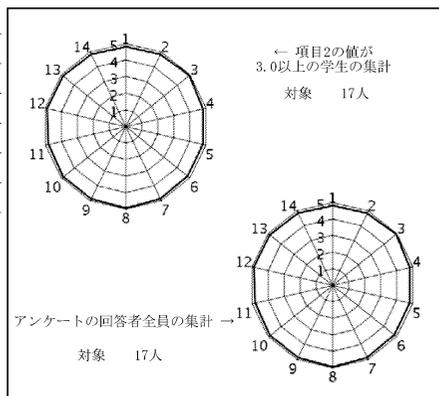
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は、「中級中国語IV会話1」ということですが、受講生は、中国から一年間留学を終えて帰ってきた学生もいれば、ほぼ日本国内の環境で中国語を覚えた学生もいます。それでいかに授業を進めていくのか、とりわけいかに留学組の会話力を保ちながら、さらに伸ばしていくのか、またそれと同時に留学しなかった組の皆さんに口を開けてもらって、中国語を話せるようになり、さらにその力を高めていくのかは、大きな課題でした。授業では予習していただき、テキストの内容をしっかりと理解したうえで、留学組とそうでない組とわけずにみんなで練習する形をまず取りました。またできるだけ、中国語で授業をし、中国と中国語に関する新しい情報なども取り入れ、毎回その繰り返しで学生の中国と中国語の知識が増えただけではなく、口語の表現力も向上しました。アンケート集計の結果で分かるように開講当初に設定していた目標に達成できたと思われます。

「中国語を聞く、話す時間が充実していた」、「中国語での説明が多い点」といった「よかった」、と「評価できる」ところはこれからも引き続き努力していきたいと思います。今後もすべての受講生の学習意欲を引き出すように工夫し続けるとともに授業内容をもさらに充実させ、学生の興味をもっと湧いてくるよう、満足度の高い授業運営を続けて努力していく所存です。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS中国語II  
授業コード 48A25-001  
教員名 趙 晴  
教員コード 100960  
登録人数 33  
回答数 17  
回答率 51.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートを見た限りでは、開講当初に設定していた目標は概ねに達成できたと思われます。このクラスは勉強する雰囲気良く、学生たちも明るく、まっすぐで、好奇心旺盛で、勉強に対する姿勢はたいへん真面目です。とても教えやすいクラスです。学生たちに「謝謝！」と言いたいと思います。

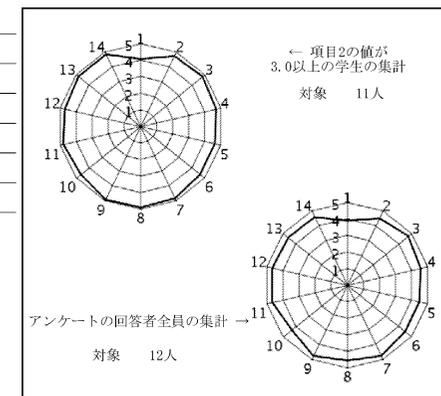
主に評価されたところは「分かりやすく、丁寧に教えてくれた」、「発音は本物だ」、「補充内容（音声・画像）は面白かった」などです。学生たちは私を評価してくれたことはすごく嬉しいですが、実は私も学生たちから元気づけをもらっていました。かつて私の先生は「心は通じ合うものなので、本気を出してやれば学生たちはちゃんと分かってくれる」と仰いました。長く教えてきましたが、本当にその通りだといつも思っています。これからも学生たちの一人一人の個性を尊重しながら、更に自覚的な学習ができるようにもっと工夫をして進んでいきたいと思ひます。

学生諸君、共に頑張りましょう！

謝謝！継続加油！

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(読解)2  
授業コード 11L09-002  
教員名 鈴木 照  
教員コード 103293  
登録人数 13  
回答数 12  
回答率 92.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

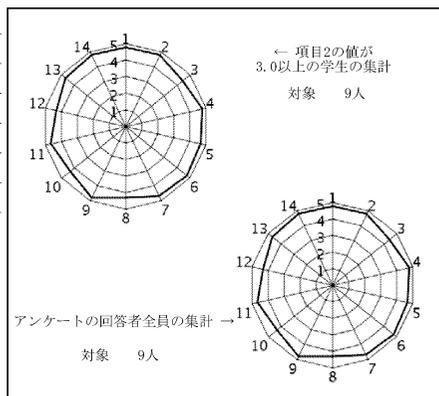
この授業では、アカデミックリテラシーとしての文章や図表などの正確な内容把握の方法を習得すること、またそのために必要な中級レベルの語句や表現の意味・用法、文法知識など習得することを目標とし、読解教材や新聞、グラフなどを用いて、語彙や表現、文法の学習をするとともに、それらの内容の読み取りや文章の要約を行った。また、理解を深めるためにグループでの話し合いも取り入れた。

コース開始前には、この授業への興味の低い学生もおり（設問1 平均値3.92）、初級の授業とは異なる日本語学習の授業形態への対応に苦慮している様子も見られた。しかし、コース終了時には学習した文法や語句、表現を概ね正確に使用し、理解した内容を自分の言葉でまとめ直すことができるまでになり、目標は概ね達成できたものと思われる。設問6が平均値4.50、設問13が4.58であったことから、学生自身も上達を実感しているようである。それでも中には授業についてこられず、教員の話す速度や教え方などに対する不満を持った学生もいるようであった。個々の学生の様子に更に気を配る必要があると思われる。

これらを踏まえ、次学期は、今学期の授業内容を中心に、学生がより興味を持てるような内容を組み込み、学生の理解度や様子に配慮しながら、授業を運営していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(表現技術B)2  
授業コード 11L11-002  
教員名 三輪 志保  
教員コード 103665  
登録人数 13  
回答数 9  
回答率 69.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

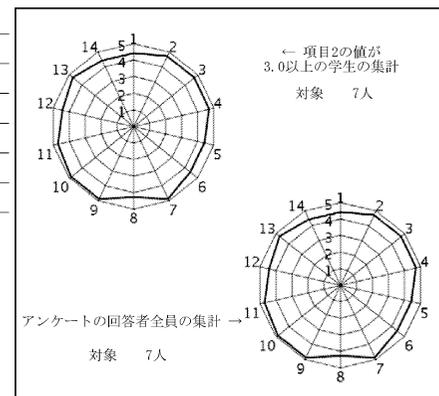
① この科目では、作文の基礎知識を理解し、表現したいことを正しい文で書けるようになること、また、研究計画書の作成に必要な表現や形式が身につくことを目標としていた。最終的な到達目標は、習得した基本的な表現を使用して、研究計画書を書くことだった。ほとんどの学生が、作文の基礎知識を理解し、書きこぶ表現で作文を書くことができるようになったが、まだ文法的に正しい表現が完全に身につけているとは言えない。また、最終課題である研究計画書の作成においては、必要な表現や形式の習得には学生の能力に差があったものの、その課題に対し努力する姿勢は全員に見受けられ、当初の目標はほぼ達成できていると感じられた。ただ、研究計画書の作成に必要な表現の実質的な運用や内容に関しては、個人差が顕著に表れた。

② 学生からのコメントでは、「先生の説明方はとてもわかりやすいと思います」「ゆっくり内容を教えてくれて、すごくわかりやすくてとても良かったと思います」「普段知りたかった表現や指示語や言葉の使い方を知ることができてよかったと思います」など、学生にとって理解しやすかったということで、授業内容に関しては評価できると言っている。しかし、授業開始時間に遅れたことがあり、それに関する学生からのコメントもあったため、今後は注意が必要であると感じた。

③ 来学期は、今学期の反省を踏まえ、時間の管理をしっかり行うこと、また、運用能力の個人差を極力減少させるために、全体フィードバックにかかる時間を毎回確保したいと考えている。先学期の反省点である個別フィードバックの改善に関しては、各学生の弱点強化になり、評価できると思うが、さらに、補習授業担当の先生とも連携し、補習授業時間も活用させていただきたいと考えている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語III(表現技術A)2  
授業コード 11L14-002  
教員名 蒔田 雅子  
教員コード 102042  
登録人数 10  
回答数 7  
回答率 70.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

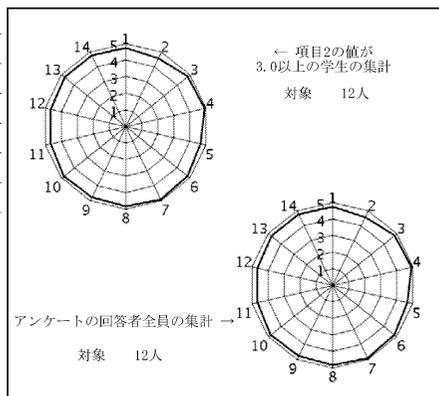


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は講義と演習を通して、①メモを取りながら、内容理解に結びつく聴解ができるようになること、②聴き手に分かりやすい発表ができるようになることを目標にしたものである。教員の取り組みや学生への配慮(項目番号7, 9, 10)に対して高い評価をしている(平均値4.86)一方、学生自身の取り組み姿勢(平均値4.71)や到達目標への理解・達成感・質問や相談の機会についてはやや低い評価(平均値4.43)となっている。第1回の授業で説明した到達目標や授業内で説明した各課の目標が理解できなかったという評価についてはさらに丁寧な説明が求められたと理解し、今後気を付けていきたい。質問や相談の機会については、テスト前の授業内で質問の時間を設けてはいたが、特に質問が出なかった。非常勤である担当者に常時コンタクトが取れる状況になかったことが原因ではないかと推察される。今回はビデオ撮りした学生の発表の振り返りの際、音声が入っていなかったため、振り返りがしにくい部分があった。次回は音声が入るような方法を検討したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語III(表現技術B)2  
授業コード 11L15-002  
教員名 牧野 由美  
教員コード 100727  
登録人数 14  
回答数 12  
回答率 85.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

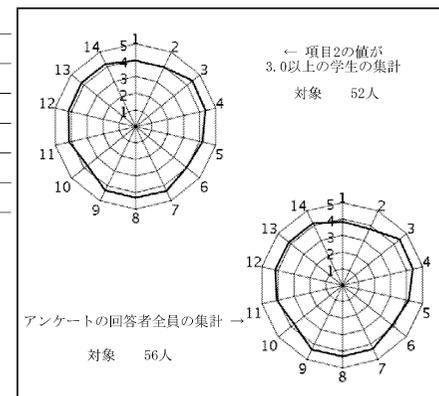


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 授業の目標は、レポート・論文にふさわしい文章表現および、文法的に正しい文で的確に述べたい内容を表現できる文章力の習得であった。文型・表現の練習と多くの作文課題を通して、個々の学生の文章力は向上した。文法的な正しさの点ではさらに学習が必要ではあるが、ほとんどの学生が基本的なレポートの形式・表現・文型等を用いてレポートを仕上げることができるようになったという点で、目標は達成されたと考えている。
- ② 授業を通して、文法・表現の適切さに注意しながら書くことと、書いた文章の不適切さに気づいて直すことを学生自身が行えることを目指して指導してきた。また、課題は丁寧に添削することを心がけた。数値データを見ると、概ねよい評価となっており、学生たちも自身の文章力の向上を実感していることがうかがえる。先学期の学生アンケートで時間配分と机間巡視について改善の余地があることがわかり、今学期は授業の進行を工夫した。今回、項目4で4.92という高い評価を受けたことから、その工夫がいかされたと感じている。
- ③ 引き続き、より学生の実力向上につながるような課題となるよう、内容の見直しを行って、次学期の授業に臨みたい。総合的に書く力を身につけられるような指導方法の工夫を続けていく。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[E]2  
授業コード 10A01-008  
教員名 浅井 太郎  
教員コード 102951  
登録人数 150  
回答数 56  
回答率 37.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

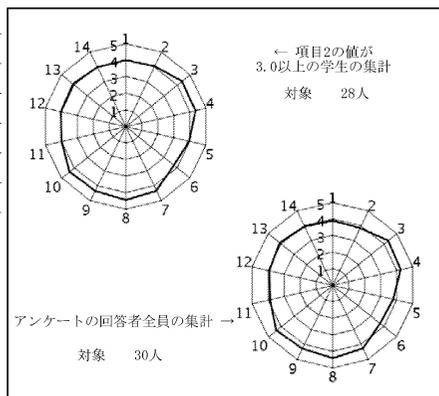
開講当初に設定していた目標について言えば、おおむね到達していたと思います。ただ、授業アンケートの数値は平均値をほぼすべての項目で下回っていたので、残念です。どうしてそのような結果になったのかよくわかりませんが、可能な限り改善してゆきたいとおもいます。

記述式のアンケートによれば、「飽きない授業構成になっている」「リアクションペーパーが毎回あって、そのテーマがいつもなら考えないようなことが多くて書くのが面白かった」「映像資料が多くてよかった」「映像を多く取り入れていた点」「親切」「映像を見ることによって理解がしやすかった」「楽しく宗教論を学ぶことができた」「スライドを使うところ」という声をいただいたのは幸いでした。

一番問題と感じていることは、講義中の私語の多さです。どうしたら静謐な授業空間を確保できるかが課題です。「毎回後ろの方の人たちの話し声がうるさいので退出させてほしかった」というように、学生からは強く注意することの必要性も指摘されていますが、私自身それは苦手なことなので、困っています。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教に見る人間の尊厳3  
授業コード 10D01-003  
教員名 長澤 壮平  
教員コード 102718  
登録人数 146  
回答数 30  
回答率 20.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

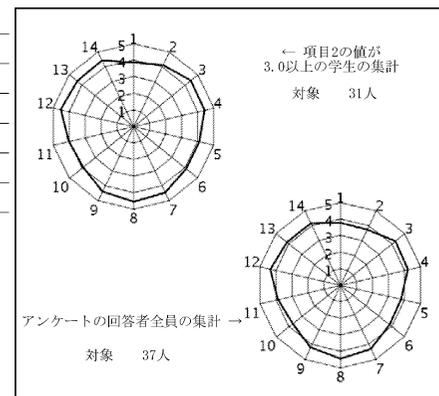


授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケート調査の結果から、授業目標はおおむね達成されたと思われる。ポイントの低い回答として、自主的な学習を促す指導に関する問11が気になった。確かに、関連資料を含め、自主的な学習を展開する指導に欠けていたように思う。今後はこの点に留意し、授業を行いたい。また、質問の受付に関する項目である問12のポイントも低かった。コメントペーパーへの回答も含め、質問や相互交流に留意するよう心掛けたい。今年度は、150人に及ぶ受講生の人数から、細やかな対応に限界があったように思われる。このことから、アンケート回答にも若干の不満が感じられた。授業後に直接質問に来る学生には対応してきたが、コメントペーパーの精査と応答は十分ではなかった。これは受講生の人数から限界があると思われるが、その条件下でも最適化された対応をするよう心掛けたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教に見る人間の尊厳5  
授業コード 10D01-005  
教員名 浅野 幸治  
教員コード 100779  
登録人数 68  
回答数 37  
回答率 54.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生は授業内容、学習成果に関して満足してくれているように思われる。設問13および14に対する回答平均値は十分に満足のものと思われる。ただし、数字は前期に比べて少し落ちているので、改善の余地がある。また設問5および6に対する回答平均値はあまりよいものではない。学生の自由記述にも、「全体の流れが授業の到達目標に向けて筋の明快さにかけているように見え、生徒としてはついていくのが辛い」とある。この点を反省して来学期は、この授業で何をするのか、何をしたいのかという到達目標を明確に伝える。次に学生からの自由記述を引用し、答えていく。

1、これは聞き間違えなのかもしれないが「いよいよおまちかねの」という表現は、せんせいの研究対象に対する真摯な姿勢が感ぜられるだけに、これだけよいものと疑問が残った。ドイツが起こした史上最も凄惨、残虐非道な行いに関するワードで。

→「いよいよおまちかねの」という表現は不謹慎なので改める。

2、先生の話はとても面白いのですが、資料が配られるわけではなく、スライドもおまけ程度に映されているだけだったので、レジュメがほしいと感じました。

→できるだけ、聞いているだけで面白い授業にしたいと思っている。でもそれだけではなく、レジュメに当たるような資料を配布しようと思う。

3、授業中にもかかわらず学生が騒がしかったので、注意を徹底してほしかったです。

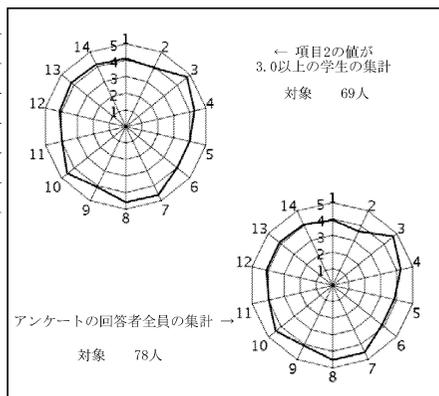
→分かりました。

4、レポートはパソコンがいいです。

→手で書くことには、意義と有用性があるので、変更しない。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 西洋史A  
授業コード 12B07-001  
教員名 大橋 真砂子  
教員コード 100233  
登録人数 150  
回答数 78  
回答率 52.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

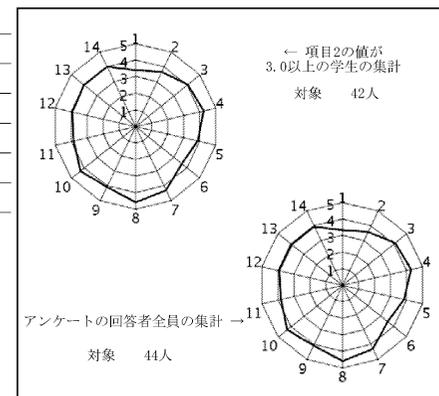


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、古代から近代までのヨーロッパの歴史について、暦法や時間の概念などに焦点を当てながら解説した。一連の内容に触れることによって、ヨーロッパの歴史の大まかな流れを理解し、かつ、現代社会で用いられている暦の要素が古代や中世のヨーロッパにまで遡るということを理解してもらえるよう、シラバスに沿って解説することができたと考えている。授業の進め方については、今年度になって初めてスライド中心に移行し、プリントについては既存のものを活用した。このやり方に関して、学生からは「分かりやすい」という反応があったのに対して、「書き写すのが大変」という不満の声も聞かれた。今年度の授業に関しては、スライドそのものを作成するためにかなりの時間を割かねばならず、プリントに反映できなかったことは改善点として挙げられよう。登録者数が比較的多い（約150名）2コマ連続の授業であり、人数分のプリントを毎回（過去の欠席者分も含めて）教室に持参することは無駄も多いと感じたので、今後は他の方法も探していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会学B3  
授業コード 12C07-003  
教員名 梅村 麦生  
教員コード 103283  
登録人数 99  
回答数 44  
回答率 44.4%  
休講回数 3 回  
補講回数 3 回

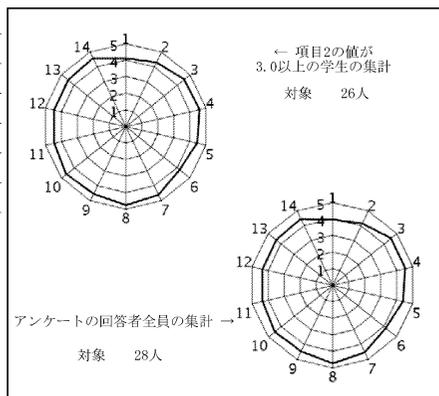


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
当初設定していた「1. 社会学の基本概念と、社会的な発想を身につける」と「2. 近代社会の特性について考え、自分が今いる社会を相対化する視点を身につける」について、一定程度は達成できたと考えられる。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
設問3、4、7～10は平均値が4以上であり、授業の構成や進め方については適切に行うことができたと考えられる。  
設問11～14も平均値が4弱であり、この授業を通して一定の認識が得られたものと考えられる。  
ただし、設問2、5の平均値が3.5強であり、「主体的な参加」と「理解度」の上昇については課題が残っている。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
教養科目・講義科目としての制約を踏まえたうえで、ひきつづき上述の課題の改善に取り組みたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地球科学A2  
授業コード 12D06-002  
教員名 三野 義尚  
教員コード 102236  
登録人数 146  
回答数 28  
回答率 19.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

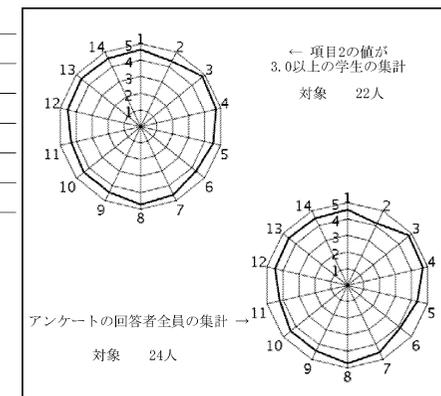


授業評価結果を踏まえた点検・評価

海洋学を通して地球環境問題の理解を深めることを目標とした。物理・化学・生物分野の基礎知識から最新の観測技術まで幅広い内容を扱い、最終的に地球環境に対する気候変化や温暖化、人間活動の影響について科学的に解説した。地球規模の大きなスケールの現象を説明するため、講義では映像資料を多用し、講義スライドとリンクさせた。また、授業で得た知識をアウトプットする機会として小テスト（ミニレポート）を2回実施した。休講0回、補講0回だった。項目3-14の平均回答は4.45であり、開講科目全体や所属している基盤科目の平均値を上回った。ただし、全体到達目標に関する設問6が平均4.14であり、他の設問にくらべて明らかに低く、受講生が達成感をあまり持てなかったのかもしれないと反省している。次回からは、内容理解を実感できるような機会を盛り込んだ授業計画をたてるつもりである。設問16の改善点は特になかった。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理学B1  
授業コード 12E04-001  
教員名 西田 裕紀子  
教員コード 101587  
登録人数 65  
回答数 24  
回答率 36.9%  
休講回数 2 回  
補講回数 2 回



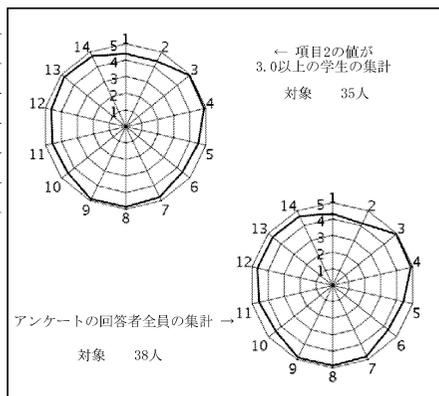
授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問14項目中、13項目で全体の平均値を上回るか同値であった。特に平均値よりも高い値（4.50以上）を示していた設問は、「1. 授業の履修前、内容に興味をもっていた（4.58）」、「2. 授業の開始と終了の時間が守られていた（4.79）」、「3. 授業の構成や進行速度は適切であった（4.71）」、「7. 教員の姿勢に誠実さを感じた（4.54）」、「8. 教員の声や音は聞き取れた（4.75）」、「12. 質問の機会が十分に設けられていた（4.50）」、「13. 新しい知識を得たり、理解が深まったりした（4.54）」、「14. この授業に満足した（4.50）」であった。特に、事前の授業への期待が高く、授業を通じて理解が深まった様子が見られることから、今後もそのような授業の展開を志す。一方、平均値を下回っていた項目は、「11. せっきょきてきな授業参加や自主的な学習を促すための適切な指導があった（4.21）」であり、今後は、予習や復習などの自主的な学習を進めると共に、授業の運営を工夫したい。記述からは、具体例・ミニ実験が理解促進につながったこと、スライドやプリントのわかりやすさ、質問やリアクションペーパーへの対応の良さ、授業のテンポの適切さなどの記述が見られた。一方で、スライドをまわすのが早いという指摘もあった。今後もこの点に配慮した授業進行を心がけたい。

以上、概ねポジティブな評価・コメントであり、心理学の概論的内容を理解するという本科目の目標は達成できた。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化の比較2  
授業コード 13A01-002  
教員名 山田 幸代  
教員コード 101367  
登録人数 54  
回答数 38  
回答率 70.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

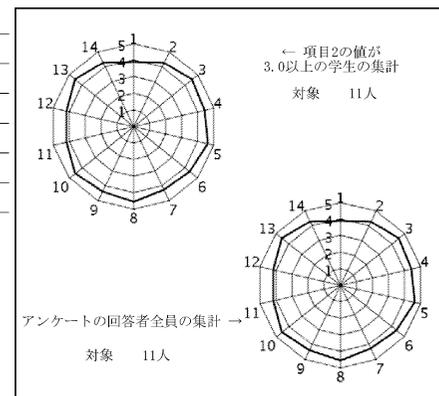
「授業の良かった点」のコメントを読むと「ケルトの文化圏およびアイルランドの歴史と文化について知識を得ることでアイルランドに対する興味を引き出す」という授業目標は、達成できたと思われる。自由記述欄にも「興味が湧いてよかった」という感想があった。

映画・ドキュメンタリ映像・音楽などオーディオ・ビジュアル教材を視聴することには、今回も好意的な感想が寄せられていた。「映画などを通して楽しみながら学べる」「実際に動画を見て知ることができたので分かりやすかった」というコメントがあった。

「改善すべき点」について、「スライドの文字が小さいので、後ろのほうの席に座った場合見えにくい」、「プリントの構成が見づらくてあまり好きではありませんでした」という意見があった。いずれも以前は気をつけていた点であったが、最近あまり対応していなかった。改善したいと思う。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 芸術をめぐる2  
授業コード 13A04-002  
教員名 梶田 美香  
教員コード 103589  
登録人数 55  
回答数 11  
回答率 20.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

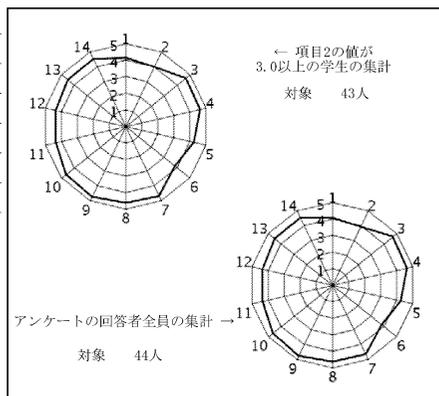
概ね満足度が高かったようで安心している。また、当初の興味ポイントに比べて、授業への参加度や満足度のポイントが高いことから、徐々に履修者が内容に積極的に取り組んでいくようになったと考えられ、授業内容と履修者の希望とのマッチングも悪くなかったと解釈した。

しかし、関心を引き出す努力が不足していたという点もあったようで、具体的なことを振り返ってみると、知識提供型の授業になっているときも多々あり、学生との交流にかけていた部分が反省点として思いつく。また、履修者への質問や問いかけも不十分であったようで、学生の状態を知る努力が不足していた点を反省すべきだと感じている。

次年度は、内容についてのマイナーチェンジを加えつつ、履修者の興味・関心を問う時間や、授業内容について感想を交換できる機会を積極的に取り入れ、授業改善に努めたい。また、学生間の交流の機会も増やし、意見を出しやすい環境を創ることも心掛けていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 芸術をめぐって4  
授業コード 13A04-004  
教員名 小沢 優子  
教員コード 101168  
登録人数 80  
回答数 44  
回答率 55.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

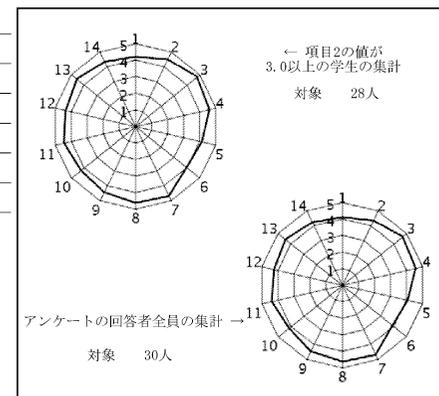


授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートの設問13の「4.50」、設問14の「4.52」という数値から、学生は授業の内容を十分理解し、満足してくれたのではないかと思います。また、設問9の「4.75」や、授業の良かった点としてあげられている「実際に音楽を聴き、映像を見ることで興味が深まった」「CDを聴くことでその曲を知ることができ、理解を深めることができた」などの記述を通して、教材の使用も効果をあげていたことがわかる。一方で、理解度、満足度が一定水準に達しているものの、設問6は「3.84」と低い。到達目標に向けて力がついたという実感に乏しいのはなぜなのか、とても気になるところである。感情や感覚を楽しませ、なごませてくれる音楽が対象なので、習得したという意識と自覚を明確に持ちにくいかもしれないが、芸術の様式の変遷という授業の最も核となる部分を確かに把握し、学んだという到達感と自信が得られるようなやり方を今後も考えていきたい。学生の出席状況は良く、アンケートを行った日もいつものように出席者が多かったのだが、回答者数は出席者数よりもかなり少なかった。アンケートの回答率をもっと上げることに心配りしようと思っている。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ヨーロッパとの出会い4  
授業コード 13B04-004  
教員名 野村 幸弘  
教員コード 103650  
登録人数 53  
回答数 30  
回答率 56.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

2017年度は南山大学での最初の授業だったので、まったくの手探り状態でしたが、2018年度は、その経験を踏まえ、座学のレクチャーでは、パワーポイントに加えて、動画（自作の映像作品）をできるだけ多く使い、学生の興味関心を惹くよう工夫しました。また受講者数を約半分に減らし、グループ・ワークをするさいの人数を適切にしました。そうした改善点によって、2017年度以上に、学生の理解度も、発表のレベルも上がったと考えられます。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

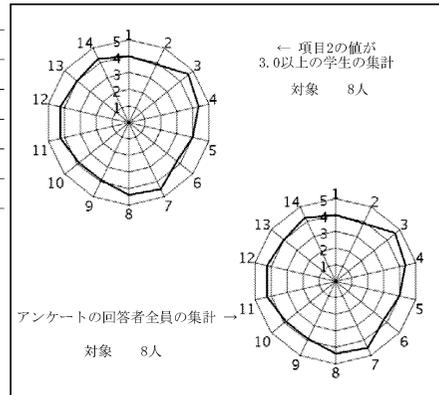
授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さ、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って授業の進め方、学習意欲を引き出し積極的な授業参加、自主的な学習を促すための適切な指導や情報提供については、高く評価されているものの、「あなたはこの授業の到達目標に向けて力が付いてきていると思いますか」という問いには、やや否定的な評価がありました。その理由は、おそらく最後のパワーポイントによる発表の準備が、冬休みによって中断し、グループ内での取りまとめがうまく行かなかったことにあるように思われます。自由記述からは、学生の異文化に対する関心が非常に深まったことが伺えます。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

来年度の担当はありません。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化の理解3  
授業コード 13C01-003  
教員名 杉尾 浩規  
教員コード 102055  
登録人数 51  
回答数 8  
回答率 15.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

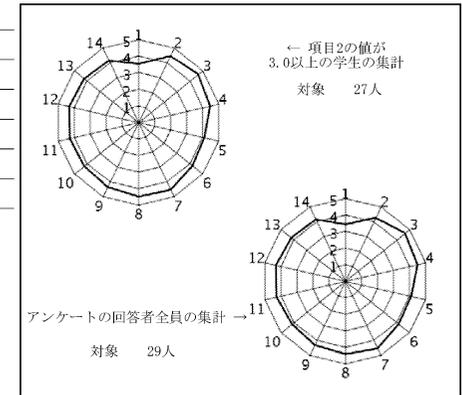
本授業では「文化を考える」こと自体が持つ多様性への学びを通して、自文化と異文化へのバランスの取れたスタンスの習得を目指しました。また定期レポートを「他者に自分を理解して貰うという異文化理解の実践」と位置づけました。レポートには授業内容を踏まえつつ柔軟な視点から文化を論じた作品が多くあったことを踏まえると、文化理解の多様性を強く打ち出した本授業に一定の肯定的評価を与えることができると考えられます。

改善すべき点として「レポートの指示が細かく説明が難解」というコメントがありました。私が課したことは、例えば「タイトルを付ける」「段落冒頭には一文字分の空白スペースを置く」「文末には句点（。）をつける」などの文章作成の基本、引用文献表示などの著作権に関わる約束、講義理解度の提示を含む定期レポートの形式などの習得です。これらは大学の定期レポートで当然とされるものであり、「細かすぎる」ことを理由に無視することはできません。更にレポート作成に不慣れな受講者を想定して、「レポート作成ガイドの配布」、「講義一回目にレポート作成の基本を説明」、「レポート相談への対応」、「希望者へのレポート下書き添削の実施」など、アクティブに学ぶ環境を必要十分に設定したと考えます。以上から上記コメントに関する改善の必要性はないと判断します。

来年度はよりわかり易い講義内容を目指し、下書きレポート添削などの個別対応を可能な限り実施する予定です。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 視聴覚メディア論  
授業コード 15M09-001  
教員名 宮下 十有  
教員コード 103580  
登録人数 100  
回答数 29  
回答率 29.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

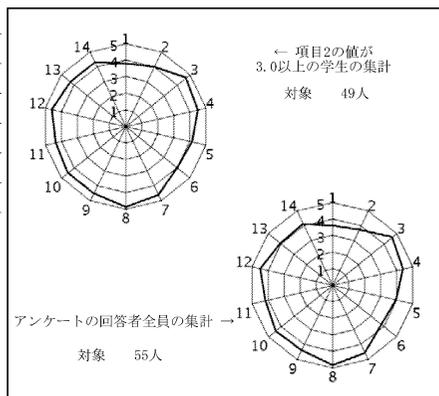


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
ICT技術を用いた博物館・美術館教育のあり方を学び、提案できる力を身につけることを目的としており、各々が課題やコメントからその力を身につけることができたと考えられる。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
授業前の興味は3.41とあまり高いとは言えなかったが、最終的に全体評価が4.14となり概ね授業はうまくいったと考える。  
一方で、コメントの中にあった、e-Learningシステムの使い勝手についてネガティブなコメントもあったが、こうしたコメントを引き出すことが授業の目的でもあった。賛否のコメントが出たこと自体が、ICTを評価する力が身についたとも言える。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
・用語や映像資料の提示について、より適切に行うよう、注意を払い改善を進めていきたい  
・事前事後の課題について、分量が多かったとの指摘があった。学びの上で効果的な分量になるよう調整しながら進めていきたい。  
・アプリで使えることをメリットに考えたe-learningシステムを導入していたが、賛否があった。今後は授業のなかでフィードバックしながら、さらに改善を進めたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生涯学習論  
授業コード 15P08-001  
教員名 河野 明日香  
教員コード 102729  
登録人数 125  
回答数 55  
回答率 44.0%  
休講回数 3 回  
補講回数 3 回

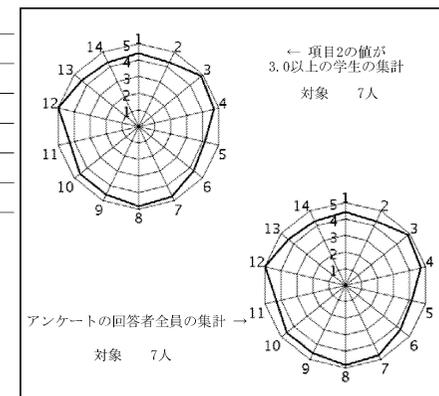


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたのではないかと考えている。今年度の授業に関しては、教科書の指定についてのコメントがいくつか挙げられたが、教科書の内容は毎回授業で配布するパワーポイント資料にまとめており、授業冒頭に今回の授業に対応する章を示している。今後は、指定教科書とプリントや授業における指定教科書の位置づけをよりわかりやすく伝えていきたいと考えている。また、視聴覚資料については、授業内に映像の全てを見ることができればよいが、30分以上の映像となると授業時間の関係で全てを視聴することは難しい。一方で、視聴覚教材の充実や、実際の施設や映像に興味を持てたというコメントもあったので、今後はより視聴覚資料を充実させるとともに、全ての視聴が難しい場合は内容の説明をわかりやすくするなど、工夫したい。授業中の私語については、教室が大きいためわかりづらい点もあるが、できる限り注意していきたい。また、教室の空調や照明についても、履修者全員が快適な環境で授業を受けることができるよう配慮していきたいと考えている。授業のよかった点や評価できる点で挙げられた点は、今後もよりよいものになるよう、工夫していきたいと思う。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代の哲学  
授業コード 22C09-001  
教員名 長滝 祥司  
教員コード 100764  
登録人数 39  
回答数 7  
回答率 17.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①授業の三つの到達目標（1. 心の哲学についての基本的な知識を獲得する、2. 現象学を中心とした身体論について基本的な理解に到達している、3. マインドリードの哲学と心理学について基本的な知識を獲得する、4. 互いに対立する複数の立場を比較体質する論理的なスキルが身についている。）については、概ね達成できた。提出されたレポートを見ると、特に3と4については理解が深まった。
- ②アンケート結果は概ね良好であったが、内容に抽象的・概念的な側面がある分、到達目標に関する理解度、目標に向けた実感について相対的に低く出た。ただ、抽象度の高いテーマについては、視聴覚教材を多用した点は功を奏したようで、自由記述欄にはそれに関して満足度の高さをうかがわせる記述が見受けられた。また、質問、相談の機会については、メールアドレスを公開し、質問を受け付けているので、フルマークの満足度であった。
- ③次学期にむけて、少し宿題を課すか、メールでの質問を最低3回以上するという義務を課して、学習の実感を高めるという方法をとることを検討してみることとする。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義(大陸哲学)  
授業コード 22C67-001  
教員名 星 揚一郎  
教員コード 100986  
登録人数 11  
回答数 3  
回答率 27.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

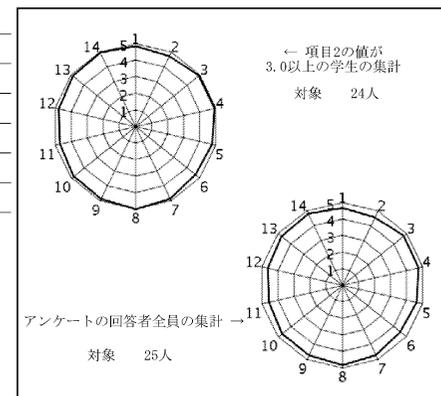
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスの通り、近現代のヨーロッパ大陸哲学の哲学史をふまえたうえで、現象学を中心に現代社会や身近な問題と関連付けて考察しました。ただし、受講者のみなさんは基礎学力は十分にあるものの哲学の基礎知識を持ち合わせていなかったため、内容を相談しながら基本を丁寧に扱い、授業の内外で質問に対応し、さらなる読書や考察を促しました。その結果、意図を汲んで真摯に学んだ方々は極めて深い内容のレポートが提出されました(自ら問いを立てて根拠をもって主張を論述するという課題でした)。つまり、一番初めに説明した授業の意義が理解できたかどうかで、若干差がついてしまったようです。これはアンケートの記述より明白です。以後、さらに、授業内で問題を提起し、理解度を見ながら進めていくように改善してまいります。入試にできる知識のみを重視し、そうした知識を生活や学術に繋げようとする学生の狭隘な視野を広げ、真の教養を志向するように促してまいります。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ実技(個人スポーツ)卓球  
授業コード 14E01-003  
教員名 福田 和夫  
教員コード 043950  
登録人数 35  
回答数 25  
回答率 71.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

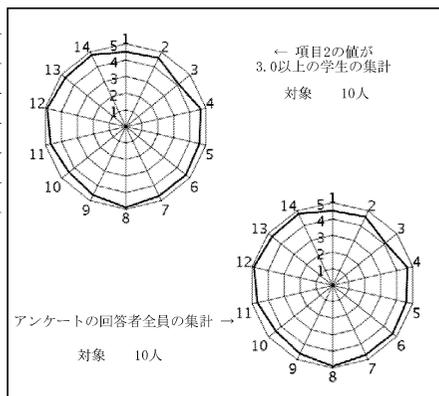


授業評価結果を踏まえた点検・評価

中学・高校などで卓球部に所属していた学生は、全体の約2割のクラスであった。設問別に比較的高い評価を受けたのは、次のような項目であった。「教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。」(4.84)。「授業の開始と終了の時間は守られていましたか。」(4.76)。「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。」(4.76)。全体を通して、重要視しなければならない評価点の低い項目は特に見当たらなかった。開講当初から、経験者の学生に「できるだけ他の学生に技術的なアドバイスをしたい」とお願いしていた。その結果、とても良い雰囲気の中で学生間の交流ができていたと思う。自由記述の「この授業の中で良かった点」について次のような記述があった。「学生同士が仲良くなれるよう先生が促してくれた。」。「先生がしっかり周りを見て、サポートしてくれた。」。「楽しく授業ができたこと。」などであった。そのような観点から、概ね授業目標は達成できたと思われる。卓球は男女間の力の差が余りなく、男女混合で楽しめる種目だと思う。今後、より男女混合で楽しめる授業展開を工夫していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会・地歴科教育法B2  
授業コード 15B04-002  
教員名 成田 健之介  
教員コード 101555  
登録人数 11  
回答数 10  
回答率 90.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

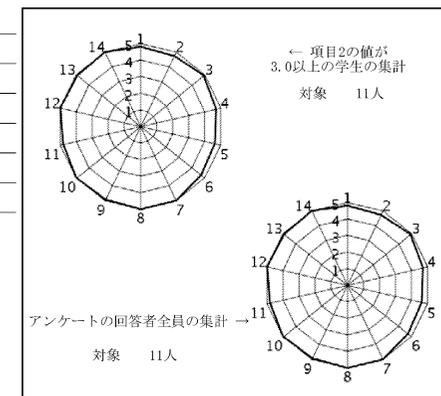
本授業は講義および演習形式、模擬授業で行った。社会科・地歴科における主体的・対話的で深い学びを促すための授業実践力を高め、学校現場での授業実践の理解や学習指導案細案の作成、模擬授業とディスカッション等によって、社会科・地歴科における授業力を高めることを目標にした。

平均値の数値データからは、項目3から項目14の平均が4.65、項目14「全体としての満足度」は4.80であった。項目12「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。」が4.90であり、自由記述でも「模擬授業を行なった際に、先生が適切な助言やアドバイスを下さったので、振り返りやすかったです。」という意見が述べられていることから、20名以下の少人数による授業のメリットが十分に生かされたと感じる。また、項目13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」が4.70であり、新学習指導要領の理解とそれを基にした授業実践への意欲と理解が進んだことが分かる。

課題としては、項目3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか。」が4.10とあるように、模擬授業において、授業終了時刻が遅れがちであったことが挙げられる。学生によって模擬授業の準備時間が様々であり、そこで時間を費やす場合が少なくなかった。ゆとりを持たせるためには、模擬授業の授業回数を増やすか、一人あたりの模擬授業時間を少なくする、または全員に課している模擬授業を代表にする等の改善案が考えられるが、模擬授業を通しての学修は、学生にとって貴重な学びになっており、受講生数に適した計画により、全員がゆとりを持って経験できるようにさらに検討したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国語科教育法B  
授業コード 15B08-001  
教員名 上野 裕章  
教員コード 103859  
登録人数 22  
回答数 11  
回答率 50.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①国語授業の基本について理解し、模擬授業を実施することにより、授業の在り方についてさらに理解を深めることを目標にした。履修した学生はとても真面目で意欲的であった。22名の学生の模擬授業には、それぞれ工夫がなされており、「自分らしさ」が発揮され、期待以上のものであった。そのため、学生同士がお互いに学びあうことが多くあった。授業後の相互評価も学生にとって大きな自信につながったと考える。

②「項目1から14の平均」が4.87であった。開講日が土曜日の3・4時間目であるにもかかわらず、「項目14 全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」の評価が5.00であったのは嬉しかったが、工夫・改善すべき点は多くある。15回の授業で22名の学生が模擬授業を実施するために、「一人15分～20分」に授業時間を設定せざるを得なかった。通常50分の授業を行っているため、この短い時間は、学生にとって教える箇所と内容を設定しにくかったと思う。また、「自由記述」に「模擬授業に対する先生からのフィードバックがもっとあると嬉しいです」という回答があった。学生が模擬授業で扱った一つ一つの教材の補足説明を行ったが、時間が足りなく急ぎ足になってしまった。

③真面目で意欲のある南山大学の学生が「受講して良かった」と思える授業を目指して、工夫・改善していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	書道2
授業コード	15E01-002
教員名	舟橋 武治
教員コード	101139
登録人数	5
回答数	1
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標の達成度は、サンプル数が少ないため客観性に欠けるが、学生の授業の取り組みの様子から概ね達成されたと思われる。今回も次の点に重点を置いて指導を進めてきた。

- (1) 毎回の授業の学習目標を明確にし、段階的に知識・技能の向上が自覚できること。
- (2) 字形の特徴や整え方を把握させ、実技に生かすことができる指導をすること。
- (3) 練習の成果が表れる作品づくりを指導のまとめとして組み入れること。

この授業は教職を目指す学生も多いため、文書や板書などに必要な楷書の書法について要点をまとめて指導をしている。生徒を教えるにあって必要な漢字の許容体の知識や転折などの毛筆の技法なども学生の要望により指導している。

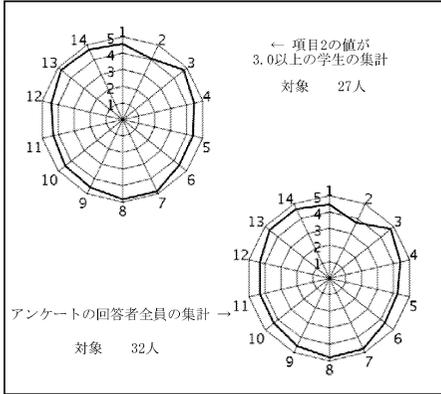
学生の書字を授業前と後で比較すると、多くの文字で改善がなされ読みやすい字が書かれており、授業の成果は確かめられた。行書の作業帳「古典から学ぶ書の美」をさらに充実させ、行書のくずしのきまりをより効率よく身につけることができるようにしたい。

今回作品づくりはできなかったが、学習の目標を明確にすると共に、学習の成果を作品づくりという作業のなかで確かめられるので時間があれば続けていきたい。

今後も資料や参考作品の数を増やすなどして、授業に興味をもって取り組むことができるように、指導内容と方法の改善を図りたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	乳幼児心理学
授業コード	23C43-001
教員名	大嶽 さと子
教員コード	102880
登録人数	112
回答数	32
回答率	28.6%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

学内全体の平均値と比較して、項目3~14はほぼ全ての項目で高い評価を得られ、大変光栄に思う。受講者は110名強と多めであり、学生が集中して授業に取り組むのはやや困難な環境であったように思う。また他学部所属で心理学をほとんど学んだことのない学生も全体の約2割を占めていた。そのため質・量ともに初学者向けとなるよう努めたが、そういったことで心理学科の学生は何となく物足りなさを感じたのかもしれない。講義も資料配布も意図的にゆったりとしたペースとしたが、その理由について学生に共通認識がもてるような言葉がけが必要であったのかもしれない。しかしながらゆったりペースであるが故に理解が深まり(項目13)、授業全体の満足度が高まった(項目14)のではないと思われる。到達目標もおおむね達成できたと考える。

また今期はインターンシップや体調不良で欠席する学生が多かった。欠席学生へのフォローとして、前回の資料の配布だけでなく授業の骨組みとして使用している書籍などを紹介したが、学生はより直接的で手厚いフォローを求めているように感じられた。高等教育機関である以上、教員に全て教えてもらうのではなく、自ら調べ、考え、深めていく姿勢がほしいと感じた。そういった姿勢や意欲を引き出すために、資料配布や書籍の紹介のみならず、もっと深めたいと思えるような内容となるよう今後も日々研鑽していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[B  
111  
授業コード 11A04-018  
教員名 MEJCHAR Benny  
教員コード 100666  
登録人数 24  
回答数 3  
回答率 12.5%  
休講回数 1回  
補講回数 1回

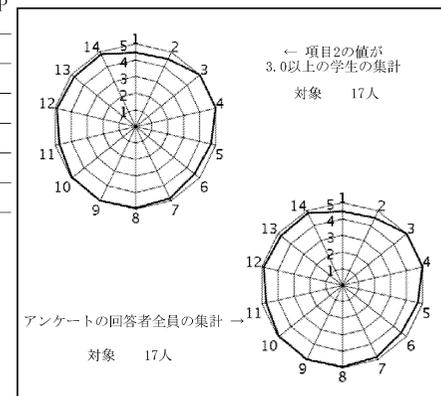
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

Apparently there were only four responses to this assessment. I had forgotten to set aside time for the assessment this time. I will make sure to not miss it in the future. As this is the fourth straight assessment of this particular class, four times in this academic year, it is challenging to make an assessment. It would not be a surprise that students to may be at least surprised that the same class would be assessed every semester through the year. However I think the class was a success given the clearly observable improvement in many students communication ability. In addition I think that many concepts for on going self-study were learned. Some students made steady progress from day one to the finish. Some dropped off toward the end of the year. The class is demanding from the perspective of using and immersive "English only" style. One possible improvement could be in the area of discipline. This will be considered. As always I will continue to look for relevant material from "real life" and media as to make the class more than just focus on "English communication skills", but also link to future employment, living skills, and information useful understanding our present world.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[P  
12  
授業コード 11A04-021  
教員名 岩城 奈巳  
教員コード 049601  
登録人数 17  
回答数 17  
回答率 100.0%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

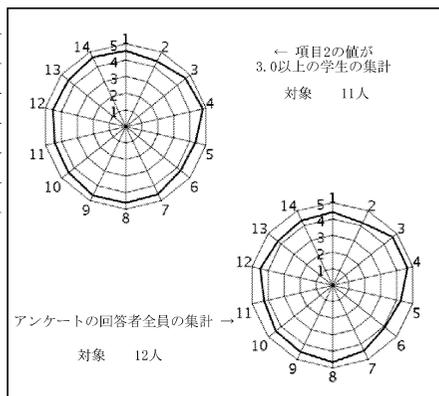


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本クラスは17名と少人数だったこともあり、しっかり全員が参加していることを毎回確認しながら講義を進めることができたと感じる。アンケートでも各項目、すべて平均以上の点数があり、総合の平均も4.85あったため、学生も概ね満足した授業内容であったと思う。毎回講義開始直後は前回の復習をし、その日の授業内での目標、そして授業後に目標の達成度の確認をおこないながら指導した結果が、アンケートでの学生の満足度として現れたと感じる。自由記述欄のコメントは以下である(原文ママ)。発音の授業を今まで受けてこなかったのも、良い経験になりました；テキストを最後まで使えた；知らなかった表現や発音、文の意味などをたくさん知ることが出来て楽しかったです；TOEICの対策をやってくれたこと、また、ネイティブだとかいう風を使うなど実用的な話があったこと；ペアワークで理解が深まった。授業中は、複数名から構成されるディスカッション及びペアワークを毎回取り入れ、必ず全員が発言しなければいけない参加型講義にしたことがコメントに繋がったと感じる。また、検定試験対策として多くの学生の就職活動の際必要になるであろうTOEICは、数回に渡って試験問題を解く練習もおこない、教科書とのバランスをうまくとることもできた。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[P]  
13  
授業コード 11A04-022  
教員名 HERSCHLER, Brian  
教員コード 100552  
登録人数 20  
回答数 12  
回答率 60.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Students were happy with the class. In all questions put, they registered great satisfaction. They showed improvement overall in speaking and listening, and their ability to hold short conversations more or less improved. Also, affectively, their confidence improved. In addition, their willingness to present to the class on a topic showed improvement. There were no real problems to report on. I plan to continue to do my best by my students at Nanzan University.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[P]  
14  
授業コード 11A04-023  
教員名 VEGEL, Anton  
教員コード 103503  
登録人数 20  
回答数 2  
回答率 10.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

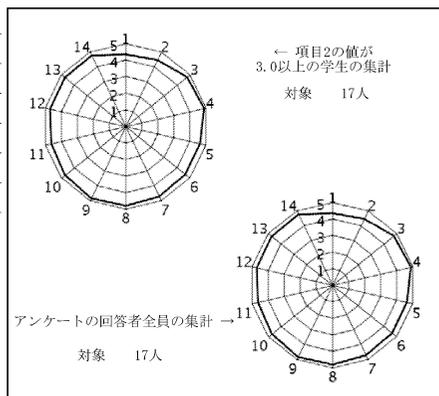
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. At the start of this course and especially in quarter four, I had made more student feedback and participation oriented materials for students to metalinguistically reflect on their own performance, others' performance, and engage with other students' linguistic content. I wanted to see overall more progress towards reflection and engagement.
2. Based on the data and despite the few responses, it seems somewhat clear that 1. the changes have done no harm, and 2. that the changes have been overall positive and beneficial. However, the responses to question six (the lowest of all responses), regarding perception of progress, may suggest further reflection and washback is needed.
3. Looking forward, I have a few ideas to responds to these results. One idea is giving a capstone project every quarter. This capstone project would require students to engage with one native speaker, record a conversation, and make metalinguistic notes about the conversation. I think this will clearly help learners reflect on how they communicate and how they apply communicative strategies learned and practiced in class. By doing this, I strongly believe they will have a more accurate sense of their progress, and by quarter four they should feel more confident in their abilities than in quarter one.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVオーラルコミュニケーション[P111]  
授業コード 11A04-030  
教員名 QUINN Kelly  
教員コード 049379  
登録人数 18  
回答数 17  
回答率 94.4%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

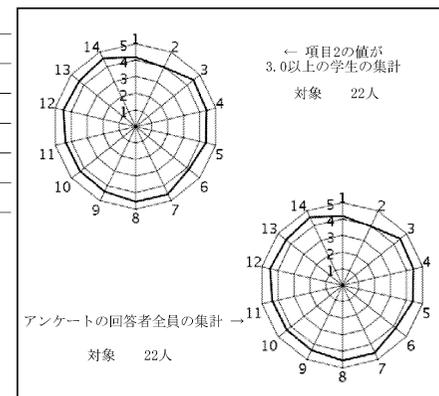


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The objectives of the course were largely achieved. A majority of the students demonstrated the ability to engage in a simulacra of spontaneous English conversation and prepared poster presentation. They answered the audience questions with extended answers and supported their opinions with data, examples or a logical argument. Areas that continue to need work are the speed of their responses. Conversations tend to be painfully slow and their grammar and syntax outside the immediate points targeted in the lessons could still be improved. The most common point praised by the students was英語の勉強に対しての考えが変わりました。This is pleasing because I do make an effort to be aware of the material being covered in the day's lesson and pride myself on being able to answer questions regarding the day's assignments. The most common point of criticism was 英語の教室が寒い。暖房付いているのか、、、。This is a legitimate complaint. The class is a communication class and communication takes place between people.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[B]8  
授業コード 11A08-015  
教員名 ADRIANOWICZ, Zbigniew  
教員コード 103868  
登録人数 24  
回答数 22  
回答率 91.7%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

My first goal for the class was to assess the English level of the class as a whole, and then of the individual students. Then, the aim was to allow the students to actually use their skills gained in high schools, and then to build up on those skills.

The class includes both Reading and Writing. The assignments in the writing section were more specific and verifiable: "by a certain date, turn in a paper on a certain topic, fulfilling certain conditions". Many students took their work seriously, and actually spent a substantial amount of time on their assignments. As for the reading part, there were bigger differences between the students.

Overall, I am satisfied with their results and with my own experience with teaching this class. I was able to have good rapport with most students.

As for the next year, I have realized I will need to make certain changes in the way I teach the reading part of the course. Specifically, I will require more preview reading of the texts in the textbook. However, I will still need to determine the specific amount of reading after I meet the new students, since many of them spend much time on writing assignments.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[P]5  
授業コード 11A08-024  
教員名 BONDOC, Jeffrey  
教員コード 103469  
登録人数 19  
回答数 4  
回答率 21.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

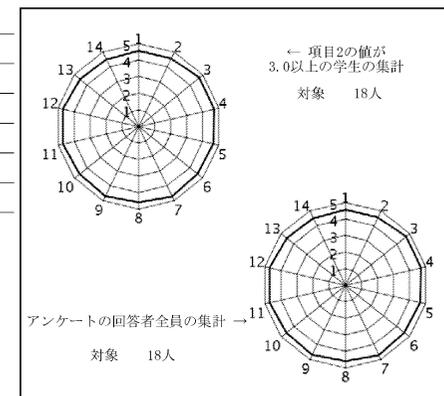
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The classes went well and most of the goals were achieved. The students did very well with the reading component and tried very hard with all the activities assigned to them. The students did well with vocabulary and reading exams and quizzes. Students were able to complete all the work in a timely manner with little prompting as the students were used to the class flow. I am happy with this as the students knew what was expected from them. One thing I would change is to put more emphasis on the reading techniques outlines in the Reading Explorer textbook.

In relation to writing. The students found the topics more challenging than before. They were able to write at length with high coherence but still struggled with grammar. They practiced critical thinking in their writing. However, heavily relied on the example given in their notes. The students were able to cite websites for their research, but needed reminding to include the cite in their work. I think to improve this, more challenging writing techniques need to be introduced earlier in the year.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[P]7  
授業コード 11A08-026  
教員名 JONES William M.  
教員コード 100263  
登録人数 20  
回答数 18  
回答率 90.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

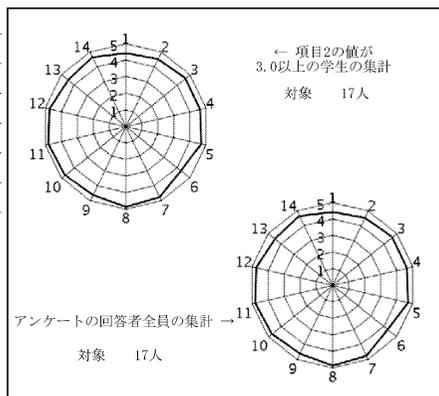


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Instructor was once again blessed to have a mixed group of the same major which consisted of significant variations in abilities and aptitudes, and also motivational levels and attitudes. Unfortunately, two students did not participate in the evaluation, i.e., only 18 of 20 or 90% participation, and not the desired 20 of 20, so the exact numerical data remains slightly unknown. The students writing progress has been spectacular compared to Q3. Much more importantly than the students' academic improvement, is their character and personality development in line with the Nanzan motto of human dignity. Instructor is already working diligently to improve the course for next year. In particular, the instructor sees little room for progress in writing development, so will now focus on students' reading ability and in fact, has chosen a new textbook dedicated only to reading.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[P]11  
授業コード 11A08-030  
教員名 鈴木 愛  
教員コード 103596  
登録人数 18  
回答数 17  
回答率 94.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

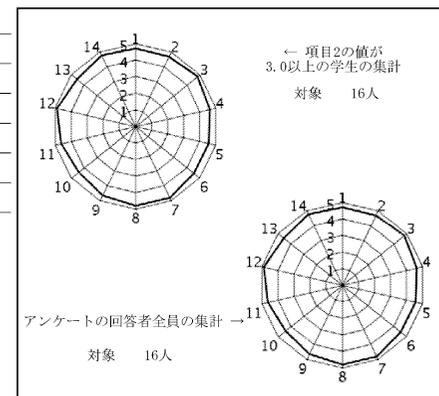
Regarding the achievement of goals set at the beginning of the quarter, I believe students have achieved most of the goals set. For writing, students were able to write another multi-paragraph essay successfully to the extent which they had to include an effective thesis and topic sentences. As for the reading, they need to work more on improving the reading speed and accuracy.

Reflecting on the course evaluation of the students, I can evaluate the course to high scores. It seems the students have learned quite a lot from the class especially on the writing. They evaluated that they were able to ask questions to me easily.

As for the improvements for the next academic year, I have a couple of things I would change. First, I would like to change how I proceed in reading. I would like to focus more on “reading the main idea” so that students can reflect more of the main idea in their own writing. As for writing, I would like to work more on topics that students have more interest.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVリテラシー[G]5  
授業コード 11A08-036  
教員名 水野 真紀  
教員コード 101981  
登録人数 20  
回答数 16  
回答率 80.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

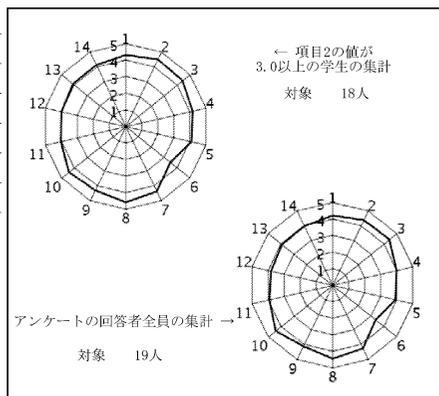


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① アカデミックな話題のエッセイを読み、書けるようになるという目標は何とか達成できた。パーソナルなスタイルからアカデミックなスタイルへの移行をQ3から意識づけていたため、年度末の論述文の課題は、テーマ、構成、語彙、量ともに満足できる内容ものを書くことができた。1年かけてようやく英文エッセイのスタイルが身についたように思う。
- ② 数値データからも、学生が授業の目標を理解し、積極的に取り組んだことがうかがえる。目標到達に向けて力がつきたかとの問いについては前期よりも上がった。自由記述でも、個別対応、わかりやすい解説など楽しく授業を受けられたという記述が多い。反面、教員の姿勢や配慮などのスコアがわずかであるが下がっている。Q4ともなると、学生同士が慣れ親しみ、授業へのモチベーションも下がるため、集中させて運営するのに実際苦労した。留学が決まり、真剣に取り組む学生とすっきりやる気をなくしている学生が二極化してしまうことに起因する。理解の遅い学生への声掛けや補習を行う必要がある。
- ③ リーディングとライティングの授業をバランスよく計画、実施することは大変困難であるが、次年度も長短期的目標を立てて効率的に進めていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[F  
A, FF, FS, FG]8  
授業コード 11A12-023  
教員名 DRYDEN, Laurence  
教員コード 101482  
登録人数 25  
回答数 19  
回答率 76.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was the instructor's second iteration of the fourth quarter of a course in English speaking and reading for students majoring in Spanish and Latin American Studies, French Studies, German Studies, and Asian Studies.

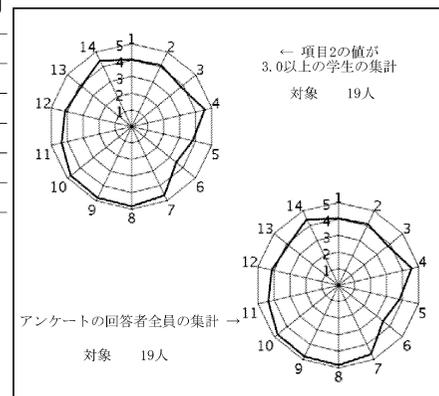
Students' responses to the anketo for quarter 4 were respectably positive, with seven categories rated above 4.0, and the other seven categories rated at or near 4.00. This is generally an improvement over the anketo results for this course with the same group of students in quarters 1, 2, and 3.

In the categories that were rated above 4.0, the students seemed satisfied (or at least noticed) that class meetings started and ended on time, that the teacher was serious and sincere about the course, and that his voice was sufficiently easy to hear. They also observed that the teacher dealt properly with students who didn't stay in the target language or who used their cellphones inappropriately.

Most importantly, the students said that the teacher understood them and used the textbooks and supplemental materials effectively to support their learning. All of this feedback will help the instructor continue to improve the course in the coming year.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[J  
11  
授業コード 11A12-037  
教員名 LENIHAN John  
教員コード 045070  
登録人数 20  
回答数 19  
回答率 95.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this class were very much the same every quarter, that is to say, to do extensive reading, improve reading strategies, basic vocabulary, everyday idioms and similes and to improve basic oral communication skills. I believe the students would agree that the objectives were met, according to their motivation and participation levels.

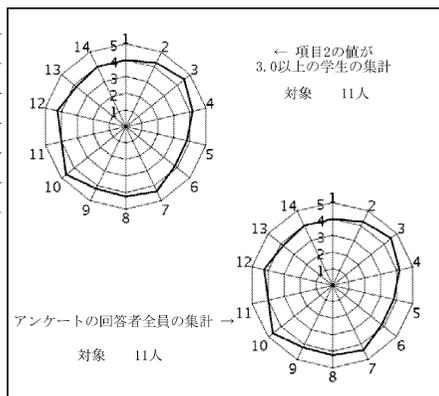
The extensive reading exercises were supplemented with many original materials and short plays for listening comprehension and group listening practice. Generally the results of the evaluation were positive and encouraging. The student level was fairly mixed so there was a gulf between the ability of the highest and the lowest students.

The same can be said for the motivation levels of the class as a whole. The students who participated the most and appreciated the variety of activities showed the most progress over the semester. I thoroughly enjoyed teaching this class and seeing their improvement.

I believe that to improve reading skills we should do more work with affixes from Latin and Greek and also word roots from Latin and Greek. Though it was difficult for them during the first quarter to understand word formation tendencies in English, by the fourth quarter they understood the value of such study. Also, more study of basic idioms and the interesting histories behind many idioms would be a good idea, I believe.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[J]  
110  
授業コード 11A12-038  
教員名 島 禎子  
教員コード 045559  
登録人数 22  
回答数 11  
回答率 50.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

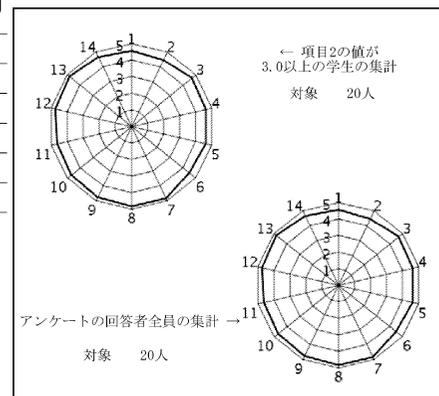
Speakingはいくつかのconversation strategiesを基本に、topicごとに2-4人で会話することを中心に、readingはintensive/extensiveの両面からreading skillsとvocabulary buildingの向上を図った。概ね達成できたが、今後の課題をいくつか挙げていく。Speakingは事前に内容を書かせることにより、ある程度円滑にできたが、学生によってはeye contactどころかメモを読んでいるだけの者もいた。またreadingは、テキストがこのクラスには若干難しかったためか、Q1-2では問題なかったが、Q3-4になって難航することが多くなった。今年度の経験を踏まえ、基本路線はそのままに、来年度から難易度を下げたテキストを使用する予定である。

以下、アンケートのコメントだけでなく、一年の振り返りとして学生が寄せてくれた感想をシェアして終わりたい。

「英語の知識が増えた」「コミュニケーション力が上達したように思う」「だんだん大体的内容を決めておけば、自然に話すことができるようになった」「読む、書くだけでなく、会話テストという実践的なものがあって良かった」

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[J]  
111  
授業コード 11A12-039  
教員名 大竹 万里  
教員コード 047084  
登録人数 22  
回答数 20  
回答率 90.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



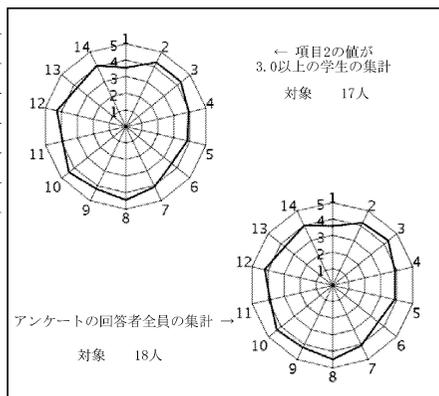
授業評価結果を踏まえた点検・評価

火曜日の授業では、イントネーションの練習、会話、インタビュー、モノローグを聴いて、リスニング力及びスピーキング力を高めることを目標とし、ペア、またはグループで発話練習をし、ムービー・レビュー・プレゼンテーションの準備と発表も目標とした。また、金曜日の授業では、語彙力と読解力を高めることを目標に設定し、テキストに沿って、内容理解とそれに必要なストラテジーの説明とその応用に充てた。第4クォーターを通して学習を記録する小冊子(Class Book)を配布し、図書館のグレーディッドリーダーを利用した多読を目的とする自主学習の記録、グループでディスカッション内容を記録することを課題とした。

授業評価の設問3から14の平均数値データが4.71、学生の授業に対する全体的な満足度については4.65であった。平均値が最も高かったのは、設問13の4.80で、多くの学生が新しい知識や能力を習得できたと回答している。設問15の授業を評価する点として「生徒に寄り添った指導」や「皆が分かりにくそうな単語などを詳しく説明してくれた」ことを挙げている。「明るく元気な先生による充実した授業」を評価する声もあった。来年度も学生の自律学習を目指すことは勿論、今年度使用した題材、課題、練習問題などを再検討した上で、学生の積極的な授業参加を促すことのできるインターアクティブな授業を心がけていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[J]  
112  
授業コード 11A12-040  
教員名 内川 元  
教員コード 101922  
登録人数 20  
回答数 18  
回答率 90.0%  
休講回数 3 回  
補講回数 3 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

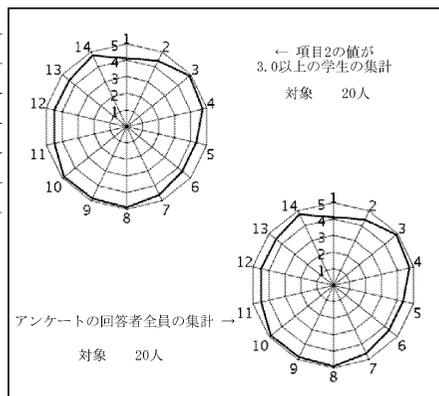
この授業はコミュニケーションをする上で欠かせない、聞く力と読む力をつけさせることに重点を置き、さらに日本人学習者の多くが持つ「英語を話すことへの壁」を壊すことを重要目標にして進めています。

今回評価を実施したクラスは前学期に評価を実施したクラスと同レベル・同内容ですが、クラスの雰囲気や生徒の授業に対する興味のレベルには前々から違いを感じており、評価の集計にもそれが明確に現れたという印象です。各テストやレポートの出来は悪くなく、平均の成績もよかったですので、内容が少し簡単過ぎたのかも知れません。1人だけですが、自由記述欄にその旨を述べた生徒がいました。もう1つのクラスと内容に差をつけることを検討したこともありましたが、その場合成績評価上の公平性を保つのが困難になることが懸念され、踏みとどまりました。

各生徒の成績、今回の評価の結果、その他の観点からも大多数の生徒にとっては適切な難易度であると感じていますので、難易度を上げることでついて来なくなる生徒が現れるのは避けたいですが、来年度は難易度を大きく変えることなく、レベルの高い生徒の満足感も引き出す工夫をしたいと思います。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[J]  
14  
授業コード 11A12-043  
教員名 伊藤 実里  
教員コード 045542  
登録人数 22  
回答数 20  
回答率 90.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

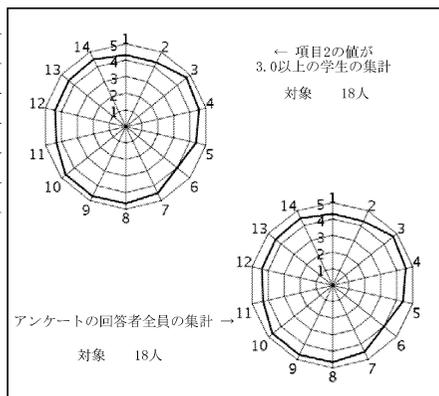


授業評価結果を踏まえた点検・評価

通年科目のQ4なので、この授業評価の他に授業の最後に自由記述で4月からを振り返って述べてもらった感想を含めてコメントしたい。会話面でのコミュニケーション力の目標である、現実の日常会話で典型的に使われ、誰とのどんな会話にも応用することのできる基本的な英語表現の習得については、それが必要であり習得すれば便利に使えるということを実体験として理解できた人が多かった。ワールド・プラザを課題として活用できたことは、英会話の実践練習だけでなく、2年生から授業がなくなっても大学が提供する英会話の練習をする場があることを知ってもらえる機会にもなり、よかったと思う。また、英語を読むことの他にリーディングでの目標には、日常的な社会の話題について基本的な知識および関心を持つことがあったが、一年を振り返った感想はこれについて非常に肯定的なものが多かった。価値観の変化や技術の進歩などにより社会の問題や関心事は変化するので、賛否両論のような複数の意見を、レベルに合った英語で読むことのできる教科書を今後も探していきたい。ただ、そのような観点から選定した現在の教科書はあまり語彙テスト向きではない。テストがないと単語は覚えすぎっていくという指摘もあったので何らかの方法を工夫したい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[J]  
15  
授業コード 11A12-044  
教員名 LANGER Daniel  
教員コード 101438  
登録人数 22  
回答数 18  
回答率 81.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

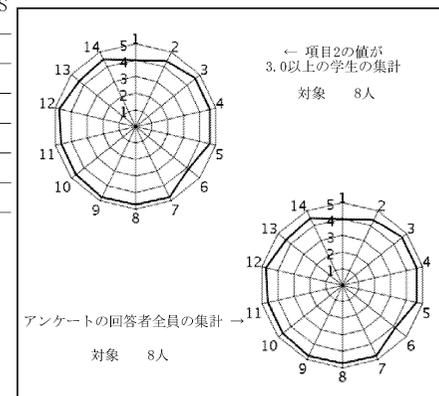
The goal of the course was to improve all four language skills. By defining success as a grasp of the material used and participation in class activities, I would say the students were, for the most part, successful. Students consistently scored highly on the tests given, and performed adequately in presentations and reports.

I am glad that the evaluations seemed to indicate students were happy with the way the class was conducted. I found the students to be easy to work with, and I am grateful for their responsiveness.

For next year, I will again try to think of ways to encourage out-of-class reading and lesson preparation.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[S]  
15  
授業コード 11A12-053  
教員名 SIMMONDS Brent  
教員コード 103050  
登録人数 23  
回答数 8  
回答率 34.8%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

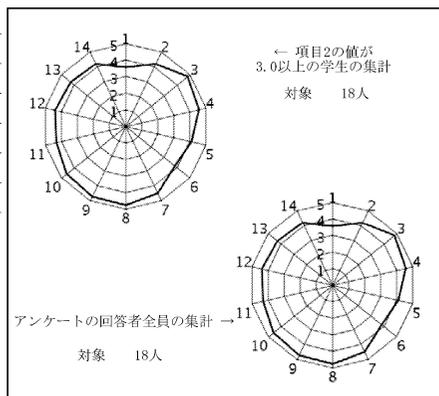


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall, I was generally pleased with the student evaluation but need to strive to improve in certain areas. The students said that they would like more speaking practice and enjoyed short writing exercises. In the future I will give students greater autonomy to choose their own subjects for discussion. The students enjoyed doing presentations but found making power points difficult, we can give some examples to help. The balance between the four skills was about right but I will add extra speaking to the syllabus in future classes. I will endeavour to learn more about the students and try to alleviate any problems they may have during the next semester.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[S  
110  
授業コード 11A12-058  
教員名 平出 優子  
教員コード 102521  
登録人数 22  
回答数 18  
回答率 81.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



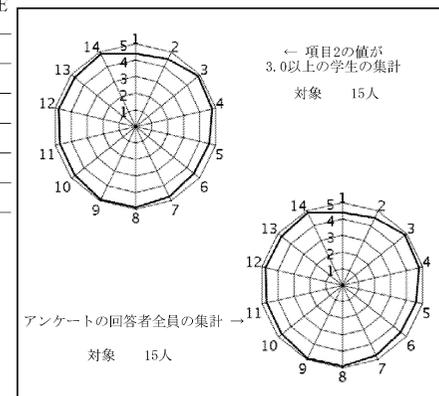
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q4におけるSpeakingでは、Story tellingを行った。具体的には4種類の6コマの絵漫画を見ながら、英語で話を表現するというものである。Story tellingでは、基本的に動詞は過去形を用いることを学生に意識させ、時には直接話法・間接話法や過去完了の表現を織り交ぜつつ話を表現できるよう何度も練習させた。目標は、学習した4つの話の中から2つをミックスさせたmix storyを作って英語で表現できるようになることと設定した。Speaking testでは、mix storyがうまく出来た学生と全くうまく出来なかった学生に分かれた。Speaking testの結果を振り返って、全体的なspeaking levelの向上にはspeakingの練習量が不足していると感じた。来年度は、これまで授業の一部であったwritingの時間を削ってでもさらにspeakingの練習時間を増やすカリキュラムに変更して取り組むつもりである。

Q4のReadingの目標は、Reading strategiesを使えるようになることと語彙力を伸ばすことであった。また、多読活動において毎週4000語を読むことも目標とした。Reading strategiesの習得においては、試験の結果から学生は目標に到達したと思われるが、語彙の習得に関しては、学習不足であると感じたので、vocabulary quizを取り入れるなど検討したい。多読においては毎週4000語をほぼ全員の学生が目標の語数を読んでいた。学生が英語の本を積極的に読んでいけるようさらに工夫をしていくつもりである。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IVコミュニケーションスキルズ[E  
113  
授業コード 11A12-063  
教員名 SWEETLOVE, Douglas  
教員コード 102522  
登録人数 19  
回答数 15  
回答率 78.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

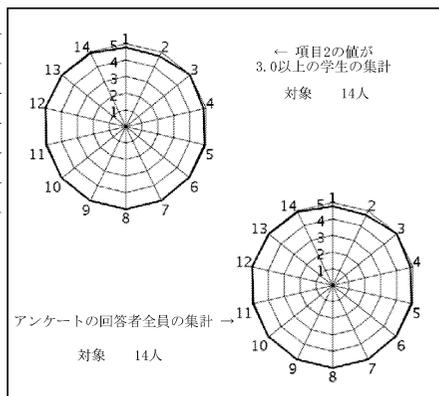
The goals of the course were largely achieved. I was able to teach both the reading and the conversation ends of the course, so I was able to be flexible about time management and scheduling. Students responded well to the texts and the class system.

At first glance, the results are great. However, we have to take into account a couple of factors. First of all, I believe that students are given the same survey for every course. If so, this makes it difficult to get any valid information from the results. Students who see the same survey 8 or 10 times in 8 or 10 classes will not spend much time or effort to fill it out. They are probably sick of answering surveys and won't consider their answers very carefully.

I would suggest that each department give their own survey, based on criteria that are important to that department. At best, the current survey can only measure the feelings of the students, not the ability of the teacher or the appropriateness of the curriculum.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ[F  
A, FF, FS, FG]4  
授業コード 11A14-004  
教員名 CAPITIN-PRINCIPE, Abigail  
教員コード 102955  
登録人数 24  
回答数 14  
回答率 58.3%  
休講回数 1回  
補講回数 1回

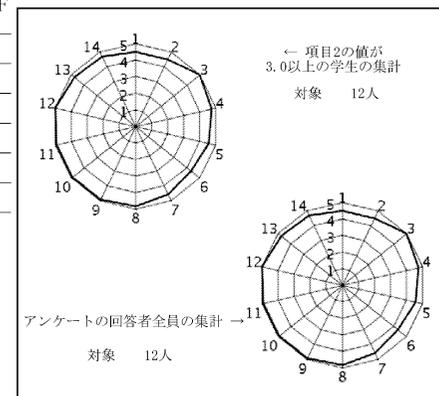


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals, explained and discussed at the beginning of the quarter were, to the best of the students' abilities, admirably met. Students were able to participate in the discussions, they also met the presentation requirements, and were able to do the assigned listening and writing activities. In-class activities included listening (TED Talks) and discussion. Student-centered activities included presentation using their smartphone/tablet or laptop. The activities not only taught the students English, it also taught them how to use technology in the classroom, which was a sub-goal set at the beginning of the quarter. Students, at the end of the course, were able to use English in an effective manner, in the classroom.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ[F  
A, FF, FS, FG]6  
授業コード 11A14-006  
教員名 SCRUGGS, Edward  
教員コード 101864  
登録人数 21  
回答数 12  
回答率 57.1%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

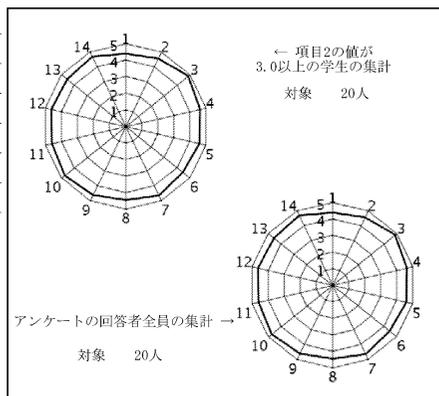


授業評価結果を踏まえた点検・評価

First of all I want to thank all my students for their very positive and helpful comments. I am happy to see that students seemed basically pleased with our class. Most of our original goals set out in the beginning of the term were met. The area that needs a bit more of my attention seems to be related to the statement of learning goals and how they will be implemented in the class. I will be most happy to focus more on these next term. I believe that there are two approaches to this. The first will be to spend more of the initial class in student discussion of the provided syllabus to insure a better understanding. Secondly, a follow-up session around the mid-term could also help clarify any points that might be needful of explanation. I shall certainly be pleased to do these. The only point of any discussion at all seemed to be related to stimulating outside interest in the class material. I plan to create a list of related on-line sources, which might be used by any students wishing for extension type activities. This will also be a pleasure to do. Again, thank you all for being such an attentive class.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ[F  
A, FF, FS, FG]7  
授業コード 11A14-028  
教員名 NICKSICK, Thomas  
教員コード 102113  
登録人数 24  
回答数 20  
回答率 83.3%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

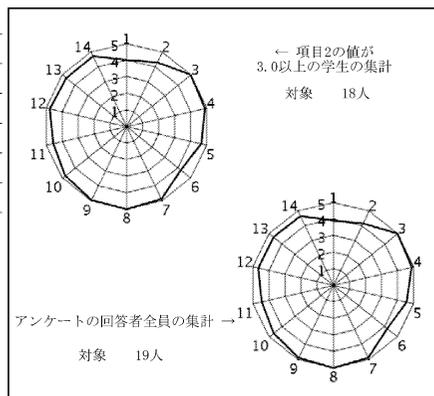


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Course goals included learning conversation strategies, improving vocabulary, being more confident when giving opinions, improving reading strategies, identifying main ideas and supporting details of texts, and guessing the meanings of words from context. The instructor was relatively successful in some areas. When asked if the instructor displayed sincerity and determination in his approach to teaching the course, the students' rating was 4.65. Regarding enough opportunities for questions, consultation with the instructor, or guidance, the students' rating was 4.65. Also, the students' rating for overall satisfaction with the course was 4.70. However, the instructor must improve other aspects of the class. When asked if students were making solid progress toward achieving the course's attainment target, the students' rating was 4.45. When asked if students were encouraged to proactively participate in class and become involved in the learning process, the students' rating was 4.60. Also, when asked if the students acquired new knowledge and deepened their understanding through the course, the students' rating was 4.55.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ[F  
A, FF, FS, FG]9  
授業コード 11A14-030  
教員名 山田 秀子  
教員コード 103595  
登録人数 21  
回答数 19  
回答率 90.5%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

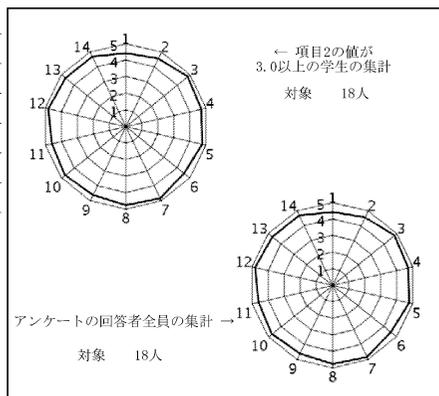


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は概ね達成できたと思う。予定していた学習内容・範囲の9割程度を終えた。  
アンケートのほとんどの項目で平均値が比較的高かったが、予習や復習を含めて主体的に受講できたかどうかを問う項目2の平均値が最も低かった。授業では、個別でリスニングまたはリーディングの問題に取り組み、その後でペアやグループ単位で内容確認、意見交換、および関連トピックでディベートを行い、最後に小テストを行った。積極的に発言する学生が多く見受けられたことや、小テストの平均正答率が78%以上と高かったことから、学生が主体的に取り組み、内容を理解しようと努めたと言える。授業時間外の学習としては、毎回の授業の予習・復習は特に課さなかったが、プレゼンテーション（2回）と会話テスト（1回）の事前準備と事後の振り返り、および多読を課題とした。多読は前学期よりも目標語数を増やしたが、85%の学生が目標を達成した。  
自分に力がついてきていると思うかを問う項目6の平均値も他と比べて少し低かった。特に、人前での発表が苦手な学生が多く、それが反映された結果であるとする。自由記述に、プレゼンやディベートの練習がとてためになった、という回答があった。自分の発表の動画を見て振り返ったり、他者のプレゼンを評価したりすることである程度の改善は見られたが、今後は発表に対する苦手意識を減らす方法をさらに検討していく必要がある。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ[F  
A, FF, FS, FG]10  
授業コード 11A14-031  
教員名 平野 みな  
教員コード 152414  
登録人数 24  
回答数 18  
回答率 75.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

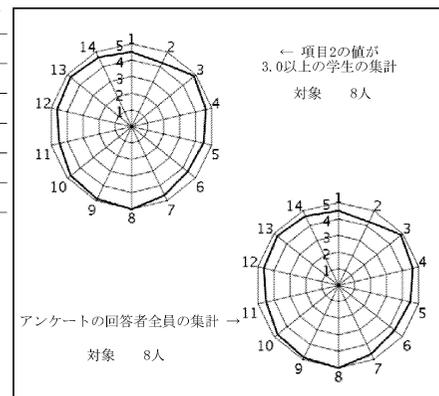


授業評価結果を踏まえた点検・評価

第4クォーターでは、ジェスチャー、習慣、価値観、敬語等のより深いトピックを扱い、それぞれのトピックについて具体的に日本文化と他文化について知り、それについてペア又はグループで英語でディスカッション、ロールプレイができるような力をつけることを目標とした。母語でもあまり話すことのない内容であるため、最初は「難しい」との声がでていたが、外国語学部ということもあり、自分が関心を持っている文化の習慣やそこで経験したカルチャーショック体験について話す機会を増やしたところ、先クォーターよりも、より活発に興味を持って会話をする姿勢が見られた。最終的には、ペアで6分間、文化についての体験や考えをディスカッションできる力を全員が身に付けることができた。また、Readingでは多読活動に加え、自分が読んだ本についてのプレゼンテーションにも挑戦した。結果として、数値データが全体として高い数字になっており、自由記述でも、「90分が長く感じず、楽しかった」との声があったことは良かった。より高いストラテジーを求められるだけでなく、難しいトピックだったにも関わらず、高いモチベーションを持って、様々な文化の違いについて知り、意見を交換することができた学生の姿勢から教えられることが多かった。来期は残念ながら担当しないが、今後ももっと興味深い講義ができるよう努力していきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ<  
E>11  
授業コード 11A14-042  
教員名 LANDSBERRY, Lauren  
教員コード 103626  
登録人数 11  
回答数 8  
回答率 72.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This year I was in a smaller classroom and I felt the close proximity to the students kept them quieter and more focused on their study. Even though presentations were often difficult in the smaller room I was glad to be there compared to a bigger classroom with more distance between me and the students. In previous times I have felt that this made some of the more lax students feel as though they could be rowdy in class. Some students returned to my class from previous quarters in quarter four while some students were new.

I felt that all of the goals that were set were achieved in the class.

I also used some online activities with their smartphones to keep their motivation up. It was great to have wi-fi available in the classroom this year. It is an enormous benefit as the students don't have to worry about their data and are all able to participate in online activities. I look forward to teaching at Nanzan again in 2019!

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIIIコミュニケーションスキルズ [S]3  
授業コード 11A16-003  
教員名 GAFFNEY, Sean D  
教員コード 101224  
登録人数 27  
回答数 4  
回答率 14.8%  
休講回数 2回  
補講回数 0回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

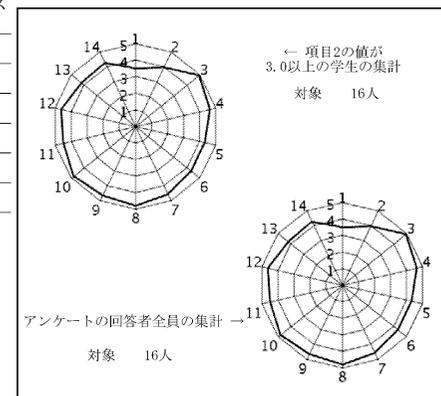
I have taught this class for 4 quarters and this is now the 3rd survey I have carried out with them. As previously stated this was a pleasant and enjoyable class to teach. That remains the case.

Although this group was a lower level class the students were also amiable, motivated and eager to learn. I felt that most of the goals I set for this class were achieved, in both the reading and speaking components. My sense is that the class was satisfied with the materials we used and that my goals of using stimulating and interesting materials to read and talk about in order to improve reading and speaking skills were largely achieved. Overall I was pleased with the way the class responded to the activities. Students were attentive and stayed on task. I used my own materials, which seemed to match well with the students' level.

Most of the students seemed to be motivated and interested in the materials presented. However during pair work and group work the students would sometimes lapse into Japanese, which seemed to occasionally frustrate some of the higher-level students. Throughout the year the students who made the most progress were some of the lowest level students in the class. I was very pleased with these particular students' progress and seemingly newfound interest in studying English. They appeared to be pleasantly surprised by their progress. The feedback I received from them was consistently positive. They said the class was fun and enjoyable.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIIIコミュニケーションスキルズ [S]8  
授業コード 11A16-010  
教員名 ウエストビィ 三奈  
教員コード 102952  
登録人数 25  
回答数 16  
回答率 64.0%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、学生の文法の基礎知識を伸ばし、英語の文章の読解力を高め、様々な問題点について自分の言葉で表現できることを目標とした。英語そのものに苦手意識を持つ学生が多い中、ライティングとスピーキングの両方で正確さと流暢さを追求し、ペアやグループでの活動を通して学びあいの意識を育て、学習意欲を上げることを試みた。

週二回の授業だったこともあり、学生同士や教員とも親しい関係を築くことができ、発言が多く活動しやすい雰囲気が築くことができた。半面、授業中の私語が多く、授業の妨げとなる学生への対応に追われたこともあった。次年度からは前期の段階でもう少し厳しく対処したいと思う。

今期は、授業内で学習した6つの物語を使い、即効で新しい物語の創作をするという活動を取り入れた。結果、丸暗記ではなく、自分の言葉で自由に物語を語れるようになった学生が多かった。また、ERの活動を通してreadingとspeakingの流暢さに改善が見られたように思う。

学生による授業評価の結果、おおむねは当初の授業目的を達成できたと感じるが、学生自身の授業参加において、自主的な学習に結び付いていない者も何人か見受けられるため、各学生の学習意欲がより上がるよう、さらなる授業内容の工夫、改善が必要だと感じる。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIIIコミュニケーションスキルズ [S]9  
授業コード 11A16-011  
教員名 FOX, Aaron  
教員コード 103869  
登録人数 24  
回答数 2  
回答率 8.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

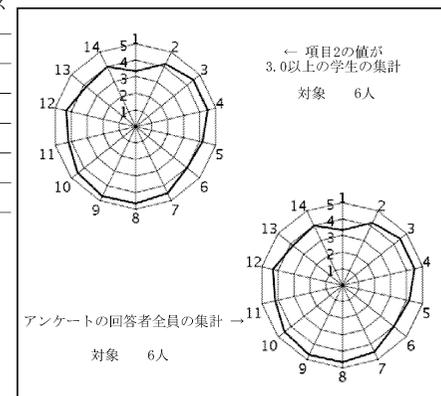
The goals of this course were in line with those as laid out in detail in the FLEC-EED handbook for Communication skills in English V-I [E]. In so far as they were achieved, I would say that most were. Reading goals set for the in the handbook were achieved universally in the class. Most impressive were the high scores achieved by the majority of students on all quizzes and tests. This demonstrated a clear understanding and utilization of the reading skills and techniques introduced throughout the course. That I was able to impart some understanding of the utility of more academic reading approaches was gratifying.

As for the attitude of the class, it was positive, overall. For the most part, students were courteous, attentive, and punctual. They completed their assignments on time and worked well together on in class activities such as group discussions.

I will incorporate more discussion oriented activities alongside the reading skills and practice. It may better support the students to practice speaking about the topics read to discuss the material in tandem with reading it.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIIIコミュニケーションスキルズ [S]10  
授業コード 11A16-012  
教員名 MOORE, Douglas  
教員コード 100954  
登録人数 25  
回答数 6  
回答率 24.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

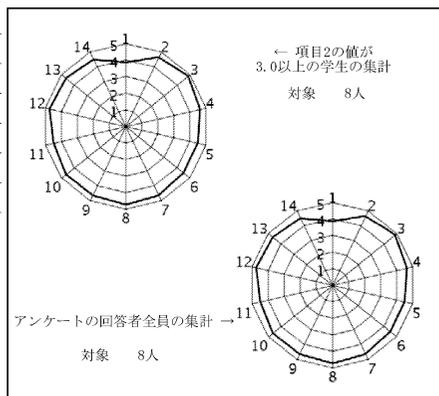
Overall, the survey results were better than last year, with a couple of exceptions. While a slim majority of students still seem to understand the direction of the class and their specific duties in the classroom, some students seem to have trouble understanding the grading and class schedule. Perhaps this is due to a slightly different style of grading than they are used to. For the next year, this will need to be addressed even more clearly than this year, and the presentation seems to need a bit of rewriting.

Regarding class activities and assignments, there seems to be acceptance of the teaching methodology, even though a small percentage do not support some parts of the class. Changes have been made in the second semester to cover a few of these perceived difficulties, so in theory, the students will be less concerned this semester.

Despite the above problems, the overall evaluation is about the same as the previous evaluation. This group of students is pretty good at the class, and while only a couple of students did very poorly, perhaps many do not realize the strides they made in this class since the beginning. Still, further work needs to be done.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIライティング<HA, HP, HJ>2  
授業コード 11A18-002  
教員名 酒井 美納江  
教員コード 046060  
登録人数 24  
回答数 8  
回答率 33.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

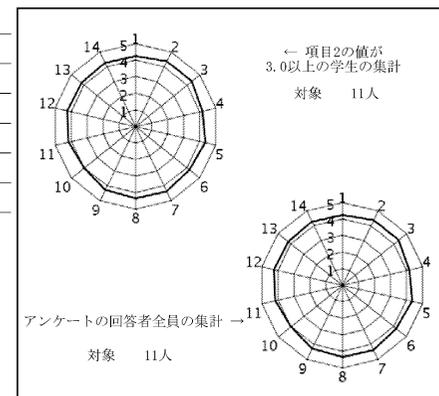


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、英語で「すらすら」書く力と「正確に」書く力を伸ばす目的で2つの作業を中心に学習を促した。「すらすら」書くためにはFree Writingを行い、決められた時間内、ペンを止めることなく思い浮かんだことをできる限り英語で書いていく、という作業をおおむね毎回行った。作業が単調にならないよう、トピックの紹介に音楽やビデオを用いたり、書いた内容をかいつまんでペアで伝え合う、という作業も組み合わせた。さらに書きたかったが知らない語彙を調べてもらい、簡単なマイリストを作るよう促した。このリストをもとにペアで覚えた単語のテストをしあう時間も設けた。「正確に」書く力は、パラグラフとエッセイをProcess Writingの手法で完成させていく過程で身に付けてもらうよう目指した。3つのトピックについて文章を書いてもらったが、どうしても個々の作業になりがちなので、ペアワークでアイデアを伝え合ったり、出来上がった文章を読み合ってコメントを伝えるといった対話的な活動も行った。学生が提出したポートフォリオの振り返りには、これらの作業に肯定的なコメントが見られある程度の効果はあったと思う。今回の授業評価アンケートは期末の慌ただしい時間で、体調不良で欠席が多いタイミングで行うことになってしまい回答数がとても少なくなってしまった。次回以降は余裕のある頃合いで行えるよう気を付けるつもりだ。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIライティング<J>3  
授業コード 11A18-007  
教員名 KHONDAKER, Taslima  
教員コード 103598  
登録人数 19  
回答数 11  
回答率 57.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

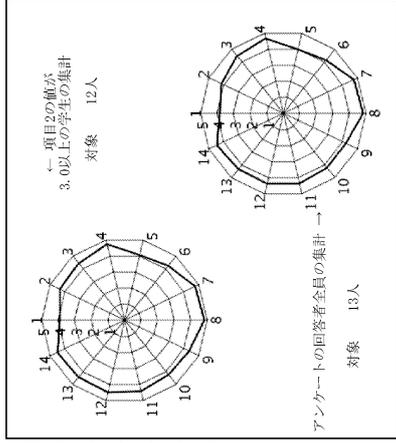


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this course was to help students actively comprehend spoken messages, work out implied meanings, and develop organized points of view and also try to express themselves by writing. As planned, I took fifteen classes without any make-up. I finished the full syllabus in time. It is my great pleasure to emphasize that the course objectives were fully achieved. I want to address to the following aspects in the course evaluation materials. Regarding Participation in the Class (Q1 to Q2) compared with the scores of 4.3 and 4.39 for the courses in the band of 11A01-001~11L.16-999, the scores of this course were 4.27 and 4.36. Regarding Evaluation of the Course in General (Q3 to Q7), compared with scores of 4.71, 4.62, 4.42, 4.28, and 4.66 for all courses, the scores for this course were 4.36, 4.18, 4.36, 4.18, and 4.36. Regarding Evaluation of the Class Management (Q8 to Q12), compared with scores of 4.72, 4.62, 4.63, 4.50, and 4.54 for all courses, the scores of this course were 4.36, 4.27, 4.00, 4.18, and 4.27. Regarding Overall Evaluation (Q13 to Q14), compared with scores 4.49 and 4.52 for all courses, the scores of this course were 4.18 and 4.27. As to Overall Impression of the Course (Q15 to Q17), the students did not give any comments.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIライティング<全>2
授業コード	L1A18-010
教員名	HAYES, Mary
教員コード	I03625
登録人数	24
回答数	13
回答率	54.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

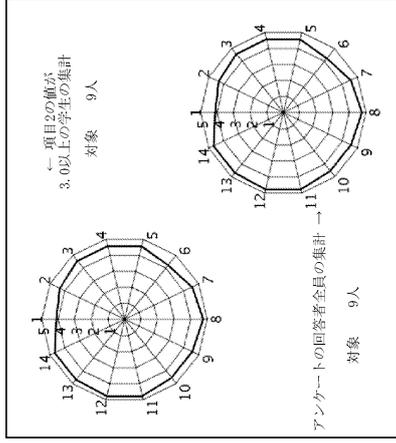


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals of this writing class were fairly successfully achieved in general. Students showed clear progress in writing speed and fluency as a result of regular timed writing in class. They mastered the pre-writing techniques, used transitional devices to create clear, unified paragraphs and essays. They also used MS Word to type up a writing portfolio with correctly formatted letters, e-mails and academic compositions. They used outside sources to research a theme and a few were able to cite the source and attach a list of works cited.
2. Based on the responses, the students seem to value this class in terms of their increased level of motivation to study more English, and also in terms of the visible improvement in their written skills. By giving opportunities for sharing compositions with other class members and giving feedback, a positive atmosphere was fostered. A couple of classes were held in a computer classroom for guidance in typing and formatting final papers and this was time well-spent.
3. In future writing classes, I will take into account the reflections of students about the contents of the class. For instance, many appreciated the time spent on free-writing without dictionaries as very important for progress. In addition, I will choose writing themes carefully, in order for them to have a good balance of fun topics, serious topics and challenging topics, on which to express their ideas in an earnest and sincere manner.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIライティング<全>4
授業コード	L1A18-012
教員名	佐藤 ゆかり
教員コード	047605
登録人数	24
回答数	9
回答率	37.5%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

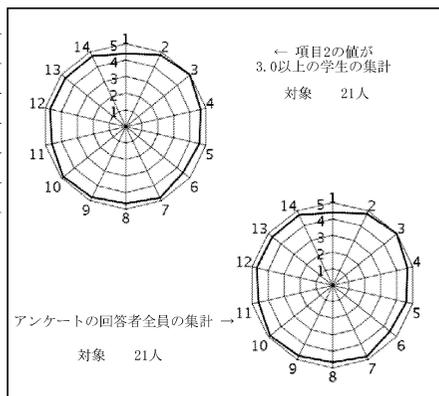


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①異なるテーマ形式のプロセスライティングを5本書くことが最大の目標。さらに、短時間で設定されたテーマについて自分で調べて、短いエッセイをかくというTimed Writingを毎時の開始時間に行うこと。自分の意見と事実をバランスよく配置しながら最後はパンチラインで終わらせるという、内容の凝縮されたエッセイを書かせることで、文の修飾まで意識した作文の時間をもたせる。②学生の評価からいって、特にこのTimed Writingが集中してとりくめたようだ。さらに、今期は希望する学生には教員の校正を2回受け付けたので、自信が持てない学生も納得するまで学べたのではないかと。③病欠で休講にしたがい、選択クラスのため補講をできなかったことが反省点。アンケートの人数が少ない(クラスの半数以下)が反省点。来年はもっとしっかりと時間確保する。次のクオーターでは、テキストを変える予定だが、引き続き学生から好評だった手紙など、実用的なものをいれて、書くことのモチベーションを上げていきたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIディスカッション<B>2  
授業コード 11A20-002  
教員名 木田 バルビン  
教員コード 102322  
登録人数 24  
回答数 21  
回答率 87.5%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Quarter 4 was an integral part of quarter 3's program with the same goals.

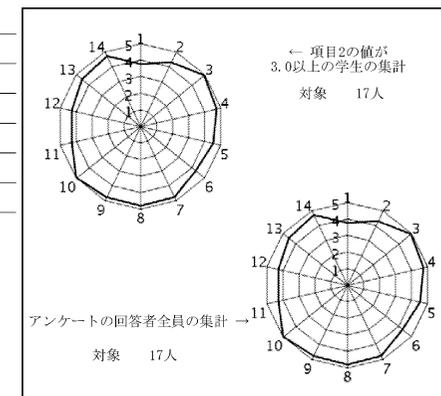
The aim of the course was to develop students' competence in participating and leading a pair/small group discussion while focusing on critical thinking on the topics introduced. Students' practiced oral skills through discussion and then a short presentation based on their personal experiences on the topic. The lessons followed a process approach of planning, organizing, and delivering an effective presentation in small group of four or in front of the whole class. Watching the sample presentations on the video helped the students visually learn the techniques of delivering a speech.

The students learned how to explain a process, express their opinion on an issue, and summarize and react to a news. To add impact to the presentation, in addition to the techniques learned in quarter 3, students learned other techniques such as inviting audience questions, using stress and pauses for contrast.

I have carefully studied the students' evaluation and comments. The overall satisfaction was above 4 points. To my judgment, the students demonstrated improvement in their communication skills since the beginning of the course.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリーディング<全>2  
授業コード 11A24-004  
教員名 DAVANZO, Christopher  
教員コード 101653  
登録人数 24  
回答数 17  
回答率 70.8%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

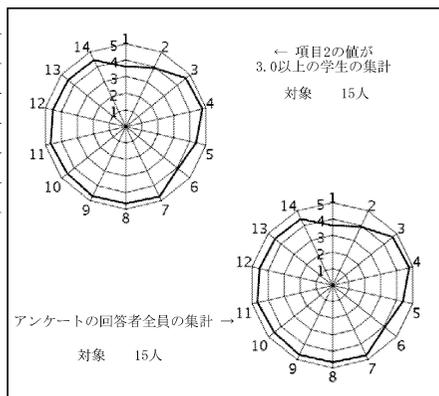


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I was satisfied with these course evaluation results. First of all, the majority of students responded positively and indicated they were happy with the course, and felt they had improved. This year, I spent more class time reading together and discussing graded readers as a large group. I gave them more pre-reading activities than in previous years, and these seemed to have boosted their understanding and level of engagement. In addition, I created other activities that dug more deeply into both the content and themes of the books we read. These activities went very smoothly, stimulated student interest and understanding, and seemed to get the students more motivated to read on their own. Based on both my own observations and the class evaluations as a whole, the focus on pre-reading and group reading activities was very productive. As a result of this semester's positive results, I am going to continue with developing pre-reading activities. Furthermore, I intend to also create more and hopefully even better pair and large group discussion-based activities, so that students can gain the full benefit of both the teacher's expertise and the insights of their peers.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング<全>2  
授業コード 11A26-014  
教員名 加藤 尚子  
教員コード 103630  
登録人数 24  
回答数 15  
回答率 62.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

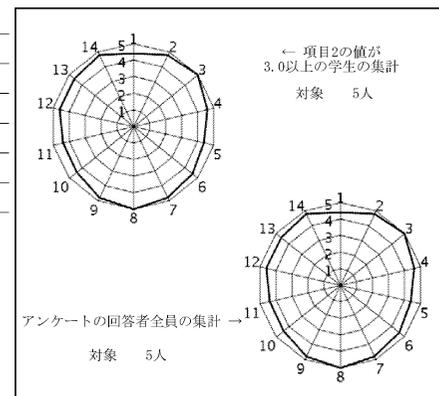


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初設定していた目標と到達の程度について。  
クォーター3では聞き取りを中心とした練習を行いました。クォーター4ではその効果を発揮する為に要約をする能力を高めることに注力しました。また、教科書からだけでなく、インターネットからの教材を利用し、実際に使用できる英語のリスニングにも力を注ぎました。その結果学生のリスニングの能力は内容を理解する為に不可欠な語彙の強化にも繋がりました。しかしその一方では聞き取りにくいとされている/r/や/l/の違いを聞き分ける能力の習得にはまだ到達してないと言えます。
2. 数値データを踏まえての総合評価に対して。  
生徒自身がリスニングの力が上達したという事を実感できないという事が見受けられました。学生自身が上達していることを実感できる授業ができるように努めます。
3. 今後の抱負、方針。  
前記のように、学生が上達したという実感を持てるようにアクティビティを考察致します。リスニングのクラスではありますが、発話をする機会をもう少し増やそうと思っています。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語II翻訳<全>2  
授業コード 14A06-002  
教員名 加藤 普由子  
教員コード 101654  
登録人数 20  
回答数 5  
回答率 25.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

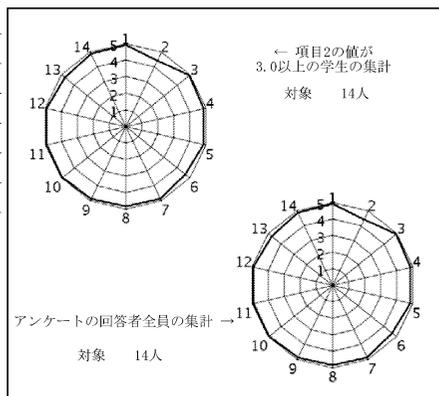


授業評価結果を踏まえた点検・評価

対象学生数16名のうち回答者数は5名であるため、本授業に対する総意とはいえないことを前提とする。設問3~14の平均値が4.67、1~14が4.66であり、学生による授業評価は悪くない。設問2の回答(4.80)にもあるが、私からみても学生は課題に対して主体的に取り組み、内容理解やスキル習得に意欲的に取り組んでいたと認識している。設問6と13の平均値がそれぞれ4.60と4.60であり、到達目標に向けて力がついてきていると感じ、新しい知識、技術や能力が獲得できたり、理解が深まっていると感じているようだ。Q3から引き続き受講した学生もあり、設問15の自由記述において「第3クォーターと比べ難易度が少し高くなったが、補助教材等の配布によって、英語文法についてより理解が明確になった」とある。全体評価(設問14)の値が4.80であり、当初の授業に対する期待(設問1.平均値4.40)におおむね応えられたのではないと思う。他方で、たとえば設問5(授業の到達目標の理解)や設問11(適切な指導や情報提供)に評価3をつけた学生が存在しているので、もう少し学生の様子を注意深く観察すべきであった。今後の課題にしたい。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語II通訳<全>2  
授業コード 14A08-002  
教員名 溝口 良子  
教員コード 150762  
登録人数 20  
回答数 14  
回答率 70.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートの結果を見る限り、開講当初の目標は概ね達成されたものと考えられます。今期は、ゴーン氏の逮捕からTEDのスピーチ、同時通訳の練習、日本語を易しく砕いて英語に訳すなど、様々な教材を使用しました。

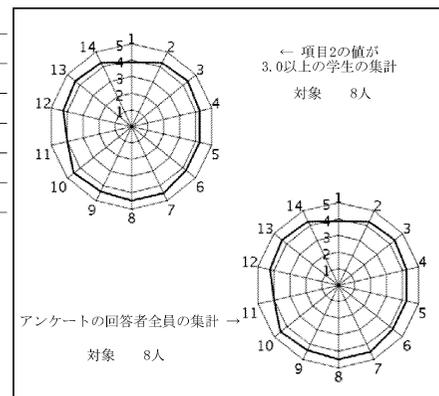
熱心で優秀な学生が多く、こちらの意図が伝わりやすく逆に助けられたと感じています。分かることと、覚えておいて訳すこととの違いをよく理解してくれたと思います。短期記憶の練習エクササイズも楽しんで、積極的に参加する学生が多く、伝えたいことがよく伝わったと感じました。

大学までの英語教育を社会の現場でどう活かせるのか、そのヒントになる授業だということを意識して授業を行いました。そのために、外国人ゲストを招いて通訳の実践をしたことの結果は、学生のコメントにも表れていて、今後の通訳の講義でも継続してほしいと考えます。

今期で定年となりますので最後の授業となりましたが、学生の応援もあり、互いに学びの多い内容となったことを嬉しく思っています。有難うございました。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 コンピュータと言語学  
授業コード 24C56-001  
教員名 古泉 隆  
教員コード 101035  
登録人数 21  
回答数 8  
回答率 38.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



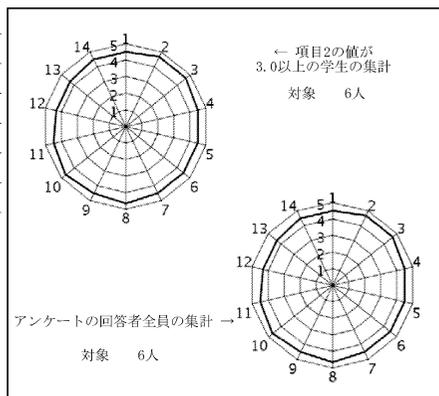
授業評価結果を踏まえた点検・評価

到達目標として、①テキスト処理に必要な正規表現を理解している、②単語頻度表およびn-gram頻度表の作成過程を理解している、③エクセルおよびRを用いて、単語頻度表およびn-gram頻度表を作成できる、④最長単語、単語の平均文字数、TTRなどを処理・算出することができることを設定した。授業では、それぞれの到達目標に関する講義および実習を行い、関連する復習課題を課し理解を深めてもらった。学期末には、学んだデータ処理の知識・技術を活かして、各自で興味のある言語分析課題に取り組んでクラス内で報告してもらった。実習や課題の遂行状況を踏まえると、受講者の多くは本授業を通じておおむね到達目標に達したと考えられる。

次に、アンケート結果を踏まえた考察であるが、設問1以外は平均が4以上であったことから、概ね学生の期待に応える授業であったと言える。また、文系の学生が主な対象であるため、正規表現や初歩的プログラミングといった馴染みの薄いことを丁寧に説明するように心がけたが、自由記載の欄に「初学者にとって難解な内容を、分かりやすい表現に直して教えていただけたことが、良かった。」とのコメントがあったことは良かった。一方で、「進捗が早すぎる」というコメントもあり、受講者のレベルが様々であるため一層の配慮が必要であり、今後の課題であると感じた。

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語B2  
授業コード 40E05-002  
教員名 MOORE, Jonathan  
教員コード 101410  
登録人数 33  
回答数 6  
回答率 18.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The scoring of the set of questions was very positive. Attendance was excellent. Students were engaged in the lessons. Students said they were self motivated in preparing for classes and review. They showed interest in English and realized the importance of English in the workplace. Each lesson began and ended on time. Students felt the pace of each lesson was appropriate. Students were given a syllabus on the first teaching day, and the course goals and grading were explained. Students could hear me and the audio equipment. PowerPoint made lectures for the non-English majors easier to understand. The class was adjusted to the student's needs and level. There were no behavior problems in the class. The research and preparation of the projects and assignments outside of class was especially useful for independent and developmental learning. Effort was made to give each student individual consultation and instruction. Students were encouraged to participate in class. Students seemed very interested in communication skills for the workplace and knowledge of the business world. Students felt that they were able to acquire new knowledge, techniques and skills. Overall, students were very satisfied with the class.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語IVオーラル・コミュニケーション3  
授業コード 42G07-003  
教員名 IVANCHENKO, Andriy  
教員コード 102754  
登録人数 6  
回答数 3  
回答率 50.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

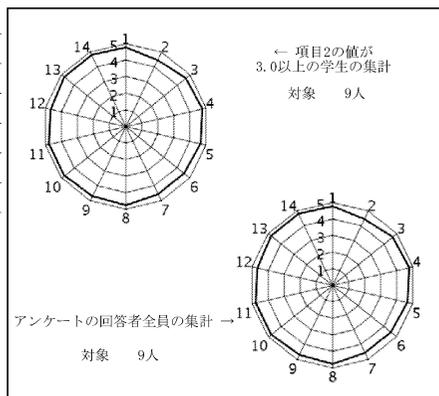
The learning objectives as presented in the course description seem to be fully achieved. The students who received at least the passing grade had fulfilled the course requirements with regard to oral presentation, class participation and homework assignments. Such students' coursework was of sufficient quality, showing attention to the class contents.

Based upon the class situation and student attitude, most students seem to be quite happy with the course in general. Moreover, the majority of students demonstrate improvement of their existing skills through the course, which becomes evident through their classwork and participation.

My goal is always to continue aiming to stimulate everyone's interest in the subject and to help students acquire new knowledge, techniques and abilities. As for the course level, it normally is adjusted as far as possible to fit each individual group of students. I shall always keep up my efforts in these areas, aiming to increase overall satisfaction with my courses in the future.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語IVライティング1  
授業コード 42G08-001  
教員名 BINFORD, Paul  
教員コード 046037  
登録人数 11  
回答数 9  
回答率 81.8%  
休講回数 0回  
補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

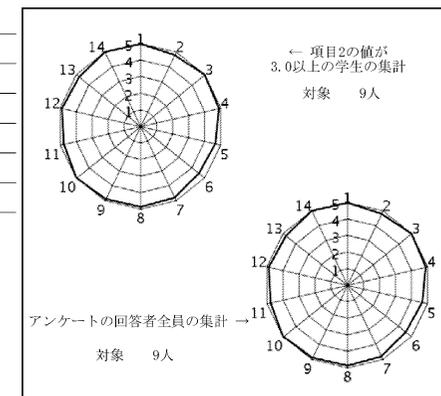
From looking at the comments of the students in Business English Writing, I see that the students understood the routine of the class. We rotated lessons between writing reports and business e-mails. The writing included market analyses about companies and e-mails related to business. The students were allowed to choose their own companies within the parameters explained by the teacher.

The textbook gave examples of common situations in the office, followed by exercises. The students generally felt this textbook to be accessible, meanwhile recognizing the usefulness of the language focus in later life. We also had weekly writing assignments with students exchanging e-mails on such topics a making a proposal, ordering and purchasing, making complaints. My feeling was that the students were learning useful vocabulary and sentence structure.

In the following classes I will emphasize the practical usefulness of the reference section at the end of the textbook. I believe that cross referencing the difficult vocabulary will reinforce their retention. I will also encourage them to move up the scale of the written reports.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語IVライティング2  
授業コード 42G08-002  
教員名 VIADO Cora  
教員コード 100553  
登録人数 10  
回答数 9  
回答率 90.0%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

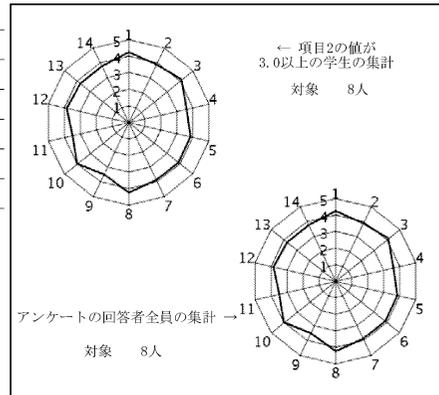


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This class was delivered using a combination of lecture and seminar styles. Students learned how to use different types of English-language business correspondence, such as business letters, business faxes, business e-mail, and business proposals in order to develop important skills related to business and writing. Timed writing on a variety of topics was done regularly so as to encourage writing in English and to monitor one's progress. Opportunities for sharing ideas and written work were provided and students showed interest in getting to know more about their classmates. These activities created rapport and camaraderie among the students. The overall significantly positive results of the students' evaluation indicate the students' general satisfaction with the content and dynamics used in class. The students' comments express appreciation for the time given for clarification, the teacher's manner of relating with students, and the regular free-writing activity that fostered self-expression. There is a need to have a greater understanding of the topics students are studying in other classes so as to integrate them in the lesson or activities.

2018年度Q4 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLS English IV1  
授業コード 48A08-001  
教員名 PALISADA Eloisa  
教員コード 055830  
登録人数 18  
回答数 8  
回答率 44.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal of this course is for students to “attain an appropriate level of academic and oral proficiency and to analyze thought-provoking content from class text and other documentary sources.” Only 8 students out of 17 or 47% responded to this survey where 10% of them gravitated toward the strongly disagreed spectrum and 90% to the agreed end, thus, lowering the average to below 80%. Many students are frequent absentees that affected class progression and total class satisfaction. They may not represent the whole class opinion. There seemed to be a mismatch between this survey with the customized survey conducted particular to our class reality. Students had already built interest in the course before enrollment. Their level of English is above average classified as an advanced level. However, though hard to believe one or two expressed their English did not improve despite the relevant academic reading passages and assigned projects they have complied. The majority said that the vocabulary exercises and content quizzes were the most challenging. The class composition is quite diverse as to their cultural and educational background but sad to say, they seemed not to have gelled; mindfulness attitude is still wanting. They acknowledge the instructor’s apt action regarding disruptive behavior. Some apologized for their fellow students’ childish attitude. Some valued the teacher’s attentiveness to their opinions while others think they were not given enough attention. It is satisfying to get the feedback they thankfully learned a lot of new things that are applicable to life. Next time I’ll be mindful of their point in need.